WRESTLE-1、PRIDE.23で記憶をリセットせよ！

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年12月12日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第4巻・24号・通算83号

SRS-DX

No.83
2002
12・12
毎月第2・4木曜発売
定価680YEN

髙田引退劇的フィナーレ

パンチ一発、髙田失神！

美しすぎる介錯人（かいしゃくにん）

田村、お前という男は……

11・24
PRIDE.23
東京ドーム
大会速報

髙田VS田村戦に捧げる

ああ、我らが記憶の大河ドラマ、卒業！

©Essei Hara

撮影◎中島ミノル（望遠）

TAKADA Last Match

PRIDEを作った男の総決算――“U”の記憶を我々に投げかけ、髙田、いざ最後のリングへ！

©Essei Hara

三頭の虎が刺繍された新調のガウンで登場した髙田。カッコ良かった

やられた！

私はどんなことに遭遇しても涙は出ないタイプの人間。それはいつも冷静にものを見るくせがついてしまったからだ。それなのに髙田VS田村戦を見ていると、思わず涙が出そうになった。

まずい。格好悪い。私はぐっとこらえた。ガマンした。2人の試合に私の感情が、過剰に反応してしまうのだ。何もかもが全てがセンチメンタルだった。

午後4時前、東京ドームの中に入る。第1試合が始まる前、リングに照明が当てられていた。

見るとリングはにぶい青色をしていた。「そうか、やっぱり青だよな。今日の興行のコンセプトは青春、ＵＷＦ、青色の三つだ！」と私は勝手にそう思った。

ヒョードル、ノゲイラ、シウバの試合は現在進行形の「プライド」である。強い、凄い、手がつけられない。そんな印象だ。

正真正銘の勝負論の世界。本物の強さしか何も通用しないシビアな空間だ。ちょっとばかりドライすぎると思わない？　一歩間違うと身も蓋もないことになる。

正直いってこの3試合には、どこかで引いてしまっている自分がいた。彼らに敗れた3人の男、ヒーリング、シュルト、金原にまったく味がない。敗者はまるでお払い箱みたいなイメージなのだ。

我々を感傷的な気分にさすセンチメンタリズムがない。「それが『プライド』だ！」と言われてしまったら私には返す言葉がない。

それに比べると髙田VS田村戦は豊かなほど、あるいはあふれんばかりの感傷でいっぱいな世界。

TAKADA Last Match

7年前"真剣勝負"を求めた男が、いま、真剣勝負の十字架を背負う！

田村、新弟子丸刈りヘアーで再会ー

UWFインターの参謀と言われた宮戸優光をセコンドにつけて登場した田村

キャップを取ると、まるで「新弟子時代」のように丸坊主にしていた田村。この闘いに対する気持ちが表れていた

こんなウェットに溢れたバーリ・トゥード見たことがない！

田村の表情が切なさを誘う…

試合前の握手でも髙田の目を見られない田村。切なさが漂う

田村は開始早々から執拗にローキックを連発

これはUWFというものが我々に"時間軸"を感じさせてくれるからだ。Uが誕生してから18年。Uは最終的に『プライド』に到達した。その全てに関わった唯一の選手が髙田延彦なのだ。

彼こそ「存在がU」だった。Uは前田日明でもなく佐山聡でもなく藤原喜明でもなかった。船木誠勝でも鈴木みのるでもなかったのだ。この発見は大きい。

時間軸というのは物事をロングスタンスでとらえた時、初めて出てくる概念のことである。そしてその時間軸のキーワードになるのが、実は"記憶"なのだ。

UWF、時間軸、記憶、髙田VS田村戦のポイントは、それに尽きた。田村が赤い帽子をかぶって現れた。その帽子を脱ぐと頭は丸刈りだった。もう、そのシーンを見ただけで「そうか、なるほどそういうことか……」と思ってしまう。

こういうことはノゲイラやシウバにはない。必要もない。田村はプロレスラーである。プロレスラーはどんなことにも伏線を張る。意味を持たせる。ディテールの部分でも表現にこだわる。その表現するものが、意図するものが一つのメッセージになっている。

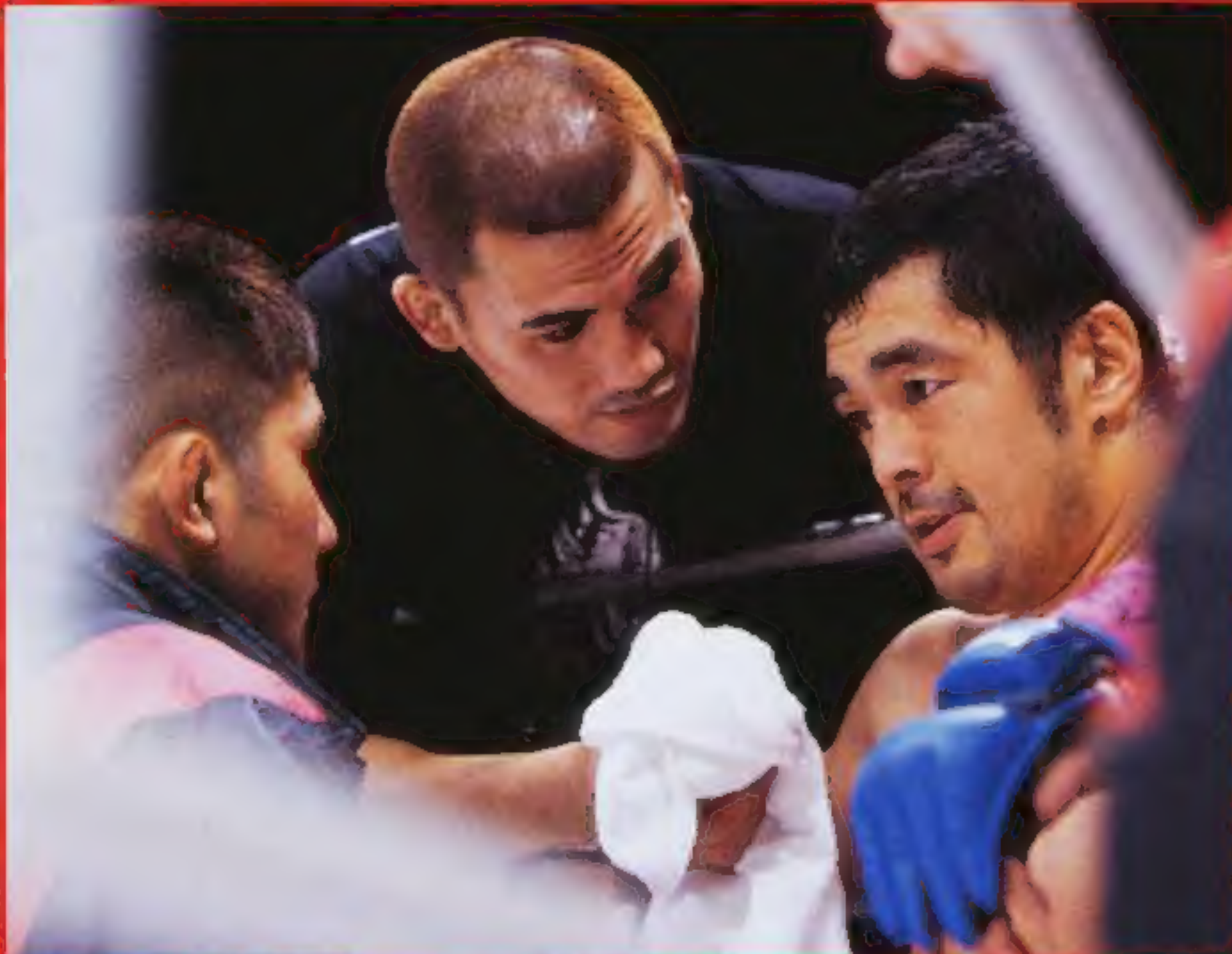
なぜそんな面倒臭いことをするのか？　その遠回しのメッセージを受け取ってくれるプロレスファンが、いるからだ。頭を丸刈りにしたのは、髙田選手へのリスペクトを表現したものとしか、言いようがないではないか？

それだけで「お主、やるな～」と思ったら、目頭（めがしら）が思わず熱くなってくる。私はその瞬間、めちゃくちゃ田村（あえて

TAKADA Last Match

こんな終わり方なのか…？ 突然襲った金的アクシデント

ラウンドインターバルでも、うつむき加減だった田村

1R中盤、田村のキックがまともに金的に入った高田は立つことができず。これで終わるのでは……という空気が流れた

▲高田のセコンドには、高田道場の松井大二郎、豊永稔がついていいムードを作っていた

▶3分のインターバル後、高田はレフェリー和田良覚に「大丈夫」と意思表示。再開された

″選手″と書かないでいいだろう）のことが好きになった。

リングに登場した田村を見た時「ああ、これは田村の勝ちだ！」と私は確信した。最高に近いコンディションに作りあげている。

そうか、これが7年前の「高田さん、ボクと真剣勝負してくださいっ？」の答えだったのだ。田村潔司という男、恐るべしだ。

これは勝つとか負けるとかの次元の話ではない。ほとんど完璧といっていいほど、最高の自分を高田選手に対して、提示して見せることができた。これほどの礼が果たしてあるだろうか？

これほどの真剣勝負があるだろうか？ 次に高田選手が登場してきた。見るからに全身ボロボロである。かつて強者の名を欲しいままにした狼の王者が、年老いて闘いに疲れかつての強かった頃の面影は、もはやどこにもない。

私はそんな狼が好きだ。なぜならそれは私自身でもあるからだ。男という生きものは誰もそこを避けて通ることはできない。

ゴングが鳴った。左のローキック一本で攻め続ける田村。そのたびによろける老いた狼。

分かった、分かったよ。もうこれ以上、試合をする必要はないんだよ。私は高田選手とははっきり言って″同時代人″である。田村はそのあとに出てきた世代。

それを思うとあのローキックは非情だ。いや、切ないものがある。金的を直撃。マットにうずくまる高田選手。試合中断。

まさかあれで試合が終わってしまうのでは……。それより金的にキックを食ってしまった高田選手

が私には信じられなかった。

TAKADA Last Match

高田の顔を見れない田村ー 高田の顔を殴れない田村ー

グラウンドで上になった田村だが、高田の顔を殴ることができず。高田は下から「殴ってこい」と言うように、コツンコツンと顔面にパンチを当てていった

非情なローキックの恩返し 崩れられない高田、行くしかない！

「このままローでやられてなるものか」、高田は気力を振り絞って勝負に出た

ローキックをしこたまもらい、右足にダメージを負った高田は必死の形相で反撃

が私には信じられなかった。

あんなはずじゃないとそう自分に向かって必死に言い聞かせてもそれが現実なのだ。どうした老いた狼。お前の闘志、お前のあのファイティングスピリットよ。

立て、立ち上がるんだよ。お前の誇りはどこへ行ったんだ。立った。試合再開だ。グラウンドで田村が上になった。殴れない。

殴ろうとしない。相手の顔をまともに見ようともしない。そういえば金的を食って高田選手がマットに横たわったままでいた時、コーナーポストに頭をもたらせ背を向けたままだった田村。考えてみたら高田選手が勝てる確率は、限りなく少なかったのだ。

マット界に大きな足跡を残したスターレスラーの引退試合で、引退する選手よりも引退試合の相手をしたレスラーのほうが、目立ってしまう展開になるとは……。

こんなの初めて見た。ここ数年、アントニオ猪木、前田日明、長州力の3人の大物レスラーの引退試合を見てきたが、高田選手の引退試合はそのどれとも違う。

その要因は一つしかない。それは高田選手の引退試合のリングがプロレスではなく『プライド』だったことだ。プロレスのリングで行われる引退試合（または引退興行）は、どこまでいっても予定調和の世界。

引退する選手に対してはいい形で送り出す。だからアンタッチャブルでもある。だが『プライド』のリングは、そうしたあいまいさを認めない。許さない。

それを望んだのは他ならぬ高田選手自身だった。彼はある部分で

TAKADA Last Match

高田の右ストレートに対し、田村のカウンターの右フックが完全にアゴを捕らえると高田はそのまま失神し、目を剥いて崩れ落ちた

「青春の終着駅」は突然やって来た
田村、一太刀カウンター
髙田、生涯初のKO負け！

プロレス的自我から、『プライド』的自我に変革していたのだ。

ともすればプロレスラーの引退興行は、安っぽい感傷で終わるケースが多い。それを拒否した髙田選手には猪木、前田、長州になかったダンディズムを感じる。

それは彼が『プライド』という世界の空気に触れたからだ。触れただけではない、その中心部分に突っ込んでいったからだ。

UWFから『プライド』へという流れは、歴史的必然でありまた上位概念への移行を見せつけている。引退試合さえも勝負論に徹している『プライド』。

この妥協のなさが我々をプロレスとはひと味違った質の異なる感傷的気分を、髙田VS田村戦でもたらした理由でもあった。

この点で髙田選手は猪木、前田や長州の引退試合を超えていた。これは凄いことなのだ。

そして結末はあっと驚く結果になっていく。それまでローキックだけで髙田選手を追い詰めていた田村が、右のパンチ一発でマットに沈めてしまったのだ。

髙田選手があんな形で失神して倒れるのは、後にも先にもあれが初めて。それがファイナルマッチの引退試合で起こってしまうとは誰が予想しただろうか？

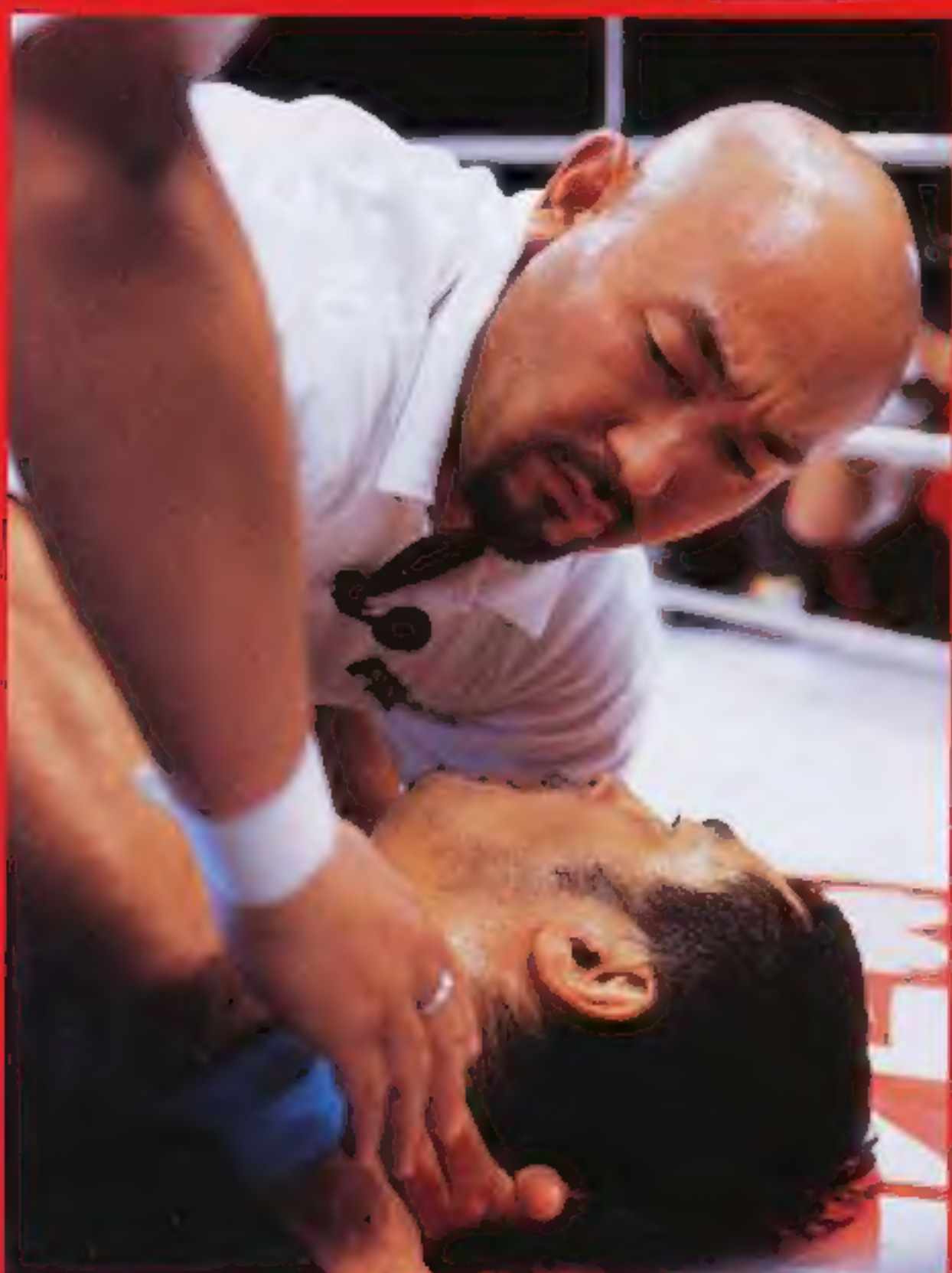
最も格好悪い自分。最もそれを避け続けてきた髙田選手が、最後の最後でそれをやってしまった。

引退試合で後輩レスラーが先輩レスラーを、介錯してしまった。日本のプロレス史において空前の出来事である。これは『プライド』のリングだからできたこと。

我々はもうここまで来た以上も

うあとには戻れない。それにして

TAKADA Last Match

田村はなんとも言えない表情で正座し涙を噛みしめた

▲レフェリー和田良覚は完全に気を失っている高田を、カメラから隠すように抱きかかえた

こんな言い方はなんだが、高田の引退試合は、猪木や長州よりも感動的だった。心から泣けた―

★第8試合・高田延彦引退試合（1R10分、2・3R5分）
○田村潔司（2R1分00秒、KO）高田延彦●
<日本/U-FILE CAMP> <日本/高田道場>
※右フック

うあとには戻れない。それにしても〝介錯〟という言葉がまだ死語になっていなかったというのが、うれしい話ではないか？

余談だが今の日本の社会にはいろんなジャンルで、介錯すべき人がたくさんいる。

田村という男、天晴れなり。見事なまでの介錯人だった。2人による、2人のための、2人だけの「引退劇場」はこうして幕を下ろしたのだった。このことによってUWFは終わってしまった。

もっと言うなら昭和のプロレスも終わったような気がする。力道山から始まり馬場、猪木へと流れてきた私にとっての「記憶という名の大河ドラマ」も終わった。

プロレスの記憶が自分の中で大河ドラマになるとは、こんな贅沢なジャンルがどこにあるだろうか？　それが今日、確認できただけでも、私はラッキーである。

私にはすでに高田選手があんな形で負けたことのショックは、全然といっていいほどなかった。

むしろUWFに強い思い入れをして生きてきた私としては、こんな形でUが終わってしまうのはやっぱりさびしくないと言ったらそれは嘘になる。

Uによって得たものと失ったもの。それを分かることがすなわちUが青春だったからだ。

第9試合の桜庭選手の試合が終わったあと、高田選手の呼び掛けで、元Uインターの選手が次々とリングへと上がっていった。

その時、再び私は涙が出そうになった。Uインターは敗れ去った団体である。敗れ去ったというより崩壊してバラバラになった。

TAKADA Last Match

「田村、お前は男だ！』（髙田）

「今まですみませんでした…』（田村）

敗れし者は敗れざるなり、それがUインターだ！

▲▼桜庭の試合後、セレモニーが行われ、髙田はUインターの選手たちや『プライド』のファイターたちにによって胴上げ、さらにリング上で高山が肩車、そしてリングを降りると今度は安生に担がれて、花道を引き揚げた

▲田村はマイクを持つと「髙田さん、ありがとうございました。そして、いろいろと温かい目で見ていただいて、ご迷惑をおかけしてどうもすみませんでした。何を言っていいのか分からないですけど、夢と感動をありがとうございました」と言葉を詰まらせながら話すと、髙田は「よく出てきてくれたなぁ、お前は男だ、ありがとう」と一言

▲髙田が田村の手を高々と挙げると、田村の顔はもうクシャクシャ。観客のほとんどが思わずもらい泣きしていた

個性派の集団でどうせいつかどこかで、壊れて散り散りになっていたと思う。そう考えると今となっては、6年前に解散したのはそうなるようになっていたのだ。

思えば7年前の1995年10月9日、同じここ東京ドームでUインターは、新日本プロレスと真っ向から激突。それをきっかけにして、Uインターは解体への道をまるで坂道を転がるようにして落ちていった。

たしかに7年前、Uインターは新日本に敗れた。だが、7年後の2002年11月、Uインターは存在しなくても、その幻想は生きていたことが今日、証明された。

安生、宮戸、高山たちがリングに上がっている姿を、目でとらえた時、私がいつも言っているある言葉が浮かんできた。

「敗れし者は敗れざるなり！」である。それがUインターだ。それがUだと私は、今こそ大声で叫びたい心境になっていた。

どうしてなのか？　敗れし者はいつ見ても美しく見える。あんなにUインターの選手たちが、美しく見えたのは、全て髙田VS田村戦のせいである。

本当に大事なことはたとえ団体がなくなったとしても、そこでやってきたことはずっと、人々の心に生き続けていることだ。

そこだよ、組織というのは長く続いてそれを維持することが、決してベストなこととは言えない。

パッと散って幻想だけが残るというのもいいものである。我らがUインター、晩秋の夜の夢は、まさしくあれは一夜限りだった。

（ターザン山本）

TAKADA Last Match

パンツ一丁で帰ることができないっていうのを実感した

高田のコメント

高田 おっし。まずは僕から一言いいですか？ ええ、お話の前に、マスコミの各社各位の皆様には、22年間本当にお世話になりました。今日をもって、闘いというリングから下りる決意でこの会場に来ましたけど、無事じゃないんですけども、正式に引退ということになりました。本当に皆さん、ありがとうございました。

――全て試合を終えられた今の気分は？

高田 え？ 気分？ う～ん、スッキリしたと言えばスッキリしたし、やれることはやってきたしやったんで。まあ自分自身に対しては納得してます。

――22年間の締めくくりとしては今日の試合の出来はどうでしたか？

高田 十分な出来です。

――十分燃え尽きる試合でしたか？

高田 そうですね。自分なりに精一杯の自分を作って、リングに上がって。まあ、リングに上がれば何が起こるか分からないんで、相手も活きのいい選手ですし、これから辞めていく人間が勝てるような甘い、勝つつもりでいきましたけど、そんな甘い世界じゃないというのは改めて最後に「プライド」のリングは厳しいリングだと再認識できたんで。やっぱり、俺のやったことは間違っていなかったなと、「プライド」は素晴らしいリングだと誇りが一層持てたと思っています。

――田村選手と実際闘って、どんな印象をもたれましたか？

高田 まあ、見てのとおりですね。彼はオールラウンドプレイヤーだし、打撃もうまいし、グラウンドももちろんうまいし。印象というよりも、自分のことで精一杯で、自分をどういうふうに動かすかっていうことしか考えていなかったですから。

――頭に入れていた動き、今日はどれくらいできましたか？

高田 自分自身に限界を感じているから辞めるんであって、引退試合をあえてこういう形のリングに上っていくっていうのは、そんだけの覚悟をもっていなきゃいけないし。レベルの高いリングだし。まあ、さっきも言ったように、やれるだけのことはやって出た結果ですから、良しとしなきゃいけないかな。

――途中、金的のアクシデントがあったんですけど、立ってきたのは凄いと思ったんですけど、やめちゃおうとは思いませんでしたか？

高田 またやめたらブーイングが来るから、ここは意地でも（笑）。まあ、3分くれるっていうんでね。3分の間でも会場の雰囲気が敏感に伝わってきたんで、やめるという意識はなんとか続けなきゃいけないなというか、続けることしか考えていなかったですね。

――田村選手がガンガン来られなくなったと考えませんでした？

高田 う～ん、あれがあったからということではなくて、やっぱり彼なりに複雑な思いをもって上がったと思うし。だから、僕はよく上がってきたと。この難しい背景の中で、引退試合の相手に上がってくるということは、勇気がいることですす。でも、これもドラマですから。中途半端な幕切れじゃなくて、勝負が着いてよかったなと思っています。

――試合が終わった瞬間の気持ちはどうだったんですか？

高田 いや、終わった瞬間分かんなくて。一瞬、ウチの周りのセコンドの顔が見えたんで、アレッと思ったら、少し意識が戻ってきて、状況が少しずつ分かってきたという感じだったんで。

――フィニッシュのパンチは覚えていないですか？

高田 全然覚えていないです。

――22年間を闘ってきたのは長いと思うんですけど、いわゆる涙みたいな感慨みたいなものはありませんでしたか？

高田 今泣いてきた。今リングでボロボロ涙を流してきました。

――やっぱり、皆さん、Uインターのかつての同士たちに囲まれたっていうのもあったんですか？

高田 う～ん、それもあるし、「プライド」の最初の日、ヒクソン戦から携わってきた人がバックステージとか、もちろんドリームの榊原さんとか含めてずっとずっと諦めずにお付き合いしてくださったんで、その人たちが最後に会場にお客さんがいなくなったリングで、「リングを見に行こう」と言われて連れて行かれたんだけど、こういうセレモニーがあって、感無量のあまりタップリと涙を流しました。

――いわゆる10カウントというのは？ 別に何かセレモニーとかされるんですか？

高田 いや、しないですね。セレモニーは一切ないです。この試合が僕にとってのセレモニーですから、普通のセレモニーが嫌で試合をやりました。

――最後、歓声の中、花道をどんな心境で帰られたんですか？

高田 まあ、ボーっとしてたんですけど、花道を歓声でもブーイングでもいいですよ。もう、パンツ一丁で帰ることができないなっていうのを改めて実感しましてね。ファンの人たちにこうやって手を振ることができないんだなっていうのも実感しました。でも、悔いはまったく、ゼロです。悔いはありません。

――花道を帰って、桜庭選手と会われた時は何か言われたんですか？

高田 はい。まあ、あとは頼むぞと。最後、締めてくれと。あそこまでいって、あの状態でどれだけの重圧のプレッシャーを背負っているか分かりますから。勝って当たり前の中、今日も鮮やかに極めましたけど、本当によくやってくれましたね。

――あのシーンというのは高田選手が自分で考えられたんですか？

高田 いえ、イベントの方が。本当は勝って行きたかったんですけど。■

リングに上がってもどんな闘いになるのかなっていう葛藤はあった

田村のコメント

――試合を終えて、今どんな気持ちですか？

田村 全て興行自体が終わった今、大きなけが人も出なかったので、それはホッとしています。

――試合中に迷いはありましたか？

田村 ……あ、はい。ありました。

――迷いというのは、どこらへんのことなんでしょうか？

田村 そうですね、一言ではちょっと言い尽くせないんですけど……。いろんな意味で凄いお世話になった方であり、憧れていた人であり、まさかこんな形で自分が試合をさせていただくとは思っていなかったんで。本当吹っ切れないというか、高田さんが引退することもそうですが、自分が高田さんと試合をさせていただくというのも全然実感がなくて。結局は性格なんだなと思います。

――ローブローで試合が中断された時は、何を考えていましたか？

田村 何も考えてなかったです。

――やるからには勝ちたいという気持ちはありましたか？

田村 勝ちたいという気持ちは、正直……。勝ち負けというより、それ以前に凄い複雑……、先ほど言いましたように、本当、リングに上がってもどういうふうな闘いになるのかなっていう葛藤はあったんですけど。まあ最後、インター出身の選手がリングに上がって、高田さんがここで引退されるということで、凄い僕としては満足というか。

――最後のカウンターは反射的に出たものですか？ それとも狙っていたんですか？

田村 流れです。関節を仕掛ける時っていうのは、微調整が利くんですけど、打撃の時は10か0かってなっちゃいますから。

――グラウンドでパンチをしませんでしたよね。何かためらっているように見えたんですけど。

田村 対応はするつもりだったんですけど、やはり打たなかったのは、高田さんのほうがグローブを、腕をしっかり押さえていて、自分が打てなかったっていうのが正直な……、打たせてもらえなかったっていうんですか。

――他の選手ならあのシーンでできたんじゃないですか？

田村 う～ん、どうなんですかね。

――ずっと迷ってるように見えたんですけど。

田村 難しいな。さっきも言いましたけど、本当にきれいな形で興行自体が終われたんで、まあそれで良かったなと思います。■

TAKADA Last Match

髙田からバトンタッチされた桜庭はすでに泣いていた……

桜庭の原点も〝U〟の青春だったのだ！

試合後に、リングインした髙田は『サク、お前やっぱ男の中の男だよ。このプレッシャーの中で極められるんだから。お前はやっぱ違うなぁ』と絶賛

▼花道を引き上げてきた髙田と試合を控えた桜庭が固い握手を交わす。桜庭は涙顔だった

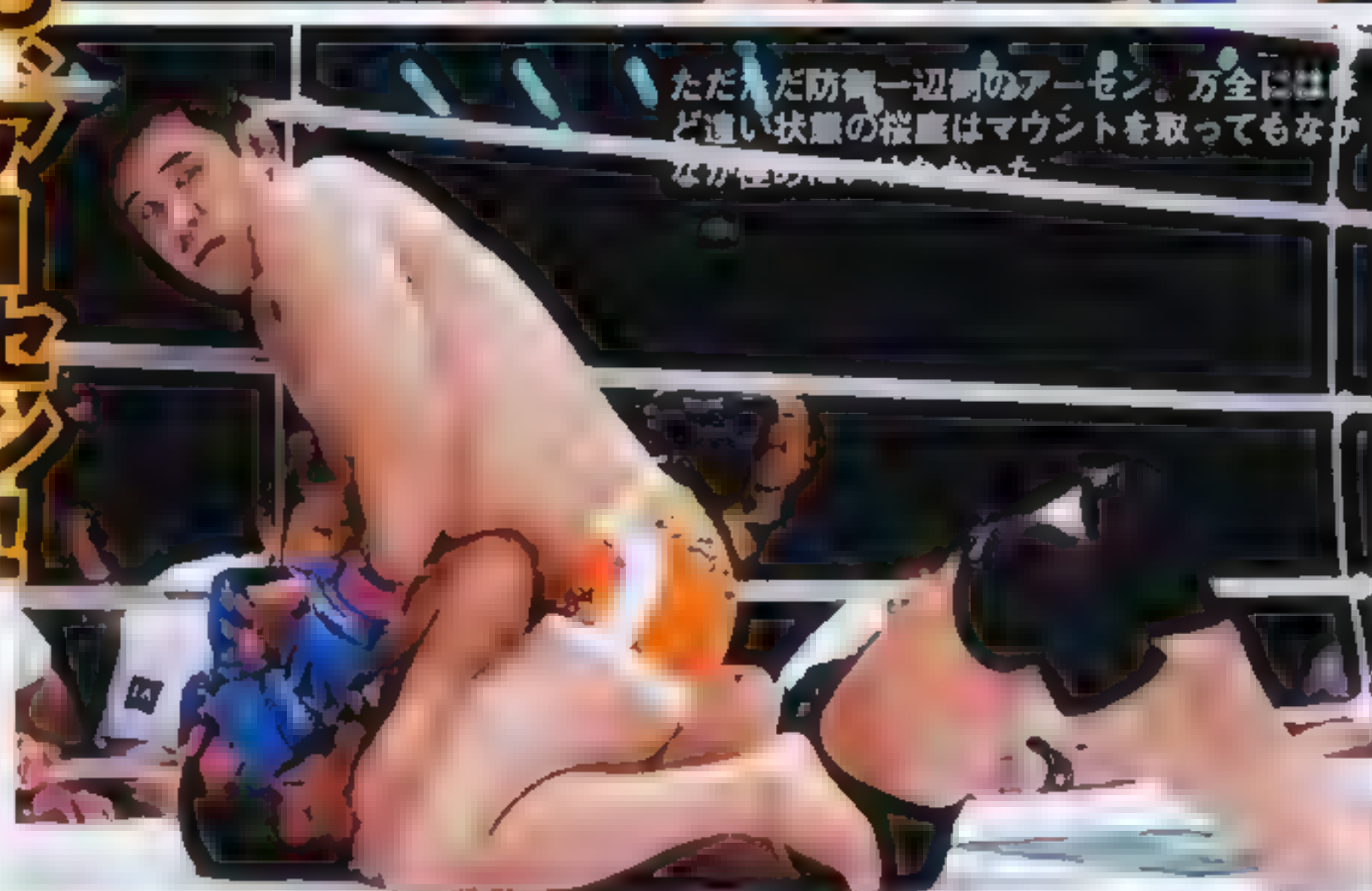
花道を帰る髙田を待っていた桜庭はすでに泣いていた……。あまりに見事なKO負けをした髙田が、メインの桜庭にバトンタッチ。自分の引退試合ではなく、桜庭をメインにしたのは髙田のたっての希望だった。

もちろん、桜庭は自他共に認める『プライド』のエースである。しかし、その桜庭の涙を見ていたら、桜庭の精神的支柱には、やはり髙田がいたんだということを改めて思い知らされた。

桜庭は『プライド』で花開いた男である。だが、その原点となっているのは、やはりUインターで過ごした青春時代だったのだ。今のファンは知らないかもしれないが、〝プロレスラーになりたい〟一心で大学を中退してUインターの門を叩いた桜庭も、道場でグチャグチャにされていた時代があった。それだけじゃない。給料もロクに払われず会社が倒産したり、人間関係がドロドロになって仲間がバラバラになっていくところも目の当たりにしてきた。新日本にUターンしたり、キングダムという先行きの見えない団体で試合をしたこともあった。そういう青春を経て、桜庭も『プライド』でやっと苦労が実った男なのである。

その間、桜庭が集中してやってきたのは、自分の好きなスパーリングだけだった。練習さえしていれば、いつかいいこともあるさ。そんな感じで桜庭は生きてきた。だから、我々が考えている以上に、あの飄々とした桜庭にも、髙田の引退試合には特別な思いがあった。きっと桜庭も髙田の引退とともに、Uインターという青春が、走馬燈

のように甦っていたのだろう。

▼桜庭のパンチがヒットすると、アーセンはすぐに防御を固めて防戦一方

▲ジェロム・レ・バンナのスパーリングパートナー「ハイパー・リトル・サイボーグ」の異名のアーセンは、なかなかやりそうな面構えで入場してきた

▲「たのむぞ、桜庭和志」の文字を背に入場する桜庭。満身創痍の状態ながら髙田の引退に華を添えたいという一心でリングに向かう

▼自分の試合の直後だったにもかかわらずセコンドについた髙田。リング下から大きな声でアドバイスを飛ばした

3Rになってようやく桜庭の腕十字が極まった。桜庭の顔にようやく安堵の色が

のように甦っていたのだろう。
その証拠に、この日の桜庭はとても試合に出られる状態ではなかった。ミルコ戦で負った眼窩底骨折で物がまだ二重に見えることだけが、その理由ではない。なんと、最近ツイていない桜庭は、1週間前の練習で右ヒザ裏の腱を断裂。拳まで打撲して、足を引きずらなければ歩けないし、相手を掴むことすらできない状態だったのだ。
これで本当によく試合に出られたものだ。ドクターストップはもちろんのこと、桜庭が負けることや、選手生命を断たれる危険性さえ秘めていた。それほどまでして、桜庭は髙田の引退試合に、選手として出場したかったのだ。桜庭の髙田に対する愛が、こんなにも深いものだったとは、考えもしないことだった。
一方、対戦相手のジル・アーセンは、ジェロム・レ・バンナの柔術のスパーリングパートナーという触れ込みの未知の強豪。しかし、そのアーセンは〝サクラバ〟というビッグネームに完全に呑まれ、負けないようディフェンスするのが精一杯。まったく自分の役どころを分かっていないというか、場の空気が読めてない。アーセンは、髙田引退試合の感動をブチ壊すような大ハズレな闘いっぷりに終始した。いったい何しに来たの？
しかし、そんなアーセンをなかなか仕留められないほど、桜庭は満身創痍だった。スッキリとした内容ではなかったが、あの状態の桜庭を考えると、よく〝一本〟取れたと思う。セコンドは、5分くらいでタオルを投入しようと思っていたほどひどかったのだ。

感無量！ UWFという“青春”に乾杯！

▲桜庭の試合が終わったところで、リングに上がった高田は「Uインターのみんな、上がって来いよ！」とUインター勢を呼び込んだ、Uインターのテーマが流れる中、宮戸、安生、高山、ヤマケン、田村といったUインター勢、そして『PRIDE』ファイターが続々リングに

アーセンのコメント

「サクラバは大変強かった。このために2週間だけしかトレーニングできなかったので、出せた力は50％だったと思っています。サクラバ相手に3Rまでいった。それだけでも良い方だったと思う。『プライド』にはまた2、3カ月経ったくらいに参加したいと思う。肩の調子も悪いので、そのための時間が欲しい」

桜庭のコメント

「（ヒザの負傷は）スパーリング中にやっちゃいました。（3Rかかったのはケガで？）それもありますけど、むこうもディフェンスが強かったんで。勝っても負けてもハッキリこう分かるようにやりたいなと。あんまりダラダラの判定じゃなくて。（試合前に高田と花道で何を話していたのか？）忘れました（笑）」

これで過去のわだかまりも、怨念も解けた。Uインターは PRIDEで救われた……

★第9試合・メインイベント（1R10分、2・3R5分）
○桜庭和志（3R2分8秒、腕ひしぎ十字固め）ジル・アーセン●
〈日本・髙田道場〉 〈フランス/チーム・レ・バンナ〉

髙田という支柱を失い、真の意味で独り立ちしていかなければならない桜庭。桜庭とて、今は不運の連続。シウバに借りを返し、ミルコにもリベンジしなければならない。そのためには、一刻も早くベストの桜庭を作り上げなければならない。

髙田は一度その選手を信頼すると、生涯信頼しきる性格の人である。最初、なかなか口をきいてもらえなかった桜庭が、今や一目置かれる存在となった。髙田は引退しても、まだまだ『プライド』は続くし、髙田道場は続いていく。その主役はもちろん桜庭だ。

この日、髙田は引退に際して2度マイクを持ち、2人の男を称えた。一人は対戦してくれた田村。

「嫌な役どころをよく引き受けてくれた。田村、お前は男だ！」

そして、もう一人は桜庭。

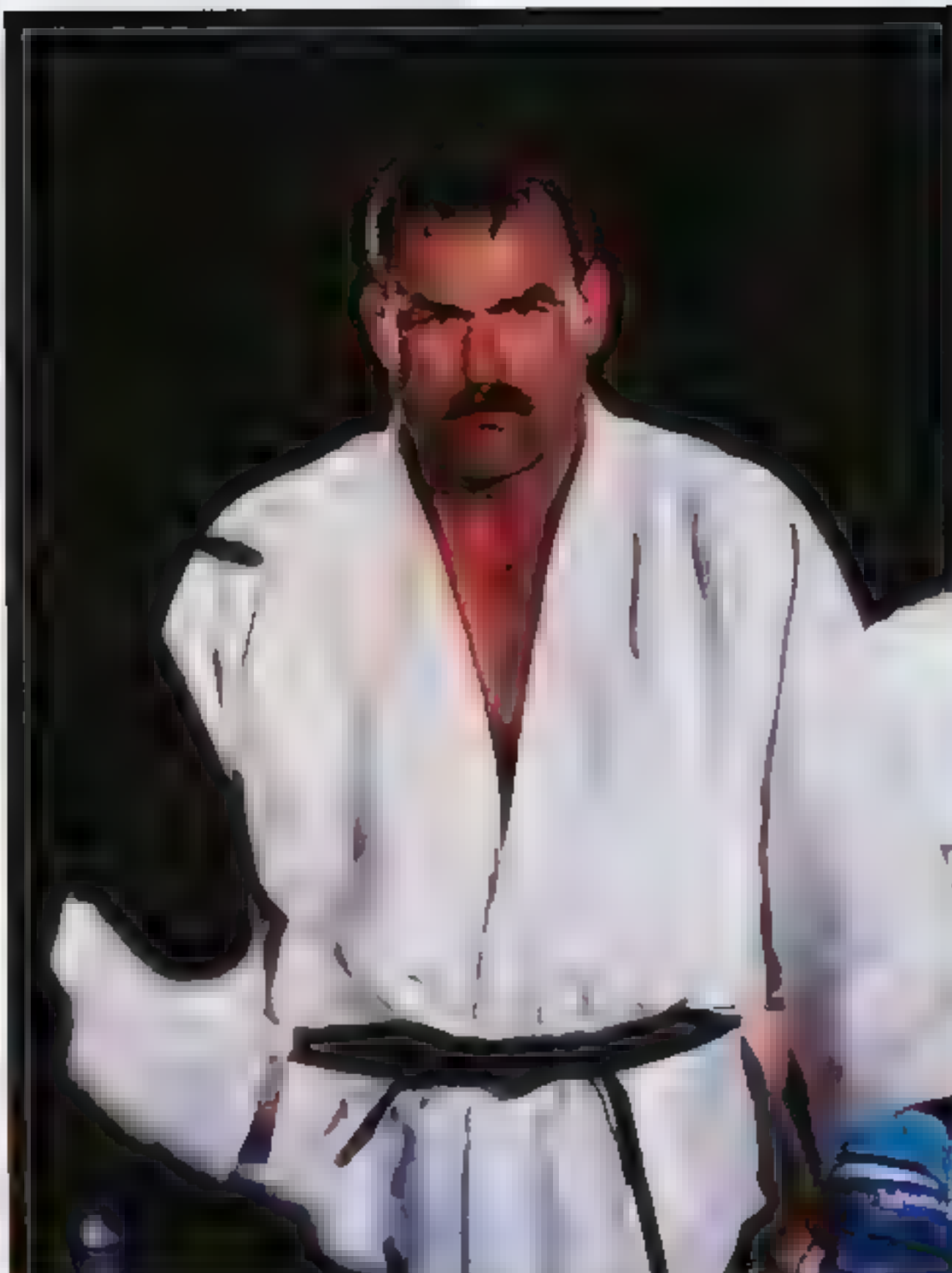
「サク、お前はやっぱ男の中の男だよ！　このプレッシャーの中で極められるんだから、お前はやっぱ違うなぁ」

田村潔司と桜庭和志。Uインターが生み落とした〝男〟と〝男〟。いつの日か、この2人が『プライド』のリングで相対することが実現する日が来るかもしれない。その時は、髙田VS田村とは違う、いいプロレスが見られるような気がする。そんなところにしか、もう『プライド』にプロレスは残っていないのだ。

それにしても、Uインターは凄い団体だった。過去の全てのわだかまりや怨念が消えて、最後にUインターが集結した。まさか『プライド』がUを救うなんて……。ああ、感無量！

（谷川）

PRIDE.23
11.24★東京ドーム
拝啓
吉田秀彦様
ドン・フライの「プロレス心」が
究極のアマチュア・イズムに完敗！
あなたの強さ、非情さ、
驚きました。参りました。
SKY PerfecTV
©Essei Hara

▲試合が始まっても、吉田は平常心。大舞台の経験の豊富さのせいだろう

▲柔道衣を着ての入場に、会場が沸いた。もしかして着たまま試合するのか……

▲ホイス戦同様、吉田の入場にはまったく気負った様子がなかった。セコンドには今回も高阪剛がついた

ドン・フライの道衣姿にいきなりタックル

これが吉田の答えだっ！

▲開始早々、吉田はフライの打撃勝負には付き合わずにタックルから見事な大内刈りでテイクダウンに成功

拝啓　吉田秀彦様。
あなたの強さ、非情さ、驚きました。参りました。

プロレスを格闘技に変換していくことが〝ＵＷＦ〟という運動体ならば、今のファンはもうすでにその次元を超えています。僕らが求めているのは、格闘技にプロレスを見つけること。それが、新しいプロレスであり、プロの総合格闘技のあり方だと提唱してきました。

桜庭選手は技術でそれを見せ、髙田選手は己の弱さの部分をさらけ出すことで、それを見せてきました。ノゲイラや藤田選手の勝ち方は、猪木イズムそのもの。それらは、全て新しいプロレスです。そして、その象徴がドン・フライという存在だったのです。

フライのプロレス心にこそ『プライド』が単なる競技に収まらないヒントがあると、そう、僕らは考えていたのです。それに見事に応えて今年ブレイクしたのが、高山選手だったでしょ。すでに僕らはフライVS高山戦に『プライド』の答えをつかんでいたと言っても過言ではないのです。

だから、吉田さんがバーリ・トゥード・デビュー戦に「ドン・フライ」を指名した時、その感性の豊さに僕らは脱帽しました。そして、必ずやいい試合になると、想像力を膨らませていたのです。

フライはきっと吉田さんのいいところを引き出すだろう。それは打撃で吉田さんを追い込み、柔道時代には見たこともない吉田さんの極限の力を引き出すのか？　それとも、吉田さんの打撃のセンスの良さ、折れない心を引き出すの

か？　そんなふうに、胸をときめ

道衣を武器にした非情攻撃！ これって反則じゃないの？

本邦初公開！ これが必殺〝ヨシ・ロック〟!?

▼自分の道衣を使ったこの絞め技がヨシ・ロックの一つ。かなり極まっていたが、フライはなんとか逃れた

▶吉田は、下になり、ボディにパンチを入れられても動ずることなく、下から前回のホイス戦で見せた袖車絞めの変形バージョンを狙っていった

か？　そんなふうに、胸をときめかせていました。

あるいは、フライは試合前、柔道衣姿でマスコミに対してデモンストレーションをやったでしょ。これぞプロのやり方です。自ら〝柔道三段〟という知られざるプロフィールを打ち明け、吉田さんにジャケットマッチまで提案。このフライのプロレス心を知るや、もしかしたらフライは吉田さんの袖や奥襟を掴んで投げ技にいくんではないかという、想像力さえかき立てられたのです。フライなら柔道勝負もやりかねないな、と。

それはまさに、ファンタジーファイト！　今日の試合は吉田さんのバーリ・トゥードのデビュー戦というより、初めてのプロの試合＝いわばプロレスの洗礼を味わう試合だったのです。フライが相手なら、格闘技さえもファンタジーファイトになる。吉田さんもきっと、そう考えてフライを指名したのではないですか？

ところが！

まさか！

びっくりです！

僕らが目の当たりにした吉田さんの答えは、あまりにも非情なアマチュア・イズムでした。

打撃にはいっさい付き合わず、いきなりグレイシーのようにタックル。正確には左の大内刈り。これは、フライのプロレス心を拒否するぞ、という意思表示の表れでした。

さすが吉田さん、プロの試合よりも、まず勝ちにいくことを選んだのですね。それからの吉田さんはホント凄かった！　まったく危なげないポジションをキープし続

▲◀下になった状態で、リング中央に移動させられた吉田は、足を使ってフライの下にもぐり、流れるような動作で腕ひしぎ十字固めまでもっていった

け、フライに何もさせません。

自分の袖を使って袖車、バックに回ってのチョークスリーパー、そして自分の裾を解いてフライの首に巻き付け、絞め落とすという見たこともない殺法まで繰り出しましたね。たぶん、あれが必殺〝ヨシ・ロック〟なんでしょう。違いますか？

下になった時も完全にフライをコントロールしていましたね。フライは吉田さんに技を殺され、いいところがまったくありません。あれほどUFCで強さを発揮し、『プライド』では相手の得意技を引き出す土俵にまで立ちながら勝ってきたフライが、こんなに弱々しく見えたのは初めてです。

そこまでやるか！　フライにこんなに何もさせなくていいのか！　そう怒りが込み上げてきたファンも多いでしょう。それは正当なプロレスファンの感情です。

でも、日本人でフライに勝てる格闘家なんてたぶんいないと思うから、吉田さんが間違っているとは言えません。それもこれも吉田さんが強すぎるのです。驚くほど強いから否定できません。

さらに、プロレスファンの感情を逆撫でしたのは、あの道衣を武器にしたことです。あんな着ているもので相手を絞めたら、汚いじゃないか、と。だったら、スパッツのヒモをほどいて、首を絞めてもいいのか？　あるいは、道衣以上に相手を攻撃できる衣服を考え出し、自分たちは普段、それを着ながら練習している流派だから、『プライド』でも認めてくれと言い出したらどうなるのか？　そんな論争を起こしたい気分の人も多か

プロレス心も、男塾も形無し 光も消され、ヒジも脱臼

これはショックだ!

でも、ドン・フライに勝てる日本人なんて、いないよなぁ……。

▲フライと健闘を称え合う両雄。フライにこんなに完璧に勝てる日本人なんてほかにいるだろうか

▲フライがしばらく耐えたため、吉田の十字が完璧に入ってしまい、フライのヒジは脱臼骨折、見た目ではずれているのが分かる。柔道家の関節技恐るべし!

★第7試合(1R10分、2・3R5分)
○吉田秀彦(1R5分32秒、腕ひしぎ十字固め)ドン・フライ●
〈日本/吉田道場〉 〈アメリカ/フリー〉

ったはずです。

でも、専門家に言わせてみるとそれも間違いだそうで、やっぱり道衣を着ている人のほうが不利。道衣を武器にすることもできますが、自分が着ている道衣で絞められる確率のほうが高いそうです。でも、そんなふうに〝汚い!〟と思わせたのも、吉田さんが圧倒的に強かったからです。ルール上でも認められているし、吉田さんに非はまったくない。

フィニッシュも見事でした。下からフライを完璧にコントロールして、もぐり込んでフライをひっくり返しての腕ひしぎ。これまで何も〝らしさ〟を見せられなかったフライのプロレス心は、最後の抵抗として「耐える」という芸を見せるしかありませんでした。それ自体、完敗です。

そのため、フライの腕は完全に伸びきり、右ヒジ脱臼と剥離骨折。3週間ギプスで固定し、全治2カ月という悲惨な目に遭いました。これまで「男塾」を貫き通し、男のかっこよさ、生き様を存分に見せてきたフライが、こんなに試合後に落ち込んだのは、初めてだったそうです。

無理もないでしょう。この日のフライはそれほど惨めに、吉田さん、あなたに完封されてしまいました。そして今まで僕らが声を大にして主張してきた〝プロレス心〟が、こともあろうに最短距離で勝利を求める〝アマチュア・イズム〟に完敗してしまったのです。そりゃあ、僕らだってショックですよぉ。

それに比べて吉田さん、あなたは顔に傷ひとつありません。それ

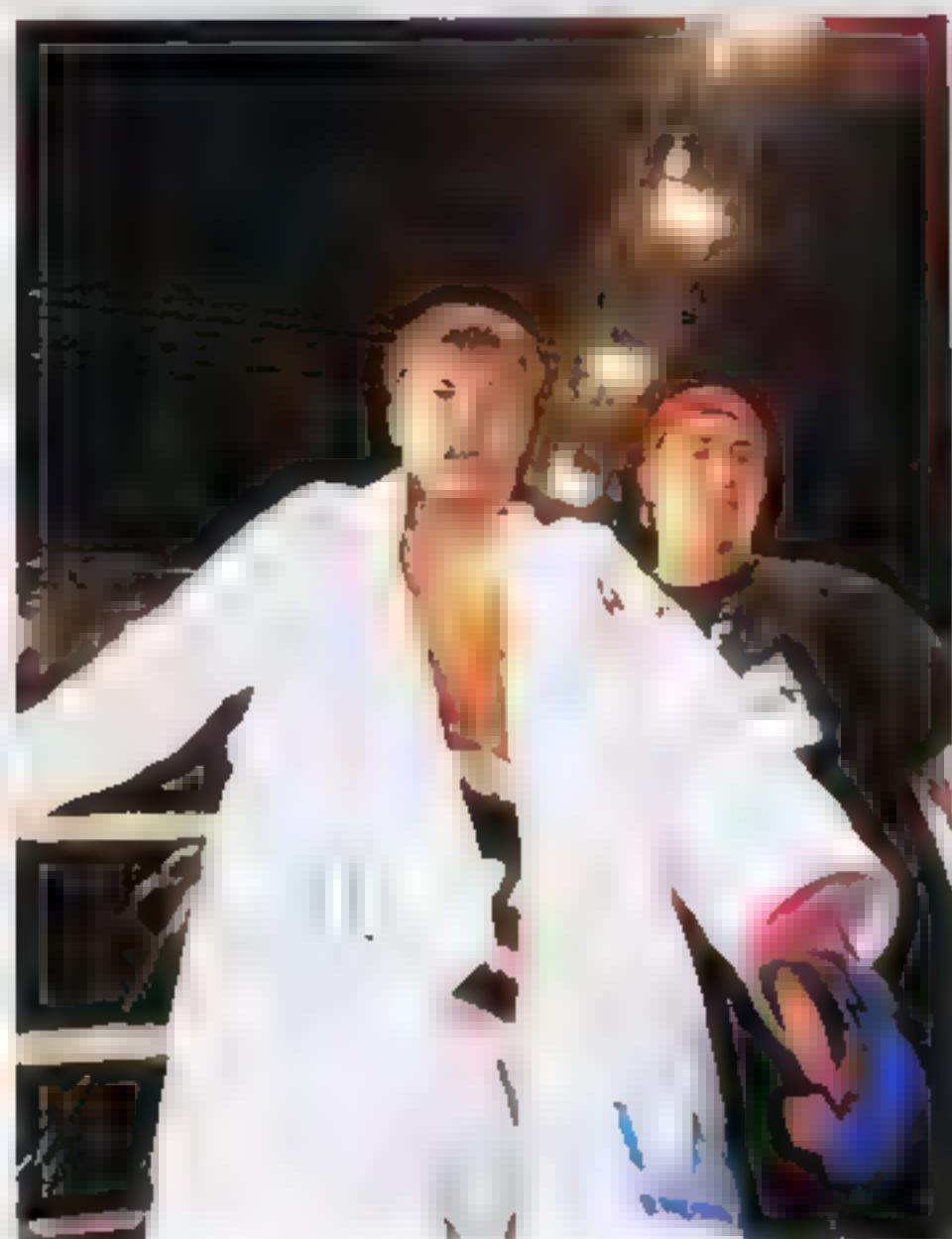
最後は爽やかなマイク・アピール 吉田の強さ、恐るべし

吉田のコメント

「初めてのバーリ・トゥードで、打撃をどうやってかいくぐって、グラウンドにもっていくかということが、一番だと思っていたので、まあ作戦どおりにいったと思います。グラウンドにいったらポジションを考えれば、顔にもらうことはないと思っていたんで、チャンスがあった時に自分で攻めれるような形ができて良かったなと思います。（次に対戦したい選手は？）今、終わったところなんで、まあゆっくり考えて頑張ります」

▶「初めての「プライド」の試合でフライ選手とやって、負け覚悟でやりましたがこういう結果が出せました。皆さんの声援が2、3倍の力になってます。これからも厳しい闘いがあると思いますが、頑張りますので応援してください」と笑顔でアピール

▲試合後、猪木さんは「柔道衣を着てやると強くなるのか？」と周囲の人に聞いていたとか

▲観客の声援に応える吉田。もうすでにプロの貫禄が感じられる!?

◀リングを降りる吉田の表情には、厳しい試合の余韻が残っていた

どころか、一発のパンチも顔面にもらっていないのです。これは本当に驚くべきことです。フライを相手に、いったい誰が無傷で帰ってこられるなんて想像していたでしょう。力強い、本物のグレイシーが現れたような気がします。

はっきり言って脳天を打ち砕かれた気分です。グウの音も出ません。これまでフライが築き上げてきたUFCなどの凄い戦績は、いったいなんだったのか？　今となってしまえば、試合前にニヒルに語っていたフライのプロ的な発言も、全てウソ臭く思えてしまいます。たぶん、猪木さんも相当ショックだったのでは……。

だいたい吉田さん、あなたはなぜフライを選んだのですか？　あれじゃあフライじゃなくとも結果は同じじゃないですか。

でも、でもですよ。そういうタイプはもしかしたら感情移入がしにくいタイプなのかもしれません。吉田さん、あなたはヒーローなのですか？　それともヒールなんですか？　いったい、僕らは吉田さんにどういう感情移入をしていったらいいんでしょうか？　そこが問われるような気がします。

吉田VSフライ戦で本当にファンが応援していたのは吉田さんなのか、フライなのか？　自分の中にそのどちらが潜んでいるのかを確かめられる試合でした。

恐れ入りました。吉田さんの強さには脱帽です。強ければいいのです。勝てばいいのです。これほどプロが完膚なきまでに打ちのめされるとは……。吉田さん、あなたはヒーローなのですか？　それともヒールなのですか？　（谷川）

PRIDE.23
11.24★東京ドーム
惨劇！
こんなに強かったのかヒョードル！
ノゲイラが一本取れなかったヒーリングを戦闘不能状態に追い込む！
使用前
使用後
ノゲイラへの挑戦権を賭けて行われたヒーリングVSヒョードルの一戦。強い強いと思われていたヒョードルだがまさかここまで強いとは…
リングも、終わってみるとこのとおり。

米露サンボ対決のはずだったのに……

ロシアの田舎者はこんなに強かったのか!
なんなんだこのパンチは!?

▼ヒーリンクがガードポジションを取ろうが、お構いなしに強烈なパンチを放っていくヒョードル。アッと言う間に、ヒーリングの顔がズタズタになっていく

▼開始早々、飛びヒザ蹴りを放ったヒーリング。いつもどおりアグレッシブな攻撃だが、ヒョードルはあっさりとそれを食い止めテイクダウン。ここから、惨劇が始まった

入場時はいつもどおり格好いいテキサススタイルで入場してきたヒーリング

相手がどんな体勢になろうがヒョードルは容赦しない。バックマウントで渾身の力で、ヒーリングの顔面を殴りつける

派手な格好のヒーリングに対してヒョードルはなんとTシャツにジャージスタイル。どこまでも対照的な2人だ

リングス・ロシア勢が『プライド』にロシアン・トップチームとして上がることになったのは、今年の6月の『プライド21』から。ラバザノフ・アフメッド、コーチキン・ユーリ、アンドレイ・コピイロフ、そしてこのヒョードルと4人の選手が『プライド』のリングに上がってきた。

その中で勝ち星を挙げているのはヒョードルだけ。もはや、ロシア勢というよりも、旧リングスファン期待の星がヒョードルだと言っても過言ではないくらい、『プライド』での活躍が期待されているのだ。

とにかく、リングス時代は化け物としか言いようがない強さを発揮し、ヘビー級、無差別級のベルトをかっさらっていったヒョードルだが、『プライド』でどこまで通用するのか、リングスファンからは特に注目を受けていた。

ところが、今回の試合でその強さがとんでもないものだということが発覚してしまった。

何しろ、今回の相手はヒーリング。『プライド』では唯一ノゲイラに一本負けを許していない選手だ。トム・エリクソンやマーク・ケアーを破ってきた爆発力は、誰もが知るところ。ヒョードルはそのヒーリングを完全に破壊してしまったのである。

ヒョードルといえば、よくヴォルク・ハンのところで練習していることから、コマンド・サンボのことが取り沙汰される。実際、1カ月半前にもギリシャで行われたコマンド・サンボの世界選手権で、ヘビー級の階級において優勝している事実もある。しかし、ヒョー

▼見よ、この強烈なヒザ爆弾。いつもは、対戦相手をヒザ蹴りでＫＯすることが多いヒーリングだが、今回は逆にヒョードルにやられた

これはもう公開処刑だ!

こんな弱々しいヒーリング見たことない……

▲地獄のグラウンド状態から脱出するのはこの手しかなかったのか？　あのヒーリングがなんと場外エスケープを試みようとする

▲場外エスケープによってイエローカードを出されたヒーリング。スタンドから試合は再開されたが、ヒョードルにあっさり捕まり、裏投げのように投げられる

もはや、戦意喪失気味な表情にまでなってしまったヒーリング。こんな弱々しいヒーリングは初めてだ

ドルの試合で一番目につくものといえば、間違いなくパンチなのだ。
　ヒョードルは立ち技であろうが寝技であろうがとにかく渾身の力でパンチを対戦相手にぶち込んでいく。リングス時代にリングサイドでヒョードルの試合を見ていたら、凄まじい衝撃音が聞こえてきたものだ。その凄まじさといったら、肉片が飛び散るんじゃないかと思うぐらいのもの。これは冗談でもなんでもなく、本気で背筋が凍るような思いをさせられた。「これが顔面に入ったら、どうなってしまうんだ」と冷や汗をかいたのは一度や二度ではない。そのヒョードルの拳が惨劇を呼んでしまったのだ。
　グラウンド技術では定評のあるヒーリングがグラウンドでヒョードル相手に何もできない。もう、成すがままである。あのノゲイラの猛攻を凌ぎきった粘り強いヒーリングが、体勢を入れ替えようとしてもバランスを崩すことなく、まったく顔色一つ変えずにパンチをぶち込んでくるのだ。
　〝テキサスの暴れ馬〟の異名を取るヒーリングが、ほとんど戦意を失ったような顔になったり、たまらず場外へ逃げようとしたり、図らずもヒョードルの引き立て役になってしまったのである。
　元々、私はヒョードルを化け物として認識していた。だから、経験の少ない『プライド』のリングで活躍したとしても、それほど驚かないのだが、まさかヘビー級のトップレベルにいるヒーリングがここまでぼろくずのようにやられてしまうとは思ってもいなかった。ヒョードルの強さは基礎体力の違

ヒョードルのコメント

「皆さん、私の試合を気に入ってもらえたと思う。反省点としては最後に油断してしまったことだ。ヒーリングは対戦相手としていい選手だし、体が強かった。ただ、試合中に自分のほうが力が強いと思った。ノゲイラは現時点で一番強い格闘家だと思っている。できる限りのことはしたい」

ヒーリングは左目に眼窩底骨折の疑いがあったため病院へ直行。まさか、あのヒーリングがここまで圧倒されるとは思ってもいなかった

ヒーリングが戦闘不能……

ノゲイラへの挑戦権を獲得したのは“ロシアの惨劇男”ヒョードルだ！

©Essel Hara

▲ヒョードルは殴るだけではなく、スリーパーも狙っていく。これも怪力で絞めあげていくが、極めることはできなかった

▲スリーパーから逃れると体勢を入れ替え、最後の力を振り絞って反撃を開始したヒーリング。だが、ヒョードルはまったくノーダメージで1R終了

▼勝ったヒョードルはノゲイラへの挑戦権を獲得。ズバリ言って、この怪物はやばい

2Rに突入すると思いきや、ゴングが鳴りヒョードルの勝利が決定。ロシア勢で勝っているのは唯一ヒョードルだけ。前回の名古屋も2人が負けているために、喜びもひとしおだろう

★第4試合（1R10分、2・3R5分）
◯エメリヤーエンコ・ヒョードル（1R終了、ドクターストップ）ヒース・ヒーリング●
〈ロシア/ロシアン・トップチーム〉　〈アメリカ/ゴールデン・グローリー〉
※ヒョードルのパンチによる左目下負傷流血により

いというか、肉体そのものが他の人間とは違ってできているとしか思えない。だから、化け物としか言いようがないのだ。

それにしても、ここまで強くなると、次の対戦相手が可哀相になってくる。次の対戦相手は当然ノゲイラだと考えられる。ノゲイラは、『LEGEND』に出場したペナルティとして『Dynamite!』でボブ・サップと対戦させられたという噂があるが、今回のシュルト戦に続き、もしヒョードル戦が実現でもしたら、これは制裁マッチ3連戦とでも言うのだろうか。サップ、シュルトの2人は体格が規格外ということもあるが、ヒョードルの今日の試合を見れば、これも制裁マッチと呼ぶに十分なマッチメイクになる。

制裁マッチはさておいても、この日のヒョードルの強さなら、ノゲイラにも勝てる可能性はかなり高い。それこそ、あの凶器のようなパンチは、ノゲイラのほうが対戦を嫌がるだろう。ヒョードルは、それだけの潜在能力があることをヒーリング相手に見せてくれた。

ただ、ヒョードルがノゲイラが極めきれなかったヒーリングを戦闘不能に追い込めば、次の試合でノゲイラはヒョードルが極めきれなかったシュルトに一本極めたり、とにかく2人のタイトルマッチの気運が盛り上がってきているのは確かだ。

2人ともリングスの王者同士で、ブラジルとロシアのトップチームのエース、しかも1976年生まれの同年齢の技術VS化け物の対決は早く見たい。ちなみに私も彼らと同い年だ。関係ないか。（小松）

さすがノゲイラ!!

あのヒョードルが極められなかったシュルトに一本勝ち!

うますぎる！分かっていても決まるのが必殺技

▶持ち上げたり、パンチを打ったりしたシュルトだが、足のフックも深々と入って完全に極まった。シュルトはタップ

髙田VS田村戦では感動し、吉田の強さには唸らされたこの大会だったが、何が一番驚いたかと言ったら、やはりヒョードルの圧倒的な破壊力だろう。

なにしろ「プライド」王者ノゲイラでも極めきることができずに判定決着となったヒーリングを、たった1R、10分間で壊してしまったのだ。

「こりゃ凄ぇ！　ヒョードルとやったらノゲイラも危ないんじゃないの……？」

そんな声も客席から聞こえたわけだが、その直後の試合でノゲイラがやってくれた。

今度は、ヒョードルが極めきれなかったシュルトを、ノゲイラがものの見事にタップアウトさせてしまったのだ。ヒョードルに並ばれかけた評価を、また一馬身突き放す王者の貫禄だった。

序盤は、シュルト有利の展開だった。タックルをガシッと受け止め、片足を取られた体勢でパンチを打って王者の顔を歪ませる。タックルでは厳しいと見たノゲイラが引き込んできても、すぐに立ってスタンドという自分のフィールドに誘い込む。じわじわと、だが確実にシュルトがペースを握りつつあった。

このところK—1の試合が続いていたシュルトだが、実はウェイトを10キロも増量。コンディションも絶好調で今大会に乗り込んできていた。13日後にK—1ワールドGP決勝大会を控えてはいるが、このノゲイラ戦を無事に乗り切れると踏んでの参戦だったわけだ。

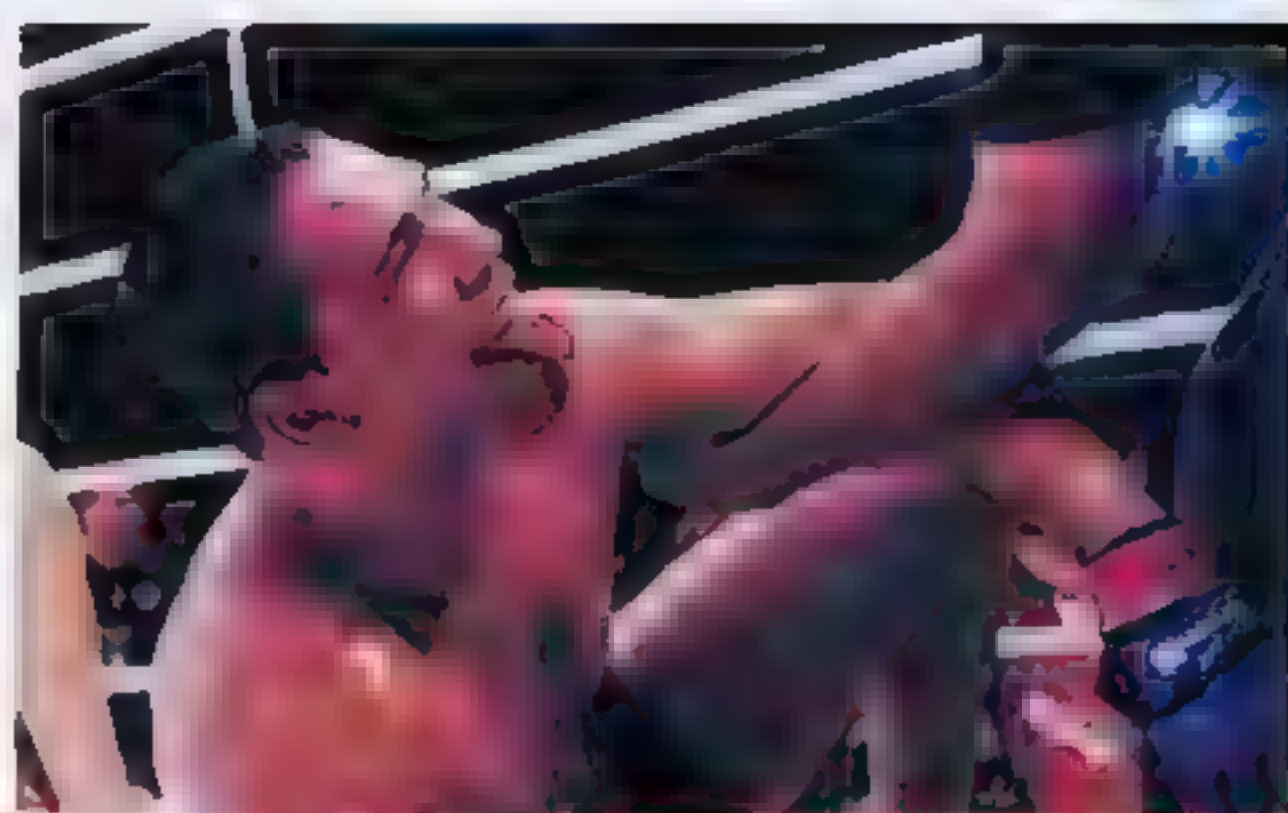
しかし、3度目のトライでようやくノゲイラが上になると、試合の様相は一変する。まずはサイド

PRIDE.23
11.24★東京ドーム

純PRIDEはノゲイラが守る！

◀完璧なフィニッシュに、ノゲイラは舌をペロリ。この男、凄すぎる！

▶逆にシュルトは痛恨の表情。三角は充分警戒してたのに……

◀試合開始直後。タックルを試みたノゲイラだが、シュルトの腰は重い。片足を取られた状態でもパンチで傷めつけていく

▶タックルを潰して上になるが、すぐに立ち上がってスタンド勝負。立ち際のノゲイラに顔面蹴りを見舞う場面も

◀3度目のトライで、ようやく上になったノゲイラ。じっくり時間をかけて抑え込み、ノゲイラにパンチ。ここからマウント、そして三角につなげた

★第5試合（1R10分、2・3R5分）
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（1R6分36秒、三角絞め）セーム・シュルト●
〈ブラジル/ブラジリアン・トップ・チーム〉　〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉

見よ、この超絶フェイント

十字だ！

▲マウント奪取に成功したノゲイラは、パンチを打ち降ろす

▲そして体をズラし、十字の体勢へ。この時点でシュルトの意識は完全に右腕にいっている

▲十字を防ごうと反転したシュルト、だがノゲイラはこの段階で相手の左腕を取っていた、ということは……

……と思いきや三角！

▶十字はフェイント。本命は三角絞めだった！

シュルトのコメント

「いい試合ができたとは思うけど、サンカクで極められてしまったのは残念だね。自分のほうが力は強かったと思うけど、彼の罠にはまってしまったよ。ノゲイラがアームバーにくると思って回転したら、実はサンカクだったんだ。それを他の選手にやるのを何度も見てたのに。ダメージはないから、K－1には問題なく出れるよ」

ノゲイラのコメント

「また背が高くて体重のある選手と闘うことになったね。シュルトは、始めは凄く技術的に強い選手だと思った。でもなんとか極めることができたよ。柔術が一番強いということが証明できたと思う。デカイ相手に勝つ秘訣？　それは技術だよ。ヒョードルと闘っても自分が上だと思っている。僕は誰とでも闘う」

の様相は一変する。まずはサイドポジションでじっくりと抑え込み、マウントを奪うと強烈な右パンチを一発。そしていよいよ極めにかかるわけだが、これがもう凄いのなんのって！

まずはノゲイラが十字を狙う。シュルトはこれをディフェンスしようと腕を引き、体を反転させたのだが、それはノゲイラの罠だった。自分の体を後ろに倒しながら、十字とは逆の腕をホールドしていたのだ。十字ばかり気にしていたシュルトは、逆サイドはまったくの無防備。そこへスッとノゲイラの足が絡み付く。三角絞めだ！

うまい。うますぎる。まるで守備の名手のグラブさばきを見るような、バニシリコフのバレエを見るような。興奮だけではない、タメ息が出るような美しいフィニッシュだった。

「三角は十分に警戒してたのに」とシュルトはうなだれた。だが、警戒してればいいというものではない。古賀の背負い、佐々木のフォーク、ジャイアント馬場の十六文。分かっていても決まってしまうのが、本当の必殺技というものなのである。

前回がボブ・サップ、今回がシュルトと、デカイ相手ばかりでまるで罰ゲームみたいな試合が続くノゲイラ。それを結果としてクリアしただけでなく、試合内容でも堪能させてくれるのだから素晴らしい。Uの記憶？　いやいや、この男がいる限り、純『プライド』の価値は揺るがない。

「オマエは男の中の男だよ！」

髙田の代わりに、ボクがそう言ってあげたい気分だ。　（橋本）

INOKI BOM-BA-YE 20

猪木軍vsK-1vsPRIDE全面対抗戦

2002年12月31日(大晦日)よる9時 TBS

主催：TBS　ドリームステージエンター

アントニオ猪木

樋口　潮

全ては未定！ でも何かやる。12・31『猪木祭り』開催決定！

11月21日(木)、TBSで12月31日に「イノキ・ボンバイエ2002」の開催発表記者会見が行われた。会見に出席したのはアントニオ猪木とTBSのプロデューサー・樋口潮氏。開催場所は昨年と同じくさいたまスーパーアリーナで、当日午後9時から11時24分までTBS系列で放送されることも決定した。今年の大会のコンセプトは猪木軍、K－1、「プライド」の3軍団全面対抗戦。しかし、カードはもちろん、出場選手もまったく未定とのこと。会見では「バカヤローッ！」と絶叫し怪気炎を上げた猪木だが、この全てが未定の〝謎かけ祭り〟をいったい、どうプロデュースするのか？今後の動きに注目だ。■

いったい誰が出場するんだ！？ 史上最大の"謎かけ祭り"発進。

会見後の猪木のコメント

「(藤田がミルコを指名したそうですが？)他にみんなね、こだわっている奴がいっぱいいるから、みんなに声を掛けてみて、出る出ないはどっちでもいい話なんだけど、とりあえずきっかけというかね、まあ祭りだから、そういう意味ではちょっと気分を変えてもらって。試合はお祭り気分にはならないと思うけど。(小川選手は？)声は掛けてみますけど、まあ可能性は……。逆に言えばこういうことは、売り込みに来る選手のほうが、オーラというか、選手の勢いが伝わっていくと思うんでね。(安田VSバンナの再戦というのは？)安田は出る予定にしていますけどね、カードはたぶん、変わってくると思います。安田も負けている奴(レネ・ローゼ)がいるじゃないですか。状況はよく分からないんですけど、結果はともかくとして、雪辱戦を果たしてもらいたいと思います。(吉田選手は？)それはもうみんなに、ただ、ここのところ、暮れに大会が重なっていますからね、当然、ボブ・サップの話も出ていますし。(サップ選手が出てきた場合、どういったマッチメイクを？)日本人じゃ厳しいよね、今は　しいて言えば、藤田くらいしかいないんだけど。まあ、とりあえず昨日、報告を全部受けてきたんでね。報告だけで、これから話し合いをするところですが、とにかく非常識と言われるくらいなマッチメイクができればなと思っています」

「イノキ・ボンバイエ2002」事前番組情報

■12月1日(日) 14:00～14:54
■12月15日(日) 予定
■12月15日(日) 18:30～19:00
「ZONE」予定
■12月22日(日) 18:30～19:00
「ZONE」予定
■12月27日(金) 23:45～25:00
(直前番組)
■12月31日(火) 15:00～17:40
(直前生放送番組)
■毎週火曜23:55～24:30
「サイボーグ魂」
来週より出場カード決定などを中心に
■12月31日(火) 21:00～23:24
「イノキボンバイエ2002」
(JNN28局ネット)

ザンス山田の
K－1"技術論"予想
技術論の大御所、ザンス山田が
K－1決勝大会を大胆予想！
理論的に言うと……。
サップは
止められない！
ザンス
文◎山田英司（『BUDO-RA』編集長）
29

電車道状態で突進するサップ。西洋スポーツではなく、伝統武術の闘い方とも言える

ボブ・サップを分析することは、格闘競技全体を掘り下げることになる

今年のK−1の見所は、怪物ボブ・サップがどこまで勝ち上がるのか？　ファンの興味はこの一点に集中しているといってもいいだろう。

これまでのK−1は、注目選手がアンディだろうと、フィリォだろうと、それはあくまでもK−1内の選手の闘い。しかし、今年のボブ・サップはちょっと位置付けが違う。

K−1内VSK−1外。そう、ボブ・サップだけK−1の枠内に入りきらない驚異の外敵なのだ。その存在は、まさにK−1という競技を根底から覆しかねない力を持っている。

その怪物性を分析するためには、単なる巨体のパワーファイターとしてボブ・サップを位置付けるだけでは不充分だ。

いったい何が、K−1の規格外なのか？　ボブ・サップを分析することは、すなわち、K−1を、いや、格闘競技全体を掘り下げることに他ならないのだ。

〈大よく小を制すサップ〉

そもそも格闘技にはルールがある。ルールのない実戦から、ある局面をルールによって切り取ったものが格闘技だ。

立ち技、寝技、という分け方では不充分。試合場や、試合時間などの設定によって、格闘技の様相はガラリと変貌する。

我々が見慣れているボクシングや、K−1などの立ち技の打撃格闘技は、成立の前提として、次のような2点の制約がある。

体重制とラウンド制だ。当たり前と思ってはいけない。たとえば、相撲などは立ち技だが、ラウンド制も体重制もない。

これは、打撃、すなわちパンチやキックが競技者の体格によって大きく左右されるからだ。簡単に言えば、ボクシングのフライ級世界王者も、ヘビー級の4回戦には勝てない。まれに、フライ級の選手が勝つことはあるかもしれないが、それはフェアな闘いではない。

ルールとは、フェアな闘いの場で、技術の練度を測定するものだ。

このような西洋スポーツの発想に基づいて、ボクシングやK−1などのルールは設定されている。

したがって、K−1王者とは、この測定基準にそった練度の高いプレイヤーのことだ。その最たる者が「スリータイム王者」「ミスター・パーフェクト」のホーストだった。

その完璧な練度を誇るホーストが、デビュー間もない新人のボブ・サップになぜ敗北したのか？

その秘密を解明するために、K−1という格闘技の特性を理解する必要があるのだ。

まず、一番目の体重制のあるルールだという点。同階級同士で闘うことが前提のプロ打撃格闘技では、小よく大を制する技術の練磨は不用なものだ。

まれに、ワールドMAXを制覇したクラウスのように、ミドル級の選手がヘビー級の選手とスパーリングをして、パワーアップを図るというトレーニングはあるが、これはあくまでも例外だ。

相撲や、極真空手のように無差別を前

提とした競技には、小よく大を制する技術のノウハウは蓄積されるが、プロ打撃格闘技には原則的にこれらは不用な技術である。

あくまでも同体重の相手に勝つことを目的に、フォームやコンビネーションが組み立てられるのが、この種の競技の特性である。

しかし、ここに例外が生じた。実は、ヘビー級の選手のみが、ウェイトの勝る選手と闘う機会が生じる。しかし、通常、ヘビー級の選手は、ジムでのスパーでも自分より体重の上の人間と行う機会に恵まれない。ミドル級のクラウスは、ヘビー級の選手とスパーをしてパワーアップを計れても、ヘビー級の選手がパワーアップを計る機会は少ないということだ。

おそらくホーストも体重160キロの選手と闘う機会はまれであったはずだ。ホーストは、ボブ・サップとグローブを交え、その圧力とパワーに初めて戸惑いを覚えたに違いない。

ミスター・パーフェクトがなぜサップに負けたのか？ それを探ることで、格闘競技の本質に迫ることができる

〈リング上に電車道を作った男〉

2番目のラウンド制のルールだという点も我々の盲点となっている。実は、実際の闘いに比べて、3分5Rというのは非常に非現実的な設定だ。しかし、同ウエイトで同技術を比べる競技では、スタミナ差が優劣を決めるポイントになる。ボクシングでは3分で12Rも闘うのだ。

こうなると相撲のように一瞬の出会い頭に勝負をかける闘い方とは異なってくる。ラウンド制独特の長期的な戦略を含む闘い方が重要になってくるのだ。

たとえば、1・2Rでローで足を止め、3R以降にパンチでとどめを刺すという闘い方などだ。

また、6メートル四方の逃げ場のないリングで長い時間闘うには、原則として両者は足を止めてガードをして向かい合う時点から闘いが始まる。

ガードをしっかりとして構えていなければ長時間闘えない。こうした相手に有効なのがコンビネーションだ。防御の反応の裏をかき、次々と詰め将棋のように攻撃を決めていく。

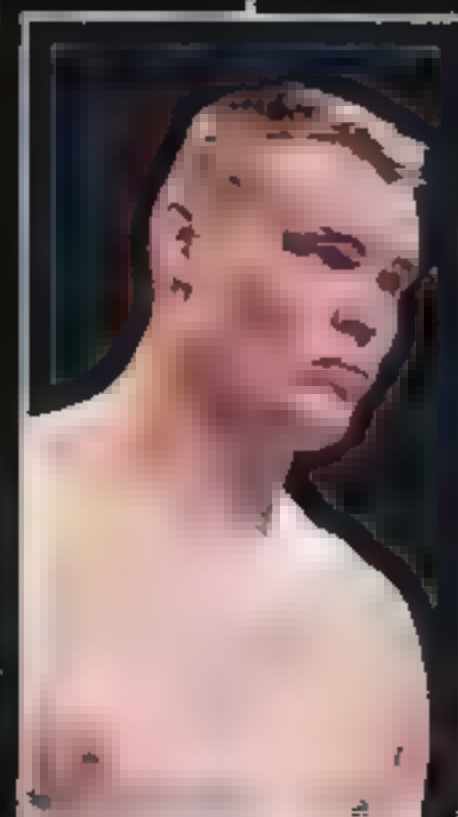
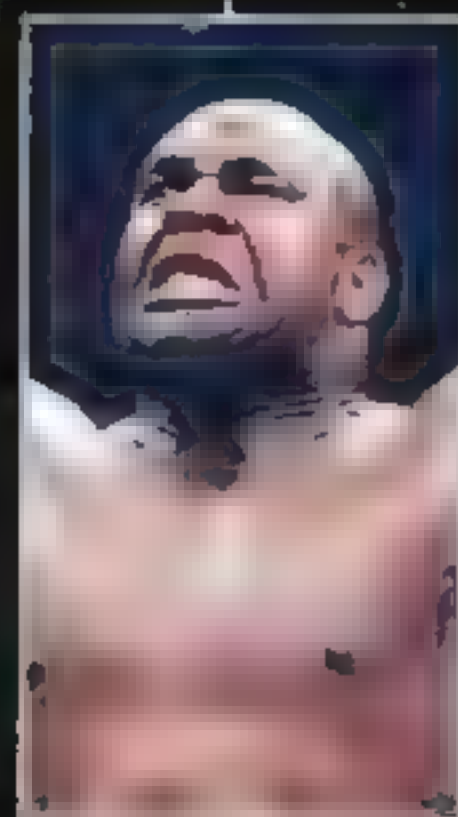
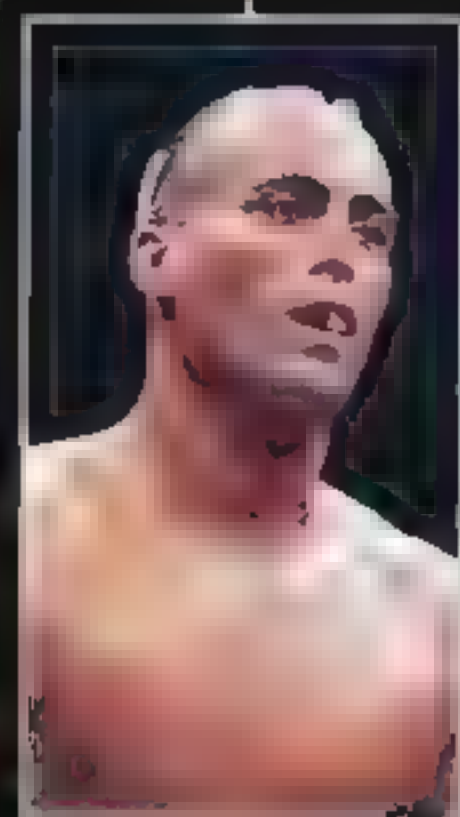
コンビネーションとは、足を止めて防御を考える相手には、非常に有効だ。そして、その達人がホーストだったのだ。

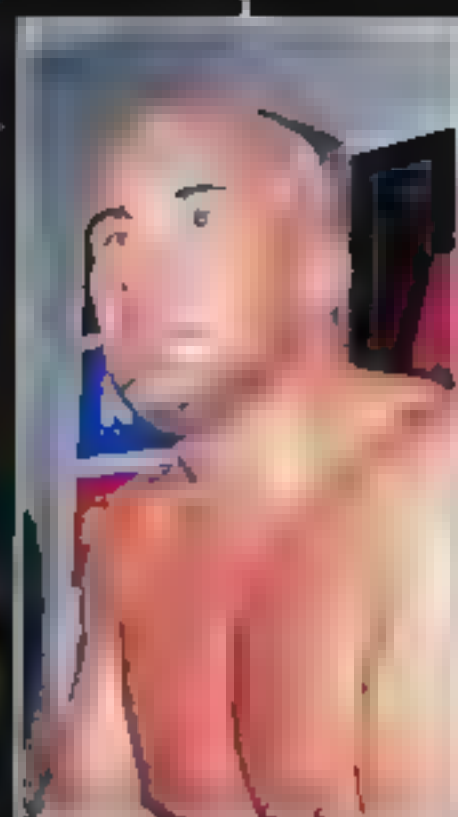
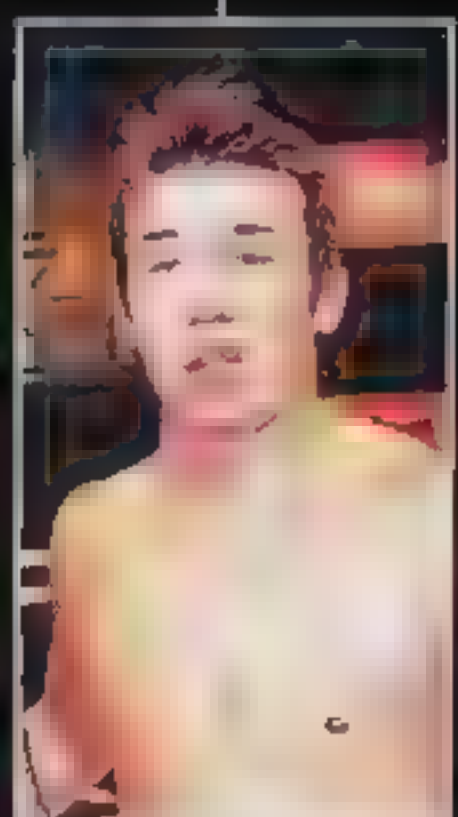
それゆえに、そこにホーストの盲点があった。実は、ホーストはガードを固める相手を術中に陥れるのがうまい反面、足を止めずに直進的に入ってくるタイプには意外なモロさを見せる。フィリォやシカティックにKOされたのは偶然ではない。

打撃とは、有効な間合いが限定されており、予定外の直進を見せる相手には、ほとんどヒットが不可能だ。タックルにヒザを合わせればいいといっても、実際にそれをやってのけたのはミルコぐらい

驚異の外敵サップ独走か？ これはK-1内VSK-1外の闘いだ！

レイ・セフォー（アメリカン・プレゼント・ボクシングジム）

ピーター・アーツ（メジロジム）

セーム・シュルト（ゴールデン・グローリー）

ボブ・サップ（チーム・ビースト）

ステファン・レコ（ゴールデン・グローリー）

マーク・ハント（リバプール・キックボクシングジム）

ジェロム・レ・バンナ（ボーアボエル&トサジム）

武蔵（正道会館）

▲▼打倒サップを果たせるのは、やはりパワー負けしないバンナやハントか

◀フットワーク&ディフェンス重視の武蔵流もサップ退治に有効だった！

だ。

打撃格闘技の選手が、しばしば総合の選手のタックルの餌食になっていることを考えれば、カウンターの打撃のヒットが、ある間合いを越えるとほとんど効力を発揮しないことが分かるだろう。

ましてや、打撃の複合技であるコンビネーションは、なおさらヒットさせにくい。

ホーストが、直進してくるボブ・サップに何もできずに押され続けたのは、こうしたファイトスタイルの盲点を突かれたのだ。しかし、通常のファイターが突進してきても、ホーストは両手をガードし、体を密着させた後、プッシュして距離をとり、また自分の得意な間合いでファイトをすればよかった。相撲で言えば、立ち会いでつっぱられても、まわしを取ってしまえば横綱相撲ができる。

しかし、ボブ・サップの突進はそれでは止まらない。四つ相撲の得意な力士が、まわしをつかめず土俵を割ってしまったようなものだ。ホーストは、最後まで、自分の闘いをさせてもらえなかった。

ミスター・パーフェクトなゆえに、体系内のファイトスタイルを捨てて、体系外の闘いに移行することができなかった。

〈アメフトは伝統武術だった〉

ボブ・サップの闘い方は、通常の階級で、ラウンド制で闘うには一般的には不利な闘い方である。

しかし、無差別級で、短期決戦で勝負するためには、ボブ・サップの体格ほど適したものはない。

K―1の技術ではなく、突進するアメフトのキャリアを最も生かす闘い方である。

余談であるが、アメフトをはじめ、スポーツの発生と発達を促したのは軍事訓練である。

アメフトも、形を変えた格闘技なのだ。ただ、闘いの局面を、打撃や投げ技、寝技などで切り取らなかっただけだ。実際、フットボーラーはケンカでは強い。某大学の空手部がラグビー部と集団で闘った時、KOされたのは全員空手部だったというエピソードもある。

実は、ボブ・サップのように短期決戦の突進ファイトは決して特異なものではなく、むしろアジアの伝統武術ではオーソドックスな闘い方だ。それがパンチであれ、体当たりであれ、数秒で勝敗をつけなければ実戦では役立たない。

むしろ、体重制、ラウンド制などの測定基準を用いる格闘技のほうが近年、西洋スポーツの影響で発展したため、成立が新しい。

ボブ・サップはある意味で、近代格闘技に、伝統武術の荒々しい闘い方を復活させた立役者とも言える。

〈誰もサップを止められない〉

さて、こうしたサップを倒せる選手がK―1の中にいるとしたら誰か？ ボブ・サップの体力を生かした突進に対処するには2つの方法がある。

ひとつは、サップの突進を受け止めるパワーを持ち、強力なカウンターを打てる選手。具体的にはバンナやマーク・ハントがこれにあたる。

もうひとつは、突進に対して左右にさばいて攻撃を出せる選手。

打倒サップ候補はバンナ、ハント そしてもう一人……え、武蔵？

このタイプで一番うまいのが、なんと武蔵だ。武蔵はトーナメント抽選会でサップを避けたが、これは悔やまれる。サップを初めて倒す選手となる可能性が武蔵にはあった。勝敗はともかく、サップと闘えば武蔵のベストファイトとなることは間違いなかったろう。

しかし、サップの天敵、武蔵とバンナは1回戦で潰し合う。さらにハントも別ブロックだ。

これはもうサップを止める人間は決勝に行くまで現れないのではないか。もし、サップが優勝してしまったら、これはK―1だけではない。近代格闘技の蓄積した歴史が全てひっくり返る。これは歴史的な大事件だ。■

Best Selection from the World
話題の海外商品を簡単・迅速にお手元へ
◆ANDROSTENEDIONE
アンドロステンジオン
★世界のホームラン王も愛用★
筋肉増強
ULTIMATE NUTRITION
ANDROSTENEDIONE
50 MG 100 CAPSULES
100mg／100錠
(2ヶ月分)
1瓶 8,800円
2瓶 15,900円
3瓶 22,500円
強い筋肉作りの補助に。米国では栄養補助食品として販売され、大リーグでの使用も認められています。余分な脂肪が気になる人に最適の100%天然ハーブです。
アミノ酸
◆アミノディ1000
ソースナチュラル社
20種のアミノ酸にビタミンB6とCを配合。
話題のアミノ酸パワーを体験して下さい。
AMINO DAY
1瓶 30錠
2,800円
1瓶(大)60錠
4,000円
◆アミノ酸2000
Ultimate Nutritiond社
もう使ってる人、ジックリ試したい人にピッタリの徳用版。
筋肉同化を促す18種のアミノ酸。
乳清(ホウェイ・プロテイン)から抽出したスポーツサプリメント。
AMINO 2000
1瓶2000mg/150錠
1瓶 6,100円
2瓶 11,000円
3瓶 15,500円
(株)ライフメイク
ご注文専用フリーダイヤル 0120-37-0044
Fax.048-872-0880(24時間受付)
Fax.の場合は、希望商品と個数・住所・氏名・TELを明記の上、お申込下さい。
商品のお問い合わせ等は☎048-710-8358(代)
〒336-0022 さいたま市白幡4-23-11 SDAビル3F
商品は7日でお届け、お支払いは後払い・代引きで。※掲載商品はすべて税込・送料680円。
営業時間:AM9:00～PM9:00★商品は到着後8日以内なら返品・交換可。
(返送料はお客様負担。未破損・未開封に限る)※使用の際は、用法・用量を守って下さい。

ザ・ビースト
SRS・DX特別編集
扶桑社ムック
すべてぜ～んぶ見せます
だ、ボブ・サップのこと
ボブ・サップ 決定版

ウエイト	定価	バーゲン価格
30kg	¥12,600	5,040円
50kg	¥20,600	8,240円
70kg	¥28,600	11,440円
100kg	¥40,600	16,240円
140kg	¥56,600	22,640円

ウエイト	定価	バーゲン価格
20kg	¥9,600	3,840円
30kg	¥13,600	5,440円
40kg	¥17,600	7,040円
50kg	¥21,600	8,640円
60kg	¥25,600	10,240円

フランス「KARATE・BUSHIDO」誌提携
SRS-DX
No.83 12・12号

CONTENTS

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います

突然変異と生態系
狂喜乱舞のビッグウェーブ

出席者◎ターザン山本（か[illegible]い用心棒）
サダハルンバ谷川（本誌"突然変異"編集長）
小松魔裟夫（本誌"構造的欠陥"編集部員）
特別ゲスト◎山口日昇（「紙のプロレスRADICAL」"居残り"編集長）
司　会◎柳沢忠之（本誌御目付役）

俺なんかもそういうところに引っ張り込まれてる感じでしょ

山本　おい、谷川ぁ―　今日は前フリなしに一気に行くぞぉ！

谷川　あ、はい、お願いします。

山口　俺はもう帰っていい？

谷川　そ、そんなこと言わないでもうちょっといてくださいよぉ。

山口　俺は山本さんとサダハルンバの寸劇に付き合ってるほどヒマじゃないんだよね（笑）。

谷川　そんなこと言わないで、ホントにちょっとでいいですから。

山口　で、いったいなんのお話？

山本　このところの激動している時代の流れが、さらに加速してきているでしょ。『Dynamite!』から始まって、『プライド23』ではUインターの復活みたいな形になること自体が過去の総ざらいだしさぁ、これって新しい時代に向かって行くために過去を清算してしまえ、呼び起こしてしまえという、大きな時代の渦を呼び起こしてしまったという感じがするんだよねぇ。

山口　ふんふんふん。

山本　それと新しいものをやっていくとどんどん雪だるま式に膨らんでいって。12月にK―1がボブ・サップでバーンとやるでしょ。その後、『プライド』が23日に福岡でやるでしょ。で、大晦日に猪木祭がある。来年になったら東京ドームで『WRESTLE―1』（＝以下『W―1』）があるわ、1・4新日本の東京ドームはあるわ、WWEは来るわで、この2カ月間で何か目まぐるしいというか、もの凄い勢いでさぁ、狂喜乱舞のビッグウェーブがきてるんだよねぇ。『紙プロ』だって先月号はもの凄く熱っぽかったじゃない。

――ズバリ言って、それは会長（＝山口の呼び名）が触ってねえから。

山口　そう、まったく触ってねえですから……っていうと本気にさせるな（笑）。

山本　でも売れたでしょ、先月号は。

山口　売れ行きはいいみたいですね。

山本　なんか、そういった意味で熱っぽくなってるし、俺なんかもそういうところに引っ張り込まれてる感じでしょ。

山口　山本さんが？

山本　その時代のうねりに馳せ参じていますよぉ！

山口　ああ、自ら馳せ参じるわけね。

山本　俺は「SRS・DX」の編集部で、パンツ一丁で仕事してるからね。

――「先生、出番です」って感じで（笑）。何か仕事を頼むと、「おにぎり買ってこい」って言うらしいから。

山口　さしずめ、ざんばら髪の山下清みたいなもんたね（笑）。

山本　夜中の2時か3時頃に電話してくるんだもん、柳沢氏は。

――「山本さん、表紙コピーを考えてくださいよ」って（笑）。

山本　俺は『SRS・DX』の編集部にパンツ一丁でいて、表紙コピーを考える用心棒みたいなもんですよぉ！　よ～するに天才用心棒だなぁ。

――ダッハッハッハッハッハ。

山口　天才ですよ、天才。十数年も前から言ってるじゃないですか、「山本さんは天才ですよ」って。まあ、〝天災〟かもしれないけど（笑）。

山本　だからさぁ、記憶にこだわるのか、記憶を捨てるのかそれが問題だ、是か非かっていう論争をここで起こして、グチャグチャにするわけですよぉ。そういう時代ですよぉ、今は。違う？

――そうですね（笑）。

山本　オールすべてぜ～んぶのプロレスファンが、俺にとってはでっかい獲物に見えるわけですよぉ。俺は大きな投網を持ってさぁ、バーッとかけてさ、全部取りあげちゃうんだよねぇ。

――いや、山本さん、もうプロレスファンっていう発想は捨てたほうがいいですよ。本当にそこらへんにいる普通の人ですよ。

谷川　そこと闘っていかなくちゃならないんだよね。

山口　そこらへんにいる人と思えば、ほんと入れ食いだもんね（笑）。

――ホントに入れ食い。（小松を見ながら）こんなの相手にしてたら、まったく話にならないからね。こういう構造的にひねくれたファンを相手にしてたらダメでしょう。

谷川　まったくの時間のムダ。

山本　でも、そういう人たちを作ってきたのが今までの歴史であり、財産なんだよねぇ。その財産までも捨てようとしてるんだよぉ。リセットして財産を捨てようとしてるわけ。

まさにリセットの時代だね。

山本　だから、俺は「財産を捨てろ！」と叫ぶわけですよぉ。

――髙田延彦vs田村潔司で『プライド』をリセットしようとしてるからね（笑）。

山口　『プライド』最終回（笑）。

谷川　さっきの話なんですけど、ここまでのひとつひとつのイベントが点になって、それが線になってますよね。

山本　なってるよぉ。だから、まったく全然違うもの、ジャンルが違うものが線でつながってるわけですよぉ。

――今、山本さんが言った流れは全部つながってますよ。

山本　それが要するに〝生態系〟になってるんですよぉ。ジャンルが違うもの、個別に存在していたものが、オールすべてぜ～んぶ連関して動くようになって、一つのデカイ生態系になっている。その生態系を俺たちのものにしなくちゃいけないね。

山口　ガハハッ！　俺たちのもの（笑）。

――「捨てろ」と言ったり、「俺たちのもの」と言ったり忙しいね（笑）。

山本　それぐらいの認識でやらないと、俺たちの言葉とか迫力というのは伝わらないわけですよぉ。

――もっと言えば、生態系の王者になりたいわけですね（笑）。

谷川　『W―1』からの派生で、闘魂三銃士が合体するとかいう話題もありますけど、それは生態系じゃないと思うんですけどね……。

山本　それはないよぉ。

――生態系に入ってこられないでしょ。

山本　生態系が新たな時代を迎えたことの証明が『ゴング格闘技』ですよ。

――えっ？

山本　今まで、技術絶対主義という信仰の中で誌面を作っていたものが、ボブ・サップを表紙にし、俺の名前を表紙に入れてるわけですよぉ。巻頭記事では、ボ

その生態系を俺たちのものにしなくちゃいけないね

ブ・サップを俺に語らせているわけ。谷川も出て、ザンス山田（英司）さんが出て。いくら舟木さんが『ゴング格闘技』が日本スポーツ出版社から独立してやったとはいえ、今までの『ゴング格闘技』の持ち味、アイデンティティを崩して、変えてきたということは、彼らも新たなる生態系への参加を表明してるんですよぉ。

——はい、そういうことですね。

山本 あれは方向性ということよりも、新たなる生態系に目覚めたんだねぇ。凄い発見をしたよぉ、山口さん。

山口 ヘソでも出したほうがいいですよ。もっと発見ができるだろうから（笑）。

生態系の役割は、その生態系に入ってきたものには、たっぷりおかずをあげなきゃいけないんですよ。

山本 そう、おかず！ つまり生態系に参加するということは何かを還元されなきゃいけないんだね。何かいいこと、得すること、共通の分け前がないといけないんですよぉ。俺たちはそれにパクゥと食いつくんですよぉ。

山口 それが生態系の鉄則（笑）。

山本 その分配がよ~するに、今はたまたまボブ・サップなわけですよぉ。K-1に上がって、新日本プロレスのドームに出て、その次は「W-1」に上がる。で、その次はまたK-1グランプリに。彼が今まで何も関係なかったところに、新たなる巨大な一つの生態系を作り出したんだよねぇ。これは凄い発見だなぁ。今まで気が付かなかったよ、俺。「ボブ・サップとは何か」ということを。

山口 それに気付いていない段階で「ゴン格」に語ったんだ（笑）。

山本 そんなもん、後出しジャンケンですよぉ。今、真実に気付いた。ボブ・サップは新たな生態系を築く伝道師というか担い手というか、そういう存在ですよぉ。

山口 山本さんは実に立派な詐欺師ですよ（笑）。

山本 新たに"生態系"という言葉が出たことでスッキリしたよぉ。

山口 今日は凄いなぁ、なんか（笑）。

山本 やっぱり、俺は山口がいたほうが冴えますよぉ。

——気が付いちゃった（笑）。

山口 いつもそうだもんな。ターザンがメインのサムライTVの『生ゴン』でもいつもそうだもん。俺がゲストで呼ばれても、ただ笑うのみ（笑）。

——まあ、この間も言っていた「マーケット」っていうのは、その生態系のことなんですよ。ジャンルをまたぐんじゃなくて、マーケットをまたぐんです。

山本 マーケットって経済用語みたいでちょっと分からなかったんだけど、「生態系」という言葉だと具体的で非常に分かりやすい。濃密に確実に伝えられるよぉ。

——はい、表現の王者です、先生（笑）。

山本 そうでしょ？

山口 パンツ一丁の裸の王様（笑）。

——そういうことです。

山本 だからマーケットを利用するって言ってたけど、これからは生態系を利用しよう、と。あるいは分配方法を変えようとか、そういうことでしょ？

山口 そういうことです。まあ、山本さんは最後には「ぜ~んぶ俺のもの」って言うんだろうけど。

谷川 まあスポーツ紙なんかは、闘魂三銃士が合体するとか、そういうことが生態系みたいな感じで書いてましたよね。

山本 実にチープだよぉ。

山口 なんか分裂してるよね。ボブ・サップ一本でいくべきか、三銃士のほうも拾うべきかって意見が分かれているというよりも、どっちにしようかって。

谷川 迷ってるんだぁ。

山口 プロレスのほうはやっぱり付き合いがあるから。

——ダハハハッ！ 今回、「W-1」では一切、選手のコメントブースを作らないでやってたでしょう。

山口 うんうん。それって生態系の中でのマスコミの在り方が問われるよね。コメントじゃない別のおかずを見付けなきゃいけないってことでしょ？

山本 まあ、そういう形でさらに追い打ちをかけるわけじゃないけども、その生態系の認識が「ゴング」のGK（=金沢克彦編集長）とか「週プロ」の佐藤（正行）編集長には……。

入ってない。

山本 それは生態系が変わったという意識を持ちたくないというか、「俺たちは俺たちの生態系が別個にあるんだ」という意識だよねぇ。

——なのに「W-1」を否定してないのは、逆に彼らの生態系に「W-1」が入ってこようとしていると思ってるわけですよ。

山本 そうそう。

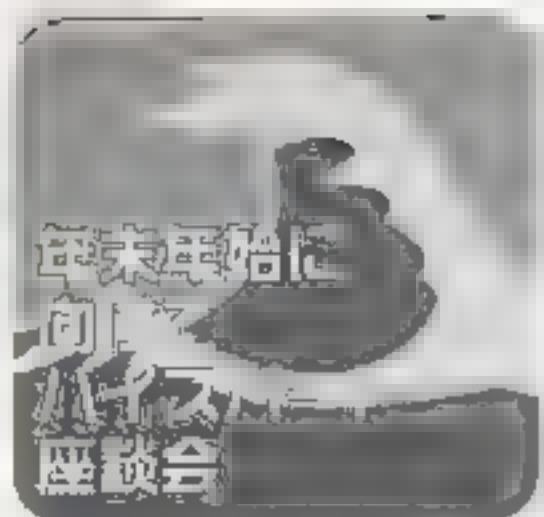
——そういう勘違いをしてるんですよ。本当はその感覚をガラッと変えないと、ダメなんですけどね。

山本 そんなちっちゃな生態系に入るわけがないじゃないか（笑）。

山口 ガハハハハッ！ ホントにそういうことです。

山本 ここまで生態系が大きくなってきてるんだからなぁ。その点、谷川は無限大に大きいよぉ。

——だって突然変異だから（笑）。まあ、サダハルンバにしても、今の流れにしても、こんな突然変異が出てきたっていうことが凄いことなんです。

谷川 僕はその生態系に見事に入ってるでしょう？

猪木さんは新たな生態系の中でどうなるかという問題があるんだよねぇ

山口　ズバリ言って、サダハルンバ自体が生態系というか（笑）。

山本　だから、谷川が一番キラーなんですよぉ。

――そう、それでこの突然変異は「石井和義」っていう、まったく生態系になかった存在を連れてきたんですよ。

山本　既存の生態系にはまったく無縁だった人だよねぇ。

――無縁というか、全然違う生態系の王者を新たな生態系にぶち込んじゃったんだから（笑）。ボブ・サップはこの生態系に入ってくるのは自然現象だからね。

山本　じゃあ猪木さんは、この新たな生態系の中でどうなるかという問題があるんだよねぇ。俺たちの中でアントニオ猪木という存在は今までの財産の中では最強だよねぇ。そういう猪木さんが新たな生態系を築くのにどんな役割を果たし、どんな関わり方をするのかということが、凄く俺たちにとってもデリケートな問題だよぉ。

谷川　そこは『イノキ・ボンバイエ』に凄く関係のあるような気がしますね。

山本　関係あるよぉ。『イノキ・ボンバイエ』でひとつの答えが出るんじゃないかという。去年の『イノキ・ボンバイエ』をやった時と、今年の『イノキ・ボンバイエ』はまるで違うからなぁ。

谷川　大きな声じゃ言えないですけど、『イノキ・ボンバイエ』って打たないで、『Dynamite!』にしたらチケットは売れると思うんだけどなあ。

山口　ブワッハッハッ！

山本　俺にはそこまで言えないよぉ。

山口　ぷぷぷっ！　そこがキラーとナチュラルキラーの差だ（笑）。

谷川　いやいやいや、僕も声を大にしては言いませんけど……。

山本　去年は『イノキ・ボンバイエ』が最大の切り札で、紅白歌合戦に対抗するにはこれ以上のものはないという感じだったんだけど、今年8月くらいからの流れで言うと、果たして切り札になるのか、と。それぐらい俺たちの意識や時代の意識が変わってしまったということですよぉ。

山口　今の猪木さんは、タレントとしてもプロデューサーとしても中途半端に見えるからね。ここで猪木さんが「大晦日は『Dynamite!』」って言ったら、それは爆発するけどね（笑）。

谷川　どうすればいいんでしょうね、山本さん。

山本　俺は見るだけだからぁ。

一同　（爆笑）

山本　この生態系の中でこれからどう進めていくかが難しいねぇ。

谷川　猪木さんには難しいと思いますよ。

山口　新たな生態系の中に入るってこと自体がものを作ってることだから。猪木さんはその生態系がバラバラだからね。

――猪木さんっていう存在は、カッコよく言えば〝創造主〟なわけですよ。

山本　創造主ですよぉ！

で、創造主の中で生態系をつくる種をいろんな生態系にふり下ろしてって、この生態系が今、大きくなったっていう。でも、自分で種をまいたところがいっぱいあって、その他も無視できないからね。

山口　つまり、創造主としての役だけじゃイヤなんでしょ、猪木さんは（笑）。

――ズバリ言って、非常に欲張りというか（笑）。

山本　それも、自分が産み落としたものが一人歩きしたり、変貌を遂げたりとか、どんどん変化していくでしょ。そういうことに対して猪木さんはイヤなんだろうなぁ。

――自らその生態系の中で暴れたいんでしょうね。

山本　つまり、俺と同じなわけですよぉ！

山口　また始まったか！（笑）。

――でも、似てるんだよ（笑）。

山口　えっ、猪木さんとターザンが似てるってこと？

――その生態系の中で暴れないと気がすまないんだよね。俺たちが「山本さんの種の中で生態系を作ってきましたよ」って言ったって、その生態系の中で暴れないと気がすまないからね（笑）。それは猪木さんも同じことでね。

山口　誰かが「じっとしてろ」って言わないといけないね（笑）。

――でも、それが隠しきれない潜在的な欲望だからね。

山口　猪木さんもターザンも、いまだにどこへ行っても「俺を見ろ！」だからね（笑）。それはそれで気持ちいいけどね。

山本　いや、違う違う。今日も編集部に届いていた読者ハガキを見たら「最近、ターザンが活躍してきて、やっと谷川さんの領域に達した」って書いてあるんだよぉ。

一同　（爆笑）。

山口　凄いなぁ、『SRS・DX』の読者は（笑）。

谷川　山本さん、すみません……。

どんな読者作っているんだよ、ウチの雑誌は（笑）。

谷川　でも、山本さんは大暴れしてますけど、猪木さんは大暴れしてないからなぁ。

――山本さんはまだ書けるからいいけど、猪木さんはリングで試合できないからね。

谷川　だから、今は空から飛ぶしかないんだよねえ。

――んあ～！

山本　今は時代が畳みかけてきているで

時代そのものがもの凄く ハイスパートになっているんだよねぇ

しょ。よ～するにイメージ的な言葉で言うと時代そのものがもの凄くハイスパートになっているんだよねぇ。だから、このハイスパートの時代をどう生きていくかではなく、いかに参加して楽しむかということだよね。よ～するにこの際、右往左往するんじゃなく、そこに入っていって楽しむしかないんだからぁ。

そういうことです！

谷川 でも、今の猪木さんは新たな生態系のファンというか、記憶を持たないファンのほうに人気がありますよね。

山本 ある、今はね。

だから、そういう意味ではリセットしたんだよ。

谷川 リセットしてるんだよ、だからそこだけは救いなんだよね。新日本プロレスの10・14でしたっけ？　あの猪木さんの反響のなさはないですよ（笑）。あれにはびっくりしたなあ、もう。

――ダハハッ！　三波伸介化してるよ。

山本 まあ、猪木さんは新たな形で、新たなファン、よ～するに猪木さんの過去の試合を知らない人たちによってリセットされて人気ができていて、それでどうやって育てていったらいいかを考えればいいんだよねぇ。ところが本人はそこに意識はないんですよぉ。

――新日本の東京ドーム大会では「紙プロ」にまで「寸劇」って言われているにもかかわらず……（笑）。

山口 だって、あれは寸劇以外の何物でもないからね。

谷川 シラ～ッとしてましたもんね、あの登場の時は。

山口 まあ、『W―1』の座談会でも「最後のfinって出る終わり方は、DTでもやってることだ」とかあったけど、猪木さんであろうがインディーのレスラーであろうが、やってることに大差はないって部分は確かにあるよね。だけど、そこにいかに価値観を持たせていくかっていう作業をやってるわけでしょう。ところが、猪木さん自身がどういう価値観を持たされたのかが分からなくなってくるんだよね、ああいうのを見せられちゃうと（笑）。「こういうことがやりたいのか？　猪木さんは。それは違うだろう？」って思うもんね。

山本 だから生態系の大いなる変化と、その変化の中で何が起こってるかといったら、プロレスじゃないけど、格闘技というソフトが社会的評価を凄く受けるわけでしょ。よ～するに去年に続いてさ、猪木さんが紅白歌合戦に対抗するという、それを生かせるかどうか、そこだよぉ。このチャンスをどうやって生かして、生態系を本物にしていくかという。これをやらなきゃいけないし、そこだけは押さえておかなきゃいけないんだよぉ。絶対に失敗は許されないわけ。その生態系の大いなるタマが、ソフトとして本当に評価されてきてるんだよねぇ。

――紅白の裏ですからね（笑）。

山本 だから完璧にそうだよ。これを生かすために、どうするかですよぉ！

――そこはやっぱり猪木さんの出番だけど、そこで「紅白仮面」じゃないよなぁ（笑）。

山口 猪木原理主義者のI編集長＝井上義啓さんにまで、「最近の猪木のやってることは分からん」って言われてるからね。俺たちはどう捉えればいいのって感じだよね。だから、創造主としてだけじゃ、ホントにイヤなんだろうね。

谷川 本当に難しいなぁ。

――相変わらず永久電気の話しかしないらしいし（笑）。

山口 本当に『イノキ・ボンバイエ』でいいのかね？（笑）。

山本 それはどう対応して、どうクリアしていくかですよぉ。去年のことはきれいサッパリ捨て去って、新たな挑戦というかさぁ、新たなハードルを設けなきゃダメですよぉ。もう、オールすべてぜ～んぶをリセットして取りかからないことには。

山口 そのハードルが凄く高いよね。

山本 そう！　でも、ハードルが高いということは可能性を秘めているということなんだよねぇ。まあ、それを全部クリアしていかなければ、今の生態系の中では爆発はないわけよぉ。これは非常に微妙な時期にきてるということだよなぁ……。（しばし沈黙）

山口 なんか、山本さんが瞑想にふけってるよ（笑）。

谷川 でも、ホントに井上さんぐらい瞑想にふけっちゃいますよね。

山口 もうサダハルンバが言うように『Dynamite!』にして、猪木さんが館長の代わりに「い～ち、にい、さん、ダイナマイッ！」ってやってくれればスッキリするんだけどな、年末は（笑）。

谷川 でも、猪木さんが『イノキ・ボンバイエ』にこだわってるんだね。館長のほうはそういうところこだわらないんだよなぁ。館長は『イノキ・ボンバイエ』のプロデューサーでもオッケーだからね。

山口 ガハハハッ！　『イノキ・ボンバイエ』プロデューサー石井和義（笑）。いけそうだよな。いっそのこと『イシイ・ボンバイエ』にしちゃえばいいんじゃないの？

山本 それはいいよぉ。

――んあ～！

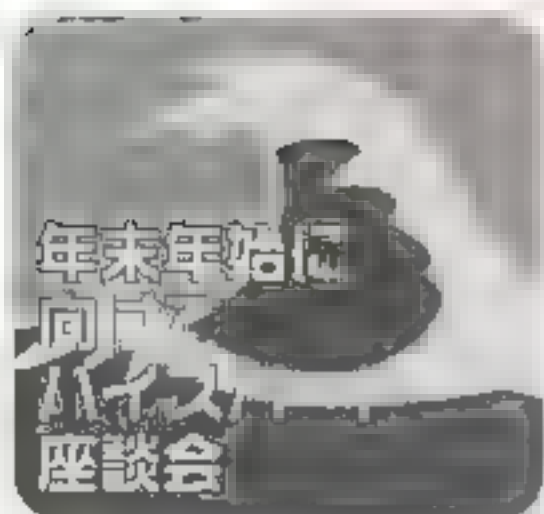
谷川 でも、やっぱり『イノキ・ボンバイエ』は難しい。K―1軍対猪木軍っていうのが難しいですからね。

山口 だって、猪木軍なんて去年の大晦日以降何もないんだからさ、概念としてもイメージとしても（笑）。イメージとしてないっていうのが、一番痛いですよね。

山本 一応、夏にはあったんだよぉ。

谷川 あったんだよね。

山口 まあ、猪木軍なんて、もともと概

年末年始版 向上 バイス 座談会

新たな挑戦というかさぁ、新たなハードルを設けなきゃダメですよぉ

念も実体もないんだけど、イメージとしてもないっていうのが痛いよね。

谷川 でも、K―1だってそうなんですよ。K―1に今あるのは、ボブ・サップですからね。あれはK―1じゃないんですよ、K―1最強軍と言いながら。ピーター・アーツとかアーネスト・ホーストが出てこようがね……。

山口 だからK―1自体もさっき言ってた生態系の中にさ、K―1じゃないものとして取り込まれているよね。

谷川 うん、完全に取り込まれてる。でも、そこが今のK―1の繁栄の一番の要因なんですけどね。

山口 まったく「純K 1」じゃなくなってるもんなぁ。

谷川 そうやって考えていくと、猪木軍とK―1軍なんていうのはないでしょうましてや「プライド」軍なんてもっとない。

ほんとに今回の12月31日の「イノキ・ボンバイエ」は、生態系のピークなんだよね。

山口 だから、一番いいのは小川直也VSボブ・サップ（笑）。

山本 そうだよなぁ。

―うん、小川VSボブ・サップしかないんだよね。

山口 これで小川直也がこの生態系の中に入れば、もうリセット完了だよね。

―それはどういう意味かっていったら、違った生態系から連れてくるってことがポイントだからだよね。

山口 そうだね。それが小川じゃなくてもいいんだけど、でも、それが他流試合のヒントだからね。いかに違う生態系から連れてこれるかどうかが……。

谷川 時間がないよなぁ。

山口 分かりやすく言えば、禽獣であるパンダを持ってこれるかどうかなんだよね（笑）。

―まさに客寄せパンダなんだよね。とにかく日本の生態系にないものを持ってこなくちゃいけない。

山本 ちょっと『週プロ』見せてくれる。もうね、ホントに驚きだよ。びっくりしたよ。『格闘技通信』で「最強とはなんだ」とやってるんだけど。「最強」というテーマでボブ・サップを語るというさ。八巻健志、古賀稔彦、太田、畑山、暁、髙田延彦、堀辺正史、大八木。このメンバーがボブ・サップを語ってるんだよぉ（笑）。俺はこれを見た時、「ゴン格」にしても『格闘技通信』にしても、どーなってしまったんだと思ったよぉ。だって、空手家とボクシングとレスリングとプロレスとラグビーの人が最強とは何か、ボブ・サップが何かを語ってるんだからさぁ。これ自体が巨大な変化の渦を表してるもんね。今までだったら、天地がひっくり返ってもこんなことはやらなかったよぉ（立ち上がって大炎上！）。

―そういう生き物は、この生態系に入ってきたら、簡単に食い殺されますね。あっという間に絶滅しますよ（笑）。

山本 でも、凄い展開になってるよぉ。今年は本当にボブ・サップという救世主に助けられましたよぉ。彼がいなかったら大変なことになっていたよなぁ。

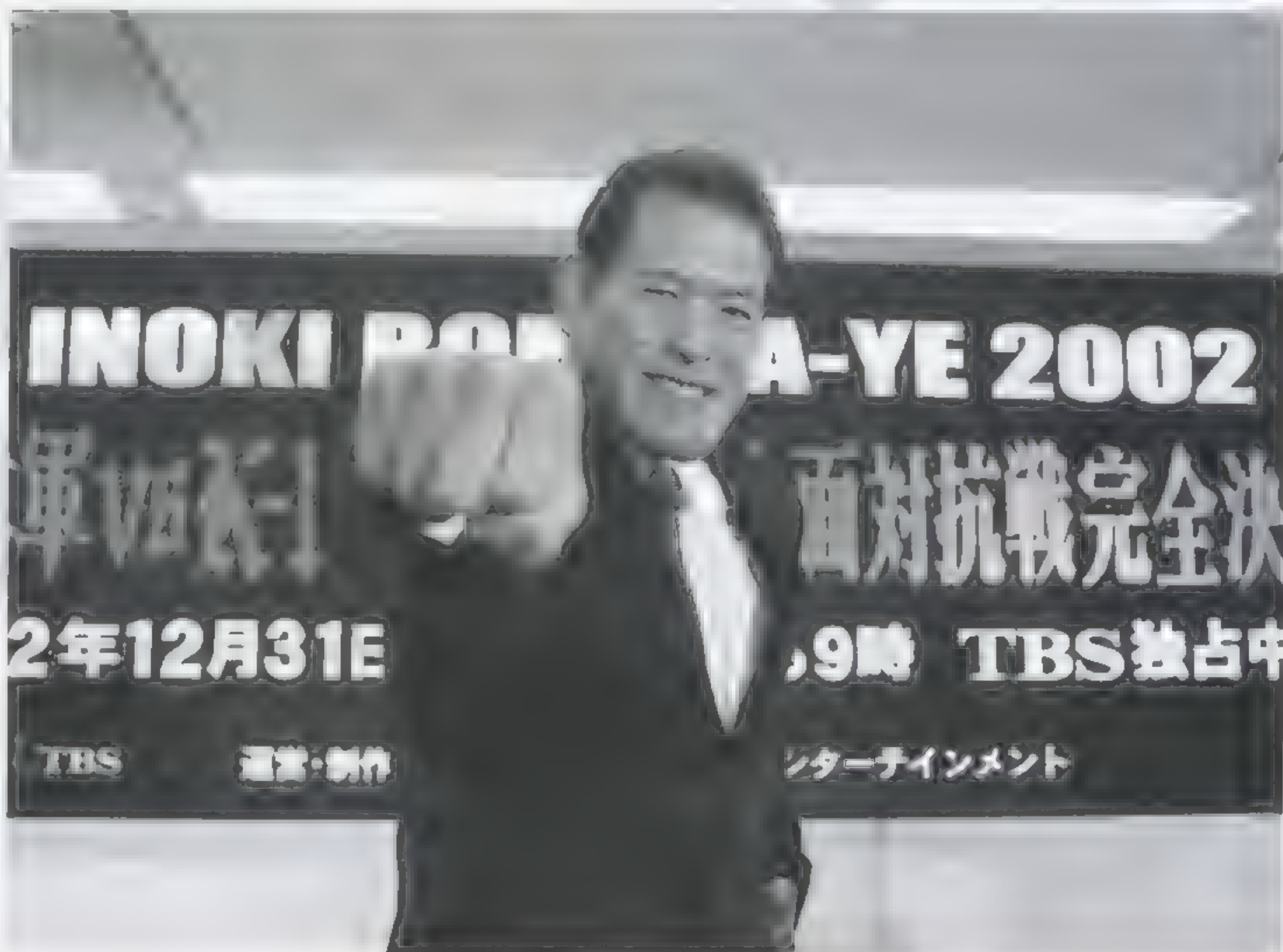
谷川 大変なことになってましたよ。

山本 話にならないし、語ることも論じることもできなかったよぉ。

山口 山本さんが再び立ち上がることもなかっただろうし（笑）。

山本 俺も運がいいなぁ。

―ダハハハハッ！

山本 俺はボブ・サップと一番ウマが合うんだよなぁ。

山口 結局、最後は「今年のMVPは俺だ！」って言うよ（笑）。

山本 いや、それは言わないよぉ（妙にかわいらしく）。

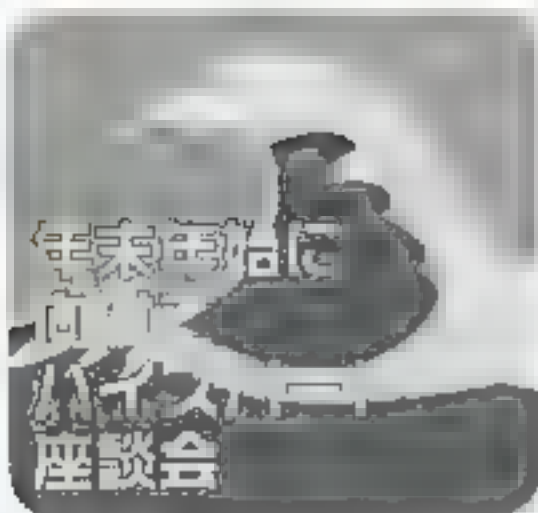
山口 いや言うね、間違いなく絶対に言う。もう今から宣言しておいたほうがいいですよ（笑）。

山本 俺はサップと話が合うんだよなぁ。気が合うんだよぉ。

山口 いったいなんの話をしてんだ（笑）。「W―1」の解説と一緒で全然分からないよ、山本さんの言ってることは。

谷川 まあ、ポイントは猪木さんと『イノキ・ボンバイエ』が新しい生態系に何を持ってくるかでしょうね。

山本 だから、俺たちの一番の×△●◎………は、ちょっとねぇ。

山口 はぁ？　何をしゃべってるのか全

今年は本当にボブ・サップという救世主に助けられましたよぉ

然分からないですよ（笑）。
　これも新たな生態系？（笑）。

山本　基本的なことを俺はしゃべったと思うけどね、ベーシックなことを。あとは野となれ、山となれで。

山口　相変わらずの「結果オーライ人生」ってことだね、山本さんは。
　おい、モグ、今日もまったくしゃべってないけど、なんかないのか、おまえは

小松　いやあ、まったく。

谷川　んあ～！

山口　最後にもう一度聞いておきますけど、山本さんは猪木さんが年末に何をやればいいと思いますか？

山本　いやぁ、俺は……関係ないよぉ現場に行って見るだけだからぁ

一同　（爆笑）。

山口　かわいいね。なんか今日の山本さんはかわいいよな。絶対にボブ・サップから学んでるよ、そのかわいさは（笑）。

谷川　愛くるしいほどのものを感じるなあ（笑）。

山口　しばらくそのキャラで突き進んだほうがいいですよ（笑）。

山本　まあ、この新たな生態系の一番の強みは、やる前からいろんなことが非常にしんどいなとか、苦しいなっていうのがあるんだよねぇ。でも、それはそうやって苦労していく中で、生態系そのものが新たな答えを出してくれるんだよねぇ。

山口　うん、それはありますね。

山本　あるんだよなぁ。向こうが喜んでくれるというか、与えてくれるというか、提供してくれるというか。偶然に何かをもたらしてくれるというか、起こしてくれるというかさぁ。とにかくこの新たな生態系に頼るしかないねぇ。やっていく中で生態系そのものがさ、ジワッと動いた時に答えが出てくるというのがあるじゃない。それはボブ・サップの出現と一緒ですよぉ。天から降ってきたようなもんなんだからなぁ。まあ……、なんとかなるんじゃないの。

山口　はぁ、まったく責任感が強いのか、無責任なのか。

山本　他のジャンルでいったら犯罪になるけど、このプロレスの世界、マット界では美徳なんだよねぇ。

（店員さん登場）

店員　あのー、申し訳ございません。そろそろ閉店なんですけれども……。

山本　あ、終わり？　はい～、どうもたいへんお騒がせしました。

一同　（爆笑）。

山口　なんか本当にかわいいね、今日は。ボブ・サップから学んでるよ。サップはこんなに汚くないけど

山本　いや、この見せかけの謙虚さは谷川から学んだんですよぉ！

谷川　んあ～！ ■

11/28THU～12/12THU

CALENDAR

11/28
THU

11/29
FRI

11/30
SAT

■パンクラス/神奈川・横浜文化体育館（18:30～）⬅p47
■MA日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49

12/1

■新日本キック協会/タイ・ラジャダムナンスタジアム（18:00～）⬅p49
■J-NETWORK/東京・ディファ有明（16:00～）⬅p48

12/2
MON

12/3
TUE

12/4
WED

12/5
THU

★SRS・DX責任編集　扶桑社ムック『ザ・ビースト～ボブ・サップの素顔～』発売日

12/6
FRI

12/7
SAT

■K-1 WORLD GP 2002 決勝戦/東京ドーム（17:00～）⬅p46

12/8

■DEEP 2001/東京・ディファ有明（17:00～）⬅p46
■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49

12/9
MON

12/10
TUE

12/11
WED

12/12
THU

GUIDE & TICKET

大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

DEEP2001

DEEP2001 7th IMPACT

12月8日（日）　東京・ディファ有明

◆開場/14:30　試合開始/17:00(フューチャーキングトーナメント15:00開始)
◆入場料/VIP席15,000円　SRS席9,000円　アリーナA席7,000円　アリーナB席5,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス、書泉ブックマート、板橋大山アメリカンレッスル渋谷店、レッスル池袋店、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、ファイター☎03-3354-1903、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、テポマート☎03-3515-6507、TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、BATTLE PLACE☎03-3881-7770、格闘技プロショップ東京イサミ☎03-3352-4083、パンクラス☎03-5792-0815　DEEP2001事務局
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

B-SEAT

石川雄規&原学を応援するファンのために、バトラーツサポーターズシート（B-SEAT）をご用意したぞ！　料金は¥7,000（スタンドA席、大会パンフレット、特製応援グッズ付き）。限定シートなので早めにゲットしよう！　チケットは、オンラインhttp://www.battlarts.jp/　もしくは☎048-963-0005にて、バトラーツまでお申し込みを！

▲"情念"石川雄規は滑川康二と対戦！

修斗

プロフェッショナル修斗公式戦

12月14日（土）　千葉・東京ベイNKホール

◆開場/14:00　◆試合開始/16:00　◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　SS席10,000円　2階パノラマ席12,000円　2階パノラマ席10,000円　2階S席8,000円　2階A席6,000円　2階B席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、KEEL CAFE☎03-5725-7338、フィットネスショップ水道橋、後楽園ホール、書泉ブックマート、チケット&トラベルT-1、大盛堂書店☎03-5784-4900、e-ticket　◆会場アクセス/JR京葉線舞浜駅よりディズニーリゾートラインに乗車、ベイサイドステーション下車、徒歩1分　◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

K-1

K-1 ワールドシリーズ

K-1 WORLD GP 2002 決勝戦

12月7日（土）　東京・東京ドーム

◆開場/14:30　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席35,000円　RS席21,000円　SS席17,000円　S席11,000円　A席7,000円　B席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、キョードー東京
◆チケットに関するお問い合わせ/株式会社キョードー東京☎03-3498-9999
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

PRIDE

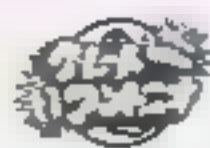
PRIDE.24

12月23日（月・祝）　マリンメッセ福岡

◆開場/未定　試合開始/未定
◆入場料/VIP席100,000円（専用入場ゲート・グッズ付）、RRS席25,000円、スタンドS席15,000円、スタンドA席7,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/各有名プレイガイド
◆会場アクセス/天神、博多駅から車で10分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

プロフェッショナル修斗公式戦

1月24日（金）　東京・後楽園ホール

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

パンクラス

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
11月30日（土） 神奈川・横浜文化体育館

◆開場/17:00　試合開始/18:30
◆入場料/SS席16,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,500円　2F-A席10,000円　2F-B席6,000円　2F-C席4,000円　3F席4,500円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード594-040）、ローソンチケット（Lコード38501）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
12月21日（土） 東京・ディファ有明

◆開場/17:30　試合開始/18:30　◆入場料/SS席10,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:594-040）、ローソンチケット（Lコード:39733）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、イサミ尚武堂☎03-5214-6487　渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジム☎03-3645-9434、パンクラス☎03-5792-0815　◆会場アクセス 新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分　◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR
1月26日（日） 東京・後楽園ホール

◆開場/11:30　試合開始/12:00　◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,500円　立見3,000円　※当日券は一律500円増し　◆チケット発売/12月21日（土）　◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード594-040）、ローソンチケット（Lコード34954）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジム☎03-3645-9434、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR
2月16日（日） グランキューブ大阪

◆開場/15:00　試合開始/16:00　◆入場料/SS席15,000円　A席8,000円　B席6,000円　C席4,500円　D席3,500円　※当日券は一律500円増し　◆チケット発売/12月15日（日）　◆チケット発売所/P'sLAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ☎0570-02-9999（Pコード594-040）、ローソンチケット☎0570-00-0403（Lコード57445）、eプラス、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、フィットネスショップ難波店☎06-6214-7951、神戸住吉・富方☎078-811-6222、リングソウル☎078-333-6690、パンクラス☎03-5792-0815　◆会場アクセス/JR大阪環状線福島駅より徒歩10分、JR東西線新福島駅2番出口より徒歩10分、大阪市営地下鉄（中央線・千日前）阿波座駅（中央線1号出口・千日前線9号出口）より徒歩10分、JR大阪駅前バスターミナルから、大阪市バス（53系統　船津橋行き）または（幹55系統　鶴町四行き）で約15分「堂島大橋」バス停下車すぐ、シャトルバスが「リーガルロイヤルホテル」と各ターミナル（JR大阪駅中央北口、地下鉄・京阪淀橋駅西詰）の間で運行しており、ご利用いただけます　◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

Club Deep 2nd in OZON
11月10日（日） 愛知・Club OZON

第12試合（5分2R）
△伊藤博之（時間切れドロー）山本孝夫△
（フリー）（禅道会）

第11試合（5分2R）
△大野敏彦（時間切れドロー）木村直生△
（エスファイブ）（EVOLUTION）

第10試合　グラップリングルール（5分2R）
藤井恵（1R4分37秒、腕ひしぎ三角固め）山岡聖子×
（AACC）（ALIVE小牧）

第9試合（5分2R）
○伊藤充裕（1R30秒、TKO）稲吉啓太×
（The Body Box）（四王塾）

第8試合（5分2R）
○魚住敦志（2R45秒、TKO）兼定力×
（EVOLUTION）（THE Body Box/冀鍛練所）

第7試合　グラップリングルール（5分2R）
○梅村寛（判定）小林悟郎×
（ALIVE小牧）（U-FILE CAMP.com）

第6試合　キックルール（2分3R）
○西村貴親（3R1分22秒、KO）近藤昌志×
（親心會館）（早川ジム）

第5試合　キックルール（2分3R）
○野田幸宏（判定2-0）池田一樹×
（大和ジム）（闘真ジム）

第4試合（5分2R）
○今野康博（1R3分02秒、アームロック）日置幸宏×
（G-スクエア）（大和ジム）

第3試合（5分2R）
○伊佐地宏樹（2R52秒、TKO）武重賢司×
（大和ジム）（P'sLAB大阪）

第2試合（5分2R）
○河野竜也（2R2分18秒、腕ひしぎ三角固め）河合龍一×
（四王塾）（名古屋ブラジリアン柔術クラブ）

第1試合（5分2R）
○高井史朗（2R4分18秒、TKO）清水康一×
（大和ジム）（CMA京都成蹊館）

総合格闘技&ノールール系

日本キックボクシング連盟

2002年破壊シリーズファイナル

12月14日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円、指定A席5,000円、指定B席3,000円
◆チケット発売 発売中
◆チケット発売所 チケットぴあ、後楽園ホール、ファイター ☎03-3354-1903
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

J-NETWORK

The Magnificent 5

12月1日（日）　東京・ディファ有明

◆開場/15:00　試合開始/16:00　◆詳細未定
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

「強くなりたかった……」小さい頃から、ひたすらそれだけを考えて生きてきた男、小野瀬邦英。12月14日、小野瀬が約12年間のキック人生の集大成を賭けて最後に闘う相手は、ラジャダムナンスタジアムライト級王者マンコム・ギャットソムクヴォン！　引退試合とはいえ、己の理念に対しまったく妥協することを許さない男の最後をしっかりと見届けるべし！

小野瀬邦英VSマンコム・ギャットソムクヴォン

Ticket Present！

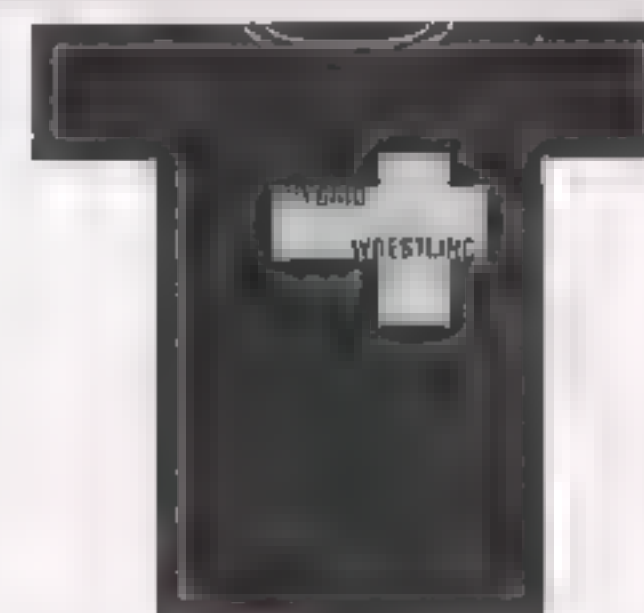
12月14日（土）後楽園ホールで行われる日本キックボクシング連盟『2002年破壊シリーズファイナル』の貴重な観戦チケットを『SRS・DX』読者2名様に先着順でプレゼント！　希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、今号の感想を明記のうえ、下記のあて先までご応募ください。なお当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆あて先/〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12　神田NSビル8階　SRS・DX編集部『12・14日本キック連盟チケットプレゼント』係

國奥麒樹真とネイサン・マーコート、これまで2人の対戦成績は1勝1敗1分の五分。去年の12.1横浜大会では、僅差の判定で國奥が勝ちミドル級のタイトルを奪取したが、判定結果に納得のいかないファンからブーイングが起こるなど、スッキリしたものではなかった。國奥としても、ここでキッチリとした形で勝利を収め二冠王者として年を越したいところ。一方のマーコートも、10・29後楽園大会で竹内出に敗れて後がないだけに、この勝負は絶対に負けられない。年内最後の興行で、お互いの意地が爆発する！

國奥麒樹真VSネイサン・マーコート

パンクラスで公募していた2003年のツアータイトルが、東京都練馬区の中川洋一さんの提案により「HYBRID」に決定！　来年9月で旗揚げ10周年を迎えるパンクラスにとって、節目を飾るにふさわしい新ツアータイトルをぜひヨロシク！

鈴木を"風神"、ライガーを"雷神"に見立てたオリジナル対戦Tシャツ！
■商品名/鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー対戦記念Tシャツ
■価格/¥3,675（消費税込み）
■カラー/ネイビー
■サイズ/M・L・XL

第3のパンクラス認可ジム『ハイブリッドレスリング山田道場』誕生にともないデザインを一新！　山田学氏デザインTシャツ第2弾！
■商品名/『山田道場』Tシャツ
■価格/¥3,150（消費税込み）
■カラー/ブラック
■サイズ/XS・M・L・XL
※尚、11・30横浜大会でお買い求めの人には、消費税をサービス！

～通信販売の方法～
【送金方法】郵便振替。郵便局備え付けの振替用紙にてパンクラスまで送付。
【記入方法】振替用紙の通信欄に商品・希望のサイズを記入のうえ、税込み金額の合計に発送手数料（税込み¥630）を加えた金額を振込。購入金額が¥10,000以上の場合は発送手数料は無料。
【払込先】00160-4-417605
【加入者名】パンクラス

ニュージャパンキックボクシング連盟

DREAM RUSH 10
12月22日（日）　東京・ハトルスフィア

◆開場16:30　試合開始/17:00　◆入場料/指定席5,000　自由席（100席のみ）3,500　立見3,500　（全席種において1ドリンク又はビール100円引き）　※当日券は500円増し　◆チケット発売/発売中　◆会場アクセス/東武伊勢崎線竹の塚駅東口より徒歩15分　◆お問い合わせ/PITジム☎048-735-0126

アマチュア修斗

アマチュア修斗公式戦 新潟フリーファイト&B.J.J. JAM 2
12月1日（日）　新潟・黒崎地区総合体育館・武道場

◆試合開始/11:00　◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209、パレストラ新潟☎090-2847-2191

アマチュア修斗公式戦 修斗グラップリングオープントーナメント 2002
12月15日（日）　東京・コールトシムサウス東京ANNEX

◆試合開始/10:30　◆入場料 無料　◆会場アクセス/JR大森駅西口より徒歩30秒　◆お問い合わせ/日本修斗協会　グラップリングオープントーナメント事務局☎03-5912-6455

アマチュア修斗公式戦 グラップリング修斗&京都B.J.J. JAM
12月15日（日）　PUREBRED京都

◆試合開始/11:00　◆会場アクセス/阪急河原町駅より徒歩7分、地下鉄四条駅より徒歩6分　◆お問い合わせ/PUREBRED京都☎075-254-7777

アマチュア修斗公式戦 どえりゃーフリーファイト7
12月22日（日）　愛知県・アライブ

◆詳細未定　◆お問い合わせ/アライブ☎052-719-0133

アマチュア修斗公式戦 Woman's Fighting Competition　Project-A.02
1月13日（月・祝）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F・第1武道場

◆試合開始/10:30　◆会場アクセス/地下鉄銀座線・都営浅草線・東武伊勢崎線浅草駅より徒歩10分、都バス「東42甲」系統「南千住・東京八重洲口」行きに乗車、「浅草7丁目」下車・徒歩5分、都バス「東42乙」系統「南千住・浅草雷門」行きに乗車、「リバーサイドスポーツセンター」下車、※駐車場なし。車での来場は厳禁。　◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

バトラーツ

グラップリングB vol.16
1月13日（月・祝）　埼玉・B-CLUB

◆試合開始 14:15　◆会場アクセス/東武伊勢崎線越谷駅西口より徒歩30秒、※駐車場なし。車での来場は厳禁。　◆お問い合わせ/バトラーツジム「B-CLUB」☎0489-63-7515

精武會中国拳法道場

実戦中国拳法&異種格闘技オープントーナメント 第12回闘龍比賽
12月1日（日）　栃木県立北体育館

◆試合開始/10:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/JR宇都宮線西那須野駅または野崎駅下車、タクシー15分　◆お問い合わせ/精武會中国拳法道場統括事務局☎0287-29-2063

MA日本キックボクシング連盟

EXPLOSION
11月30日（土）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30　◆入場料/SRS20,000円、指定A席7,000円、指定B席5,000円、立見3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟・事務局☎03-3485-7060

新日本キックボクシング協会

ラジャダムナン大会カード決定！

Fight to Muay-Thai 2002
12月1日（日）タイ・ラジャダムナンスタジアム 18:00試合開始

武田幸三 vs ペートパヤック・ソースントン
（治政館）　（タイ）

深津飛成 vs テーワリット・ムアンスリン
（伊原）　（タイ）

菊地剛介 vs ヨックキアオ・ソーブーンサワット
（伊原）　（タイ）

石井宏樹 vs チュンロン・シットクングライ
（藤本）　（タイ）

小出智 vs ペットワンムアン・ポータワッチャイ
（治政館）　（タイ）

北沢勝 vs ペットサヤーム・ソースントン
（藤本）　（タイ）

全日本キックボクシング連盟

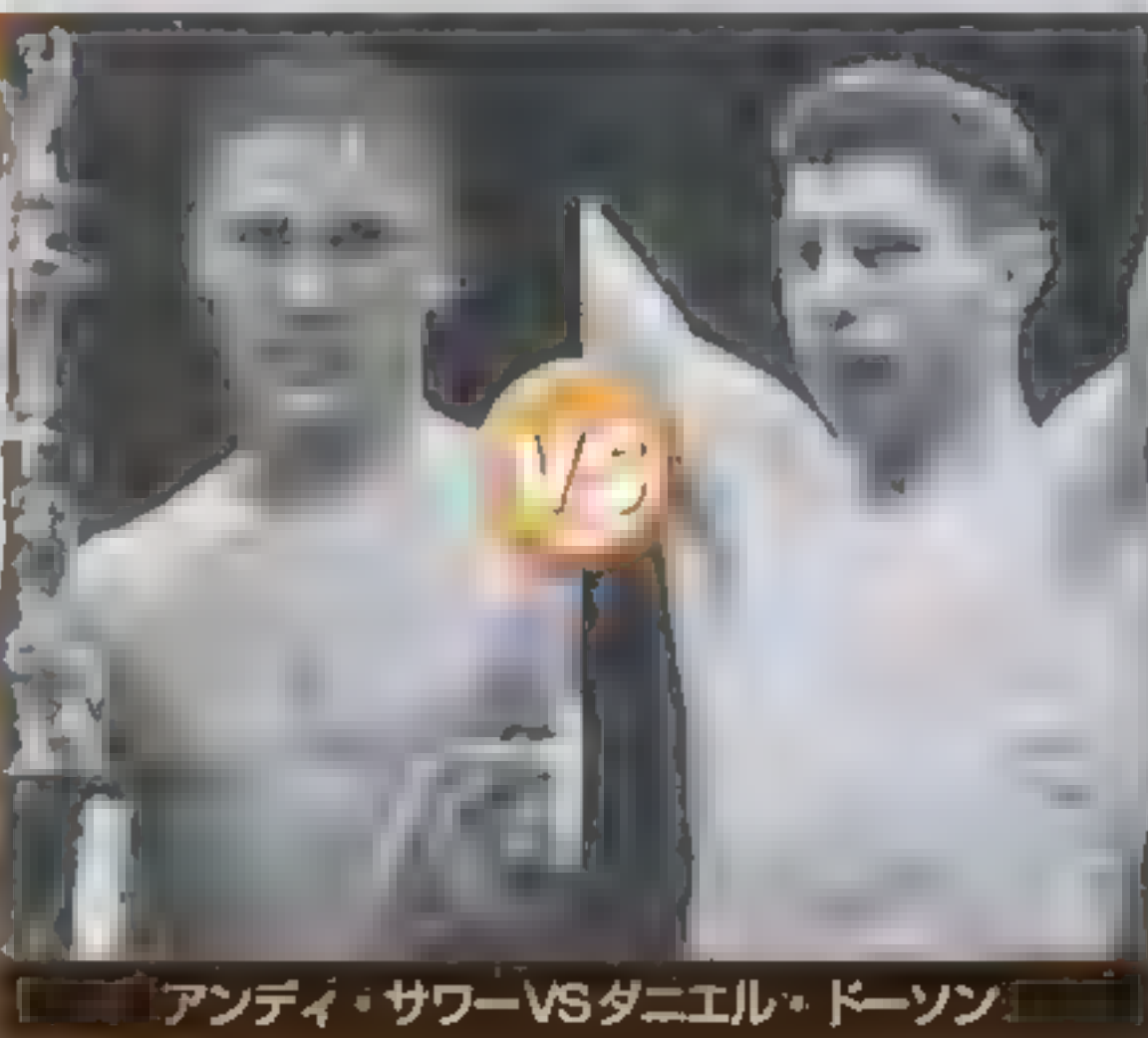
BACK FROM HELL-II
12月8日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/18:30(17:30からオープニングファイトあり)　◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　※当日券は1,000円増し　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171　http://www.aj-kick.com

シュートボクシング協会

2003年シリーズ開幕戦（仮）
2月2日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始 18:00（予定）　◆入場料/RS席10,000円　SS席7,000円　S席6,000円　A席5,000円　B席4,000円　◆チケット発売/12月15日（日）　◆チケット販売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザ☎03-3462-1001、シュートボクシング協会　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3483-1212

7.7のS-cupを制し、続く後藤龍治、さらにはエース緒形健一をも撃破するなど、まさに向かうところ敵なしの快進撃を続けるアンディ・サワー。そんなサワーに挑戦状を叩きつけたのは、かつて小比類巻を下したこともあるダニエル・ドーソン！　「ロングスパッツも履かないで、なにがチャンピオンだ！」という"SB魂"あふれるドーソンの名言によって、早くもこのカードに対する期待は急上昇。頂上対決から目を離すな！

アンディ・サワーVSダニエル・ドーソン

その他

T.A.M.A.

格闘技サミット・チャンピオンファイト・トーナメント

12月15日（日）　東京・Z-ZONE NAGAYAMA

◆試合開始/12:00　◆入場料/3,000円　※当日券は1,000円増し　◆チケット発売/発売中　◆会場アクセス/小田急線永山駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/T.A.M.A ☎042-572-6795

女子ボクシング

FIGHTING GIRL Ⅳ

12月18日（水）　東京・代々木第二体育館

◆開場/17:30　試合開始/18:30　◆入場料/全指定席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/キョードー東京　◆会場アクセス/JR山手線原宿駅、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/協会事務局☎03-3485-4446

空手

極真会館

KOBE'S CUP 2002

12月15日（日）　兵庫県立総合体育館

◆開場/9:00　開会式10:00　試合開始10:30　◆入場料 無料　◆会場アクセス 阪神電鉄甲子園駅より、阪神バス鳴尾浜行きに乗り県立総合体育館下車　◆お問い合わせ 中村道場☎078-531-0664

リアルディール

格闘イベント リアルディール

12月15日（日）　福岡市民会館

◆開場15:00　試合開始16:00(15:00よりアマクラスの試合あり)　◆入場料 SRS席10,000円　S席7,000円　指定A席5,000円　自由席3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ　ローソンチケット　リアルディールジム　◆会場アクセス 市営地下鉄線天神駅　西鉄大牟田線福岡・天神　駅より徒歩10分　◆お問い合わせ リアルディールジム☎092-845-7027

主要チケット発売所一覧

チケットぴあ
☎03-5237-9999
ローソンチケット
☎03-3569-9900
CNプレイガイド
☎03-5802-9999
オデッセー
☎03-3408-0331
渋谷東急文化チケットセンター
☎03-3406-1513
レッスル渋谷店
☎03-3464-0078
レッスル池袋店
☎03-3989-0056
板橋大山アメリカン
☎03-3962-6443
チャンピオン
☎03-3221-6237
書泉ブックマート
☎03-3294-0011
フィットネスショップ水道橋
☎03-3265-4646
後楽園ホール
☎03-5800-9999
e+（イープラス）
http://eee.eplus.co.jp
☎03-5749-9911

K－1事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

修斗
※各興行のプロモーターに問い合わせ

ワールドバンクラスクリエイト
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

高田道場
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

UFO
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

ドリームステージエンターテインメント
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

S.W.A 躰道・ワールド・アソシエーション
〒150-0021 東京都昭島市大神町1-2-22
☎042-544-6979

マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

全日本キックボクシング連盟
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

日本キックボクシング連盟
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

新日本キックボクシング協会
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3780-1350

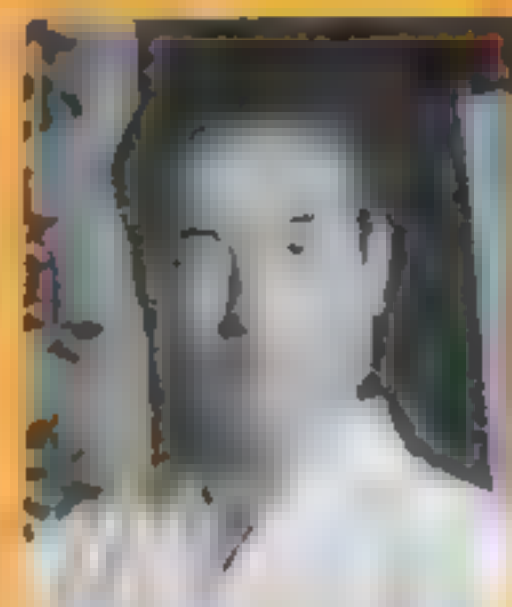
ニュージャパンキックボクシング連盟
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

J－NETWORK
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

K－U（キック・ユニオン）
〒195-0834 東京都八王子市東浅川町8-1
☎0426-66-9541

シュートボクシング協会
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1・2F
☎03-3843-1212

極真会館総本部道場（松井派）
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-38-1
☎03-5992-9200

極真会館、最高顧問盧山初雄師範を「除名」

11月18日（月）、都内のホテルにおいて、格闘技マスコミ関係者を集め、極真会館最高顧問盧山初雄氏の除名処分が発表された

会見には、松井章圭館長と郷田勇三最高顧問が出席し、除名処分に至った経緯を説明、それを受けた形で翌19日には、編集部に盧山道場師範・盧山初雄の名で、処分に対するファックスが届いた。

松井章圭館長・郷田勇三最高顧問の経緯説明要約

以前から盧山氏の最高顧問また主席顧問としてあるまじき言動については問題視されていた部分があったが、現在まで処分には至らなかった。しかしながら、最近の現体制に対する誹謗中傷のみならず、具体的に国内外を問わず現体制の転覆を意図した館長解任を計画する動きがあり、組織内部に著しく秩序を乱し不安感を蔓延させる言動が認められた。

そこで去る10月16日の幹部会（盧山氏の出席した最後の幹部会）で、そういった言動に対する盧山氏の責任追及の意味で最高顧問の職を辞していただきたいという希望を総本部側から提出した。考慮する期間を含めて全日本大会の直前まで氏に時間を与えたが、最終的な結論として氏は自らに罪の意識なし、最高顧問を自分から辞することも、組織の他の要職を辞することも、また謝罪も行わないという回答であった。

それを受けて11月1日に最高顧問郷田師範及び国際委員会による盧山氏の埼玉県支部長を除く最高顧問、首席師範、北関東地区本部長、大会審判長、国際委員の解任が決議された。その後、盧山氏に対して、下で働く分支部長や道場生のことも配慮して自らが組織内でけじめを取る方向で調整を試みたが、本人の同意が得られず、組織としては最終的に除名という処分を決定せざるを得ない状況になった。この結果に至るまでには、国際委員会、幹部会、支部長会議において相応の時間をかけて議論を尽くした。

盧山氏は、現体制下で埼玉県支部長の他に、最高顧問、主席師範、北関東地区本部長、大会審判長、国際委員と言う要職にあった重責を担う師範の一人であったので、組織としては止むに止まれぬ苦渋の決断だったという

盧山初雄・元最高顧問より届いたファックス（原文まま）

この度、国際空手道連盟極真会館の松井章圭館長より、私に対する「除名」という処分が通告されました

私はこの松井館長の決定については、いっさい逆らうつもりはないし、あらためて言うべきこともありません　また　批判するつもりも弁解するつもりもありません　武道家・盧山初雄として真摯に受けとめたいと考えております

同時に、これが、盧山初雄の身から出た錆、とは考えておりません。私の生涯の師である大山倍達総裁は、「頭は低く、目は高く、口を慎んで心広く、孝を原点として他を益す」という言葉を口ぐせのように言って、武道家の心構えを説いておられました

亡き大山倍達総裁が、その生涯をかけて追求したテーマは、極真空手をいかにして武道空手として完成させるか、ということでした。

私は、若い頃から大山倍達総裁の身近にいて、その謦咳に接する機会が多く、折りに触れて、武道としての極真空手、武道精神というものを厳しく教えられました

私は、大山倍達門下生として、あくまでも武道空手の道を真っすぐに追求していくのか、与えられた使命であると考えております

私がこれから行くべき道については、山籠もりでもして、あらためて初心に還り、武道の原点を見つめなおした上で、考えてみたいと思っております

ただ、私の歩むべき道は、時代の風潮に右顧左眄（うこさべん）することなく、武道空手の修行を通じて、社会に役立つ人間、健全な青少年を育成していくこと以外にないことははっきりしています

何卒、私の意とするところを正しく汲み取っていただきますようお願いいたします　押忍

盧山初雄

バックナンバー インフォメーション

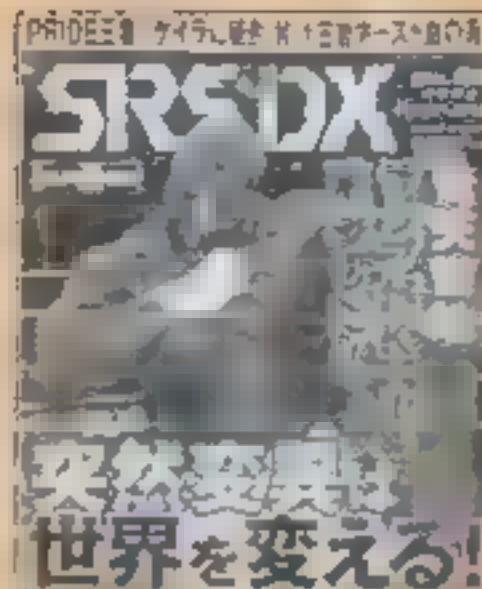
〈9・12&9・26　合併号　77号〉

●いざ、国立10万人の祭典 8・28　Dynamite!、最終情報 桜庭和志インタビュー/決戦直前！　吉田秀彦vsホイス・グレイシー、ホイス来日会見、吉田秀彦、準備OK！/ボブ・サップ インタビュー/ドン・フライ インタビュー
●大会詳報/8・8 UFO「LEGEND」東京ドーム大会&8・10「一撃」NK大会
●特集/9・22 K-1ジャパンGP決勝戦（後編）野地竜太、ノブ・ハヤシ、大石亨
●最新情報/8・25 パンクラス、9・7 DEEP有明大会、9・16 修斗 横浜文体大会
●大会速報/8・17 K-1ワールドGPラスベガス大会
●SRS・DXの注目！/ターザンが斬る、今年のG1とは？

〈10・10　臨時増刊号　78号〉

●完全速報/8・28「Dynamite!」国立大会 吉田秀彦vsホイス・グレイシー、桜庭和志vsミルコ・クロコップ、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsボブ・サップほか
●大会詳報/8・25 パンクラス大阪大会
●直前情報/9・7 DEEP有明コロシアム大会
●噂の三面記事/9・22 K-1 JAPAN GP、10・5 K-1 WORLD GP開幕戦、10・11 K-1中量級大会、9・29 PRIDE決定カード
●SRS・DXの注目！/スペシャル対談★シーザー武志×平直行
●スペシャルインタビュー/ビル・ゴールドバーグ

〈10・10　79号〉

●完全速報/9・22 K-1 ANDY SPIRITS JAPAN GP決勝戦 大阪城ホール大会　K-1の優勝者、サップ大暴れ、JAPAN GP決勝戦は武蔵がジャパン王座奪回！
●特集/Dramatic! 吉田秀彦　インタビュー&証言/SRS・DXスカウト隊 第2の吉田秀彦を探せ！　柔道界★井上康生インタビュー、相撲界★旭鷲山インタビュー、レスリング界★小林孝至インタビュー
●直前情報/10・5 K-1 WORLD GP 開幕戦、10・11 K-1 WORLD MAX 有明大会、9・29 PRIDE.22名古屋大会 全対戦カード&見どころ
●大会詳報/9・7 DEEP有明大会、9・16 修斗 横浜文体大会

〈10・11　80号〉

●完全速報/10・5 K-1 WORLD GP 2002 開幕戦　ボブ・サップがK-1を破壊！　スリータイムチャンピオン・ホーストに激勝！
●12・7 決勝大会抽選会&決勝進出選手コメント
●大会詳報/9・29 PRIDE.22名古屋大会、検証◎日本人全敗をどう思う？
●ビッグ対談/ボブ・サップvsターザン山本
●SRS・DXの注目！/『WRESTLE-1』発進！　会見&座談会
●インタビュー/K-1ジャパン王者・武蔵が大宣言！
●大会レポート/9・29 パンクラス横浜大会、9・22 SB 後楽園大会

〈11・14　81号〉

●最新情報/11・24 PRIDE.23対戦カード最新情報
●ビッグ対談/髙田延彦VSターザン山本
●緊急★大特集/ボブ・サップとは何か？ 全試合プレイバック、サップのボディ ほか
●大会詳報/10・11 K-1 WORLD MAX 2002
●インタビュー/K-1 WORLD GP決勝進出7選手に直撃！
●SRS・DXの注目！/アンドレイ・コピィロフVSターザン山本対談、極真カラテ全日本大会プレビュー、新連載/プロレス版・覆面座談会

〈11・28　82号〉

●直前情報/11・24 PRIDE 23 東京ドーム大会/ターザン山本の UWF青春論」/金原弘光インタビュー、吉田秀彦×ターザン山本対談/ドン・フライインタビュー/全カード発表
●超！直前情報/11・17 WRESTLE-1 横浜アリーナ大会/武藤敬司&小島聡インタビュー
●ボブ・サップ特集第二弾・サップに直撃100の質問
●大会詳報/11・2～3 極真カラテ全日本大会/数見肇が木山仁との頂上対決制す
●SRS・DXの注目！/11・30 パンクラス横浜大会プレビュー/鈴木みのるVSライガー戦展望/菊田早苗&美濃輪育久インタビュー
●好評座談会/ターザン山本の愛と青春の旅立ち!?

扶桑社 販売企画部　☎03-5403-8859まで

※バックナンバーはSRS・DX直営ショップ「グレート・アントニオ」でも扱っています。ただし、完売した号もありますので、予めご確認ください。　グレート・アントニオ☎03-3219-9550

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

http://www.asakusakid.com

博士 『W―1』の大きな渦は俺たちをも巻き込む、凄〜い大会だったな。
玉袋 しかも開催前からほとんど発表はなし！
博士 なんと言ってもゲスト解説がターザン山本&浅草キッドという組み合わせ！ しかもそれが決まったのが大会2日前ですよ！
博士 カード発表に追われていたのは分かるが、まさか解説の人選にまで追われていたとは……しかし、まさかの大抜擢に光栄の極みだった。
玉袋 『W―1』はターザン山本を最初から取り込んだだけでSWSを超えてますよ！
博士 縁起でもない物と比べるんじゃないよ！
玉袋 そしてあの新日本プロレスの蝶野がゲスト解説で入ってきて、ターザン山本と並んで実況席に座ったのは強烈でしたよ！
博士 蝶野も新日本プロレスの代表として『W―1』に上がってくるのは一種のカチコミ（殴り込み）気分だったからな。
玉袋 花道改めファンタジーロードを歩いてきてリングインしてのアジリは凄く良かったですけど、まさか実況席についてヘッドホンセットを付けたらまったく普通のコメントしてるのはずっこけましたよ！
博士 ある意味、ラッシャー木村「こんばんは事件」に匹敵するが、ファンタジーの世界ではそんなことノープロブレム！
玉袋 でも、新しいプロレスの実験作としての『W―1』じゃないですか。
博士 今回は、俺たちも『W―1』はプロレスではなく、あくまでも『W―1』という新しいジャンルである気持ちで臨んだ。
玉袋 サーカスをサルティンバンコとして臨む気分ですよ！
博士 そうそうキックボクシングがK―1になったように、新しいジャンルが発生した瞬間なんだよ！
玉袋 もっと分かりやすく言うとトルコ風呂がソープランドになったようなもんです！
博士 あまりいい例えじゃないだろ！ 会場に入ってもそのステージングの力の入りようにビックリだった。
玉袋 会場に入ってビックリしましたよ。昭和の町並みが見事に再現されて、その中に日本全国の実力派ラーメン店がひしめいてました。あれはプロレスとは違う世界観でしたよ！
博士 横浜アリーナ横のラーメン博物館だろ！ 間違えるな！ しかも横アリネタで、何回ラー博でボケてるんだよ！ さっそく本題に入れよ！
玉袋 1試合目からアブドーラ・ザ・ブッチャーでしょ？ 掴みは完全にオーケーでしたよ！
博士 その対戦相手が驚いた。その名はさたやん！ まさにファンタジーファイトだ！
玉袋 あの選手はずいぶんいい身体してましたけど、何かスポーツでもやっていたのでしょうか？
博士 俺もさたやんが何をしていた選手なのかまったく見当がつかなかったよ！ でも、どこか元K―1ファイターの佐竹雅昭選手に似ているように見えたんだけどな。
玉袋 他人のそら似ですよ！ まさかあの佐竹が金ダライ攻撃なんてファンタジーファイトするわけがないですもん！
博士 そうだよね、でもブッチャーっていうのは66歳、そして一説には70歳説もあるからファンタジーの世界の住人にはもってこいだ！ 第2試合はケンドー・カシンとAPEMAN NIGO組が登場。
玉袋 APEMANはすぐに宇野薫だと分かったんですが、隣のケンドーなんとかいう人の正体が今でも分からないですよ。
博士 石澤に決まってんだろうが！ 相手のメキシカン野郎たちが、マイケル・ジャクソンの『スリラー』に合わせて踊ったがダメダメだった！
玉袋 先日久々に現れた、マイケルぐらい大失敗だったよ―
博士 それは整形手術で崩壊した顔面の話だろ！ パルカ組もマイケルも観客の離れっぷりが骨身に沁みたことだろう。そしてグレカラス&ドス・カラスJrの試合が良かった！
玉袋 あのカラス軍団退治に石原慎太郎都知事が乗り出すそうですよ！
博士 都心のカラス問題よりも『W―1』のカラス問題のほうが圧倒的にファンタジー！ そして第4試合、マーク・コールマン&ケビン・ランデルマンのタッグも良かった！
玉袋 コールマン&ランデルマンのマンコンビの登場ですよ！
博士 マンコンビだとなんか危険な響きだろ！
玉袋 円谷プロが次のウルトラマンシリーズにランデルマンとコールマンを登場させるみたいですよ！
博士 そうなるともっとファンタジーだよ！
玉袋 小島もマンコンビ相手に「よーし、イッちゃうぞ！」と絶叫。
博士 意味が違うんだよ― しかし、小島の決めゼリフと効果音とスクリーンのタイミングが素晴らしかった。
玉袋 スクリーンに「会見 泣き」と出てましたからね。
博士 それはフジテレビの今年ナンバー1のバッドタイミングだろ！ 橋本真也とデンプシーのZERO―ONE提供マッチもあった。
玉袋 あのファンタジーの中であえてZERO―ONEスタイルというか真撃スタイルでくるとは思いませんでしたよ！
博士 それさえもファンタジーとして捉えていいんじゃないか！ 蝶野と橋本のニアミスもあったしな。
玉袋 橋本と石井館長と週プロ佐藤編集長のニアミスもありましたし。
博士 そんな謝罪事件まで蒸し返すな！ そしてセミメイン、俺たちを冷や冷やさせたのはビル・ゴールドバーグが試合に間に合うのかどうかだった。
玉袋 スタッフもみな心配してましたよ！ 能楽協会もゴールドバーグを除名するって怒ってるし。
博士 和泉元彌のダブルブッキングじゃないんだよ！ ゴールドバーグはサンディエゴから飛行機で横浜のヘリポートに到着、そのまま車で横アリ入りするはずだったが渋滞にも巻き込まれていた。
玉袋 だったら、成田から成田エキスプレスで新宿まで来て、山手線で渋谷まで行って東横線に乗り換えて菊名まで行って、そこから横浜線で新横浜に来れば時間読みできたのに！
博士 なんであのスーパースターが東横線に乗ってるんだよ！ あの日横浜線は人身事故でダイヤが乱れたんだって―
玉袋 しかし、ゴールドバーグを生で見られるなんて幸せだ―
博士 なんかライオンとか虎を近くで見る感覚だよな。
玉袋 日本初披露のフィニッシュライン、スピアー→MCハマーも出たし。
博士 MCハマーじゃなくてジャックハマーだろ！ ヤツは自己破産で本当に人生フィニッシュしてるよ！
玉袋 そしてメイン、サップVSムタですよ！
博士 サップが入ってくるなりダンスを披露！
玉袋 武富士ダンサーズですよ―
博士 ありゃサラ金のダンサーじゃないよ！ 試合も盛り上がり次の日のスポーツ新聞の一面は日米野球やサッカーなどがあったにもかかわらずサップVSムタ一色！
玉袋 サップの顔も緑一色！
博士 まぁ『W―1』の特筆すべき点は全てテンポに尽きる。
玉袋 2時間半で休憩なしで一気に見せましたからね。
博士 リングアナがいちいちスポットライトを浴びずにコールだけの進行してたのもテンポアップ効果につながった。
玉袋 一度始まったら最後まで突っ走ると制作者側は力入れてましたもん。
博士 考えれば映画も演劇も超大作以外はインターミッションなど入れずに一気に見せるものだもんな。
玉袋 メインスタッフの人が終了後言ってましたよ。「これを全て成功させるとしたら、ぼくは他の番組降りてこれ一本に集中しないとダメだ！」って。
博士 でも、これぐらい『W―1』を成功させたいスタッフが大勢で動いていけば、絶対に『W―1』は凄いことになる。
玉袋 これは叩き台かもしれないし、これから続く『W―1』の壮大なゲネプロなんですよ！
博士 リングサイドで見た蝶野はどう思い、1・4の東京ドーム大会でどう反応するのか？ 面白いことになってきた！
玉袋 ファンタジー『W―1』に期待だ〜！
博士 でも、なんかファンタジーだったらもう一つほしいんだよなぁ。
玉袋 ムッフッフッフッフ！（顎を撫でながら）。
博士 確かに、ムッフッフッフッフ！（顎を撫でながら）。
玉袋 そういった意味でも今後どうなるか？
博士 様々な謎かけを孕んで動き出した『W―1』！
2人 ウ〜ン、ファンタジー!! ■

これがターザン流「W−1」の答えだ！

昭和も猪木もNGワード
プロレスファンよ全ての記憶を一掃せよ！

外国人選手にもっと光を
それがエンターテインメント
それが『W−1』のコンセプトだ

撮影◎乾晋也（『WRESTLE−1』試合写真）
丸山剛史（望遠）

ターザンの勝利宣言に待った！『私はサダハルンバであるのだ！』

『WRESTLE－1』"いっちゃうぞ、ばかやろう"座談会

出　席　者◎ターザン山本（"ヤマやん"こと『W－1』の迷解説者）
サダハルンバ谷川（本誌"デカイけど透明人間"編集長）
小松魔裟夫（本誌"村の地蔵"編集部員）
特別ゲスト◎山口日昇（『紙のプロレスRADICAL』"きめ細やか"大編集長）
司　　　会◎柳沢忠之（本誌"八つ墓村"御目付役）

山本　おい、谷川ぁ！　今日は珍しいお客さんが来てるぞぉ。

谷川　ええ、今日は特別ゲストとして会長（＝山口日昇『紙のプロレスRADICAL』編集長）に来てもらいました。

山口　呼ばれたんで、来てやりました。タニー、お腹すいたよぉ。

谷川　で、今日は『WRESTLE－1』（※以下『W－1』）を総括をするんですけど、それにはやっぱり会長が不可欠かと思いまして。

山口　あ、ま～た騙しやがったな！『会長ぉ、『W－1』も終わったんで、一緒にメシでも食いましょ～』って言ってただけなのに。

谷川　いやいやいや、やっぱり新しいイベントを総括するので、山本さんだけでは心許ないと思って会長にも出席してもらいたかったんですよぉ。で、豪華な中華料理を用意しましたので、会長がお腹いっぱいになったら適当なところで話を始めていただければ……。

山口　俺はお腹いっぱいになったら寝ますよ。

――ダハハハハッ！

山本　そんなの食い逃げみたいなもんじゃねえかぁ！

山口　ズバリ言って、それだけは山本さんに言われたくねえです（笑）。

――ぷぷぷぷっ！

山口　まあ、こんなこともあろうかと思って、一応『週プロ』と『ゴング』の早売りの巻頭記事だけはコピーさせて、それを持ってきましたからね。いやあ、笑ったわ、これ。GK（＝金沢克彦『週刊ゴング』編集長）の『W－1』に関する巻頭記事は読んだ？

――いや、読んでないけど、なんて書いてあるの？

山口　「……私にしたって、いくら心と視野の広い人間を演じたところで、帰って来る場所はプロレス村にある」って書いてるのね。で、その後に「それはもうこの世界に身を投じた時からの"業"のようなものである。私は"サダハルンバ"ではないのだ」って（笑）。

ダーッハッハハハハッ！

山口　名指しだよ。なんの暗号なのかと思ったもん。

谷川　え？　え？　それはどういうこと？　僕はプロレス村を見ていないってこと……？

山口　そういうことです！　勝手に補足すると「無駄に世間に目が向いている」ってこと。さすがはGKだね（笑）。

谷川　ああ、なるほど、なるほど。

感心してどうする！（笑）。

山本　つまり谷川は、村から飛び出して行ったということですよぉ！

谷川　いや、僕は村にいたという意識もないんですけど。

ダハハハハッ！

山口　どっちにしろ、最初からプロレス村にはいないんだけどね。

――『週プロ』と『ゴング』は今ここにあるの？

小松　あ、ないです。

山本　おい、モグっ！　おまえ、持って来てないのかぁ、『週プロ』と『ゴング』を。

潜在的に『W―1』を評価したくないという願望があるということだよねぇ

小松 あ、持ってきてないです。
谷川 な、な、なんで……？
小松 だって「持ってこい」って言われてないですから。
谷川 んあ〜！
山口 バツグンの才能を感じるなぁ、このスキンヘッズは（笑）。で、これが「SRS・DX」の次期エース？
――エースというか「秘密兵器」なんだけどね。まあ、最後まで兵器の「秘密」が分からないままで終わるかもしれないけど（笑）。
山本 おい、モグっ！ 持ってくるんでも買ってくるんでもいいから、すぐに行ってこいっ！ 感じたら走り出すんですよぉ！ とにかくおまえが出て行け、すぐに。
小松 あ、はい……、行ってきます。
「おまえが出て行け」（笑）。
谷川 ということで、今日はモグ抜きで「W―1」について語りたいと思います。ところで山本さんは「週プロ」とか「ゴング」の誌面は見ましたか？
山本 もう大々的に表紙から巻頭から、全部を「W―1」で扱ってるからビックリしましたよぉ。まあ、「W―1」がメインのように見えて、よ〜するにそっと武藤選手を持ち上げてるというかさぁ。それはやっぱりプロレス村的な発想だよなぁ。結局は「武藤はよかった」とか、「ボブ・サップがよかった」というような捉え方だよねぇ。
谷川 『ゴング』は「武藤の勝利だ」っていう意味合いの表紙でしたね。
山本 武藤の勝利だという打ち出し方は、逆に言ったら潜在的に「W―1」を評価したくないという願望があるということだよねぇ。そーゆー反発があるわけ。
谷川 なるほどお。
山本 インターネットの書き込みなんかでは、ネット族からは拒否反応が多いって聞いたよぉ。
山口 え、マスコミからもファンからもそんなに賛否の「否」が多いの？
谷川 それはたとえば、どんな批判なんですか？ 「あんなのはプロレスじゃない」みたいな、そんな感じ？
山本 まあ……、そういう論調ですよぉ。
谷川 「あの佐竹の試合は、いったいなんなんだー」とか。
―あ、「さたやん」ね（笑）。
谷川 会長の周りでは、反応はどうでした？
山口 俺が想像していたよりは、メチャクチャ反応が良かったね。「もう少し否の意見が多いだろうな」と思ってたんだけど、みんな面白かったって。
谷川 どこがどう面白いというのは？
山口 みんな明確に言語化はできないんじゃない？ 「まあ、面白いんじゃない？」っていう感覚じゃないかな。
谷川 でも、当日の観客は明らかに戸惑ってましたよね。
山本 全日本プロレスの既存のファンなんかはそうですよぉ。
谷川 そもそも誰が来てたんですか？
――誰が……って（笑）。
山口 俺もひとりひとりに名前聞いてるわけじゃないから、そこまでは分からない（笑）。
――ダハハハッ！
谷川 いやいや、そういう意味じゃなくて。
山口 そういう意味じゃないのは理解した上で言っておりますので（笑）。
谷川 まあ、新日本のファンとか、格闘技のファンとかがいて、なんか非常に不思議な空間でしたよね。
――『東スポ』で出口調査みたいなのやってたんだけど、読んだ？
山口 いや、見てない。
――当日、出口調査をして、満足度が「Dynamite!」より上だったって。なんと、「『Dynamite!』を超えた『W―1』」って書いてあって（笑）。要するに不満がゼロに近かったらしいんだよ。
山口 それはそれで、メチャメチャ不安になるなあ（笑）。あまりにもハードルが低すぎるというか。
谷川 で、会長自身はどう思ったの？
山口 俺は面白かったですよ。でも、モグじゃないけど、こういう座談会に資料を揃えておかないアバウトさが、プロレス村だったんだなぁという感じはするよね。
山本 今日の一番の奇跡は山口さんが『週プロ』と『ゴング』の記事をコピーして持ってきたということですよぉ。
山口 はあ？ 何言ってるんですか、俺は編集者も編集者、根っからの大編集者ですよ！
山本 山口さんがそんな細やかな神経の人だとは思っていなかったよぉ。
山口 私は〝サダハルンバ〟ではないのだー（笑）。
――ついでに言っとくと、私も〝サダハルンバ〟ではないのだ（笑）。
谷川 んあ〜！
山口 まあ、「きめ細やかさ」を持ったことが面白かったですね。大胆さの裏に「きめ細やかさ」も併せ持たなきゃという意識が見えたのが面白かった。
谷川 き、きめ細やかさ…………？
山口 今までのプロレスって、良くも悪くも本当にアバウトじゃないですか。そのアバウトな部分を善しとしている人たちは、『W―1』はわりと「管理された世界」と見るかもしれないけど、でも、その管理された中で「どう面白さを追求していくのかな？」っていうところが面白かったですよね。
谷川 ………なるほど。
――今の言葉で理解できた？
谷川 あ、すいません、もうちょっと分かりやすく……。
山口 まあ、今日はトスを上げるんで、ターザンに炎上してもらいましょうよ。でも、ズバリ言って試合自体は非常に改善の余地があるよね（笑）。
谷川 ふんふんふん。
山口 第1回目だからコンセプトどおりに完璧にはできなかったんだろうけども、プロレスの世界の中でそういうコンセプトを打ち立てたってことは凄いよね。だ

って、断言するけど、今まで延々と、コンセプトなく続けてきたのがプロレスだからね（笑）。

山本 それは凄い断言ですよぉ！

山口 そういう意味ではプロレスって本当に恐ろしい世界ですよ。プロレスってモグみたいな、きめ細やかさを持たない人間が安心する場所だったんだから（笑）。これからはそんなのは生き残っていけないよね。

山本 俺は感心したよぉ。そっちは素晴らしいプロレスファンだねぇ。

山口 は？ なんでそう思うんですか？（笑）。

山本 〈山口を見ながら、なぜか深くうなずく〉

山口 うなずいてるだけじゃ、なんだか分からないって（笑）。

——そういえば、俺はまだペイ・パー・ビューでの山本さんの実況解説を聞いてないんだよな。

山口 なんか「W―1」自体よりも凄い反響があるみたいだよ。普段から「言語化しろっ！」とか「言葉で表現しろっ！」って言ってる人があの解説かって（笑）。

ぷぷぷぷっ！

山口 リングに上がった「さたやん」と、解説の「ヤマやん」が「W―1」の話題を独占してるからね（笑）。

谷川 まぁ「『W―1』の正体はプロレスLOVEだ」っていう論調はあるよね。

山口 ああ、なんか多いね。まあ、そういう声が多いのは村の中だけだけど。

——なんで、プロレスLOVEなの？

山口 まあ、「武藤もプロレスLOVEを感じた」って言ってるらしいけど。「週プロ」なんかは、「演出ひとつとってもそこにプロレスの魅力、可能性を伝えたいという思い入れが込められていれば、ファンは気をよくする。アイデアに走るがあまり、それが置き去りにされたら、それは制作サイドの自己満足。そこに山って気が見えたら、最後。どんなに金をかけて宣伝に一流タレントを集めようが、支持は得られない」っていうような感じだね。俺も、なんでわざわざここにラインマーカーを引いたのか、よく分かんないんだけど（笑）。

——ダハハハハッー

山口 「エンディングロールを流し、FinでサッとDT興行を終了させる手法はDDTがすでに試みている」とも書いている（笑）。

俺は感心したよぉ。そっちは素晴らしいプロレスファンだねぇ

——手法ときたか！（笑）。

山口 勉強不足でした（笑）。

谷川 山本さんは当日解説されてましたけど、改めて「W―1」を解説してもらいたいんですけど。

山本 俺は最前列で見られたことが一番よかったけどねぇ。

山口 ファンか？（笑）。山本さんこそ、純粋なプロレスファンじゃないですか。

——山本さんがプロレスファンだったとは驚きだな（笑）。

谷川 なんか「W―1」終了後には「勝利宣言」をしてたそうですけど……。

山本 とりあえず勝利宣言すると、安心するんですよぉ。

谷川 安心する……？

山本 そんなもん、気分の問題ですよぉ！

——ダハハハハッ！

山本 でも、なんというか……、概念で語らないといけないんだよなぁ。

山口 だから、さっきから語ってくださいって言ってるじゃないですか（笑）。

山本 結局は『週プロ』や『ゴング』は本質をつかみきれてないから、概念の部分が見えてないというかさぁ。よ〜するに「W―1」イコール、プロレスLOVEということで伝えちゃうわけですよぉ。それはダメなんだよねぇ。あれは結局、プロレスというジャンルを、ある程度リセットしなきゃいけないということで生まれたわけですよぉ。オーバーに表現すると歴史と一緒で、過去百数年間の中で、まず明治維新で時代がリセットされたんだよねぇ。明治維新で徳川幕府がリセットされて、文明開化になったわけですよぉ。で、2回目のリセットが第2次世界大戦の敗戦なんですよぉ。大日本帝国主義が、敗戦によって完全にリセットされたわけですよぉ。で、3回目のリセット

3回目のリセットしなきゃいけない時代にきてるわけですよぉぉぉ！

しなきゃいけない時代にきてるわけですよぉぉぉ！

谷川　えーっと……？　明治維新、敗戦、「W−1」ということ……？

山本　いや、社会が、日本が3回目のリセットをしなきゃいけないんだけど、誰もそれをできないわけですよぉ。今まではなんて言うかさぁ、明治維新も戦後の場合も、外圧というか外からの圧力で。たとえば黒船がやって来て「鎖国をやめなさい」と、凄い圧力で日本国そのものがリセットされたわけでしょ。戦後の場合は帝国主義とか軍国主義が解体されて、民主主義になるということも、要するにアメリカの占領軍がリセットをさせたんだよね。それが50何年も続いてきて……。

山口　長そうだなぁ（笑）。まあ、面白いんで、このまま黙って聞いておきましょう（笑）。

山本　今の世の中は、銀行があんな形で不良債権やなんかでどうしようもなくなってる。そこで構造改革をするとか、システムを変えるとか、社会体制を変えるとか、もっと言うならば価値観を変えるとかルールを変えるという形でリセットしようというのに誰もできないわけ。で、それが要するにプロレスも同じで新しいものにリセットしようと……。ところがプロレスというジャンルがリセットできない代わりに、K−1とか「プライド」とか「Dynamite!」が、別の形で出てきてるんだよねぇ。でも、ジャンルとしてのプロレスが本当にリセットしなければいけないということが、一番の大きな課題であったということに対して最初の答えを出したのが、この「W−1」なんですよぉ！

谷川　はいはいはい。

山本　で、そのリセットする方法は要するにさ、たとえば「W−1」で出てくるのは常に演出効果なんだよねぇ。音響とか映像とか火薬とか花道とか大型スクリーンとかいろいろ言われるんだけど、何を一番リセットしなきゃいけないかというものがあるんですよ。

山口　あ、ある？

山本　あるんですよぉ！

山口　それはひとつ？　ふたつ？　それとも100個くらい？（笑）。

山本　決定的なものが一個ですよぉ！

山口　では、それを発表してもらいましょう！（笑）。

谷川　それは村社会の何かですかあ？

山本　…………えっ？

山口　久しぶりに見たけど、相変わらずこのふたりは噛み合わないなぁ（笑）。

——ぷぷぷぷっ！

山本　もう、プロレスLOVEの概念も村社会の閉鎖性も古いんですよぉ。プロレスというのは、村社会とは別のところにきちんと存在しているんですよぉ。それをいまだに村社会ということ自体が、もの凄くマイナス思考というかさぁ、防御本能が働いているわけ。そういう形で身構えちゃってるわけですよぉ。

山口　まあ、身構えてますよね。

山本　ところが谷川の論理はそんな狭い世界にとらわれてないので、オープンな世界にスーッっと、サーッと行けるじゃない。

山口　タニーは、いつ何時でも身構えずに、無意識にスルッと入っていくね（笑）。

山本　どんなところでも、メジャーなところでも、スッと透明人間みたいに入っていくというかさぁ。

山口　そういえば『週プロ』によると、新日本プロレスの上井部長がこんなこと言ってたらしいですよ。「演出は凄いですね。あの資金力は怖いと思いました。あれこそプロレスが本来やるべきものだ。ただ、リング上はお客さんに媚びたらいけないと思います。リングの中まで演出された気がしました」って。

谷川　そこ！　そこ！　僕が言いたかったのはそれです。

山本　え……？

山口　耳まで遠くなったのか。「リングの中まで演出された気がしました」ですって。

谷川　僕が言いたかったのはそこです。

山口　そのコメントが、プロレス村が身構えているというのを象徴してるよね。

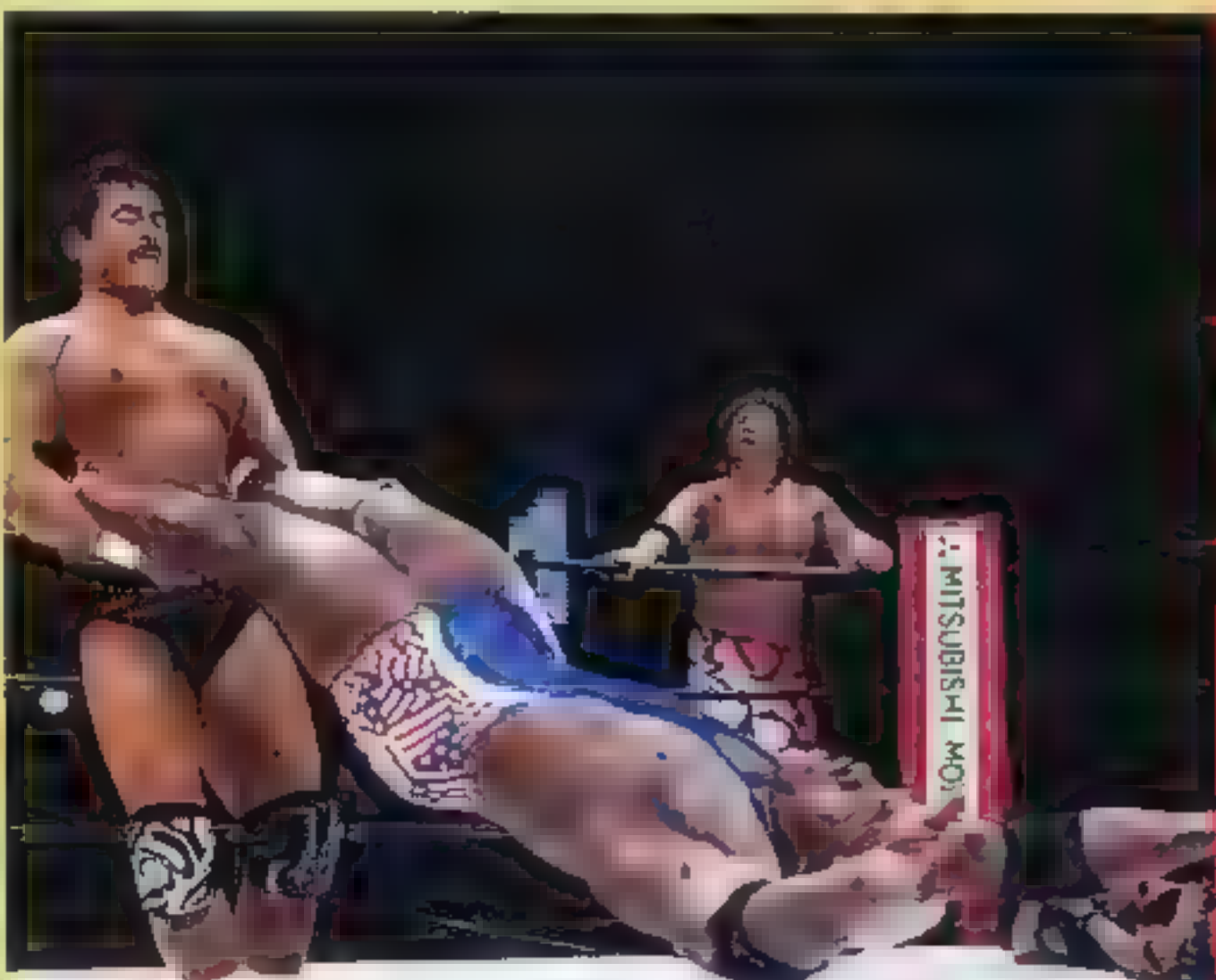
谷川　プロレスを作るのはプロレス村っていうか、言い方は悪かったですけど、プロレスをやっていた側の人たちが作っていたものを解放したっていうか、それが「W−1」の答えです。

山本　え……？　何……？

谷川　今までのプロレスはプロレスをやっていた人たちが作っていたんですけど、それをもう第三者も外部も含めて、プロレスをリングの中まで演出された気がしたっていう部分じゃないんですか？

山本　その考え方がもう決定的に古さを証明してるよねぇ。これはペケですよぉ。何やってんだってことですよぉ！　フロントの仕事をしてねえじゃないかぁ。

山口　始まったぞ、いいとこ取りが（笑）。

山本　（無視して）責任を持ってやって

そんなもん、レスラーに対するフロント側の敗北宣言ですよぉ!

ないということだよぉ。リングの中のことは責任を持てと言いたいよぉ。よ〜するに責任持てないものを商品として出しているということだよぉ。

山口 まあ、きめ細やかさがないやね(笑)。

山本 そんなもん、レスラーに対するフロント側の敗北宣言ですよぉ!

山口 プロレスマスコミが、人間とかプロレスラーとか、そっちが主役であるという方向にもっていきたがったり、演出やそういったものが主役になってはいけないっていうのも分かるんですよ。でも、本質に対しては見て見ぬフリをしますよね、プロレスマスコミ……、いや、村は。

山本 だから、何をリセットするかと言ったら、俺がこれから言う答えはね、凄い言葉だよぉ。

山口 絶対凄い、それは! あ、まだ言ってないか(笑)。

山本 よ〜するに「記憶を一掃する」ことですよぉ。つまり、俺たちはこれまでプロレスに関わってきて、「昭和のプロレス」とか「猪木のプロレス」「ジャイアント馬場のプロレス」と全部その記憶が邪魔になっている。これを一掃して全てを除去しないことには、新しいことはできないんですよ、ということを「W—1」は証明しているんだよぉ!

谷川 でも山本さん、この前は記憶がなんだかんだって……、「高田VS田村の記憶を大切に」って言ってましたけど(笑)。

一同 (爆笑)。

山本 それはよ〜するに、記憶の快楽とエロチシズムの中に浸って楽しむのが、「プライド23」の高田VS田村の世界で、それはそれで素晴らしいんですよぉ。ところがそこにこだわっていると、ベクトルが全部過去に向かうので、そういうものを一掃しないことには新しい世界には行けないんだという、まるで違うふたつのベクトルをここで示していることが、今の混沌としたプロレス界、マット界を凄く象徴しているんですよぉ。この1週間という時間の中で。片や記憶にこだわる「プライド23」、そして記憶を捨てて新しいものにいきましょうというシビアでハードな投げかけをしてるのが「W—1」なんですよぉ。ひとつは「記憶が大事」と言ってて、もうひとつは「記憶を捨てろ」と言っててね。この矛盾が重要なキーワードなんですよぉ!

一同 (爆笑)。

山口 そんなムダな抵抗はしないで「矛盾してても面白い」って言えばいいのに(笑)。

山本 でも、全日本プロレスの記憶やジャイアント馬場とか外国人レスラーに夢があったり、新日本プロレスに夢があった人たちは「W—1」を見た時に違和感を感じるわけでしょう。それは記憶が邪魔するわけですよぉ。記憶が「W—1」にNOと言うわけですよ。でも、その人たちは記憶によって何かを構築してきたんですよぉ。でも、「W—1」はそれをリセットする、違う記憶の集積のために、新しいコンセプトを作っていきましょうという問いかけなわけですよぉ。

—— うん、それは正しい、ということにしておこう(笑)。

谷川 今回、一つの方向性というか目指したものの中で、フジテレビが「プロレス」という言葉を使わせなかったですよね。

山本 「プロレス」という言葉を使わないということは、プロレスというものにまつわるあらゆる価値観と記憶を、忘れましょう、捨てましょうということですよぉ。

谷川 本当になくしたいんでしょうね。だから、キックボクシングじゃなくて「K—1」みたいに、「プロレス」じゃなくて、「W—1」ということですよね。

山本 つまり、それは新しいスタートラインに立ったよ、ということなんだよね。それも記憶のチェンジなんですよぉ。

小松 あ、すいません。遅くなりました。『週プロ』と『ゴング』を買ってきました。

山口 遅いねえ、キミは。もう答えは出つつあるよ。だいたい、俺がコピーして持ってきてるんだから、最初から買いに行く必要がないって、なんで気がつかないかなあ。

小松 あ…………!!

—— ダハハハハッ!

谷川 ところでキミはどうだったの?「W—1」を見た感想は。

小松 あ、ごくごく普通でしたけど。

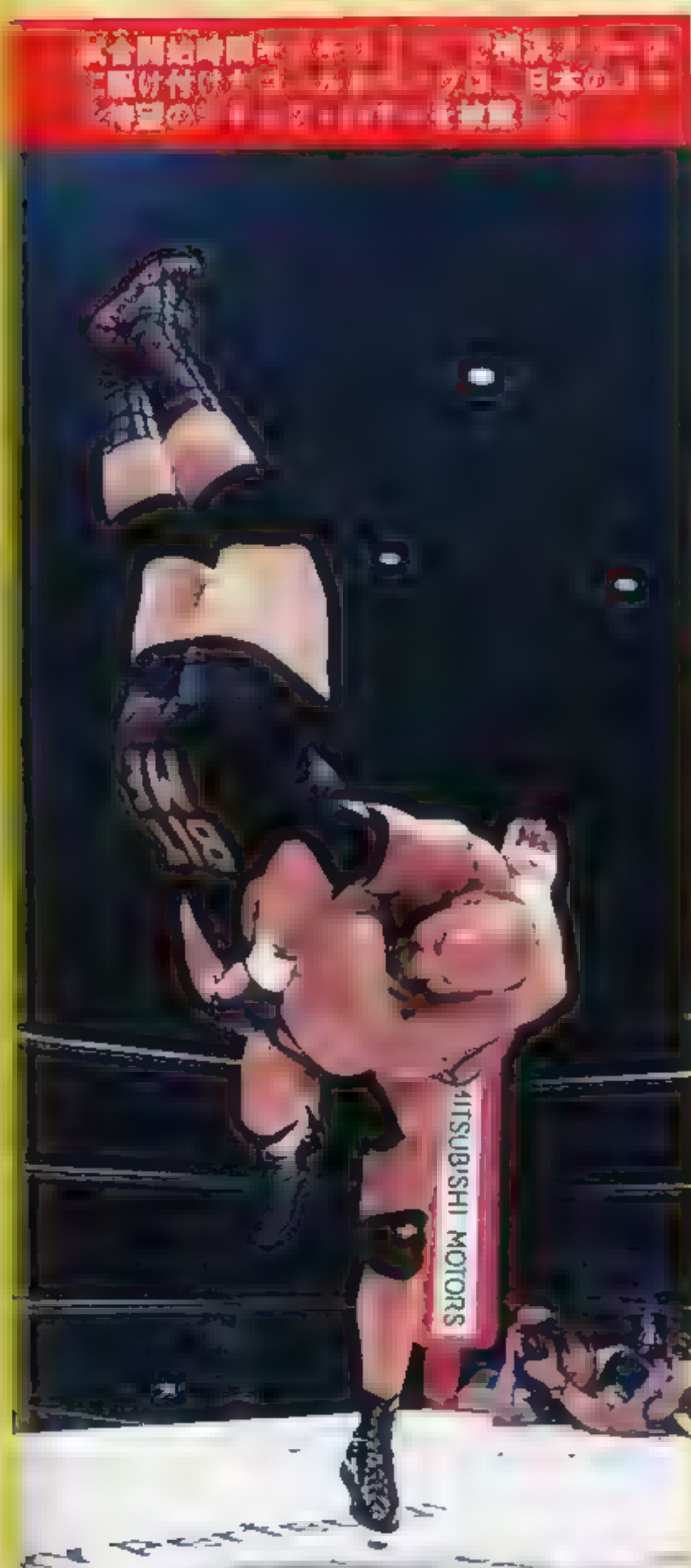
谷川 「意外とたいしたことないな」と。

小松 たいしたことないというか、意外とまともなプロレスの興行だったんで。

山口 さすがは秘密兵器だ(笑)。

山本 まあ、今までのプロレスの記憶の最上位にある価値観は、さっきも言ったけど試合の中のことなんだよねぇ。名勝負とか、好勝負とかそういうものを最高位に置いてたわけです。でも、名勝負と

本当は名勝負なんてないし、今後も一切ないと思うよぉ、俺は

©平工幸雄

か好勝負っていうのはホントに少ないんだよねぇ。100試合、1000試合のうちの1試合くらいなもんなんですよぉ。それを記憶という装置が美化して、プロレスの幻想をここまで保ってきたんだよねぇ。その試合がひとつの名勝負があるために、他の試合も保ってきたわけよぉ。でも、そういう装置を外して見たら、プロレスの試合って実際は30年も40年も、何も変わってないんだよねぇ。そうすると、試合で見せるということの幻想が成り立たないんですよぉ。それに一番最初に気付いたのがWWEなんだよぉ。だから試合以外のことで見せるということを彼らはやって成功したわけ。本当は名勝負なんてないし、今後も一切ないと思うよぉ、俺は。

山口 ヤマやんが断言しました（笑）。

山本 今後、猪木さんに魅せられたような名勝負なんて絶対に期待できないよぉ。

山口 さらにヤマやんが断言しました。

山本 つまり今のプロレスは試合で見せるということがすでに完璧に終わってるわけですよぉ。だから、それに代わるものを我々はやらなきゃいけないわけです。そうすると、興行は非常にアミューズメントパークに近い完成度を求められてくるということだよぉ。

山口 ただ、WWEは試合で見せられますからね。

山本 それはキッチリとしたサイドストーリーというものがあってそれで、試合を見せてるんでしょ。そこは試合そのものがくっつけてるわけですよぉ。ところが、これまでの日本のプロレスは本当にレスラー個人の突出した名勝負で見せてきたわけでしょう。でも、今の時代にそんなのあるわけないじゃない。そういうことを見せられるレスラーがいないんだからぁ。これからはそれをハッキリとさぁ、みんなに教えないとダメよぉ。

山口 名勝負はもう二度と生まれない、と。

山本 それを完璧に叩き込むべきですよぉぉぉー

谷川 あ、それは僕向きだなあ。

――ダハハハハッ！

山口 まったく記憶に残らないから（笑）。

小松 でも、編集長の解説は凄くいいって褒められてますよね。

山口 な、な、なんの解説が？

小松 いつものK―1とか「プライド」の解説が凄くいいって。

山本 それはサダハルンバが時代にマッチしているわけですよぉ。

谷川 やっぱり僕の時代なのかなぁ……。

山口 んあ〜！

谷川 だって、「W―1」のムタとか橋本真也とか蝶野正洋とか、闘魂三銃士なんて全然どうだっていいですもん。合体してなんとかなんて、テレビ見ている人には何にも関係ないからね。

小松 山本さんは「W―1」の解説では、とことん闘魂三銃士にこだわってましたけどね。

――ぷぷぷぷっー

山口 まあ、ズバリ言って、ヤマやんも非常に「さたやん」同様だったというか。ひとりで熱くなっている様が面白い（笑）。

山本 まあ、あとは材料、素材ですよぉ。いかに洗練されて、振り落とされて凄い素材だけが生き残るかが、「W―1」のテーマですよぉ。

山口 でも「W―1」はまだプロレスの〝興行〟の枠を完全に脱してないから、それもひとつのテーマだね。

谷川 ところで社長のご意見は？

――めんどくさいんで、俺は山本さんの言うとおりでいい（笑）。

山本 とにかく記憶にこだわらずリセット！ そういう意味では谷川はすでに次元を超えてるもんなぁ。

谷川 僕はもう「W―1」の記憶すらないですからねえ……。

――ダハハハハッ！。

山口 出たね！ 今日の結論は「サダハルンバはリセット済み！」というか、真の勝利宣言をすべき男は、山本さんじゃなくてサダハルンバだったということだね。

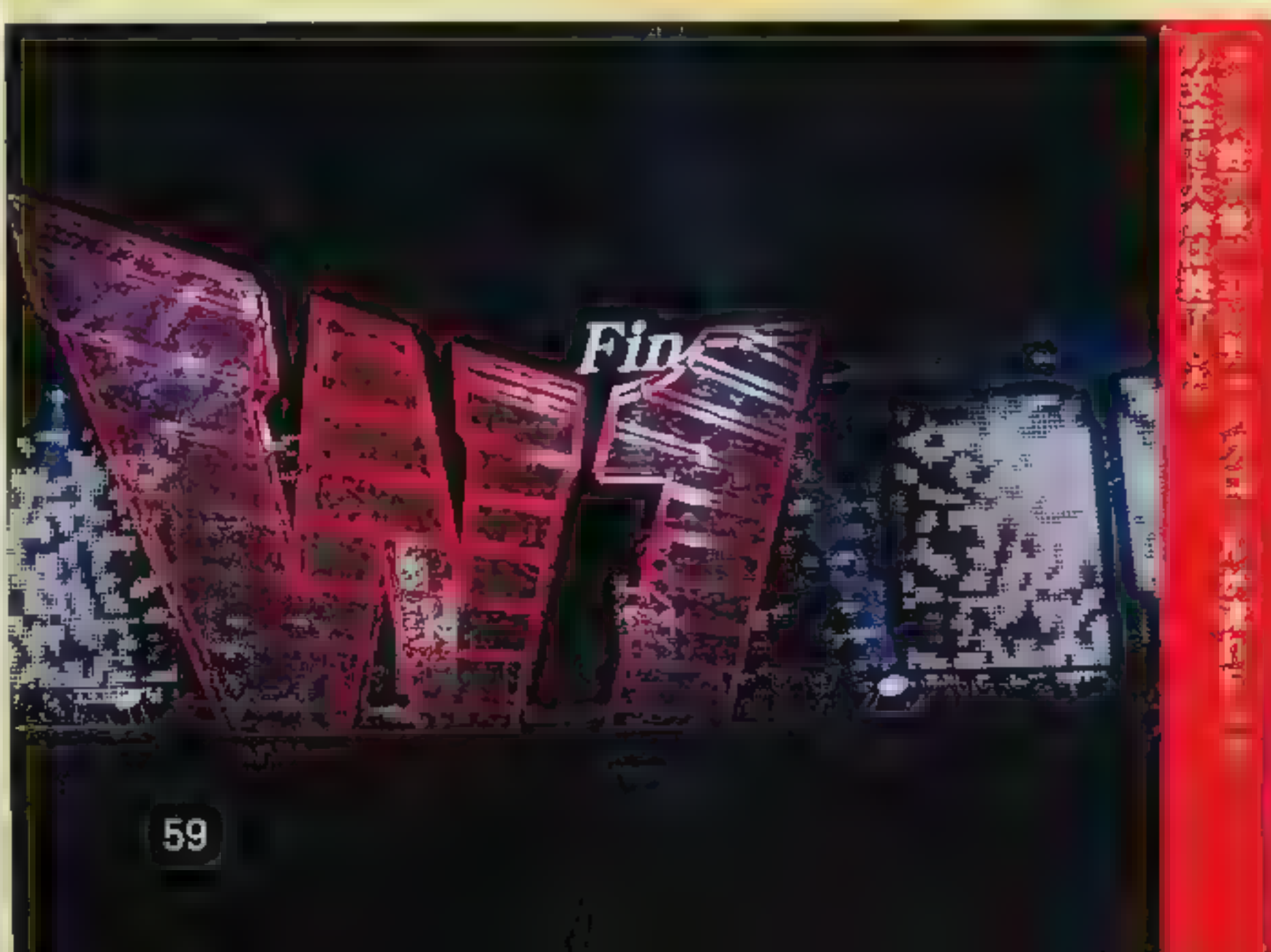
自信を持って「私は〝サダハルンバ〟であるのだ」って言わないといけないってことだね（笑）。

山口 でも、断じて私は〝サダハルンバ〟ではないのだ！（笑）。

――右に同じく（笑）。

山本 俺はサダハルンバみたいに無意識に時代をこの手につかみたいですよぉ！

谷川 んあああああ〜っ！ ■

GKはいったい、どっち？

『WRESTLE－1』にのれる？　のれない？　プロレスマスコミは

私はサダハルンバではないのだ

「WRESTLE－1」が終わって気になるのは、プロレスマスコミの反応。いったい、プロレスマスコミはどんな反応を示したのか？　特にプロレスマスコミの代表格である週刊ゴングの金沢"GK"克彦編集長の反応は気になるところだ。ちょうど、「WRESTLE－1」の試合レポートが掲載された週刊ゴングのできあがったあの日に、GKに話を聞きに行った。

聞き手●谷川貞治（SRS－DX編集長）
撮影●乾晋也（「WRESTLE-1」試合写真）

ムタ=武藤の器量ですよね。やっぱり、武藤の器量は凄いなっていうことですよね

▲演出で格闘家が頑張っても、『WRESTLE-1』を最終的に締めたのはムタ（武藤）[illegible]のがGKの主張

──あ、金沢さん、これが、今週のゴングですか。見せてもらっていいですか？

金沢 実は、今週の巻頭記事で名前を使わせてもらっちゃったんですよ。

──え、どこですか？

金沢 ほら、「私はサダハルンバではないのだ」。

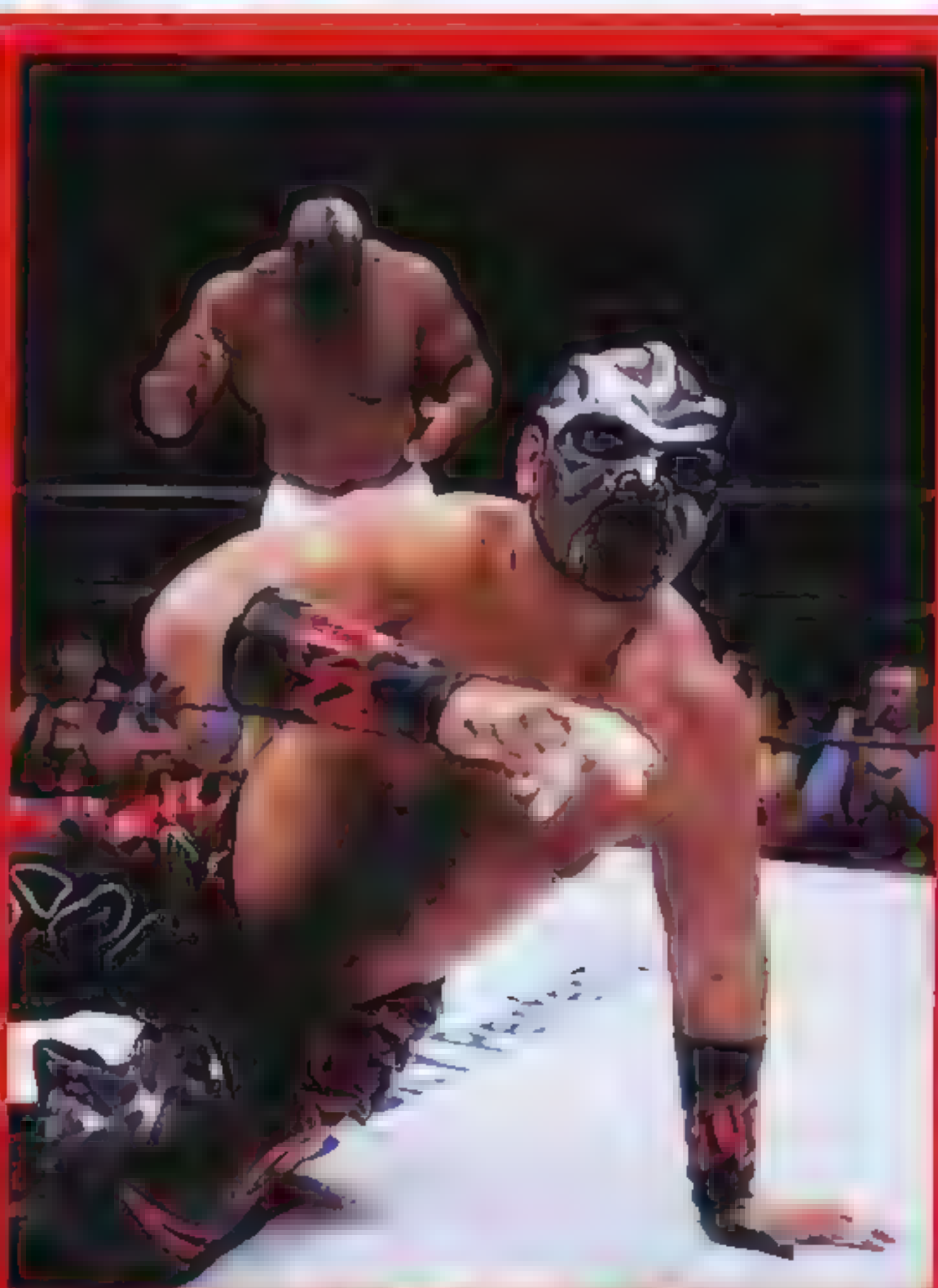
──どういう意味ですか？（笑）。

金沢 特に意味はないんだけど（笑）。

──そうですか、じゃあ、あとでじっくり読ませてもらいます（笑）。それでは、始めさせてもらいます。表紙の「ムタの勝利だ！」はいいですね。

金沢 「武藤の勝利だ！」ですよ。

──ああ、なるほど（笑）。ここが重要なんですね。じゃあ、表紙で「武藤の勝利だ！」と総括した『WRESTLE-1』（以下=『W-1』）について、金沢さんの意見が一番聞きたかったんですけども、ちょっとご感想とどういうことか説明していただきたいんですけども。

金沢 まず、選手もスタッフもみんな一生懸命やってましたよね。最後、突貫工事だったんじゃないですか？ 開場時間も遅れたし、電車は遅れるし（笑）。ファンはブツブツ言っていましたよ。「GK、これ叩いてくれ！」って（笑）。とにかく一生懸命やってたけど、そこが今ひとつ噛み合ってきてないんだなと。だから、それらも全部トータルして、「ああ、面白かったな」という感想ですね。

──へぇ～。この『W-1』という試み自体については金沢さん、どう思われているんですか？

金沢 うん、だから立ち上げがね、武藤と石井館長の合同プロデュースということだったじゃないですか。周りのマスコミもファンも、武藤とK-1がどう関わるのかって思っていたけど、要はプロレスの枠を広げて、世間一般にアピールをこういう形でした場合はどういう反応なのかなというイベントだったと思うんですよね。でも、中身に関しては、プロレスラーに関してはごく自然にやってましたよね。格闘技の選手も非常に一生懸命頑張ってたと。

──なるほど。例えば、この『W-1』のコンセプト自体についてはどのようなものだと思っていますか？

金沢 詰まるところはWWEだと思うんですけども、その過程としてテレビに認めてもらおうと。やっぱり、それが一番でしょうね。まあ、ハッキリ言えば、フジテレビは従来のプロレスでは、テコでも動かない局ですからね。そのフジテレビになんとか認めてもらおうと。それが一番強かったでしょうね。で、それを目指したかどうかは分からないですけど、終わってみればやっぱりWWE的なものになってましたよね。

──そのコンセプトに関しては、プロレスの業界の人間から見てどうなんですか、その傾向は？

金沢 それはいいんじゃないですか。って言うのは、WWEは試合がしっかりしていますからね。要は、アメリカでやっている『ロウ』にしても『スマックダウン』にしても、サイドストーリーが凄く重要になっているじゃないですか。でも、試合自体はちゃんとしているから。あそこはもう、アメリカの中で選ばれた選手しか上がれないわけですからね。だからWWEを目指すっていうコンセプトは正解だと思いますよ。だから、武藤自体に対して凄く批判があったわけじゃないですか。猪木色、格闘技色が嫌で全日本に来たのに、K-1や石井館長って名前が絡んできてね。ただ、目指しているものは違うものじゃないと思ったし。

──ファンタジーファイトですか？

金沢 ファンタジーファイト（笑）。まあ、あとで取って付けたかもしれないですけどね。

──ファンタジーファイトっていう言葉はどうですか？

金沢 ファンタジーファイトねぇ（笑）。本人も「俺もよく分からない」って言ってたけどね（笑）。なんだろうなぁ、たぶん、ゴングが鳴るまではファンタジーファイトなんだろうなっていう気はしましたけどね。だから、武藤で一番印象に残ったのは、試合が終わった後、久しぶりに天然の明るい、20代の頃の武藤の顔をしてました。ここ数カ月は眉間に皺がありましたよね。束の間かもしれないけども、一ファイターとしてやれたなっていう満足感だと思うんですよ。久しぶりに見ましたよ、ああいう顔は。

──はぁ～。この「武藤の勝利だ！」っていうのはどういう意味なんですか？

金沢 演出とか格闘家が一生懸命やってたところで、結局はメインイベントなんですよね。やっぱり、ほとんどのファンはメインイベントのムタVSサップでチケットを買ったわけだし。そういう意味ではムタVSサップというのは、予想どおりのちょっと上までいったかなっていう。ハッキリ言えば、サップはプロレスのキャリアは浅いですよね。

──ええ。

金沢 まあ、ムタ=武藤の器量ですよね、プロレスラーとしての。やっぱり、武藤の器量は凄いなっていうことですよね、サップ相手にして。そして最終的には実際、プロデューサーじゃないかもしれないけども、プロデューサー武藤の勝利ということもあると思うんですよね。

──そうですよね。

金沢 この大会を見事に締めたと。これが最後引いちゃう様な結末だといろんな声が出てきますよね。たぶん、みんないろんな細かいこと見てて、気が付いたと思うんですよね。でも、最後の試合が良ければ、それを全部封じ込めちゃうわけ

「『W－1』って、何?」って聞かれれば、プロレスの祭典でいいんじゃないかな

ですよね。最後がダメなら、いろいろ出てきますよね、チクリチクリチクリと。

――今、金沢さんの話を聞いて分かったのは、武藤さんが目指しているのはラスベガスのショーだとか、ファンタジーファイトやエンターテインメントで、金沢さんが言ったメインが大切だというのは、興行の発想ですよね。逆に、金沢さんはパッケージのエンターテインメントにはまだまだなっていなかったと感じたんじゃないですかね。

金沢 全然ってことはないけども、まあ実験ですからね。

――パッケージとしてはまだ未熟に感じたから、逆にメインが光ったと。

金沢 それもありますよね。だけど、それがまた面白いじゃないですか。ギクシャクするところが途中で。これがあまりにもはまったんじゃ、嘘臭いですよね、世界が。まだそれに馴染めない人間がいるってところがね。逆に言えば、スッキリその世界に入り込まないってところが、プロレスラーのあくの世界というか。そういうところが僕は好きですけどね。あまりきれいな世界は好きじゃないし。

――プロレス界、ぶっちゃけて言うとプロレス村の反応はどうなんですか?

金沢 うん、ウチのスタッフはみんな面白いって言ってましたね。

――なんか反発とかないんですか?

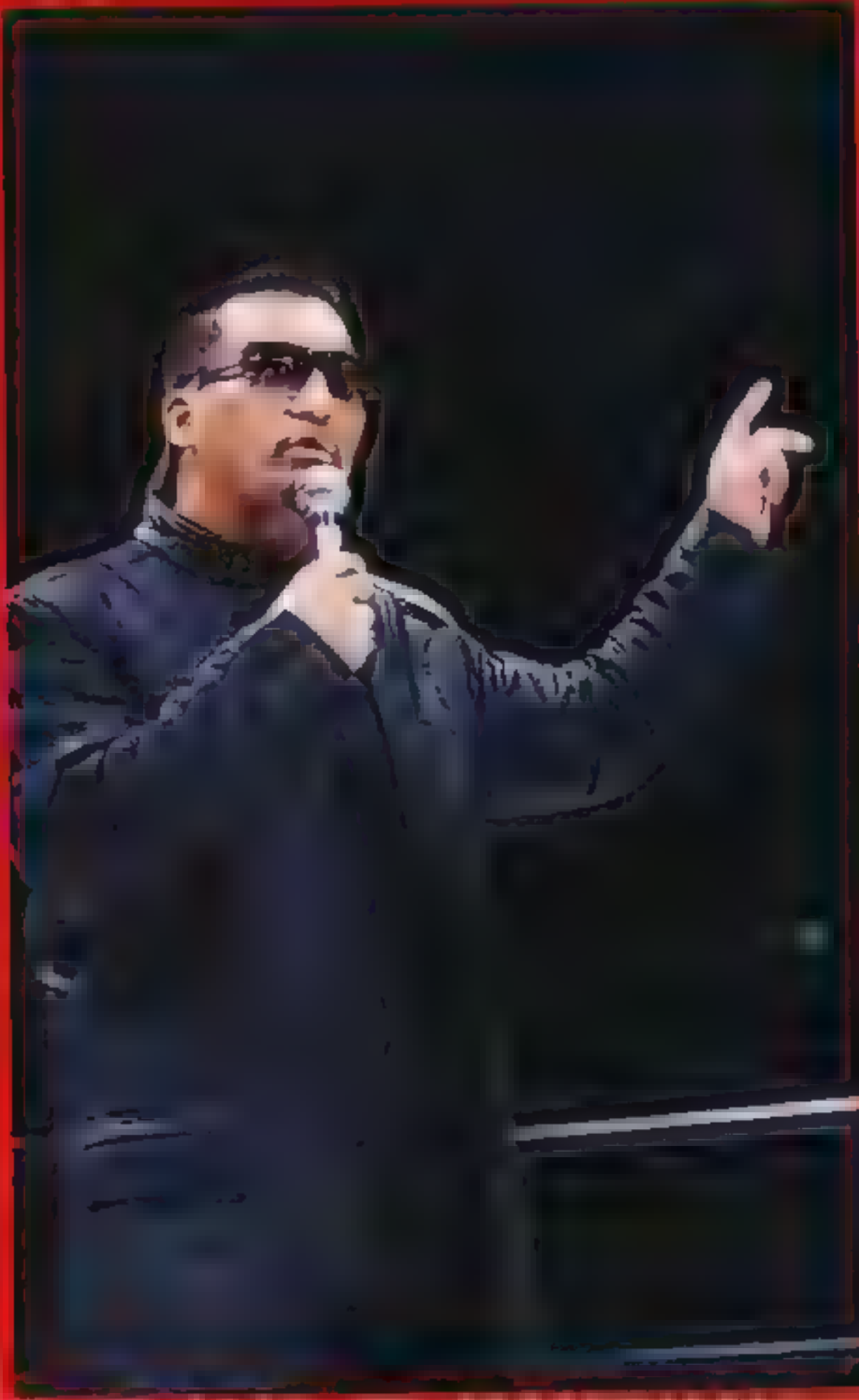
金沢 聞いてはいないけども、たぶん聞けば反発はあるでしょうね。

――どういうとこですか?

金沢 例えば、仮に長州力がそれを見たとしたら、とんでもない話だというのは出てくるでしょうね(笑)。

――とんでもない話(笑)。

金沢 「なんで、ボブ・サップが踊って入場して来るんだ、ふざけんな」とね

▲『WRESTLE-[illegible]

(笑)。

――そういう声は、現段階ではあまり聞かれていないと。

金沢 まだないですね。ただ、これは生で見た人間とテレビで見た人間は感覚が違いますよ。

――そうですね。

金沢 たぶん、テレビで見た人間にこの雰囲気が伝わったかというと、伝わっていないと思うし。僕はズッと客席で見てましたからね、最初から最後まで。

――なるほど。

金沢 そうだな、見てた人間では新日本の永田は「WWEが来た時は脅威に感じたけど、これは脅威には感じなかった」という言い方をしてましたよね。彼も僕と同じ考え方で、やっぱり武藤敬司は凄いなっていう一言でしたよね。

――フジテレビの意向というのは、キックボクシングをK―1にしたように、プロレスを『W―1』にしたいと思っているんですよ。極端な言葉で言えば、もう、プロレスという言葉をやめたい。『W―1』という言葉で新しいジャンルを作ると。それに関してはどう思います?

金沢 う〜ん、だからその発想がね、プロレスっていうのは、非常に広い意味でプロレスなんですよね。いつどこでやっているのか分からないインディもプロレスなんですよ。そして、こういう華やかな舞台、横浜アリーナ、東京ドームとか世間一般の目にちょっと届く時がありますよね、でもそれ以外の地方巡業もプロレスなんですよね。

――闘龍門やら、みちのくやらいろいろありますよね。

金沢 要するにフジテレビさんがそういうふうに言うのは、それはそれでプロレスというソフトを世間一般に認めさせよ

プロレスが全てさらけ出してしまっても、こだわりたいものがファンにもレスラーにもある

うとしていく戦略の一つだと思うけども、逆に根っからプロレスが好きな人にとっては全てがプロレスなんですよね。そこが違いますよね、ハッキリと。

——例えば、金沢さんとしては、反発する感性が働くのか、「のってやろう」とかいう感性が働くのか、どちらですか?

金沢　それはその時ですよ。僕は「W—1」をどう見たいかと言うと、例えば「W—1」という名のもとにいろんな動きがあって、蝶野や橋本が来たわけじゃないですか。選ばれた人間だけが上がれるオールスター戦みたいな舞台を「W—1」と名付けたら面白いなっていう考えですね。

——逆に、一般世間から見ると、ボブ・サップとかゴールドバーグだったと思うんですよ。それよりもやっぱり、武藤や蝶野、橋本が集まったことのほうが重要だというふうに思っていますか?

金沢　それは取材で関わっている僕らからすれば、そっちのほうが大きな要素ですよね。彼らが上がるのかどうか。そこに非常に個人的な感情が渦巻いたり、会社対会社が渦巻いたり、それでも彼らは最終的に来たと。それのほうが僕らにとっては、大事ですよね。

——ゴールドバーグとかボブ・サップとかはさして重要ではないと。

金沢　いや、ゴールドバーグが来なかったら、興行としては薄っぺらいですよね。結局、橋本が来たところでゲスト出演じゃないですか。蝶野はまさにゲストじゃないですか。サップは最初からいてくれなきゃ困るわけですよ。じゃあ、その実質的な部分で本当に目玉は誰なのってなった場合には、ゴールドバーグが大きかったですよ。

——大きかったけども、橋本、蝶野、武藤の絡みに視線がいってしまうとか。

金沢　かといって、それぱっかり見てたわけじゃないですよね。僕らからすれば、心を真っ白にして見せていただきましょうという。

——なるほど。フジテレビの感性はこうなんですよ。「スピアー」、「ジャック・ハマー」ってあるでしょ。これってタックルだけども、「スピアー」のほうが格好いいっていう。これってブレーンバスターみたいに見えるけれども、「ジャック・ハマー」っていう。これが新しい見せ方だと考えているみたいですよ。

金沢　そういうのにしたいっていうことですよね。ブレーンバスターじゃねぇ、「ジャック・ハマー」だと。

——そういうことに対する新しさみたいな。プロレスじゃなくて「W—1」だっていうイメージでこれからやっていこうという感じらしいんですよ。それに関してはどうですか?

金沢　だから、僕らはそれにのっかる部分もあるだろうし、のっかりきれない部分もあるし。のっかりきらない部分っていうのは、やっぱりプロレス村の人たちを大切にしないといけないっていう部分があるからでしょうね。そこは、今週、チラッと書いたんだけどね。「僕はいくら心が広くて視野の広い人間を演じても、帰ってくるのはプロレス村だ」とね。

——例えば、「W—1」が出たことによって、これが新しいプロレスの起爆剤になるっていう考え方はないですか?

金沢　う〜ん。

——例えば、UWFが出た時に、一つの起爆剤になったじゃないですか。そういう匂いみたいなのは「W—1」にはまだないというか。

金沢　だから、今、UWFみたいに価値観を一変させるようなものっていうのは、たぶん難しいと思うんですよね。ある意味じゃ、プロレスを全部さらけ出しちゃったっていう部分があるから。今、ここで何か新しい物を作ったとしても、かつてのUWFみたいなショッキングなものは無理でしょうね。だから、僕としては、スターが上がる舞台が「W—1」としてあればいいんじゃないかなと。僕は「『W—1』って、何?」って聞かれれば、プロレスの祭典でいいんじゃないかな。

——定義付けするとすれば。

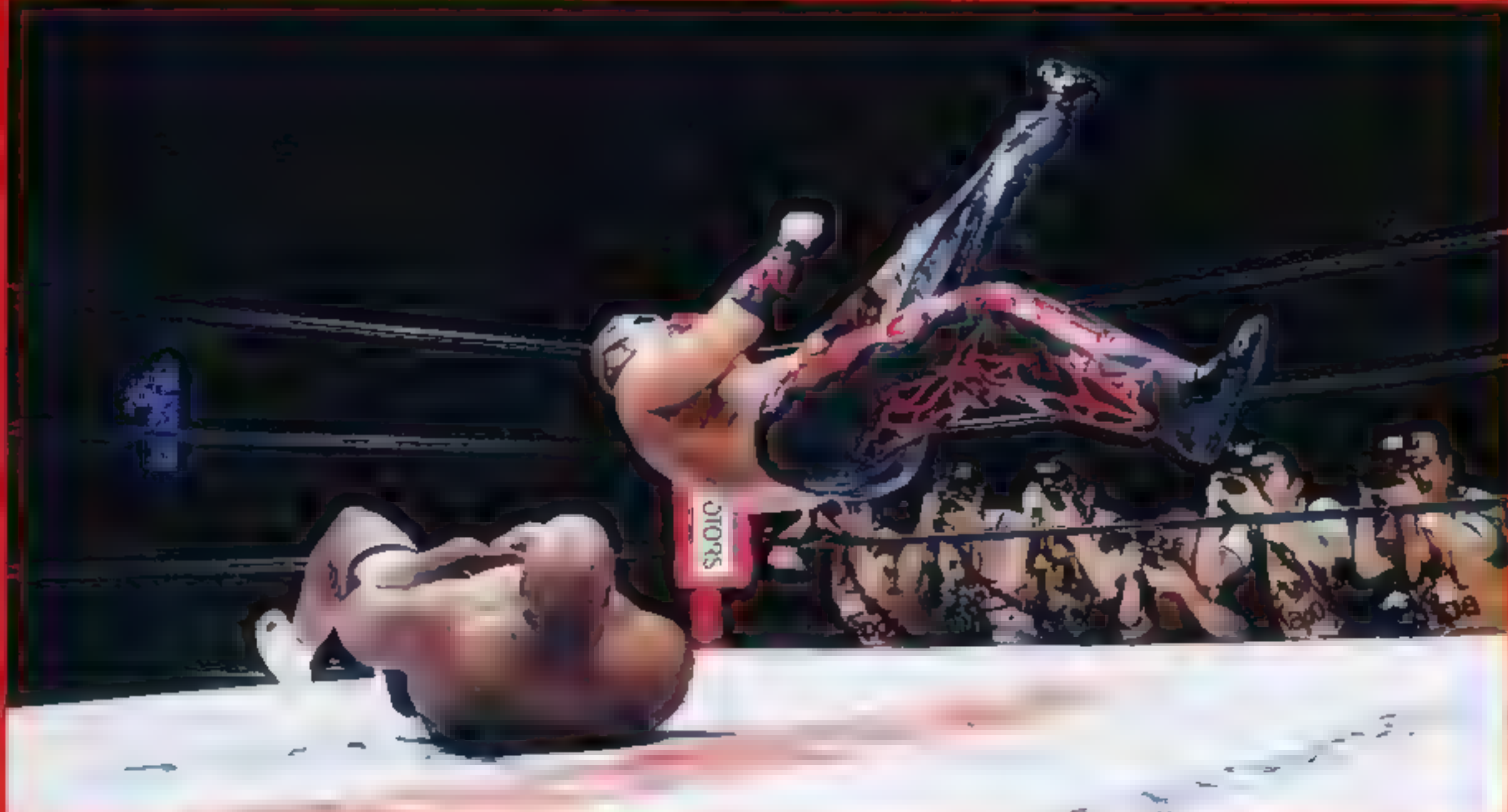
金沢　うん、プロレスはプロレスですよ。だから、僕は全然OKなんですよ。ただ、試合はちゃんとやってくれよっていうことなんですよ。ただ、武藤が一つ反省点として挙げたのは、負けた人間でも光るような舞台にしていかないと広がっていかないと。たしかに負けても光るのがプロレスじゃないかと。でも、武藤の中にもまだ勝負論を捨てるわけにはいかないというこだわりも少し残っていますよね。やっぱり、プロレスが全てさらけ出しつつあっても、こだわりたいものがファンにもレスラーにもあるっていうところがプロレスの面白いところだろうし。

——それはいい言葉ですね。

金沢　それでも拒絶するレスラーはいるだろうし、だから面白いんだと思うんですよね、プロレスって。

——分かりました。今週のゴングはじっくり読ませてもらいますよ。

金沢　そんな、面白いものは潜んでいないですよ（笑）。僕らはプロレスの一つだと思っているから。楽ですよね、プロレスの一つだと言っちゃえば。

——でも、「W—1」の狙いはプロレスの一つにしたくないらしいんですよね。今日は、ありがとうございました。■

▲ムタ（武藤）独特のドライビング・エルボー。これを決めた時に起こった会場の歓声を聞いて、ムタはナルシストの表情をしたとGKは証言する

WRESTLE 1 プロデューサー、松村匠氏（フジテレビ）に聞く！

いきなりゴールデンタイム放送が実現！フジテレビ・プロデューサーはどう見たか？

「フジテレビは従来のプロレスを放送しようというつもりはないんです。新しいことをやるから期待しているんです」

聞き手◎谷川貞治（SRS・DX編集長）

「K−1」「プライド」という格闘技ソフトを世に広めたフジテレビが、今度は新しい形のソフト・「WRESTLE−1」を手掛けることになった。しかも、先日行われた横浜アリーナ大会は、いきなりゴールデンタイムで放送されることが決定！いったい、フジテレビは「WRESTLE−1」という新しいソフトをどのように見ているのか？「WRESTLE−1」のプロデューサー・松村匠氏に話を聞いてみた。

——今回、フジテレビはいきなり『WRESTLE−1』をゴールデンタイムで放送（26日に放送済み）という、『プライド』でもやっていない凄い決断をしたわけですけど、松村さんはそのプロデューサーであるわけですよね。

松村 はい、そうですね。

——その松村さんから見て、今回の『WRESTLE−1』の感想から、まずお聞きしたいんですが……。

松村 いや、単純に面白かったですね。僕は、全然コアなプロレスファンじゃないんですよ。マニアックでもない。その僕から見ても、非常に楽しめたし、もちろんコアのファンは大切にしなければいけないんですけど、『WRESTLE−1』は女の子や子供にも楽しめるイベントだなぁと単純に思いましたね。もちろん、これからソフトとして演出面でも、試合の中身でも成熟していかなければならないんですけど、その第一歩は踏み出せたのかなって思いますね。

——では、テレビマンとしては、合格だと。

松村 いや、素晴らしいと思いましたよ。第1試合のブッチャーVSさたやんのファンキーな試合から、サム・グレコの意外な一面が見れて、ランデルマンの身体能力に驚かされて、どんどんメインになるにつれて内容が濃くなっていたじゃないですか。ゴールドバーグは一流の薫りがしたし、マニアの人なんか橋本と蝶野が出てきたことで、三銃士に何かあるんじゃないかと思わせたり、そして、メインでやっぱり旬であるサップとムタが魅せてくれた。そういう意味で、非常に飽きさせない、凄いバランスの取れたエンターテインメントになっていたと思いますよ。

——なるほど。でも、正直言ってテレビ局の人たちってプロレスに対する偏見が強いと思うんですよ。その中で、今回フジテレビがゴールデンでやるというモチベーションになったのはなんなんですか？

松村 それはやっぱりフジテレビと言えば、K−1とか『プライド』の成功がベースになっているじゃないですか。もちろん、プロレスの好きな人はたくさんいるんですけど、今のプロレスってK−1のような格闘技が出てきたことや、団体が分裂したりして、非常に分かりづらくなっている。その従来のプロレスをフジテレビがやるというつもりはないんですよ。何か新しいことをやる。その部分に期待しているんですね。今のプロレスは分かりづらくなっていますけど、我々としては格闘技のようなガチンコの行き着く先の対極もあるんじゃないかと考えているんです。ラスベガスのオーというショーがありますよね。ああいうオーのようなショーとして素晴らしいクオリティを持ったバトルエンターテイメントが行われるのであれば、中身がプロレスでも、格闘技でも見た人は同じように凄いって感じると思うんです。そういう新しいソフトの期待感が『WRESTLE−1』にはあるなということで、乗ってみたってことですね。

——今、ある意味でK−1や『プライド』のような格闘技は、行き着くところまで行ってますもんねぇ。

松村 行ってますよねぇ。だから、その格闘技の対極にあるエンターテインメントを熱望するファンの声は強くなっていると思うんですよ。どんなジャンルでも必ず飽きたりすることはありますからね。だから、対極って必要なんです。そ

女性や子供たちが見ても楽しめる『WRESTLE—1』だから、ゴールデンタイムに向いています

の可能性が『WRESTLE—1』にはあるような気がしますねぇ。

—つまり、『WRESTLE—1』は従来のプロレスとは捉えていない、と。

松村 そうですね。解説の浅草キッドが言ってましたけど、キックボクシングがK—1となり、サーカスがサルティンバンコやキダムに変化していったのと同じですね。もちろん、プロレスっていうのは素晴らしいジャンルですけど、その新しい見せ方が今は必要だと感じているんです。

—でも、フジテレビ内ではまだ、偏見も多いんじゃないんですか？

松村 正直、それはありますね。でも、最初にK—1が出てきた時も、「K—1、それ何？」「格闘技？ 野蛮なものだろ」って偏見はいっぱいあったと思うんですよ。でも、中身さえしっかり作っていけば、K—1も10年経って、あれほど素晴らしいソフトだと思われるようになったじゃないですか。イメージ作りに完全に成功したと思うんですよね。『プライド』だって、最初はただのケンカみたいに思っていた一般の人は多かったと思うんですよ。それが演出とかマッチメイクで次々に新しいドラマを見せ、桜庭選手のような凄く面白い試合をするスターも登場した。今や『プライド』は面白い格闘技のひとつの固有名詞になっていますよね。そのK—1や『プライド』のようなイメージの大改革、新しいソフト作りのお手伝いをやっていこうというのが、『WRESTLE—1』に興味を持った理由ですね。

◀『WRESTLE—1』の解説陣は、浅草キッド、ゲストの蝶野正洋、そして我らがターザン山本とバラエティに富んだ顔ぶれ。副音声的な楽しみ方ができる

—なるほど、それにしても、いきなりのゴールデンは破格の扱いですね。

松村 いいスタートが切れましたよね。そういう意味じゃあ、フジテレビが期待しているソフト、コンテンツのひとつだということですね。で、よく考えてみたら『WRESTLE—1』は深夜に見るマニアのファンだけを対象にするのはどうかと思うんですよ。『WRESTLE—1』というソフトを考えると、僕は子供たちとか、家族で見ても楽しめる、笑えるコンテンツだという気がするんです。だから、今回午後7時からの放送っていうのは、凄くあってるような気がするんですよ。実際にどのくらいの視聴率をとって、どの年齢層が見るのか、結果が凄く楽しみですね。

—ゴールデンで放送する上で、ボブ・サップというのは大きなポイントになったんじゃないですか？

松村 それは非常に大きいですね。久々に現れたスターだし、今はサップが出るだけで視聴率が上がるくらい旬な人ですからねぇ。

—松村さんはテレビマンとして、ボブ・サップのキャラクターをどう評価していますか？

松村 いろんな顔を持っているところがいいんですよね。分かりやすく言うと、肉を喰っているような野獣スタイルから、もの凄くインテリジェンスな一面、女性からも愛されるお茶目な一面と、場面場面に応じてキャラクターを変えてくれるじゃないですか。ホント、非常にクレバーな人だなと思いますね。ビジュアル的にも、今どきあれだけ大きくて迫力のある肉体を持った人っていないですよね。画面を通してそれが伝わるだけでも凄いですよ。日本人にはとてもできない。そういう人が、あれだけのキャラクターを自然に使い分けられるんですから、バラエティチームとしては非常に使いたくなる人なんですよね。

—サップは単なるヒールでもないですからね。

松村 『WRESTLE—1』の入場のダンスなんかも最高でしたよね。『プライド』の桜庭選手なんかにも共通するんですけど、強いことが大前提にあって、非常に親しみやすいことがテレビでは重要なんですよ。特にサップがヒールだとしても、女性にも人気が出そうじゃないですか。テレビというのは、常に女性とか、子供を意識して番組作りをしないとダメなんで、サップはその部分では凄く広がりのあるスターですよね。

—じゃあ、逆にグレート・ムタはどうですか？

松村 武藤さんも凄いエンターティナーですよね。プロレスラーとしても超一流ですけど、全日本プロレスの社長でありながら『WRESTLE—1』開催という大英断に踏み切ったところが凄い。これからさらに歴史に残るプロレスラーになるような気がしますね。本当にこの前のグレート・ムタは素晴らしかったですからね。テレビに非常に向いている気がします。

—では、今後『WRESTLE—1』がさらに成功する鍵はなんだと思いますか？

松村 それはやっぱり、『WRESTLE—1』がイベントとして、演出などのクオリティを上げることが必要だと思うのですが、それと同時に僕が思うことは新しいスターの登場ですね。K—1だって、佐竹選手がいて、アーツとか、アンディ・フグが人気のあった時代から、今はバンナやハント、ミルコ、サップとどんどん新しいスターが出てきているじゃないですか。『プライド』だって、ノゲイラやシウバがそうですよね。今は武藤さんとかサップ、ゴールドバーグが引っぱってますけど、どんどん新しいスターに登場してもらいたいですね。そこがポイントだって気がしますね。今回、ランデルマンがとても良かったんですけど、そういう新鮮さが『WRESTLE—1』の売りになっていけばいいと思いますね。■

PROFILE

松村匠（まつむら・たくみ）
1962年11月生まれ、1987年から人気番組『とんねるずのみなさんのおかげです』にADとして携わってから15年間、とんねるずの番組を手掛けている。現在は『とんねるずのみなさんのおかげでした』のプロデューサーとして活躍している。最近の番組では、毎週木曜日の23時から放送されている『VVV6』、そして『新春かくし芸大会』のプロデューサー。

◉総評

『WRESTLE―1』を最初にやった男は、初代タイガーマスクである――ターザン山本

『WRESTLE―1』とは何か？まず、この問い掛けとそれに対する答えを見つけ出す。それが私に与えられた仕事だと思っている。

これが非常に楽しいんだよ。なぜなら物を考えることは、私にとって重要な喜びの一つでもあるからだ。

その点については私は、かなりしつこい性格をしている。たとえば一つ答えが出たとする。そうしたらすぐにまた別の答えがないかと、考え始める。

つまり、私の中ではいろんな答えがあるはずだと思っているのだ。この世の中には私と同じように、物を考えることに執念を燃やしている人が、必ずどこかにいるはずなのだ。

それがすなわち私のライバルである。『W―1』を言語化することは、我々の使命である。あるいは挑戦といってもいい。それさえも私はエンターテインメントにしようとしているのだ。

『W―1』を見て最初に私が出した結論は、外国人選手が持っている輝きについてである。ここ10年ぐらいプロレス界では、日本人対決が主流になっていた。

振り返ってみると1990年代の全日本プロレスは、四天王プロレスの時代と言われ三沢光晴、川田利明、田上明、小橋健太（現・建太）の4人の日本人選手が鎬（しのぎ）を削りあった。

スタン・ハンセン、スティーブ・ウイリアムス、テリー・ゴディなど強豪外国人選手もいたが、彼らでさえ四天王の前では、脇役的存在でしかなかった。

一方、新日本プロレスも90年代以後はIWGPヘビー級王者と、G1クライマックスの優勝者は長州力、藤波辰爾に闘魂三銃士の武藤敬司、橋本真也、蝶野正洋にあと佐々木健介を加えた日本人選手によって、占められていた。

『W―1』のカードを見てほしい。メインはボブ・サップ対グレート・ムタ。ムタは武藤が変身したものだから、元は日本人選手となるが、ムタ自身はキャラクターとしては、無国籍タイプなのだ。

日本人選手の枠に入れるよりは、あのキャラは外国人選手のほうに近い。セミのビル・ゴールドバーグ対リック・スタイナーの試合は、純然たる外国人対決。

こう見るとメインとセミの2試合はいずれも、外国人選手が独占。これは今の全日本プロレス、新日本プロレス、ノアのリングでは考えられない話。

ここに『W―1』の大きな特徴があったといえるのだ。今のプロレスに対する強烈なアンチテーゼ、主張を読み取ることができた。『W―1』サイドはこのことに関しては何も言っていない。

たぶん『W―1』の関係者も気付いていないと思う。外国人選手が持っている良さを見直そうというメッセージ。私はそう受け取った。マーク・コールマンとケビン・ランデルマンのコンビ。

サム・グレカラスにアブドーラ・ザ・ブッチャー。私は彼らに外国人レスラー復権という予感を持った。

四角いリングの中で行われるものは、外国人ファイターのほうが日本人選手よりも、はるかにその存在感がエンターテインメントを感じさせてくれる。

仮に『W―1』が演出効果に力点を置いたエンターテインメントなプロレスと言うなら、そのエンターテインメントとは、実をいうと人間の魅力が大前提になっているのだ。

ファイターの存在自体がエンターテインメントでなければならない。ムタ、サップ、ゴールドバーグは合格。以上のことから『W―1』のコンセプトが、一つだけ解き明かされた。

ムタ、サップ、ゴールドバーグを新日本の永田裕志、中西学、安田忠夫の3人と比較してみると、両者の違いは言葉で説明する必要は何もない。

どっちに〝華〟があるかと言ったら外国人選手のほうである。『W―1』は日本人対決に飽き飽きしていたファンに、問題提起をしていたのだ。

次に『W―1』はプロレスにあまり詳しくないか、それとも全然、プロレスを知らない人をお客として相手にした時、果たしてどうなるのか？

そこに標的を絞ってきた。こういう発想ができたのは、めずらしいことだ。普通はプロレスをよく知っているファンを、まずお客として考える。そのほうが安心して試合ができる。

だが『W―1』はその生き方はとらない。プロレスファンを当てにしないで、一般の人たちを観客と考えた。

常識はずれのチャレンジだが、この『W―1』の戦略を、その昔、実行していた者がいた。もう、それはおよそ20年以上も前の話である。

その人物とはなんと、あの初代タイガーマスクなのだ。昭和56年4月23日、タイガーマスクは日本でデビューしているのだが、それ以後、日本列島にタイガーマスクの一大ブームが起こった。

タイガーマスクは「蹴る」「飛ぶ」「投げる」の三大殺法を身に付けていた。それが当時のファンには、新鮮に見えた

え？　これって何次元空間？

し、マスクマンだということでそのファイトに夢を感じた。

特にその空中殺法は〝四次元プロレス〟と言われた。そこまで絶賛されたタイガーマスクは、一般世間の人たちにその名前が届いたレスラー。彼は老若男女の誰からも愛された。

そのことでタイガーマスクは、日本列島に大プロレスブームを巻き起こしてしまう。あれはほとんどタイガーマスクの力といってもいい。

アントニオ猪木や藤波辰爾ではあんなブームを起こせなかった。そのタイガーマスクが凄かったのは、なんといっても素人のファンや、初心者のファンの心をがっちりつかんだことである。

つまりプロレスの知識を持っていない人にも、プロレスの面白さを届けさすことができた。これって今『W―1』がやろうとしていることでもある。

猪木のプロレスはファンの側が猪木がやってきたことを、記憶として保持していないと、その面白さを楽しめないところがある。それが逆に今までジャンルとしてのプロレスの限界を、示してきた。そのことを最初に叩き壊して見せてくれたのが、初代タイガーマスクなのだ。

彼はその意味でも本当にマット界の大革命家でもあるのだ。タイガーマスクのファイトは、べつに大型スクリーンを使って、音と映像でファンを刺激させ、興奮させていくというような具体的な装置や仕掛けはなかったが、それに近い感じのものを個人で見せていたのだ。

タイガーマスクは今から思うと、極めて『W―1』的だったといえる。『W―1』の源流はすでにタイガーマスクの中にあったというわけだ。ということは『W　1』は成功する可能性が、極めて高いことになる。

舞台として会場全体をタイガーマスクの世界にすればいいからだ。タイガーマスクの試合を四次元プロレスというなら『W―1』は、四次元空間を作ればいいことになる。『W―1』はタイガーマスクとは何かを研究し、そこから全てを学んでいく。それしかない。

『W―1』の答えはそこにある。昭和50年代、タイガーマスクが出現しそれがブレイクしてブームになった時、我々は彼の試合を見ることで、みんな『W―1』の世界を見ていたのだ。

『W―1』はすでにあの時、この世に存在していたのだ。タイガーマスクはキックなど打撃系の技を出す。その斬れ味は鋭い。ジャーマンスープレックスなどスープレックス系の技は芸術品。

さらに空中殺法も豊富ときている。このように試合は立体的。何拍子も揃っている。プロレスあり、格闘技ありでそれがタイガーマスク流のエンターテインメントの世界を作りあげていた。

それって『W―1』が基本的にめざしているものではないか？　やっぱりタイガーマスク（佐山聡）は天才だったということである。常に時代の先を読むのが佐山聡という人間だったが、まさか『W―1』もそうだったとは……。■

番組インフォメーション

11/29,12/6の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは11月8日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

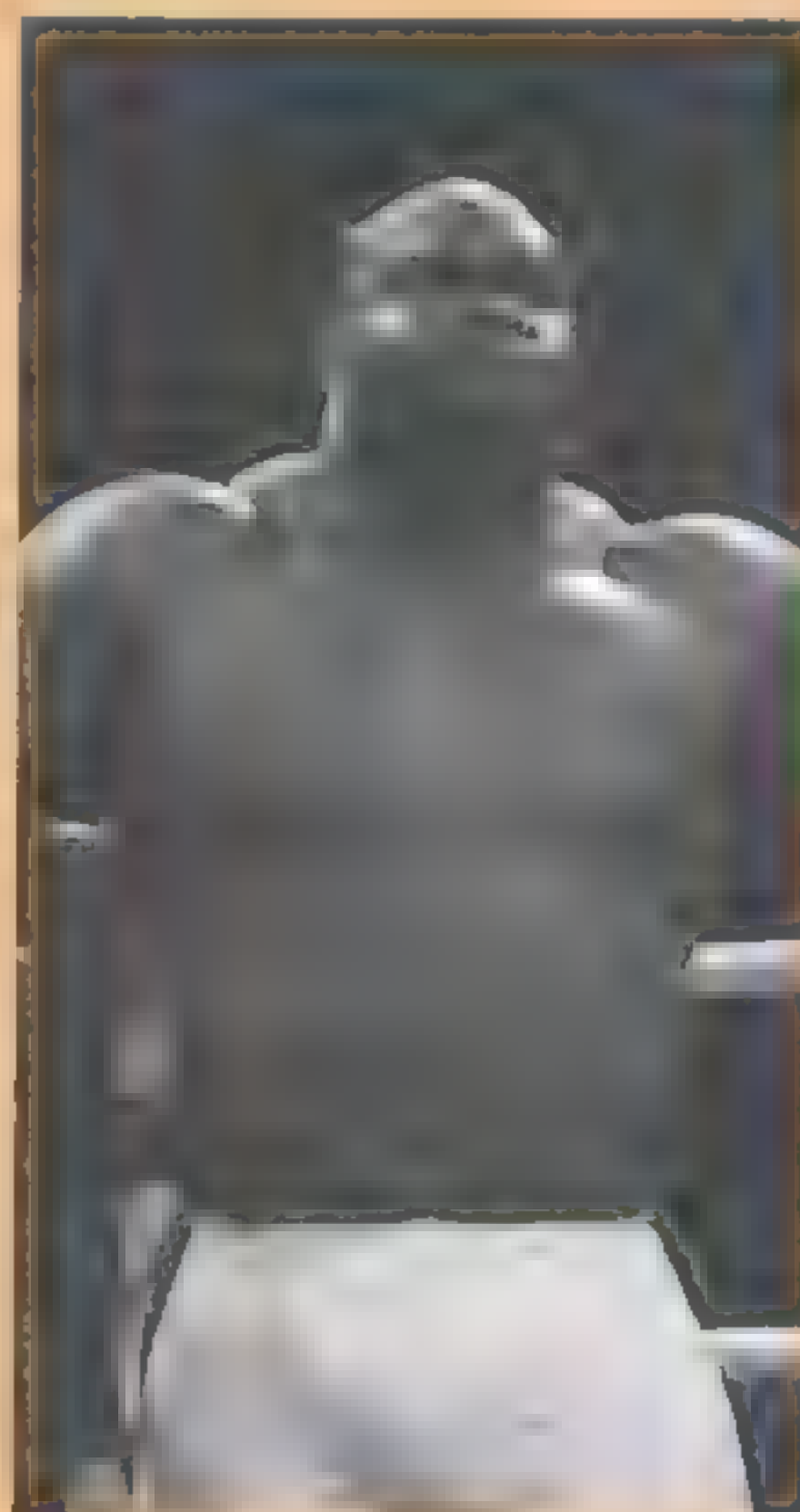
『SRS』は金曜日深夜25時45分～26時15分（時間は変更することがあります）フジテレビ系で絶賛放映中。

11/29 & 12/6

史上最大級のうねりがK-1を襲う！

『K-1 WORLD GP 2002 [illegible]』[illegible]！

11月29日（金）、12月6日（金）25:45～26:15

12月7日(土)東京ドームで、K-1最高峰を決める年に一度の祭典『K-1 WORLD GP 2002 決勝戦』が行われます。大会チケットはすでにソールドアウト！　なんといっても今年最大の目玉は“ザ・ビースト”ボブ・サップ！　10.5の『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』でサップは、“スリータイム・チャンピオン”アーネスト・ホーストを1Rで撃破！　その破壊的躍進は「K」のリングだけにとどまらず、総合格闘技、プロレス界、さらには芸能界まで制圧しようとしている。そんな現在注目度ナンバーワンの男、サップの素顔とは？　今明かされるサップの秘密が、生い立ちも含めて徹底取材で明らかにされる！　他にもジェロム・レ・バンナへの緊急取材や武蔵のタイ極秘トレーニング取材など、K-1グランプリ出場ファイターの近況を2週にわたって、まるごと直前特集としてお送りします。お楽しみに！

▲サップを止めるのは、やはりバンナなのか!?

必見！

『プライド23』大会中継

「K-1 WORLD GP 2002 [illegible]」大会中継

フジテレビ系列の番組からCS721

12/7（土）14:00～17:00　『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』VTR

12/7（土）17:00～21:30（延長あり）　K-1 WORLD GP 2002 決勝戦」生中継

12/29（日）13:00～16:00　『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』VTR

12/29（日）16:00～19:00　『K-1 WORLD GP 2002 決勝戦』VTR

SRSホームページのアドレスはこちら http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ～い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見！

TV

11/28（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	「ch.01」	10：00～11：30	橋本真也率いるZERO-ONEによるちょっぴりムチャなバラエティ番組
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	14：00～15：00	世界中で行われている修斗の大会を放送。10.26アイアンハートクラウン。再放送12/1・9：00～
	GAORA	角田信朗のすぼ魂	18：00～18：30	『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送11/29・21：30～、12/1・19：30～、3・9：00～
	GAORA	週刊格闘 JAM!	21：52～22：00	K-1、PRIDEなどの格闘技イベント最新情報「Featuring event」や旬の格闘家を紹介する「Featuring Fighter」などをぎっしり詰め込んだ300秒番組。再放送111/29・19：22～
	FIGHTING TV SAMURAI!	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00 26：00～28：00	10.29に後楽園ホールで開催された「PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR」大会。再放送11/29・18：00～、30・15：00～、12/5・18：00～
	Jスカイスポーツ1	SHOOT 3/60	25：00～26：00	15分のショートドキュメンタリー3本で構成する"60分3本勝負"の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。再放送11/29・10：00～と28：00～、30・25：30～、12/2・10：00～、6・25：00～、7・11：00～
11/29（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	11：30～12：00	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送12/1・20：30～と27：30～、12/2・13：30～
	スカイA	格闘Xパンクラス	19：30～20：00	内容未定
	スカイA	ワールドプロレスリング　不滅の闘魂伝説	20：00～22：00	1970年代以降の新日本プロレス格闘技全盛期を振り返る　1977.2.10NWF認定ヘビー級選手権、アントニオ猪木vsタイガー・ジェットシン戦、他2試合
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00	9.29横浜文化体育館大会。再放送11/30・18：00～
	GAORA	全日本キックボクシング	23：00～25：00	11.17後楽園ホール大会。再放送12/8・23：00～
	BSフジ	PRIDE REVIVAL	24：00～25：00	スポーツ・アイESPNの『PRIDE REVIVAL』と同内容。「PRIDE.4 」①。再放送12/6・24：00～
	フジテレビ	SRS	25：45～26：15	⇨P69
11/30（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継 修斗	10：00～12：00	10.27に大阪NGKホールで開催された「プロフェッショナル修斗公式戦」を中継。再放送12/3・18：00～
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	13：00～16：00	これまでの『PEIDE』シリーズを毎月1大会ずつ放送。「PRIDE.5」①～③
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	16：30～18：55	11.4幕張メッセ国際展示場大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継 「club DEEP」	17：00～18：30	11.10に愛知culb OZONで開催された「Club DEEP 2nd OZON」を中継。再放送12/1・13：00～、2・18：00～、7・13：00～
	Jスカイスポーツ2	プロフェッショナル修斗	21：00～23：00	11.1 5後楽園ホール大会。再放送12/1・13：00～、3・26：00～、5・15：00～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	鈴木みのるvs獣神サンダー・ライガー戦直前特集。密着鈴木24時
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：10～26：10	11.24上田市民体育館大会
12/1（日）	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング特別企画	16：00～18：00	⇨Pick Up ①再放送12/2・17：00～、6・23：00～
	WOWOW	UFC-究極格闘技-2002総集編	17：20～18：20	⇨Pick Up ②
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	22：30～23：00 25：30～26：00	11/29を参照。再放送12/2・15：30～、6・19：30～、9・13：30～
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	25：25～25：55	12.1月寒グリーンドーム大会、GHCタッグ選手権試合
12/2（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	16：00～18：00	日本キック連盟、00.12.9後楽園ホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	23：00～24：00	11/28を参照。再放送同日・27：00～、12/4・11：00～、5・14：00～、6・8：00～
	日本テレビ	[illegible]	25：30～26：00	内容未定
12/3（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	船木が語るパンクラスストーリー	22：00～24：[illegible]	#6。同日再放送26：00～、12/7・6：00～、10・18：00～
	TBSテレビ	サイボーグ魂	23：55～24：30	ダウンタウンの松本人志が様々な格闘家とコラボレーションしていく番組
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	11.24PRIDE23結果速報（前編）
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	マイクアピール特集＆郷野選手指導による石川選手マイクアピール特訓
12/4（水）	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
	スカイA	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	内容未定。再放送12/6 ・19：30～
12/5（木）	GAORA	角田信朗のすぼ魂	18：00～18：30	11/28を参照。再放送12/6・21：30～、7・15：00～、8・12：00～、10・9：00～
	GAORA	週刊格闘 JAM!	21：52～22：00	11/28を参照。再放送12/6・19：22～、8・6：52～
12/6（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9：00～11：00	修斗、00.12.1東京ベイNKホール大会
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	22：00～23：00	～beyond the episode#1～視聴者からのベストバウトリクエスト。再放送12/11・25：00～
	スカイA	ワールドプロレスリング　不滅の闘魂伝説	22：00～24：00	11/29を参照。1976.10.7格闘技世界一決定戦、アントニオ猪木戦vsアンドレ・ザ・ジャイアント戦、他3試合
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	24：00～26：00	⇨Pick Up ③再放送12/8・22：00～
	フジテレビ	SRS	25：45～26：15	⇨P69
12/7（土）	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	16：30～18：55	11.22後楽園ホール大会＆11.24上田大会
	Jスカイスポーツ1	プロフェッショナル修斗	19：00～21：00	11/30のJスカイスポーツ2と同内容。再放送12/8・26：00～、12・15：30～
	Jスカイスポーツ3	SHOOT 3/60	21：00～22：00	11/28のJスカイスポーツ1を参照。再放送12/8・27：00～、9・24：00～、11・9：30～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	12/3のテレビ東京と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	25：10～26：10	12.4広島サンプラザ大会、11.30パンクラス横浜大会　鈴木みのるvs獣神サンダー・ライガー戦
12/8（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	22：30～23：00	11/29を参照。再放送同日・25：30～、9・15：30～
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	24：55～25：25	12.7横浜文化体育館大会、GHCヘビー級選手権試合
12/9（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	16：00～18：00	新日本キック協会、01.3.31後楽園ホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	23：00～24：00	11/28を参照。再放送同日・27：00～、12/11・11：00～、12・14：00～
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	内容未定

ON THE AIR 11/28～12/12

格闘技番組ガイド　TV&RADIO

1 「ワールドファイティング特別企画」

Jスカイスポーツ3
12月1日（日）/16:00～18:00

Photo by Andrey Kiagenberg、協力：川崎 "BookerK" 浩市

昨年、『ワールドファイティング』の枠で放送され好評を博した『ブラジル・MECAバーリトゥード』が年末特別企画として復活！　今年1月31日、ブラジル・クリチバで開催された「MECA ワールドバーリトゥード6」の模様を放送。「MECA～」にはシュートボクセの選手が多数参戦しており、11.8「MECA～7」では、ムリーロ・ニンジャの実弟であるマウリシオ・ショーグンが総合デビューし見事初勝利を収めるなど、世界の注目度も高いブラジルNo.1の大会だ。

2 「UFC-究極格闘技-2002総集編」

WOWOW
12月1日（日）/20:00～22:00

毎年恒例の無料放送2daysにて2002年ベストバウト特集のほか、UFC参戦が噂される日本人格闘家へのインタビューなどをオンエア！　今年はムリーロ・ブスタマンチが、35歳にしてUFC初のブラジル人王者となったのを皮切りに、ジョシュ・バーネットが史上最年少でUFCヘビー級王者になるなど激動の1年となった。日本人では須藤元気がUFC初のイギリス興行で、鮮烈のデビューを果たすなど、これから活躍が期待されるだけに要チェックだ！

3 「パンクラスハイブリッドアワー」

スカイA　12月6日（金）24:00～26:00
FIGHTING TV SAMURAI!
12月12日（木）22:00～24:00 26:00～28:00

11月30日（土）に行われる横浜文化体育館大会の模様をオンエア。なんと言っても注目したいのは、メインの鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー戦だが、他にもセミでは約1年5カ月ぶりの再戦となる佐々木有生VS美濃輪育久戦や今年1月以来、ひさびさにパンクラスのリングに帰って来る菊田早苗の復帰戦。さらにはヒカルド・アルメイダ、和田拓也のパンクラス初参戦など内容てんこ盛りの120分。これは絶対に見逃せないぞ！

TV

12/10（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継（再）　MA日本キック	16：00～18：00	MA日本キック連盟、9.28後楽園ホール大会
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング特別企画	17：00～19：00	12/1のJスカイスポーツ3を参照。再放送12/11・24：00～
	TBSテレビ	サイボーグ魂	23：55～24：30	12/3を参照
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	11.24PRIDE23結果速報（後編）
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	内容未定
12/11（水）	スカイA	格闘Xパンクラス	21：30～22：00	内容未定
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	12/4を参照
12/12（木）	GAORA	角田信朗のすぽ魂	18：00～18：30	11/28を参照
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	21：00～23：00	10.29後楽園ホール大会
	GAORA	週刊格闘JAM!	21：52～22：00	11/28を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00 26：00～28：00	11.30に横浜文化体育館で開催された「PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR」大会を放送

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

スカイパーフェクTV！
0570-039-888
（10：00～20：00）

GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

WOWOW
0570-008-080
（9：00～20：00）

スポーツ・アイ・ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
03-5500-3488
（9：30～18：00）

スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

BOOK
話題の本&新刊情報

〈新刊紹介①〉

「Uはオレだ　Uはお前だ！」

ターザン山本著/新紀元社
本体価格　1,500円/発売中

**高田延彦VS田村潔司戦に捧げる！
コレがU最後の聖戦だ！**

最近、葛飾の自宅にほとんど帰らず“プチ家出”状態で、本誌編集部にわが家のごとく住み着いてしまった“史上最強の家出人”ターザン山本が書き上げた渾身の力作！　UWF誕生から18年という歴史の中でも、高田延彦を中心に90年代のプロレス界をシュートし続けてきたUWFインターナショナルにスポットを当て、先鋒・藤本かずまさ、次鋒・高山善廣、中堅・本誌編集長サダハルンバ谷川、副将・宮戸優光、“馬鹿大将”ターザン山本のムチャな5人の男たちが、それぞれのUインター論を熱くぶつけ合う濃厚な一冊！　5人それぞれが、様々な角度からUインターを分析していくにつれて、次から次へと湧き出てくる新事実は必見！　“U”を知るならこの本しかないですよぉ！

〈おすすめの一冊①〉

[illegible]のプロレス[illegible]　UWFインター[illegible]・[illegible]と1[illegible]

鈴木健著/エンターブレイン
本体価格　1,600円/発売中

**伝説の団体UWFインター
今ここに、その全てが暴かれる！**

高田延彦、桜庭和志、田村潔司、高山善廣、金原弘光らが、かつて所属していた団体、UWFインターナショナル。先日の「プライド23」で、このメンバーが同窓会という名のもと、東京ドームという大舞台に再び集結したのは、記憶に新しい。わずか5年11カ月の活動ながら、プロレス、格闘技ファンの間では現在「伝説の団体」として改めて注目を集めている。この本の著者である鈴木健氏は、そのUWFインターをフロント代表として陰で支えてきた張本人だ。その“平成のプロレス界の仕掛人”鈴木氏によって、「1億円トーナメント」「格闘技世界一決定戦」「新日本プロレスとの全面対抗戦」「高田VSヒクソン戦」など、プロレス界をシュートし続けてきた“最強”UWFインターの全てが今、暴かれる！

〈おすすめの一冊②〉

PRIDE [illegible]・その[illegible]

KAWADE夢ムック/河出書房新社
本体価格　714円/発売中

**「プライド」オフィシャル本で語られる
闘う男たちの本音を激白！**

本誌、サダハルンバ谷川編集長も「格闘技の未来を語る」というページで、登場しているこの本。格闘技の今を追うだけでなく、サブタイトルとしても掲げられている「その男はなぜ闘いの場を求めたのか」をテーマに、格闘技の持つ普遍的な魅力に迫った構成となっている。ここで注目したいのは、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのインタビュー。聞き手は、1999年に23歳の若さで芥川賞を受賞した平野啓一郎氏という、まさにPRIDEらしいアンビリーバボーなマッチメイク！他にも宮台真司氏や江口達也氏らの著名人が格闘技を熱く語っていたりと、豪華な顔ぶれが揃っておりPRIDEオフィシャル本の名に恥じないものとなっているので、要チェックだ！

〈おすすめの一冊③〉

「もっともわかりやすい・[illegible]」～[illegible]って[illegible]する！～

宇月田麻裕著/説話社
本体価格　1,500円/12月10日発売予定

「宿星占い」の究極本が遂に誕生！

本誌の「北斗占い」でおなじみの宇月田麻裕先生による新作著書をここで紹介。この本は宿曜にある「破壊運」についてクローズアップした初めての本だ。破壊運とは、「破壊相性の人」と関わると、思いもよらぬ「危険」が生じたり、「破壊相性の日」に何かすると、とんでもないトラブルに巻き込まれる世にも恐ろしい運を意味する。この危険を逃れるために「その人」とどう付き合えばいいか、「その日」をどう過ごせばいいかをこと細かく助言し、運気を上げる方法を具体的に宇月田先生が提案。宿曜占いをどこよりも分かりやすく、使いやすく工夫された、究極の占い本。ぜひ手元に置いておきたい一冊であることは間違いない。

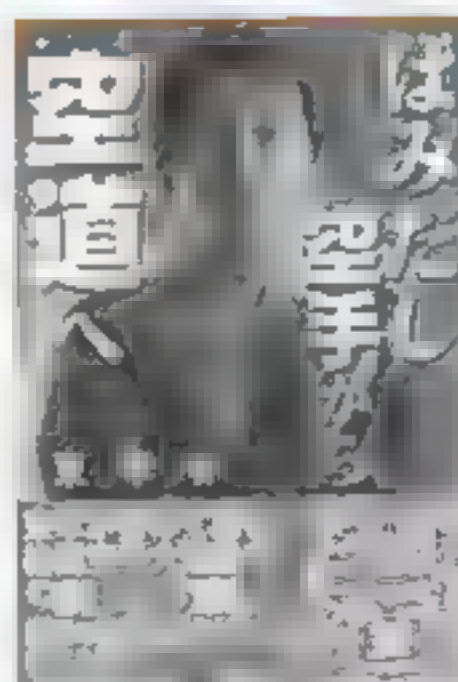
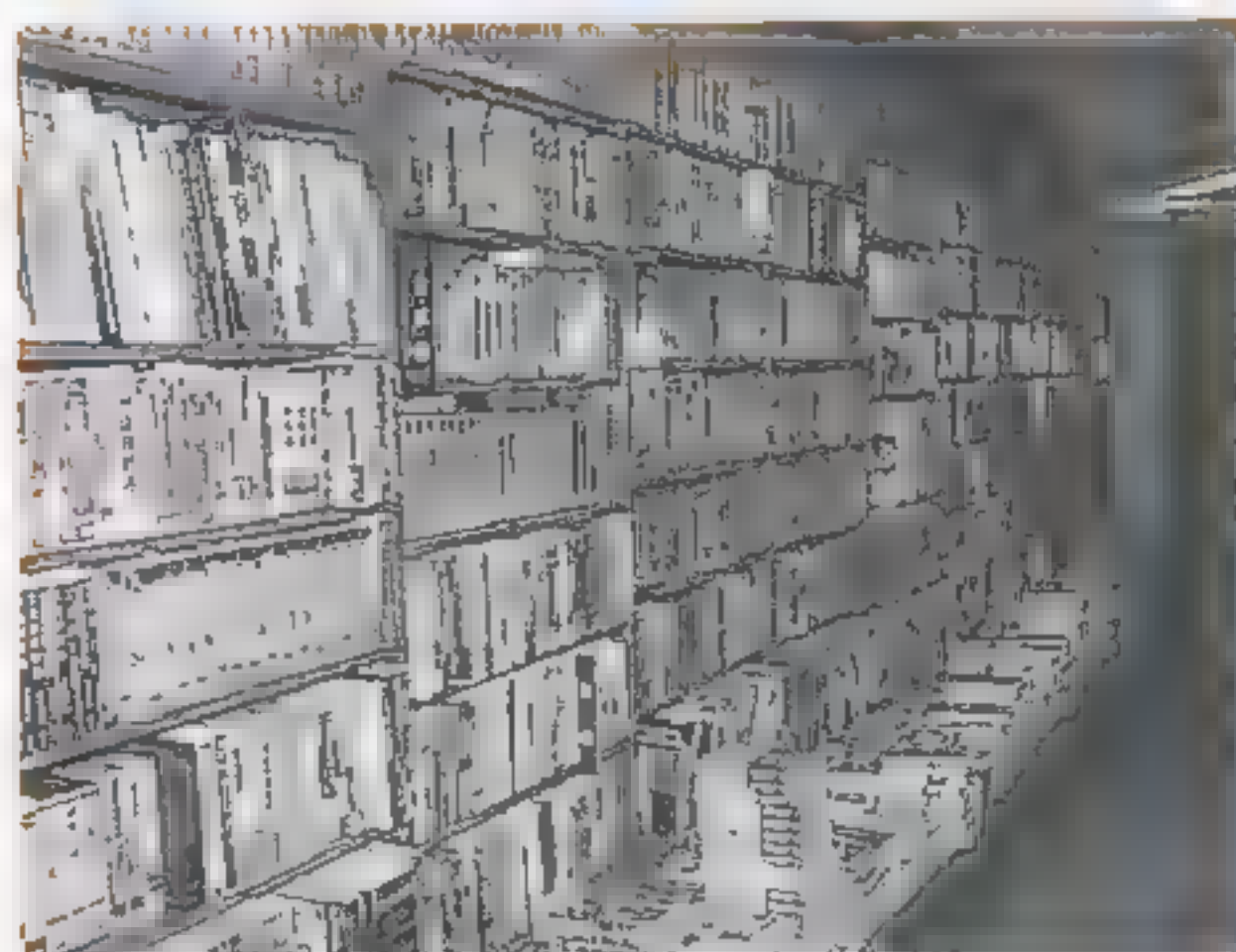
BOOK RANKING [illegible]

1. [illegible]
大山倍達著/角川書店
本体価格　438円
2. [illegible]
桜庭和志著/東邦出版
本体価格　1,400円
3. [illegible]
櫻井文夫著/BABジャパン出版局
本体価格　1,700円
4. はみだし[illegible]へ
東孝著/福昌堂
本体価格　1,600円
5. リンクの[illegible]
岸田直子著/ネコ・パブリッシング
本体価格　1,500円

4　[illegible]

以前（本誌81号）、BOOKコーナーの「おすすめの一冊」で紹介したこの本が、堂々ランクイン！　大道塾の「表」と「裏」が暴かれるだけでなく、東孝塾長が熱く語る「リーダー論」と「人の生死について」は必見！　20年の歴史が詰まった入魂の一冊を堪能せよ！

[illegible]ブックタワー

[illegible]1-11-1
[illegible]

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！　本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へＧＯ！

[illegible]ブックタワー
[illegible]

「PRIDE23、高田延彦選手の引退試合に関連して、UWFを扱った新刊本が続々入荷しております。UWFファンは歴史の再確認として、UWFを知らない格闘技ファンにはUWFの教習本としてこの機会に是非、オススメします」

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介!

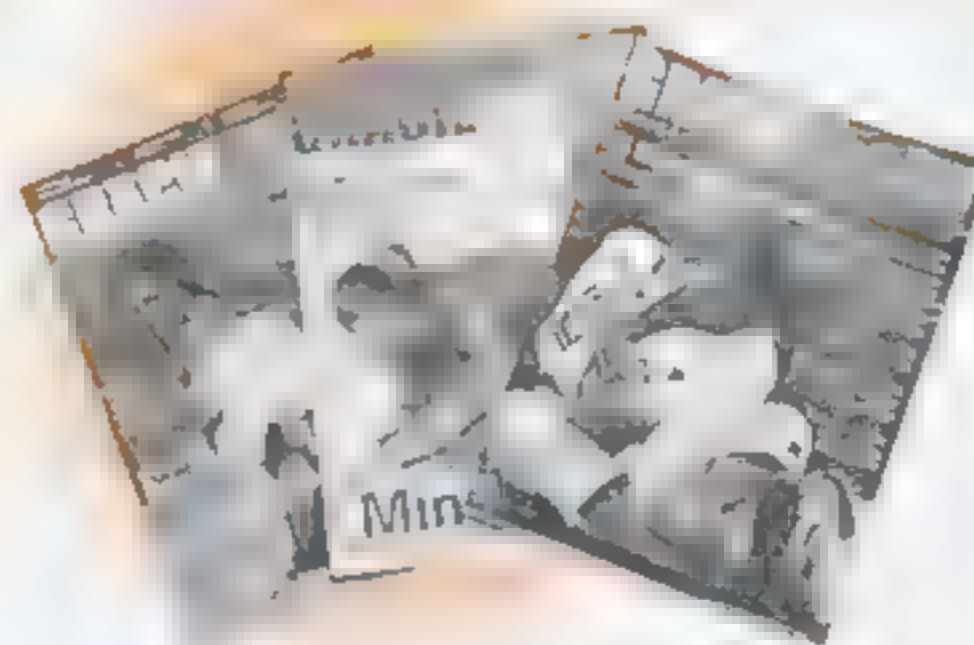
〈おすすめグッズ①〉

ホベルト・ホレッタセミナー限定Tシャツ

イサミ /2,000円(税別)

黒かキマッてる限定Tシャツ登場!

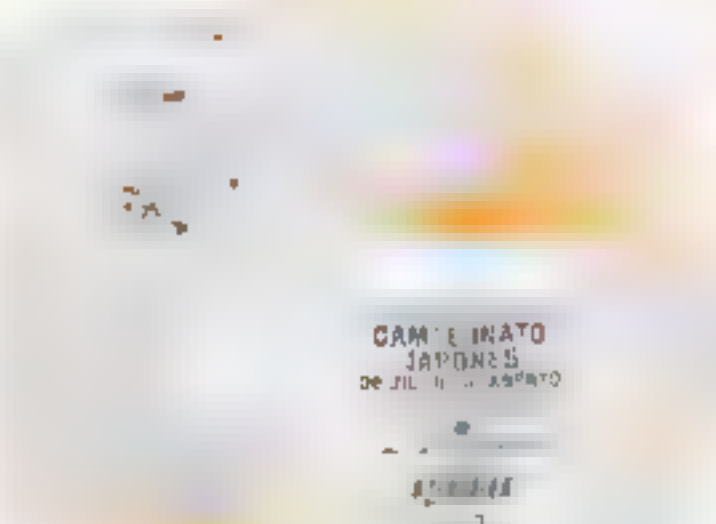
10月25日～27日に行われたホベルト・ホレッタ柔術セミナーは大盛況! セミナーに行けなかった君も、イサミに行けばこのTシャツがGET可能! とはいえ限定モノだから、急いでお店へ! (カラー 黒のみ、サイズ S、M、L、XL)

〈おすすめグッズ②〉

クレイシーマガジン

クレイシーマガジン/980円(税別)

人気格闘技雑誌か日本でも買える!

この雑誌はブラジル国内の格闘技はもちろん、修斗や「プライド」まで載っているからビックリ! 定期的に入荷しているので、バックナンバーも充実! これを読めば、ラテンの熱い血が騒ぐこと間違いナシ!

〈おすすめグッズ③〉

カンペオナート2002 Tシャツ

REVER2AL/3,000円(税別)

今イチ押しの柔術Tシャツ!

某有名デザイナーの新ブランドである、リバーサルデザインが手掛けた第1弾Tシャツは、全日本ブラジリアン柔術選手権「カンペオナート2002」を記念して作られた大会Tシャツだ! 本当にこのTシャツ、マジでカッコいいっス! (カラー 白のみ、サイズ M、L、XL)

〈プレゼント〉

東京イサミのご厚意により、おすすめグッズ①で紹介したホレッタセミナー限定Tシャツ(サイズL)を『SRS・DX』読者3名様にプレゼントします! 希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、今号の感想を明記の上、下記のあて先までご応募ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。締め切りは12月12日(当日消印有効)まで!

東京イサミ
前田道範店長

「横浜の格闘技ファンの方々、お待たせしました! 11月30日(土)横浜イサミ(JR横浜駅西口・ジョイナス南2出口から徒歩6分)がオープン! パンクラス横浜大会へおいでの際はぜひ、お立ち寄りください」

東京イサミ
東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
☎03-3352-4083
通信販売受付
☎03-3295-4450 or 0570-007800
HPアドレス http://www.isami.co.jp/
営業時間/11:00～19:00(火曜、祝日定休)

Et cetra

今年のクリスマスはアントンと一緒！「闘魂猪木塾スペシャル」IN YOKOHAMA BAY

猪木寛至がブラジルへと旅立った地・横浜港のベイサイドで、猪木塾長の特別講演会＆クリスマスパーティーを開催！　横浜港を眺めながら塾長と明日の未来を語るもよし、思いきって悩みごとを打ち明けてみるのもよし、闘魂猪木塾の貴重な国内版！　クリスマスの予定はこれで決まりダァー！

◆日時/12月21日（土）11:00～14:30
◆場所/国際コンベティションセンター「パシフィコ横浜」（JRまたは横浜市営地下鉄桜木町駅下車）
◆プログラム/第1部:猪木塾長講演会（約1時間）　第2部:猪木塾長と横浜港を眺めながらのクリスマスパーティー（約2時間・立食パーティー）※クイズまたはゲーム、質問コーナー、ツーショット写真撮影等
◆参加代金/25,800円（食事代・ドリンク込み）
◆参加特典/当日限定闘魂猪木塾Tシャツをプレゼント、猪木塾長と横浜港をバックにツーショット写真撮影
◆締め切り/11月29日（金）※定員になり次第、締め切り
◆お問い合わせ、資料請求先/近畿日本ツーリスト新宿法人旅行支店内　闘魂猪木塾事務局☎03-3341-2411 FAX03-3341-3101

名作「空手バカ一代」ファンなら泣いて喜ぶ垂涎ものの逸品が登場！

極真空手総帥・大山倍達の一代記を描いた空手マンガの原点「空手バカ一代」。梶原一騎原作による本作の全29巻のうち、第1巻～11巻の作画を担当した巨匠・つのだじろうの協力により、その貴重な原画を使用し「空手バカ一代」史上初の複製原画が実現！　完全受注生産の限定400枚と数に限りがあるので、迷っている暇はない！　欲しい人は今すぐゲットしよう！

◆商品概要/額寸　縦52cm×横43cm、画寸　縦33cm×横24cm、つのだじろう直筆サイン、エディション番号、保証書付き
◆価格/40,000円（税抜き・送料込）
◆購入方法/（株）コミックス・ウェーブの通販サイト「MZ通販倶楽部」（http://www.mangazoo.jp/）にて通信販売、極真会館のオフィシャルショップ「一撃ショップ」にて販売
◆販売元・お問い合わせ先/株式会社コミックス・ウェーブ（担当・増田）☎03-5333-9471

©/梶原一騎・つのだじろう/講談社

▲つのだじろう先生の直筆サイン入り！

PUREBRED京都で大会＆柔術セミナーを開催！

12月15日（日）にPUREBRED京都でアライブアカデミー協力のもと『柔術ワンマッチ＆グラップル修斗ワンマッチ大会』＆『梅村寛　柔術セミナー』が開催される。そこで大会＆セミナーの参加者を大募集！

◆日時/12月15日（日）11:00試合開始
◆場所/PUREBRED京都（阪急河原町駅より徒歩7分、地下鉄四条駅より徒歩6分）
◆参加費/大会、セミナー各々4,000円（大会＆セミナー両方参加の方7,000円）
◆申し込み/参加申し込み用紙に必要事項を記入の上、現金書留でPUREBRED京都まで送付。12月4日（水）必着
◆お問い合わせ/〒604-8073 京都府京都市中京区六角通柳馬場東入り大黒町72-1　アリストビル6階　PUREBRED京都☎075-254-7777

今年の冬はBCGで寒さを吹っ飛ばせ！

日に日に寒くなるにつれて、この時期一番やっかいとなるのが風邪をひくこと。こういう時こそ、BCGで体を動かして悪いウィルスを追い払おう！　ただいまBCGでは寒さを吹っ飛ばせキャンペーンを行っています。今、BCGに入会するともれなく、Tシャツ＆ステッカープレゼント！　BCG会員でも、正道空手会員でも、ちびっこ会員でもみんなOK。寒い時こそBCGでいい汗かこう！

◆お問い合わせ/BCG☎03-3560-7911　公式ホームページ http://www.bcgizm.com

パレストラ東京で柔術ビギナーズセミナーを開催！

12月7日（土）、21日（土）の両日、パレストラ東京では、柔術初心者を対象に「中井祐樹・ブラジリアン柔術ビギナーズセミナー」を開催！　柔術に興味のある人、柔術を習いたいと思っている人はぜひ、この機会を利用してセミナーに参加しよう！

◆日時/12月7日（土）、21日（土）　両日ともに13:30～15:30
◆場所/パレストラ東京（西武池袋線江古田駅より徒歩7分、都営地下鉄大江戸線新江古田駅より徒歩0分）
◆参加費/3,000円（パレストラ会員2,000円）
◆申し込み/まず電話で予約を入れてください。定員予定30名で集まり次第、締め切りとさせていただきます。参加費は当日払いとなります。
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

チャンバーズ東京にパレストラ中延がオープン！

阿部裕幸率いるジム、チャンバーズ東京に新たに柔術クラス・パレストラ中延がオープンしたのを記念して、オープンキャンペーン実施中！　年内いっぱい通常10,000円の入会金がナント無料！　さらに、AACCクラスで好評を博していた港太郎の指導によるキックボクシングクラス「港太郎キック塾」が11月よりリニューアルオープン！　12月までスペシャルキャンペーンを行っており、こちらも入会金無料！　この太っ腹なキャンペーン期間も残りわずか、今すぐチャンバーズ東京にレッツゴー！

◆場所/チャンバーズ東京　東京都品川区中延4-6-16 B1（都営浅草線、東急大井線中延駅より徒歩30秒）
◆入会金/10,000円（キャンペーン期間中は無料）
◆月会費/パレストラ（一般）10,000円　（女性）8,000円、キック塾8,000円　※他のスクーリングには1回500円で組み合わせ自由
◆練習時間/パレストラ　毎週月曜日19:00～20:30・水曜日20:45～22:15、キック塾　毎週火曜日19:00～20:30・金曜日20:30～22:00
◆申し込み、お問い合わせ/チャンバーズ東京☎03-5751-7833、公式ホームページ　http://www.chambers-tokyo.com

日本一は誰だ!?　組み技自慢は全員集合！

12月15日（日）、修斗グラップリングルールによる初のオープントーナメントが開催される。協会への選手登録不要など、参加資格にあまり厳しい設定を設けず、プロ、アマチュア混合で行われるこの大会。明確なポイント制を採用し、ブラジリアン柔術ルールの長所を修斗なりに消化したルールということで、国内版アブダビ・コンバットと言っても過言ではない。申し込み期限は、本当にあと残りわずか。腕におぼえのある人は、今すぐ大会にエントリーしよう！　初代王者の君が歴史の扉を開く！

◆日時/12月15日（日）10.30試合開始
◆場所/ゴールドジムサウス東京ANNEX（JR大森駅西口より徒歩30秒）
◆内容/日本修斗協会の修斗グラップリングルールに則った、男女別・階級別のトーナメント
◆出場資格/18歳以上の感染症のない健康優良な男女　※ただし20歳未満の者は保護者のサインが必要となります。またプロライセンス所有者の出場も可能。
◆参加費/試合出場のみ5,000円（一般）　日本修斗協会加盟クラブ所属選手4,000円　※大会保険料も含む
◆応募方法/出場希望者は、参加申込書に必要事項を全て記入、押印、写真貼付し、参加費同封の上、現金書留で下記大会事務局まで送付。また期日が迫っている場合は、まず電話でお問い合せください。
◆締め切り/11月30日（土）　必着
◆申し込み・お問い合わせ/〒176-0012　東京都練馬区豊玉北1-6-13カエサル江古田B1-101パレストラ内　日本修斗協会　グラップリングオープン大会事務局☎03-5912-6455

パンクラスのフロントスタッフを大募集！

（株）ワールドパンクラスクリエイトでは、フロントスタッフを募集中。詳細は下記のとおり。

◆仕事内容/総理・総務
◆採用人員/若干名
◆勤務地/南麻布（最寄り駅・営団地下鉄日比谷線広尾駅）
◆勤務時間/11:00～20:00
◆休日/土曜日、日曜日、祝祭日（興行、イベント等により出勤の場合あり）
◆給与/当社規定による
◆待遇/社会保険完備、交通費支給
◆条件/18歳以上の方、即勤務可能な方、エクセル、ワードを使える方、TKCシステム経験者優遇
◆応募方法/履歴書（顔写真貼付）と職務経歴書（書式自由）を下記あて先へ郵送。※書類選考合格の方へは通知あり。
◆申し込み先/〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25　（株）ワールドパンクラスクリエイト「フロントスタッフ募集」係
◆お問い合わせ/（株）ワールドパンクラスクリエイト☎03-5792-0815

11.30パンクラス横浜大会の大会ポスターをプレゼント！

目前に迫った、11.30パンクラス横浜大会。やはり気になるのは、メインの鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー戦であることは言うまでもない。というわけで、この2人が大きく載っている大会ポスターを『SRS・DX』読者3名様にプレゼント！　希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、11.30横浜大会の感想を明記の上、下記のあて先までご応募ください。締め切りは12月12日（木）消印有効。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆あて先/〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12　神田NSビル8階　SRS・DX編集部『みのるとライガー』係

▲男と男の"拳の再会"はもうスグ！

宇月田麻裕の

北斗占い

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	1959	1958	1957	1956	1955	1954
1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1971	1970	1969	1968	1967	1978
1972	1973	1974	1975	1976	1977	
1984	1983	1982	1981	1980	1979	
	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1996	1995	1994	1993	1992	1991	

11/28~12/11

破軍星

全体運

リーダーシップを発揮できる時。職場であなたが提案した企画を推進したり、トレーニングの場で皆を引っ張ったりと活躍の暗示。さらに自分自身の能力を高めるならば「坂本竜馬」など、歴史上の人物の人生哲学を学ぶとグッド。

恋愛運

恋愛に関しては強引さが裏目に出る暗示。たまには優しい言葉をかけてあげないと彼女は離れていきそう。フリーはスポーツを通じて出会いがありそう。

勝負運 あれこれ考えずマイペースを貫くとグッド。

健康運 絶好調なのでちょっと無理しても大丈夫。

金運 クリスマスプレゼントは余裕のある今のうち。

★ラッキーカラー★ グレー

★ラッキーアイテム★ 讃岐うどん

★ラッキースポット★ 郵便局

武曲星

全体運

徐々に運気はアップしてくるものの、焦って行動を起こすと人間関係でつまずく可能性あり。あなたの出番が来た時に、効果的に対応できるよう今は周囲の状況をよく観察しておいて。アフター5は一人で考える時間を増やすと吉。

恋愛運

「彼女が浮気してるみたい」そんな噂を耳にしそう。でも直接問いただすのはNG。彼女を信頼して今までどおり接すれば危機は乗り越えられるハズ。

勝負運 最後まで粘り強く闘うことを心掛けて。

健康運 少しでも異常を感じたら病院で検診を。

金運 ついつい新しい趣味に投資してしまい散財。

★ラッキーカラー★ ブルー

★ラッキーアイテム★ 腕時計

★ラッキースポット★ 映画館

廉貞星

全体運

ちょっと最近、イライラ気味では？ 実力不足を棚に上げて、結果が残せないのを人のせいにしていると味方がいなくなりそう。日々のたゆまぬ努力でスキルアップするのが一番の近道。自信がつけば自然に精神も安定するハズ。

恋愛運

年末で忙しくなりデートもままならない状況が。でも彼女とマメに連絡を取り合わないと浮気の心配があり。フリーの出会いはファッションがキメ手。

勝負運 調子は下降気味なので引き際を見極めて。

健康運 疲れたら水泳で全身をリラックスさせよう。

金運 ボーナスもお給料もひたすら貯金が吉。

★ラッキーカラー★ レッド

★ラッキーアイテム★ メール

★ラッキースポット★ デパート

文曲星

全体運

物事が順調に進展する時。日頃の努力が実り、仕事やスポーツで今年の目標が達成できそう。人間関係では、あなたを中心に人の輪が広がる予感。普段は遠慮しがちのパーティにもどんどん参加して、名刺を配りまくってみては？

恋愛運

積極的に動いてOK。ターゲットが見つかったら迷わずアプローチ。覚悟を決めて臨むのなら略奪愛も可能性あり。カップルはアウトドアのデートがグッド。

勝負運 研究して一点勝負に賭けると勝利の予感。

健康運 ウェイト維持には食事制限が効果あり。

金運 好調なだけに使い過ぎには十分注意して。

★ラッキーカラー★ ゴールド

★ラッキーアイテム★ サプリメント

★ラッキースポット★ 駅

禄存星

全体運

[illegible]が輝いています。誰に対しても誠実な態度で接するあなたに、周囲の評価は急上昇。上司の抜擢でやりがいのある大きな仕事も任されるかも。また信頼できる人脈を築ける時なので、それを生かしたサイドビジネスを始めても○。

恋愛運

突然、恋が始まりそうな予感。友人からの紹介に縁がある時なので、合コンにはどんどん参加して。カップルはハートのあるエッチで絆が深まりそう。

勝負運 冷静な状況判断が勝利を呼ぶカギに。

健康運 栄養のバランスが取れた食事で体力UP。

金運 資格を活かしていくと臨時収入がありそう。

★ラッキーカラー★ ラベンダー

★ラッキーアイテム★ CD

★ラッキースポット★ 人の多く集まる場所

巨門星

全体運

低迷期から脱出できそうです。そのカギとなるのはプライドを捨てること。職場やスポーツジムでは、先輩が親切にアドバイスをくれたら、素直に受け入れてみよう。また、イヤな上司にはあなたから心を開いて近付いていくと○。

恋愛運

出会いのチャンスが多い割には本命を見つけにくい時。一人の女性を追いかけるより、今は恋愛映画でも参考にして女性を見る目を養ったほうがいいかも。

勝負運 大切な人のために闘うと勝利を掴めそう。

健康運 忙しくても十分な睡眠時間を確保して。

金運 努力が評価され臨時収入の期待!?

★ラッキーカラー★ ホワイト

★ラッキーアイテム★ パーティーグッズ

★ラッキースポット★ 寿司屋

貪狼星

全体運

凶兆星が現れます。仕事や交友関係でトラブルが続出。素早く対応しておかないと後で取り返しのつかないことに。携帯電話をフルに使ってフォローすると○。ストレスがたまった時は早朝のトレーニングで汗を流すと解消できそう。

恋愛運

カップルは別れの危機。会わないと不安、会えばケンカ……。ただし、温泉旅行に行くと関係修復の可能性あり。フリーはしばらくは待ちの姿勢になりそう。

勝負運 勝つためには事前準備を念入りにして。

健康運 体力過信で無理を続けると大ケガの暗示。

金運 通帳の管理がずさんだと後半大ピンチに。

★ラッキーカラー★ グリーン

★ラッキーアイテム★ マップ

★ラッキースポット★ 喫茶店

Burning JAPAN

詳しくは当社ホームページへ http://www.kakutoo.com

取扱カード/デビットカード、郵貯カード、JCB、VISA、Master、Orico、メゾン、OMC、KYODO、KCMYCAL ご注文時にお申し出下さい。

■B43BC ※子バックは別売です
新型ダミーバッグ
¥22,800 爆安価格!

さらに強くなりたい人には
ダミーバック専用 子バック
¥1,800

■BK-300(WHITE)

フルコンタクト空手衣

BK-300(白)

身長	価格
120~	
130~	¥4,200
140~	
150~	¥4,600
160~	
165~	¥4,900
175~	
180~	¥5,500
185~	

¥3,500
素材/綿100% 上衣/綿11号帆布(格外防縮 抗菌加工) ズボン 晒黒綾 白帯付

■BT-N300B(KURO)

テコンドー衣

BT-N300B(黒衿)

身長 cm	セット価格
120~	¥3,900
130~	¥3,900
140~	¥4,500
150~	¥4,500
160~	¥5,100
170~	¥5,100
180~	¥5,900
190~	¥5,900

¥3,200
※帯は別売です。
※帯も取扱っています。

■BS 2000
パンチングボールスタンド
素材/PVC
¥8,800

IDM TAEKWONDO

■IDM201 ヘッドガード サイズ/S・M・L ¥4,800
■IDM301 ボディプロテクター サイズ/S・M・L ¥5,800
■IDM401 DIPアームガード サイズ/S・M・L ¥3,400
■IDM601 ファールカップ ¥3,200
■IDM501 DIPレッグガード サイズ/S・M・L ¥3,400
■IDM701 テコンドーシューズ サイズ/24.5cm~28cm ¥6,200

VOLUME LIMITED ITEM 数量限定アイテム

残りわずか! オーダーはお早めに!
こちらの商品につき表示価格より
全品20%OFF!!

■BS 3000
パンチングボールスタンド
定価17,200円を
¥15,500

■BJ-200/BJ-100

柔道着 学校正課用

工場直販、コスト削減で
アディダス社の柔道衣・空手衣の指定工場としての実績とすぐれた品質管理のもと、学校正課用 道場練習用として開発した柔道着です。

身長(cm)	セット価格 BJ 200
120~	¥3,500
130~	¥3,800
140~	¥4,000
150~	¥4,400
160~	¥4,900
170~	¥5,200
180~	¥5,700

残りわずか! BJ-100(アイボリー) ¥3,100

■B116 プロタイプパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥4,800
■B119 指出しパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥2,800

■IDM302 ボディプロテクター サイズ/XS・S・M・L ¥8,800
■B257 インステップレッグガード サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥3,800

■BX200 本革製ボクシングシューズ サイズ/24.5cm~28cm ¥8,800
■BX400 ショートタイプリングシューズ サイズ/24.5cm~28cm ¥7,200

トルソーマックス ¥4,800

■B411 ウエイトリストアンクル 定価1,000円 (1コ)¥900

■B412 ウエイトリストアンクル (1コ)¥1,100

■B155 パーフェクトレッグガード サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥5,200

■BP-L100 レッグプロテクター ¥2,300

■G519 フォアアームマスター (1コ)¥3,200

■G919 レッグストロング (1コ)¥5,500

■B140 ボディプロテクター ¥7,800

■B291JR DIPボディプロテクター ¥6,000

■B465P ターゲットミット(シングル) ¥2,400
■B464P ターゲットミット(ダブル) ¥2,900
■B671 新型ターゲットミット(PU一体型) ¥3,500
ヘッドバンド ¥780
ブルース・リーワッペン ¥750

ブルース・リーポスター 1枚 ¥980 / 7枚セット ¥5,800

木刀 ¥2,800

■BX100 メッシュタイプボクシングシューズ サイズ/24.5cm~28cm カラー/黒・赤 ¥6,900

■BX300 ショートタイプトレーニングシューズ サイズ/24.5cm~28cm ¥5,800

■BP-B100 アンクルスーツ サイズ/M・L カラー/黒・赤 ¥2,800

■B212 LEATHER トレーニングロープ 定価2,500円が ¥1,800

■G112 PVCレッグストレッチャー ¥2,800

■B302A マウスピース (ダブル)¥1,200

■KM200 キックミット 素材/レザー ¥5,800
■PM100 パンチングミット (片手) ¥2,000

ビッグミット サイズ/56X79X13cm ¥5,800

ビッグミット サイズ/66X36X10cm ¥3,800

■BP-G100 DIPパンチンググローブ サイズ/M・L カラー/黒 ¥2,800

■B352 サポーターレッグガード サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,800
■B354 ニーサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン 定価1,500円が ¥1,000
■PM200 パンチングミット (左右一組) ¥5,800
■B312 ナックルサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,200
■B317 アームガード付ナックルサポーター サイズ/S・M・L 素材/コットン ¥1,800

世界テコンドー連盟公式用品 日本総代理店
Burning JAPAN
http://www.kakutoo.com

●お支払い方法
代金/ 代金は商品到着時 配達人にお渡し下さい。その際、送料 代引手数料が加算されています。
分割/ 合計¥30,000よりご利用できます。詳しくは、お問い合せ下さい。

■カタログ請求、交換・返品も上記住所まで。
■代理店システムもございます。
★受付/AM9:00~PM8:00 FAX24時間受付★

今、我々に何が必要かといったら「哲学する」ことである。これは何も「認識論」「倫理学」「存在論」などの学問を学ぶことだけをさしているのではない。

簡単に言ってしまうと「いかに生きるべきか？」と「いかに死ぬべきか？」の二つを、真剣に考えることが哲学なのだ。

これだったら誰にでもできるはずである。では「いかに生きるべきか？」と「いかに死ぬべきか？」では、どちらが重要なのか？

もちろん後者である。死という絶対的事実から逆算して、生きることは何かを考える。

老後のことなんか考えるな。ぐだぐだ心配するな。案ずるな。それより老後の先にある決定的な死について考えるんだよ。

そこから自分の人生を再構築しなおすしかないだろう。そのことに早く気が付くべきなんだよ。

そのためには「死とは何なのか？」を、はっきりさせておく必要がある。死とは自分の存在がこの世から消え去っても、この世界は依然として存在し続けている。

それが死の定義である。この事実を知ってあせらない人間は、アホと言うしかない。べつにあせる必要はないが、少なくとも少しは「哲学してみよう」というぐらいの気持ちには、なるはずである。

それをいうならたとえ人類が滅んだとしても地球は、その運動をやめない。存在し続けている。同時に太陽系もびくともしない。

そう考えた時、初めて生命の意味というか、生きることの意味がおのずと見えてくる。生命そのものがつまり旅人なのだ。それもリレー方式。バトンタッチによって旅は、過去から未来へとつながっていくという仕組みである。

バトンを受け取った幸福感とそのラッキーに感謝しろ。それなくしてお前は存在し得なかったからだ。ここから先は話が飛躍する。

格闘技の魅力は勝負論にある。他のジャンル、たとえば野球やサッカーの試合を勝負論という言い方はしない。アマレスや柔道においてもそれは同じだ。

あくまでそれは試合であって勝負論ではない。では、なぜ格闘技では勝負論という言い方が、されてしまうのか？　そこでは試合の結果が単にスポーツ的な勝ち負けだけに終わらず、選手にとってはもっと身につまされる何かを与えてしまう。あるいは選手がそれを自然と感じてしまう。

もしかして試合に負けることは本当は、自分の死を意味しているのではないだろうか？　そう思ってしまうことの過剰性こそが、格闘技のアイデンティティなのだ。

そうでなかったら格闘技なんてまったく見る必要はない。プロレスとの差別化はそこにある。

男という生きものは試合で負けることによって、自分の死を疑似体験したいと思っている。潜在意識の中にそれが必ずあるはずなのだ。よって格闘技は実をいうと勝利よりも、本当は敗北のほうがキーワードになっているのだ。

なぜなら敗北が死を意味するとしたら、そこから再生というサイクルが生まれてくるからだ。格闘技は身につまされて見よ。それは観客にとって贅沢な負のエンターテインメントでもあるのだ。■

～お客様は神様です～

あぶもぐ

五月場所

5日目

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎小松モグタン

人の記憶を一掃してしまうようなこの寝顔!

雑誌と平行して、地獄のようなスケジュールで作ったサップ本。これを買わない奴はビーストに食い殺してもらうぞ！

高田引退記念！

（本橋秀直・東京都羽村市・15歳）

（ペン獣やざま優作・東京都小平市・30歳）

（小岩幹宝・埼玉県さいたま市・31歳）

祝！ WRESTLE－1成功！

（小川徹・埼玉県八潮市・17歳）

（本橋秀直・東京都羽村市・15歳）

W 「W－1」出場選手も超豪華だったが、スカパーのターザン&浅草キッドの解説のほうがもっと凄かったーッ!! 特にガイコツマスク（バルカ）の玉袋と博士の解説がガァッハッハハハハーッ！ 試合前、対戦カードが発表された時の期待と緊張感を一発で吹っ飛ばしてくれたーッ!! 格闘技を見すぎて若干マヒしつつも、普通のプロレスには飽き飽きしている私にとって、「W－1」の内容はとても新鮮で、ターザン&浅草キッドの組み合わせもとってもベターだった!! ブッチャーから始まり、サップで締めくくるというプロセスも良かった!! ドス・カラス、サム・グレカラスもジーンときた。これなら、昔からのプロレスファンも満足できる。「W－1」を一言で言うなら、「オール・イン・ワン」。プロレスの良さを全てひとつにまとめたところが凄い!! 今まで日本にはなかった発想である。

（ハシボソカラス池田・東京都・？歳）

◆ターザンとキッドの組み合わせはベストじゃなくてベターなのか？ 誰と誰を組み合わせたら、ベストになるんだ！

「浅草キッド様」

ガ ッハッハハハッ!! 「W－1」の試合より浅草キッド殿の解説のほうが最高たったぜッ、博士、玉袋殿!! 変なガイコツマスク（バルカ）がコーナーのトップロープから飛び降りようとした時、失敗してロープが引っかかってしまい、落っこちてしまい、博士（玉袋殿？）らしき声で「何だ、今の!!」と聞いた瞬間、私は今年最高の笑いをしてしまった!! そのあと「難易度高い！」「カキンって音がした」でトドメを刺されたーッ！ 2002年11月17日、浅草キッドが大槻ケンヂを超えた日であったーッ！（ここでタイガーマスクのテーマ曲～白いマットの～ジャーングルに～）。行け行けッ、浅草サアップーッ！

（池田・東京都杉並区・？歳）

◆笑いすぎだ、コノヤロウー 同じ様なハガキをキッドにも送ろうとしてたのか？ でも、なんで博士は呼び捨てで玉ちゃんは「殿」付きなの？

「ターザン山本殿」

タ ーザン殿!! 映画『2001年宇宙の旅』（ボブ・サップの入場曲）のゴリラが初めて武器を使うシーンで、骨を放り投げるとその骨が宇宙船に変わるシーンがあるのですが、まさにこの原始時代から未来になるシーンが、「W－1」のブッチャーから始まりサップで締めくくるシーンとダブって私には見えました!! 私は全日のブッチャー登場から見てきましたが、あのフッチャー登場の衝撃と現在のサップ出現がそっくりなのです。今回の「W－1」をマッチメイクした人が「2001年宇宙の旅」を知ってか知らないかは分かりませんが、過去から未来へのプロレスの進化を体感させていただきました。「W－1」でのターザン殿の解説は最高!! ターザンは谷川さんを超えたーッ！

（池田恭・東京都・38歳）

◆コノヤロウ！ 同じ様な内容のハガキを3枚も送ってきやがって！ 「ターザンは谷川さんを超えたーッ！」っていうのをターザンが見て、ショックを受けてたぞ！

ボ ブ・サップは元アメフトだそうですが、よく考えたらゴールドバーグもベイダーもハンセンもブロディも元アメフトだ。と言うことは、最強はアメフト？

（安倍正典・北海道札幌市・30歳）

◆サダハルンバ編集長もアメフト出身ですよ。

タ ーザンの編集後記は面白い。俺も鍋が食べたい。

（青戸渉・鳥取県米子市・28歳）

◆ターザンの指に止まる気か！

今 回のプロレス裏座談会はてっきり「坂田亘の前妻」がテーマかと思っていたのですがハズれてしまいました。次回は「なぜゴングは長州力新団体をスクープできたのか」だと予想します。

（春名義行・兵庫県明石市・36歳）

◆今回の裏座談会のテーマはミスター高橋本第2弾の真相。ターザンに火が点いていたぞー

プ ロレス版裏覆面座談会が面白いです。プロレス専門誌が死ぬような内容。プロレスは格闘技の一部であったか？ プロレス無視の格闘技誌中心の中で貴誌は別のエリアへ昇華してしまった。プロレスはやはり凄い。

（新井雅文・和歌山県和歌山市・42歳）

◆別のエリアってどこだ！ いったい、どこに昇華してしまったんだ！

プロレス版

覆面 裏座談会

第2回 ミスター高橋本第2弾出版の真相をぶった斬る!

X おい、今回のテーマはなんだと思う? オレはもう〝あれ〟に決まっていると思うんだけどなあ。

Y 何? その〝あれ〟って? どうせ『W-1』のことだろう?

Z 『W-1』ってなんだか論争になっていないんだよ。それって意外だったよなあ。インパクトなかったのかなあ。

Y 違うよ。『W-1』をどう、捉えていいのか、つかみづらかったんだよ。

X 何言ってんだよ。俺が言いたいのは、ミスター高橋がまた本を書いたということだよ。ほら、月曜日の内外タイムスの1面トップで出ていただろう。

Y ああ、あのことか?

Z スクープみたいに書いていたけどあれは、本を出す出版社側か、そうでなかったらミスター高橋と内外タイムスの出来レースだよ。

Y 出来レース?

Z まさか、東スポ(東京スポーツ新聞)でミスター高橋の本を紹介するわけにはいかないだろう?

Y それで内外タイムスのほうに行ったというわけか。

X そんなことはどうでもいい。まだミスター高橋は生きていたんだよ。その事実のほうが大きいんだよ。

Y 生きていたっていうけど、第一作(『最強の演技、流血の魔術』)があんなに売れたら、そりゃあ、出版社がほっとかないよ。儲けりゃ、なんだっていいんだからさあ。

Z じゃあ、最初に出した講談社?

Y どうなんだろう。内外タイムスにはそこの部分は、はっきり書いていないんだよ。でもさあ、2日連続、月曜日(11月18日)と火曜日(同19日)に2回、高橋の本の宣伝をするかあ。

Z たかが夕刊紙だからべつにそれでいいじゃないの?

Y 内外タイムスってプロレス団体を取材していない?

X してるよ。そうなると「ノア」とかさあ、どう出るんだろう。「あんたのところはミスター高橋の本を、あんなに1面で大きく取り上げたので、今後しばらく取材はお断りします」とかなんとか、やってもらいたいねえ。

Y そうだ、そうだよ。それぐらいの強い姿勢で出てほしいなあ。

Z それにしてもイヤな時に本を出してくれるよな。高橋の暴露本、第二弾は11・24『プライド23』東京ドーム大会にあわせて出るんだろう?

Y せっかくさあ、高田VS田村戦でUのファンが、ウェットな気分でドームに行こうとしているのに、まったく冷や水をぶっかけられたような気分だ。いったいどうしてくれるんだと言いたくなる。

Z 高田延彦関係とかUWF関係の本が同時に何冊も書店に並んでいる時、そこにミスター高橋の『マッチメイカー』が出たら、これはお手上げだぞ、最強のウイルスが出現したようなもの。それに勝てる抗生物質ってマット界には、ないでしょう? ある?

Y はっきり言ってないね。あるわけないと思うよ。前回、同様に見て見ぬふりをするか、そうでなかったら完全無視という逃げに出るだろうなあ。

Z 黙殺というヤツ。

X それってなんの効果もないよ。自己満足にも劣る行為。あれってさあ、プロレス専門誌って免疫力がないよなあ。ウイルスに無抵抗だもん。

Y そんなの初めから抵抗力、あるわけないじゃん。彼らはプロレス村で純粋培養されて育ってきているんだから。

Z そりゃそうだ。そういった意味ではプロレス村は、ウイルスに犯されていない無菌状態の美しい村なんだよ。

Y それは認めなきゃいけないかも。

X そんなところで変に納得なんかするな。それよりも、高橋がオレはプロレス界をよくするためにやっているんだという彼なりに大義名分を掲げていることなんだよ。あそこがまったく嘘くさい。

Z 嘘くさい?

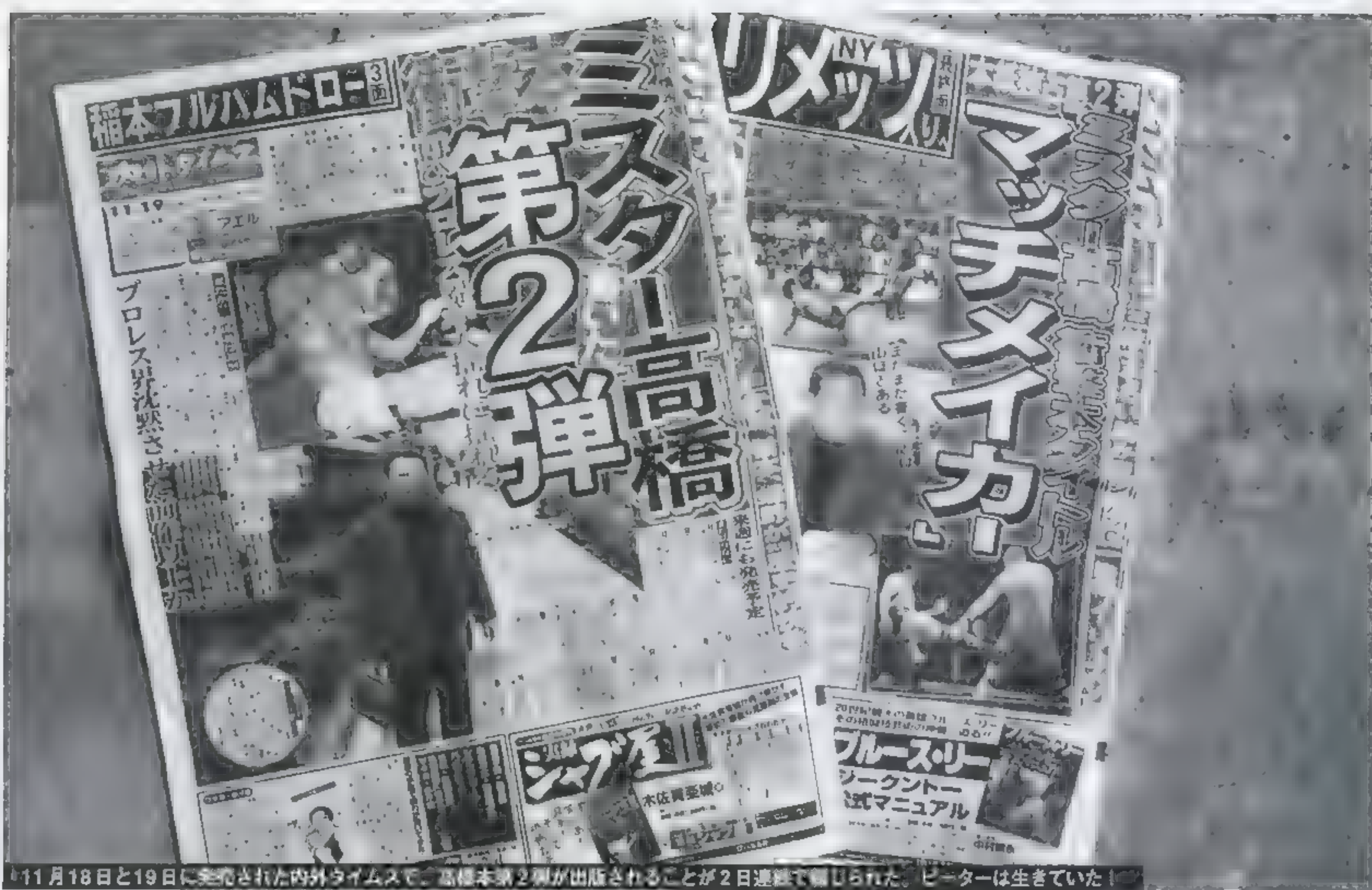
X そう、まるで嘘くさいよ。プロレス村は村でさあ、ミスター高橋の本でさんざん迷惑しているんだからさあ、彼らからすると、「余計なおせっかいだ。ほっといてくれ。お前にそんなこと言われたくない!」とそう思っているはず。本当に冗談じゃないよ。プロレス界をよくしたいと思うんだったら、プロレス界のど真ん中にいて、その中でやれ。やってみろと言いたい、外野席からだったら誰だって言えるよ。バカらしい。

Y それにさあ、プロレスはカミングアウトしろ。カミングアウトしたらプロレスは楽になる、よくなるという論理だろう? あれもおかしいよね。

Z カミングアウトって「げろしろ!」ってことだろう。げろなんか死んでもするもんじゃない。なんでお前のためにげろする必要があるんだよ。げろっていうのはさあ、自分が自分に対してするもんなんだから。

X そっちもたまにはいいこと言うなあ。今回の名言に入れとくからな。

まだミスター高橋は生きていたんだよ。その事実のほうが大きいんだよ

11月18日と19日に発売された内外タイムスで、高橋本第2弾が出版されることが2日連続で報じられた。ピーターは生きていた！

Z　たまには、はないだろう。

X　とにかくさあ、発売されたら俺は一気に読むぜ。それから対策を練る。ミスター高橋が今度はどういう手に出たのかヤツの魂胆を探らないとな。

Y　えらく燃えてるなあ。熱いねえ。

X　オイ、オイ、お前らこれを人ごとだと思っているんだろう。それがお前らのダメなところなんだよ。降りかかる火の粉は即、払うんだよ。

Y　それが常在戦場ってヤツですか？　でもミスター高橋はまだまだ書くことはいっぱいあるって、言ってるそうじゃないですか？

X　そうなったら神経戦に持ち込むかそうでなかったら、徹底的なダメージを一度に与えるか、どちらかだ。

Z　高橋の話はそれくらいにして、長州問題はどうなの？　谷津嘉章がWJプロレスに入団したんだって？

X　あれにはびっくりしたなあ。谷津さんってどっかのマスコミに、長州さんのことボロカスに言ってなかったっけ？

Y　それより2人あわせて96歳になるんじゃないか？　若い人が入団するのは分かるよ。何か変だよ。

Z　それでいったい、横浜アリーナで何をやらかそうというんだよ。新日本プロレスが武藤の全日本プロレス、橋本の「ZERO−ONE」、長州のWJプロレスと四つになっただけじゃないかよ。

X　そうなったらさあ、チケット代のほうも4分の1に値下げしてほしいよな。

Y　それよりお互い四つに分かれて、共倒れするのが落ちだよ。こりゃプロレス界はひどすぎる。ますますもってプアーになっていくだけだ。あんたたち今の時代に何をやっているんだと言いたいよ。

Z　そうなんだよな。武藤だって社長になったのはいいが、自分が部下や配下のレスラーに、お金を払う側になったらそりゃ大変だよ。入ってくるものと出ていくものを見たら、出ていくお金のほうが、圧倒的に多いんだから。

Y　馬場さん（G・馬場）も「プロレス団体の社長にだけはなるもんじゃない」と、何度も言っていたそうじゃないか？

X　あの言葉ほど真実味のある言葉はなかったね。もう一つは「トシだけは取りたくない」だよ。

Y　社長になるっていうことは、プロレス団体では貧乏くじを引くのと同じ。もっというなら〝ババ〟（糞または尿のこと）をつかんだのと同じだよ。

X　長州のところには佐々木健介が入って、天龍源一郎が協力するんだろう。

Z　それはムチャだよ。3・1横浜アリーナの大会名は「MAGMA01」っていうんだって。どこがマグマなんだよ出涸らしじゃないか？

Y　まあ、どうせウチとかさあ「紙のプロレス」には、記者会見のFAXは送ってこないので、好き勝手なことを言ってもいいんだよ。言うしかないよ。

X　そういうことになるな。やらない前から〝取材拒否〟されているんだから。

Z　魚心あれば水心ありの反対だな。

X　3月1日はまだ先のことだし。■

"谷間"の北斗旗、大爆発！

でも、あえて課題を言うなら……

藤松泰通、グランドスラム達成！

▲今大会を盛り上げた立役者たち　左から藤松泰通（優勝）、清水和磨（準優勝）、アレキサンダー・R・ロバーツ（3位）、寺本正之（4位）

撮影　吉澤晃

▲試合後、健闘を称え合う藤松と清水。2人は総本部の内弟子として先輩、後輩の関係。藤松にとっては"先輩越え"を果たしたことになる

▲激闘を制したのは、藤松の腕ひしぎ脚固め（ケサ固めの体勢でヒジを極める）　藤松は世界大会、全日本体力別、THE　WARS勝利に続いて、この全日本無差別も制し、大道塾におけるグランドスラムを達成した

▶決勝戦では世界大会の重量級も制している藤松と、今年春の全日本体力別大会・重量級優勝の清水が対戦。決勝らしく、レベルの高い打ち合いが続く

★決勝戦
○藤松泰通（延長一本勝ち）清水和磨●
〈総本部〉　〈上田同好会〉
※腕ひしぎ脚固め

はっきり言ってしまえば、今回の北斗旗無差別はこの数年間で最も期待度の低いものだったと思う。

昨年の世界大会終了後、それまでの主力選手の多くが抜け、といって時代を担うべき選手たちは、まだまだ成長過程。今の大道塾は"谷間"の状態にあるわけだ。

藤松泰通という、世界大会でも優勝した22歳の頼れるエースはいるものの、逆に藤松一人が独走してしまってもトーナメントの盛り上がりに欠けることになる。大会が盛り上がるために必要なのは、藤松のライバルとなる存在だった。そして現れたのだ、そんな選手が。

清水和磨。総本部の内弟子出身で藤松の先輩に当たるこの男が、大会成功の功労者となった。今年春の体力別大会重量級を制して名を上げた清水。そのことで自信を付けたのか、今大会でも「こんなにいい選手だったっけ？」と言いたくなるほどの快進撃を見せた。

特に凄かったのが2回戦だ。なんと開始直後からパンチ連打で『効果』、続く右ストレートで『技あり』を奪い、さらにもう一発、右をヒットさせて今度は『有効』。ついには対戦相手が試合続行不可能と見て、主審判断による一本勝ちとなった。ようは"ボッコボコに殴って、見かねたレフェリーがやめさせた"ということである。

それからもう一人、大会を熱くさ

エースの活躍、ライバルの台頭、そして外敵の脅威 盛り上がる要素が全て揃った!

藤松のコメント

「最初は体が動かなくて、途中でやめたいなってくらいの気分だったんですけど。でも気付いたら余裕が出てきて"ああ、大丈夫だ"と。さすがに決勝は疲れてて。もっと打ち合いたかったんですけど（今後は）今日やってみて"もっと強くなれるんだ"って自信が持てたんで、そこをもっと磨いていきたいです。（寝技での一本勝ちが多かったが？）とにかく自分の持ってるものを全部出そうと。パンチとか投げ、極めとか部分部分じゃなくて、全体的に強くなってるなっていうのがあるんで。その一つとしてビクトル投げとかも出たと思います。（エースとして）責任もあると思うんですが、あまり気にしないように、でも頭には置きながらやっていきたいです」

東孝塾長の総評

「（ロバーツは）出てくれて良かったね。ああいう選手が勝ち上がったことで、大会が盛り上がった。いい選手だし、もっと強くなるんじゃないかな。来年も出てもらいたいね。ウチの選手の目を覚まさせて、お互いに切磋琢磨していければいいなと。正直、みんな甘かったとは思うけど、3年後の世界大会までに、みんな少しずつ目を覚ましていってほしいね。それは前回もそうだったから、不安視されてたけど、ウチの選手は"武道を守るんだ"って意識は持ってるし。出てない主力選手も多いけど、その間に、若い選手が力を付けていってほしいしね。自覚をうながすためにも『THE WARS』みたいな大会は必要だと思うし、やっていきたいね」

トーナメント表

- 石田圭市（若狭支部）
- 藤松泰通（総本部）
- 平塚洋二郎（那覇支部）
- 寺本正之（関西本部）
- A・コノネンコ（東北本部）
- 清水和磨（上田同好会）
- A・R・ロバーツ（空柔拳会館）
- 金子哲也（横浜教室）

※ベスト8

◀今大会の台風の目になったのか、他流派・空柔拳会館のA・R・ロバーツ。194センチ、105キロの巨体が猛威を振るい、2回戦以降、全て一本勝ちでベスト4に進んだ。相手の頭を飛び越えそうになるほどの飛びヒザ蹴りや、強引に力で極める腕絡みは驚異の一語！

▲そのロバーツを準決勝で止めたのが清水だった。29歳ながら、ここにきてグッと力を伸ばした感があり、今回も絶好調。ロバーツのハイキックをキャッチして寝技に持ち込み、アキレス腱固めの掛け合いに競り勝ってタップを奪った。「今日のMVPは清水」という声も

▲準決勝　大道塾屈指の組技師・寺本の粘りに苦しんだ藤松だったが、延長戦に入って、秘策とも言うべき前転しながらのヒザ十字で一本勝ち　今大会、あまり調子は良くなかったという藤松だが、悪いなら悪いなりに勝てるのがエースの条件だ

▲▶準々決勝で敗れたが、ベテランのアレクセイ・コノネンコも気を吐いた。コノネンコはロシア出身、日本留学中に東北本部に入門し、現在は大学の研究員だ。バランスの良さ、ワンツーのキレは出場者の中でも群を抜いていた

▲優勝を決めた藤松を出迎える、総本部の先輩加藤清尚と山崎進。「準決勝以上のメンバーは、みんなこれからの大道塾を任せられますよ」（山崎）

せたのが"外敵"アレキサンダー・R・ロバーツだ。ロバーツはアメリカ出身、空柔拳会館所属の26歳。今年の新空手全日本大会では重量級で優勝し、北斗旗の関東大会では準優勝して出場を決めている。

194センチ、105キロの体格は出場選手の中でも図抜けており、そこから繰り出す突き、蹴りであっという間に相手を追い詰める。仕上げは関節技。まだ組み技は習い始めて数カ月というが、2回戦から準々決勝まで、全て強引な腕絡みを極めて勝っている。

そして清水とロバーツの準決勝は、ロバーツの打撃をしのいだ清水が渾身のアキレス腱固めで一本勝ち。外敵の脅威を水際で防いだ清水には、この日一番の拍手が送られた。

ライバルの台頭があり、外敵の脅威があった。となれば、エースも本来の仕事をしなければいけない。本調子ではなかった藤松だが、決勝戦では勢いで勝る清水にキッチリと一本勝ちしてみせた。

大会前の予想と違い、見た後に充実感の残る大会だった。東孝塾長曰く、1、2回戦で姿を消した中にも「これは伸びるな」という選手がいたというから、3年後、第2回世界大会の頃にはそれらの選手も成長してくるはずだ。

ただ、それだけ素材がいるのなら、100%活かしてほしい。強い選手、魅力のある選手は、どんどん外に向かってアピールしていくべきだろう。『THE WARS』でもいい、あるいはキック、総合の他団体でもいい。北斗旗の面白さ、その選手たちの実力を知らない人を、知らないままで終わらせてしまうのはもったいなさすぎる。

（橋本）

◎先日、ニュースを見ていたら「宇宙で、2つのブラックホールか衝突するかもしれない」という話をしていた　場合によっては、宇宙体系が変わってしまうおそれがあるようた　でも、衝突するのは約1億年後とのこと　明日のことすら予測不可能な現在において、1億年先の未来を予測するか故に、"今"という時間を消費している人間か、この地球上にいる　これこそ、まさにファンタジーではないたろうか　（佐藤）

◎『WRESTLE-1』で注目していたのは私と同じスキンヘッドの選手。サップ、武藤、ゴールドバーグ、フンチャー、太陽ケア、みんな剃っている　同し仲間として親近感を覚えるか、彼らは剃刀負けの傷かない。私は肌か弱いせいか、やたらと頭頂部を傷つけ、枕を血たるまにしてしまう　いったい、どんな剃り方をすれは、頭を傷つけずに済むのか？　プロレスラーならではのうまい技術があると見た！（小松）

◎ボブ・サップのムック本『ザ・ビースト』のグラビア特写に立ち会った。2時間にわたる撮影か終わり、一息ついたところでスタッフ各々もサップと一緒に『チェキ』で撮ってもらったんたか、写真を見て大ショック　サップよりオレのほうか顔デカイしゃん！　い、いや、あの時ちょっと身を乗り出す姿勢たったからね　遠近法たよ、遠近法　ちなみに体重は、もちろんサップより軽いです、60キロほど……（橋本）

◎娘の授業参観かあった。朝の8時半からという時間は、徹夜明けにはツラかったが、普段ほったらかしの罪滅ほしと思い、一番乗りて教室に入った　1時間目の開始早々から見ていたのは私一人　30人の生徒に、逆に見つめられているようてちょっと緊張した。一生懸命手を挙げる娘を見ているうち、自分の子供の頃を思い出した　そんなに遠い昔のこととは思えないのだが、気が付けは不惑まであと1年……（林）

◎『WRESTLE-1』を内側から見ていて思ったことは、『WRESTLE-1』のようなコンセプトを持ったプロレスの興行は、格闘技の興行より数倍難しいということた　でも、そのコンセプトに一歩踏み出した武藤選手は本当に偉いと思う。来年は『WRESTLE-1』がプロレスたけてなく、格闘技も大きく変えていくような気がする。それが分かるか分からないか、それが問題だ！（谷川）

◎SRS・DXの編集部が遂に私にとっては"我か家"になった　泊まり込みの連続てある。ここはもう私の拠点だ。住処（すみか）た隠れ家た。もはやその毎日は泥沼というか蟻地獄である　しかし私は言う。「それは私の望む所だ！」と　なぜなら私は狩猟民族　獲物を取るまで家に帰るわけにはいかないのた　家に帰ると私は必ずカーペンターズの曲を聴く　その時、ああここに恋人がいたらなぁ……（山本）

SRS・DX EDITOR'S TALK 裏事情

編集部トーク

石井館長、"ミルコ追放"の真相は？

A　12・31『イノキ・ボンバイエ』が昨年と同様、さいたまスーパーアリーナで開催されることが正式に決定。放送もTBSに決まった。今年は興行過多やいろんな事情があって、正式決定がかなり遅れてしまったんだが、やるからには視聴率20％をめざしたいと意気込んでいるみたいだね。

B　猪木さんは「30％をめざす！」と意気込んでいたみたいだけどね（笑）。でも、実際に今年はヒット曲があまりなく、紅白歌合戦もかなりスケールダウンすると言われている。放送時間も少し短縮するんじゃないかという情報まであるんで、TBSとしてはチャンスだろうね。

A　でも、そこで難しいのがマッチメイク。猪木軍も昨年とメンバーやイメージが変わって、今は藤田と安田だけだろ？　また、『プライド』勢にしたって、12・23『プライド24』福岡大会と日にちが近いから、かなりバッティングしてしまう。大晦日まで時間がないので、かなり苦労しそうだよ。

C　その中でポイントとなってくるのがミルコですね。『ファイト』の一面で「ファイトマネー1億円要求に石井館長が激高？　ミルコ追放も！」という記事かスッパ抜かれてたんですけど、これは本当なんですか？

B　たしかに最近ミルコは天狗になってきたという話は聞くけど、ヘルニアを患っていたことは本当だよ。ミルコは昨年の夏、K－1ジャパンのリングで初めて総合の試合にチャレンジし、奇蹟のような形で藤田に勝ってしまってから、たちまち時の人になったじゃない？　それで1年間でK－1、総合の試合を9試合もやっている。だから、疲労か蓄積して、かなり腰痛かひどくなり、実は桜庭戦の前にも医者の診断書を出しているんだよ。だから、あの試合はもしかしたら幻に終わっていたかもしれない。K－1GPの開幕戦の前にも、ちゃんとK－1には診断書を出しているからね。

C　ミルコが今年K－1GPに出ていたら、優勝するチャンスは十分あったんですけどねぇ。

B　うん、だからよっぽどのことだったと思うよ。でも、K－1もボブ・サップという救世主が現れたんで、ホント助かったよなぁ。

A　まぁ、腰痛は間違いないとしても、それに伴って石井館長に高額のファイトマネーを要求したのもたしかたよ。『ファイト』に書かれている"1億円"はオーバーにしても、これまでに比べたら考えられない金額をミルコは要求している。だから、腰痛とファイトマネーのつり上げ両方が、ミルコがGPに上がらなかった理由だろうね。石井館長にしてみれば、ミルコは無名時代から試合をマッチメイクし、K－1のプロデュースがあってこそ、ここまでに大化けしたと思っているわけ。第2のヒクソンにしたくないってことだろうね。

C　ミルコが改心するまで本当に石井館長は使わないと考えているんですか？

A　それはそうだろう。最近はただでさえ選手の需要が高くなっているため、もの凄いファイトマネーが高騰していってるらしいよ。だから、石井館長にせよ、『プライド』にせよ、それは避けたいはずだよ。

B　ただ、そこで問題なのが藤田だよ。自分が負けたことで時の人となったミルコが、『Dynamite！』では切り札の桜庭にまで勝ってしまった。ここはぜひ自分で借りを返して、ミルコ幻想にストップをかけたいところだろう。一説によると、今年の大晦日、藤田はミルコへのリベンジしか、頭にないみたいだからね。ミルコ以外の選手との試合がオファーされた場合、藤田がどう出るのかも見モノだよ。

C　まぁ、ミルコが改心するまで石井館長が使わないっていうのが本当なら、藤田VSミルコ戦は難しいんでしょうね。そうなると、藤田VSサップという線が出てくるのかなぁ。

A　だから、今年の『イノキ・ボンバイエ』は必ずしも「猪木軍VS K－1」にはならないはずだよ。どちらかと言えば、猪木軍をからめた『Dynamite！』というイメージで進むんじゃないかな。テーマはやっぱり他流試合だよぉ。

B　結局、カードを決めるにしても、11・23『プライド24』と12・7K－1グランプリ決勝トーナメントが終わるまで、どういう結果になるか読めないだろう。『Dynamite！』の時の吉田秀彦のように、他のジャンルからの大物参戦があるといいんだけどねぇ。土壇場の猪木マジックに期待したいね。

A　まぁ、でも紅白歌合戦のウラなので、相当練り上げたスペシャルなカードが必要であることは間違いないでしょ。俺としては、ここはTBSにいい視聴率を出してもらい、来年につなげるものにしてほしいねぇ。そういう意味で、猪木祭りは重要！　格闘技はホント、素晴らしいものにしていけば大化けしますよ ■

発行・発売　株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8859　販売
協力：フジテレビジョン／フジテレビ出版

株式会社ローテス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445（編集）

発行人：湯賀主水　編集人：谷川貞治
DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、濱口真穂
小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON、のじ

カリスマはまだまだ死んじゃいない!

ルミナ効果だ!
後楽園が久々に超満員!!

ルミナ、3年半ぶりの後楽園大会はドロー。しかし、次回は進化したルミナが見られそうな予感

ラウンド前半はスピードのルミナが圧倒 会場一気にヒートアップ!

どのラウンドも前半はルミナが攻め込んだ。スピードでタクミを翻弄しバックを取る他、足をロックしパンチを見舞っていった

▲コーナーに詰めてヒザを入れるルミナ。何発かいいのが入ったものの、タクミもすぐに反撃

▲ルミナの首を抱えてのヒザもタクミの腹部やアゴを捕らえた

▶1R早々、ルミナは素早い片足タックルから抱え上げてテイクダウンを奪うと即座にバックに回る。流れるような動きで会場を興奮させる

▶ルミナのヒザ攻撃がタクミの金的にヒット。3Rには金的で減点を取られてしまい、このポイントが判定に大きく影響した

★第9試合/ウェルター級5分3R
△佐藤ルミナ(3R判定1-0ドロー)タクミ△
〈SHOOTO GYM K'z FACTORY〉　〈パレストラ東京〉
※29-28(ルミナ)、29-29、29-29

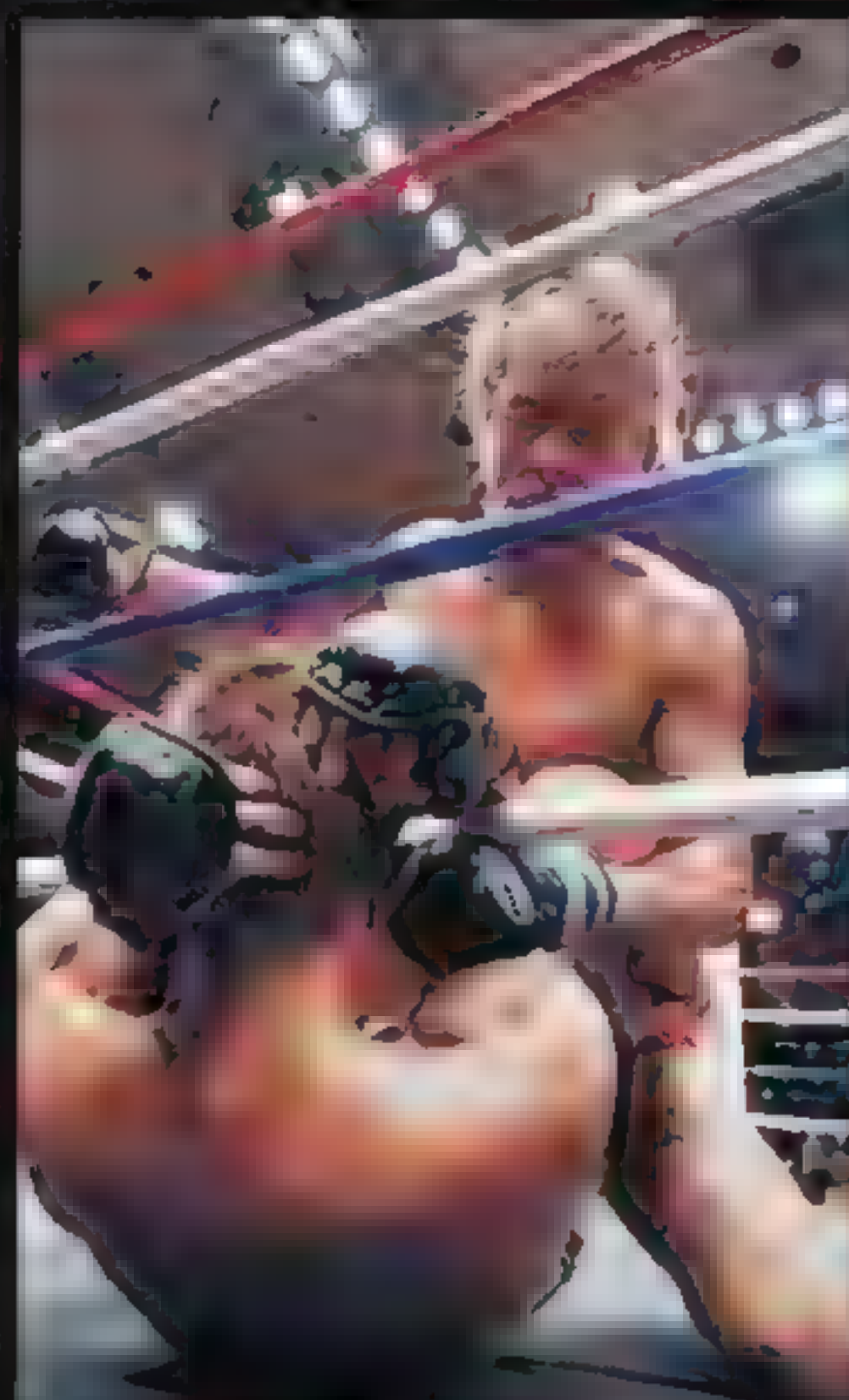
久々に後楽園ホールが超満員になった。通路にまで人があふれ、立ち見が出たのはいつ以来だろう。
理由はもちろん、ルミナの出場であることは間違いない。ルミナにとって後楽園は実に3年10カ月ぶり。NKや横浜文体など大会場での試合が中心のため、聖地ともいうべき後楽園で闘うチャンスはなかなかなかったのだ。
このところ勝ち星に恵まれず、ランキングも6位まで落ちたルミナだが、依然として人気は高い。しかし、もし今日、タクミに負けるようなことがあれば、ルミナの人気は一気に凋落、人気のみならず、このまま浮かび上がることができなくなるのでは。見ておかなければ……。そんな危機感さえも、ファンは抱いていたのではないだろうか。
一方のタクミは、昨年は連勝街道を突っ走り、破竹の勢いを見せた選手。年末のNKでマーシオ・クロマドに、そして続く5月のヴイトー・シャオリン・ヒベイロに、ともに失神一本負けで、評価を落としたものの、試練に耐えながら、着実に這い上がってきている。デビューが26歳(2000年)と遅いため若手の印象のあるタクミだが、年はルミナと同じ28歳。ルミナに対し、特別な意識を持たないわけはない。
もちろん、ルミナにしたって、長年にわたり「修斗のカリスマ」と呼ばれ続けている誇りがある。王者にこそなっていないが、幾多の名勝負で確固たる地位を築いてきた。デビュー2年そこそこの選手に負けるわけにはいかない。
両者の思惑は、激しくリング上でぶつかった。

終盤はスタミナのタクミが形勢逆転！ めまぐるしい試合展開に場内大歓声

ルミナのコメント

「パンチをもらいすぎました。思ったより手強かったですね。1R、バックに回った時に、客に煽られすぎて、力を使いすぎました。3Rは足を使って攻撃したかったけど、バテバテで動けなかった。もうちょっと一方的に勝たなきゃいけない相手だったと思いますけど……。とにかく一戦一戦結果残していくしかないんで、地道にいきます」

タクミのコメント

「結果には納得いってないです。採点は公正なものだと思いますけど、僕自身、バック取られたりして。（ルミナ選手相手に）意外とできましたね。たしかにバック取られてパンチももらったし、ヒザ蹴りももらいましたけど、応援でだいぶ、気持ちがつながりました。今日はルミナさんとドローでしたけど、次の時は必ず決着つけたい」

▲ラウンドの後半は、形勢逆転してタクミが上から攻める。タクミのガムシャラな攻撃に会場もヒートアップ！

▶タクミのストレートがルミナの顔面を捉える。スタンドでもグラウンドでも二人は本当によく攻め合った

▲判定は1−0でドロー（ルミナが1）。もし反則攻撃による減点がなかったら…

▶3R、疲労困憊のルミナ。「1R目にバックを取った時、客に煽られて力を入れ過ぎた」ため、最終Rは足が動かなかったという

▶タクミも負けずにヒザで反撃。両者ともお互いの攻撃によく耐えていた

でぶつかった。

先手を取ったのはルミナ。絶妙な片足タックルからの流れるような動きでテイクダウンを奪い、さらに素早くバックを取るやパンチの雨アラレ。秒殺か!? 場内はいきなりヒートアップだ。しかし、足をロックし、後ろからいくらパンチを叩き込んでも、タクミの心が折れる気配はない。それどころか耐えて耐えて耐え抜いて、ルミナのミスを誘うと、一気に形勢逆転。猛反撃に出たのだ。

鬼のような形相でパンチを落とすタクミ。ガードを堅めながら、下から仕掛けるルミナ。大歓声が二人を包み込む。もの凄い熱気。

実に濃厚な3Rだった。

どのラウンドも序盤をルミナが制し、終盤はタクミが反撃するという展開。グラウンドでもスタンドでも、二人は最後まで相手を倒しに行った。

結果はドロー。両者にとって納得のいく結果であるはずはない。しかし、負けなかったことで、両者とも「なんとか、崖っぷちで残ることができた」のは間違いない。

この試合、ルミナのセコンドには修斗協会の坂本一弘会長がついた。この夏からトレーナーとしてルミナを見始めた坂本氏は「強いヤツを強くするのは難しい」と言いながらも、「絶対にルミナをチャンピオンにしますよ。それができなかったら、半分は僕の責任です」と自信と意気込みを口にした。今回は十分な成果が出たとは言えない。しかし、近い将来、もっともっと強いルミナが〝修斗のカリスマ〟としてさらに輝きを増す日が来るはずだ。（林）

▶▶PROFESSIONAL SHOOTO▶▶▶

11.15★後楽園ホール

お見事！ 勝村周一朗、完璧な一本勝ちで優勝賞金100万円に一歩前進!!

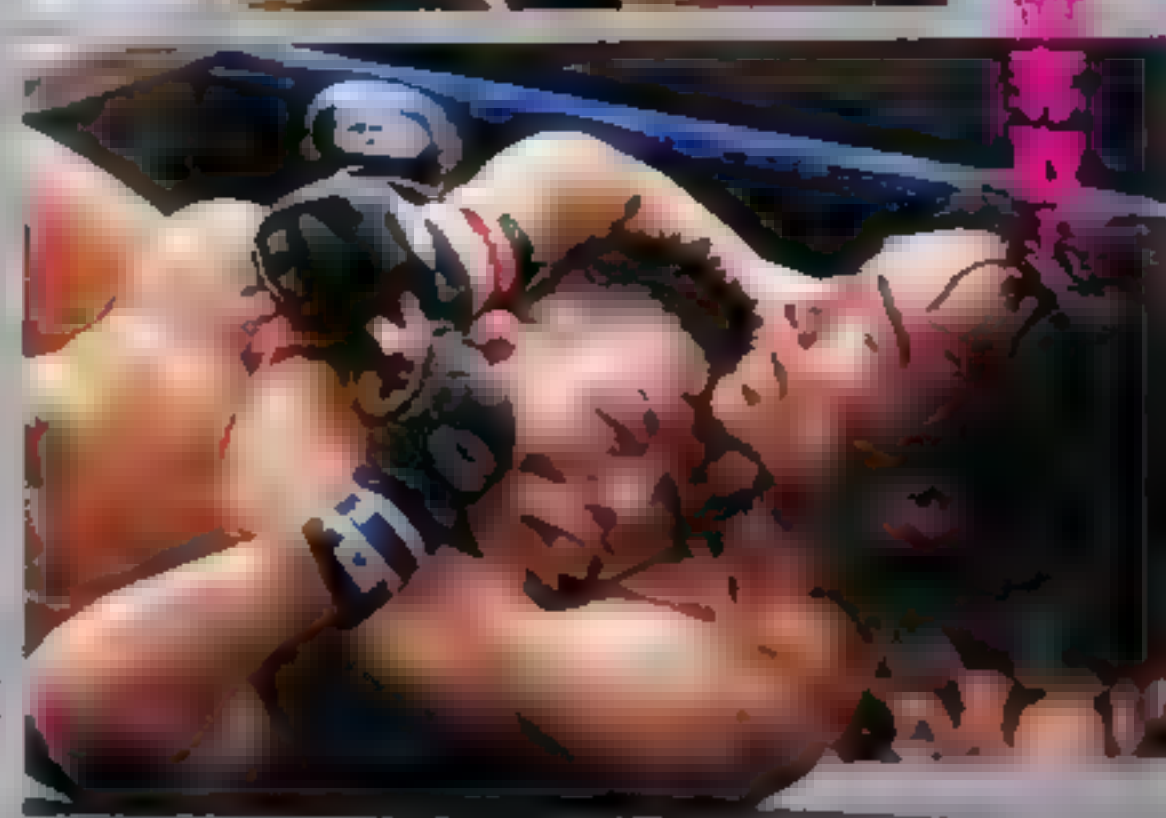
次は2月23日の準決勝へ！

▶"フェザー級史上最強の外国人"の呼び声も高かったアルフィ・アルカレズを、鮮やかな一本勝ちで破った勝村。試合前の挨拶をまかされたこの日、きっちりとサバイバートーナメント準決勝進出を果たした

新人王トーナメント決勝3連発 漆谷、門脇、弘中が新人王の栄冠

▼第5試合からは新人王トーナメントの決勝が行われた。バンタム級決勝は壮絶な殴り合いの末、漆谷康宏（ＲＪＷセントラル）が人気者・阿部マサトシ（ＡＡＣＣ）を判定（3－0）で下した

▲第7試合のミドル級決勝は、スタンドでバックを奪った状態から、そしてガードポジションの上からと、コツコツと打撃を放っていった弘中邦佳（ＳＳＳアカデミー）が3-0で判定勝利。徳岡靖之（パレストラ加古川）はグラウンドで下から弘中の顔面を蹴ろうとした際にロープを掴んでしまう（減点1）など精彩を欠いた

▶続く第6試合。ライト級決勝となった門脇英基（和術慧舟會東京本部）と小松寛司（総合格闘技道場コブラ会）の一戦は、一本を奪うまでには至らなかったがグラウンドで優勢だった門脇が3－0の判定で勝利

12・14NK大会にマッハ出陣決定!!

▲第5試合の前に12・14NK大会に出場する選手が観客に挨拶。写真左から三島、阿部、川尻、五味がリングに上がると会場は大いに盛り上がった。「これまでNKに出るためにがんばってきたので、出場が決まって嬉しいです」（川尻）、「（ノゲイラ対策を聞かれて）勝負に絶対はないと思います。だから格闘技、修斗は楽しいと思います。応援してください」（阿部）、「今回のコンディションはバッチリです！」（三島）、「（三島の印象を聞かれて）最強のチャレンジャーだと思います。いい状態で試合に臨みたいと思いますので、楽しみにしていてください」（五味）とコメント。"マッハ"からは「今年初めての試合になりますが、万全の状態で修斗のリングに立ちます」とのメッセージが寄せられた

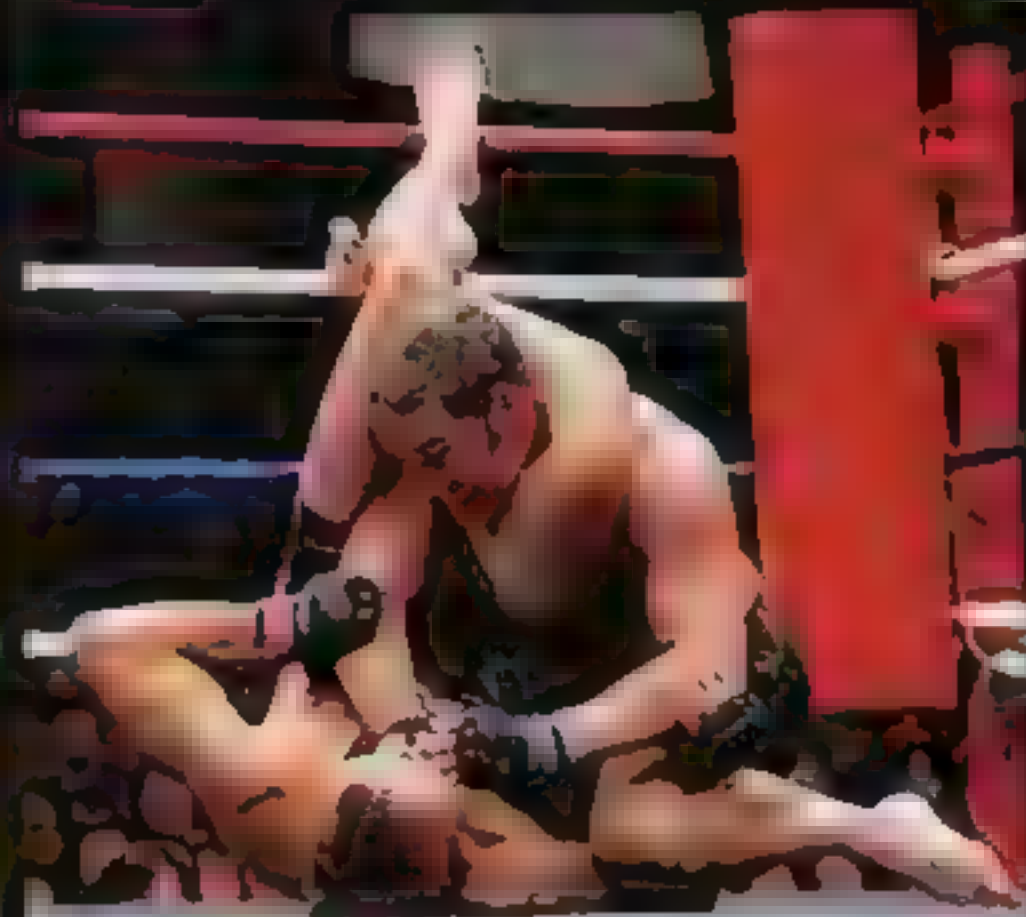
◎決定対戦カード

★ウェルター級チャンピオンシップ
五味隆典 VS 三島☆ド根性ノ助
（木口道場レスリング教室）（総合格闘技道場コブラ会）

★ライト級チャンピオンシップ
アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ VS 阿部裕幸
（ワールド・ファイト・センター）（AACC）

池田久雄 VS 塩沢正人
（PUREBRED大宮）（和術慧舟會）

◎出場予定選手

桜井"マッハ"速人（マッハ道場）
川尻達也（総合格闘技TOPS）

◀勝村はスタンドでもサイドキックや飛びヒザ蹴りなど、積極的に打撃を放つ。対するキックボクシング出身のアルカレズは意外にも打撃を嫌い、タックルで上をとる展開に。勝村は下から巧みな足使いを見せて三角絞めを極め、さらに十字を取ったところでアルカレズは失神

★第8試合/フェザー級サバイバートーナメント1回戦（5分3R）
○勝村周一朗（2R3分04秒、三角絞め）アルフィ・アルカレズ●
〈日本/SHOOTO GYM K'z FACTORY〉　〈アメリカ/ニックワン・キック・ジム〉

佐藤ルミナというビッグネームの登場と階級別新人王トーナメント決勝という、すでに2つのテーマを持っているこの大会において、セミファイナルを務めたのが勝村周一朗。彼にも優勝賞金100万円のフェザー級サバイバートーナメントという別のテーマがあった。対するのは"フェザー級史上最強の外国人"と噂されるアルフィ・アルカレズ。5月には秋本じんに秒殺（1R22秒）されているとはいえ、元UFCライト級王者のジエンス・パルバーとも引き分けた経験を持つ実力者だ。しかし、勝村はこのアルカレズに対し、まったく臆する様子はなく、開始早々から慎重ながらもアグレッシブな攻撃を仕掛けていく。

勝村が左ハイキックや飛びヒザを積極的に繰り出せば、アルカレズはその脚を掴まえテイクダウンを奪うが、勝村は冷静にアルカレズの左腕をアームロックに捕らえる。ペースを掴んだ勝村は、2Rもサイドキックをヒットさせるなど優位に展開。アルカレズがたまらず胴タックルでテイクダウンを奪うと、待ってましたとばかりに下から巧みな足使いを見せ、見る間に完璧な三角絞めに極めたのだ！　我慢するアルカレズに、さらに十字を極めたところでアルカレズは失神。会場騒然！

サバイバートーナメントに出場している選手の中であまり下馬評が高いとは言えない勝村だが、この勝利で一気に飛躍する可能性も大きい。準決勝に残った4人はいずれも強豪。賞金100万円は果たして誰の手に!?　まずは、2月23日の準決勝に注目だ！　（太田）

全日本キック BACK FROM HELL I
11.17★後楽園ホール

〝ハリウッド大作〟『WRESTLE―1』を裏に回して――

激情、落胆、憤怒、混沌、意外性。小林聡の試合は、まるで70年代アメリカン・ニューシネマ！

タイ遠征を控えた大事な前哨戦。楽勝を義務付けられた試合だったが、小林はなんと額から出血。どんな試合でも人をハラハラさせる男だ

「ただの前哨戦」でもこのスリル この男の闘いを"予断"で見るな！

2R、小林のボディ攻撃にギブアップ状態で倒れ込んだバッシリ。思わず"立ってこい！"とアピールする小林だったが、そのままKOとなった

★第7試合／メインイベント（3分5R）
○小林聡（2R3分03秒、KO勝ち）ロベルト・バッシリ●
<藤原ジム> <イタリア/コンバットジム>
※ボディへの右ヒザ蹴り。バッシリは1Rに左フックでもダウンを喫した

11月17日、『WRESTLE—1』を見に行った人もいれば、小林聡の試合を見に行った人もいる。同じ日、映画館に『ザ・リング』を見に行った人もいれば、トッド・ソロンズ監督のインディーズ映画『ストーリーテリング』を見に行った人もいるわけだ。

全国超拡大ロードショーされるだけが映画じゃない。ミニシアター系のアート・フィルムはなんの価値もないのか？ そんなこと言う映画評論家がいたら即刻クビだろう。それは格闘技にだって言えることだ。

『WRESTLE—1』がハリウッド製の超大作だとすれば、小林聡の試合は、いわば70年代のアメリカン・ニューシネマのテイストだ。『俺たちに明日はない』、『イージー・ライダー』、『真夜中のカーボーイ』、それに『タクシードライバー』——。

アメリカン・ニューシネマは、それまでのアメリカ映画とはまったく違っていた。恋愛は実らない。夢は叶わない。正義は必ずしも勝たない。高感度フィルムで撮られたザラついた画面が写し出すのは、豪華なセットではなく荒廃した都会の風景だ。

ラストで主人公が無惨な死を遂げることも多い。美男美女の夢物語に浸らせてはくれないのだ。それでも若い観客は、人生の真実を容赦なく叩き付けるニューシネマに熱狂した。

小林の試合も同じだ。そこには生きること、闘うことの圧倒的なリアルさがある。ただ面白がることなんて許されない。9月のルンピニー王者サムゴー戦、小林は完

全日本キック

BACK FROM HELL I

11.17★後楽園ホール

師匠・藤原敏男からの指令は「30秒で勝ってこい!」

小林のコメント

「"30秒で勝て"って言われてたんですけど……。結局、パンチももらっちゃって。あんな試合になると思わなかった。練習が足りなかった。やったけど足らなかったんでしょう。（額の傷は次に影響しないか？）もし傷がなかったとしても、どうせ（ヒジを）もらえば切れるもんですから。打ち合いの中で、たまたま何かが当たったっていうんじゃなく、倒しにいって倒すってことをやらないと、ムエマラソンじゃ勝ち上がれないです。課題にしてた動きができなくて。最後はケンカのつもりでいきましたけど、（ムエマラソンは）ケンカで勝てる大会じゃないですからね。優勝とか、勲章が欲しいんじゃなく、やられた相手にやり返したいって、それだけです」

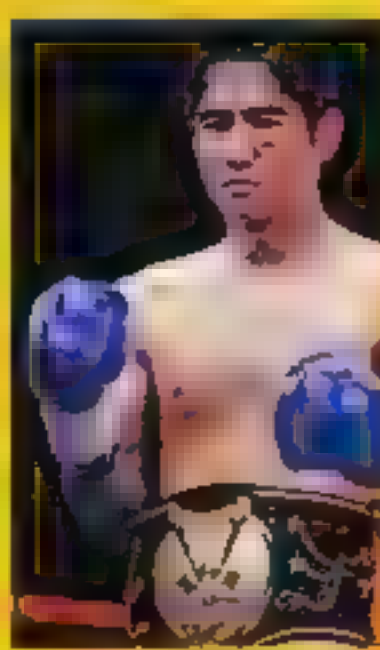
▶結果的には完敗だったが、長いリーチから繰り出すバッシリのパンチは小林を十分に脅かした。鋭いヒジもズバリと決まる

▶映画「グラディエーター」のテーマで入場したバッシリ。コスチュームも甲冑にマントとローマ戦士風

▲早期決着を狙って、[illegible]意の左フックを振るう小林。プランどおりに試合を運ぶことはできなかったが、圧倒的な攻撃力は光っていた

伝統のフェザー級ベルトは前田尚紀に!

▼▲竹村健二（名古屋JKF）VS前田尚紀（藤原）の全日本フェザー級王座決定戦は、竹村のヒサ、前田のパンチが一歩も譲らぬ大熱戦に。5R、カウンターでヒジを合わされダウンした前田は、その直後に右のフックでダウンのお返し。判定は僅差ながら前田に上がり、小林の弟弟子が立嶋篤史、前田憲作も巻いた伝統のベルトを手にした

◀前回、メインで佐藤嘉洋とドロドロの膠着戦を演じてしまった清水貴彦（超越塾）は、出直しマッチに坊主頭で登場。当初はムエカッチューア（蒸手のムエタイ）を行う予定だったが、相手の欠場で千葉友浩（TEAM-1）との通常ルール戦となった。一度は勝った相手だけに、逆の意味でのプレッシャーもあったはずだが、コーナーに追い詰めてのパンチ連打で難なくKO（2R0分26秒）

◀フェザー級王者・安川賢（SVG）のヒザはただのヒサじゃない。鋭い連打は膠着知らずで、この日も韓国の金相俊を2R2分3秒でノックアウトしてみせた

▲左右のパンチがボディを抉る。この攻撃で、バッシリは1R途中からかなりのダメージを負っていた。他にも小林はハイキック、バックキックなど多彩な攻めでバッシリを攻略していった

ピニー王者サムゴー戦、小林は完

膚なきまでに叩き潰された。簡単に「リベンジだ!」とは言えない救いのなさだった。

いや、勝ち試合だって決して一筋縄ではいかない。今回のロベルト・バッシリ戦は、12月14日に行われるムエタイ・トーナメント『ムエマラソン』を控えての前哨戦。まずしっかり勝つこと、ケガをしないことが重要だ。まして小林はこの試合に「倒しにいって倒す」というテーマを持っていた。ケンカ腰の乱打戦は、タイ人のテクニックには通用しない。もう一段階上の闘いをしなければ、と。

だが、小林は何発かいいパンチをもらってしまう。それどころかヒジで斬られて出血まで。師匠である藤原敏男会長には「30秒で倒してこい」と言われていたそうだが、それどころではなくなった。一寸先にどんな深い闇が待っているのか分からない。そんな試合をいつでもするのだ。予想どおりに進む試合ほど、小林に似合わないものはないだろう。

全日本キックの宮田広報によれば、小林の来年のスケジュールはまったくの白紙だという。

「『ムエマラソン』が終わってみないと何も考えられないですよ。来年、小林がどんなふうになってるかなんて、誰にも分かんないじゃないですか?」

小林の試合は、常に予断を許さない。小林の試合は、単なる娯楽ではない。ポジティブなものもネガティブなものも、あらゆる感情が混沌となっているのだ。まるでアメリカン・ニューシネマのように、そして全ての人たちの人生のように。

（橋本）

12・14ルンピニー『ムエマラソン』プレビュー
小林はタイの"要注意人物"だった！

取材 吉澤晃

▶バンコク近郊のパトムタニー県にあるセンティアンノーイジム。サムゴー以外はこれからの選手が多い

◀サムゴーの車（現役選手が高級セダンに乗るのは珍しい。ここからもサムゴーの評価が分かる）には、カタカナで"サムゴー"と。新田明臣によるものだとか

▲9月に小林をKOしたルンピニー王者サムゴーと、ジムの会長センティアンノーイ。サムゴーは「ムエマラソン」の出場有力候補でもある

▶タイの専門誌「ムアイ・サヤーム」の表紙に、「ムエマラソン」別階級の優勝者が。試合結果が表紙を飾ることは稀で、それだけ注目される大会なのだ

ムエタイの聖地・ルンピニースタジアムに乗り込んで『ムエマラソン』を闘う小林聡の、現地での評価はどのようなものなのか？ タイ全土に生中継されるほどのビッグイベントだけに、オファーが届いたというだけでも名誉なことではあるが、実際にはどう見られているのだろう。

まずは9月に小林と対戦、『ムエマラソン』にも出場すると言われているルンピニー王者サムゴー・ギャットモンテープ。

「コバヤシはパンチとローが重いね。今だから言うけど、あれはけっこうヤバかったよ。その二つは並のムエタイ選手より優れてると思うね」

タイのチャンピオンにしてみれば、日本のキックボクサーなど取るに足らない存在ではないのか。でもサムゴーは、ラジャダムナン王者のテーパリットが小林にKOされたビデオを何度も見て研究したのだと言う。

「テーパリットはヒザの選手なのに、なんで打ち合いなんかしたのか分からないな。でもビデオを見て、まともに打ち合ったらコバヤシが強いのはよく分かったよ」

そして『ムエマラソン』は、打ち合いになる可能性が非常に高い。昨年は7試合中4試合がKO決着。"ムエタイ＝判定"というイメージとはまったく違う。

「決勝までフルラウンドやったら、いつもの倍近いラウンドだからね。それで早い回からパンチやヒジで倒しにかかる。そうなったらコバヤシは闘いやすいだろうね」

小林は今、打ち合ってこない相手にも勝つための練習をしているが、意外なところに希望が見えてきたことになる。

「コバヤシはハートが強いのがいいね。それと左フック。ラモン・デッカーを思い出したよ」と言うのはセンティアンノーイ。サムゴーのジムの会長で、かつて中量級の世界トップ選手としてデッカーと名勝負を繰り広げた男だ。

「サムゴーとコバヤシが1日1試合、3分5Rの通常ルールでやったら、何度やってもサムゴーが勝つ。ただ3分3R、打ち合いになる『ムエマラソン』だったら五分五分だろうな」

『ムエマラソン』を運営するルンピニーのナンバー1プロモーター、シアナオことウィラット氏も小林の実力を認める。専門誌『ムアイ・サヤーム』によれば、ウィラット氏は小林を決勝進出の有力候補に挙げているというのだ。

小林がこれほど評価されているということは"要注意人物"としてマークされているということでもある。苦境？ それこそが、小林にとってやりがいのある舞台と言えるだろう。■

金原のタックルをかわして、踏みつけにいくシウバ。この凶悪な攻撃がシウバの真骨頂

「勝つためならどんなことでもする」byシウバ

第1試合で横井宏考が快勝し、アローナ、ヒョードル、ノゲイラが立て続けに勝っていく流れは、〝今日こそが第2次リングスのスタート！〟とか勝手に思っていたそんな最中。金原がいつもどおりのボンチョ姿で登場！　ますますリングスだよ、これは。でしょ？

しかも、そのボンチョも、なんだか「プライド」仕様に新調したような気がする光加減なのも嬉しくなってくる。

なにしろ、今大会唯一のタイトルマッチなのだ。U系レスラー最後の砦とも言うべき金原弘光がヴァンダレイ・シウバに挑むのである。こちらとしても、相当気合いが入るのも当然と思っていたら、花束贈呈者としてリングに上がってきたのは世界のサニー千葉こと千葉真一！

シウバの前に対峙するボンチョ姿の金原、そして千葉ちゃん。ボクの見たかったものが全てあるのだから、こんな贅沢なことはないのである。あとはもう金原が結果を出してくれるだけ！

っていうか、なにより心配なのがその部分。リングス時代から大事な試合ではどうしても結果を出せていないのが金原。観客が期待すれば、するほど肩すかしを食わしてくれるのが金原イズムであったりするから怖くて仕方ない。

ところがだ。シウバと睨み合う金原の表情はいたって冷静。目をそらすわけでもなく、気負うわけでもなく、しっかりとシウバの視線を受け止めている。

いけるかも！

そして運命のゴングが鳴った直後、金原のパンチがシウバの顔面

ポンチョでの入場は最高だったのに……

▲ともかく狙うのは顔！　毎度のことながら非情な攻撃だ

◀「プライド」でもポンチョで入場した金原。シウバとの睨み合いも一歩も引かず、出だしでの期待度はとても高かったのだが……

蹴って殴ってシウバ全開！ 金原は寝技を出せず

▲ゴング直後、バランスを崩した金原の顔面に蹴りを叩き込み、金原はダウン気味に倒れてる

▲ついに蹴りが顔面にヒット！　シウバの攻撃は勢いが増すばかりであった

▲グラウンドになれば容赦ないパンチが飛び出し、金原はベースを作れない

をとらえてロープに吹っ飛ばす。

よし、いけるかも――

と、思った瞬間、シウバの右フックがうなり、思わず、金原はバランスを崩してマットに片手をついてしまう。そこにシウバは非情にもサッカーボールキック！

金原はダウン気味にマットに這ってしまい、いきなり形勢は逆転してしまう。

こうなると止まらないのがシウバだ。上から金原をバンバン殴り始め、その攻勢はいかに金原でも、しのぐのがやっと。

スタンドの状態に戻っても、シウバの打撃は優勢で、金原がクリンチにいっても、今度はフロントスープレックスで投げつける。そして、顔面パンチに、顔面蹴りと容赦ない攻めは金原に体勢を立て直すスキを与えはしない。

そして再度、スタンド状態になった時、打撃戦を挑んでくる金原に対して、シウバは右フック、左ストレートを連打。これが見事に決まって、またもダウン気味に倒れた金原に、シウバはとどめの顔面踏みつぶし！　ここで金原のセコンドの高阪はタオルを投入。プライド・ミドル級のベルトはシウバのもとに帰っていくことになってしまったのだ。

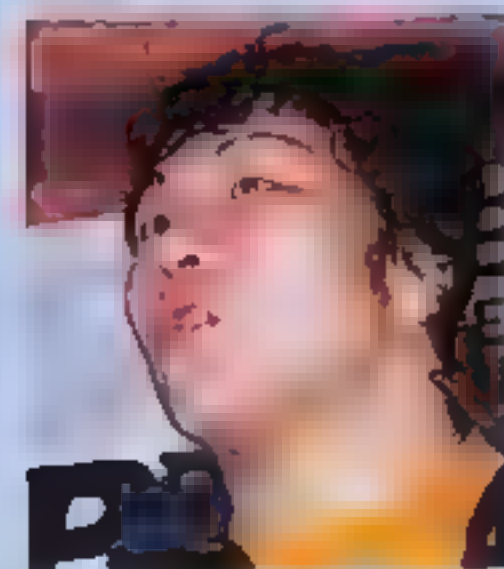
残念でならない。

残念でならないが、どこかで、「やっぱりな」とも思ってしまったのだ。先ほども書いたけど、どうしても大事な場面で負けてしまう〝金原病〟はいったいどうやったら治るんであろうか？　選手の誰もが強いと認めているのに、肝心要の時に負けてしまうのはもはや技術的な問題とは思えない。たぶ

「次はヨシダとぜひ闘いたい！」

シウバのコメント

「カネハラはムエタイがうまく、素晴らしい根性を持っていた。彼のような根性のある選手にドンドン挑戦してきてほしい。どんな相手でも怖くない。そして、勝つためにはどんなことでもする。次の目標は『プライド24』だ！　ヨシダとぜひ闘いたい。ミドル級で俺に勝てる選手はいない」

金原 弘光のコメント

「終わった時、まだできるのにって思って。これからだって思ったんで、もったいないな。（タオルが早すぎた？）そうですね。まだ、やれるのにって。手応えはありましたよ。パンチが凄い見えたんで。ちょっとヒザが踏ん張れなかったんですけど、後半いけるかなっていう感じで。もっと殴り合いたかったな。もう一回やりたいです」

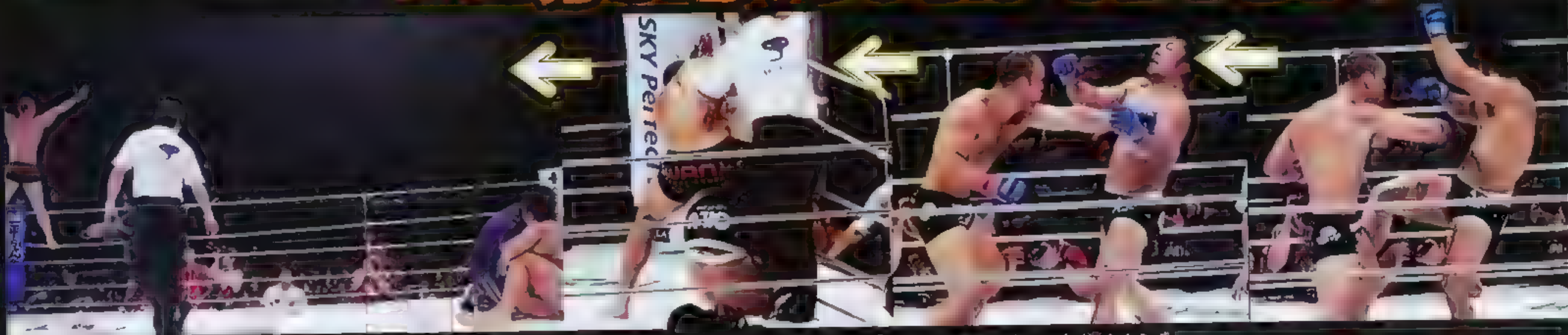
▲試合前には世界の千葉真一がリングに登場！　タイトルマッチを闘う両者に花束を贈呈した。素晴らしい人選に、ＤＳＥには心から拍手を送りたい！

▲試合後、シウバは野村克也氏に挨拶！　このツーショットも最高！

▲シウバの師、フジマール会長は弟子の勝利をキスで祝福！

★第6試合・PRIDEミドル級選手権（1R10分、2・3R5分）
○ヴァンダレイ・シウバ（1R3分38秒、TKO）金原 弘光●
〈ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー〉　〈日本/フリー〉
※タオル投入による。シウバは2度目のタイトル防衛

▲試合後、シウバは次の『プライド２４』で吉田秀彦と闘いたいと語る

1R3分31秒、ついにタオルが投入！

▲右フックから左ストレートが入って、ダウン気味に倒れる金原。さらに、シウバは顔面を踏みつけて、たまらず、セコンドからタオルが投入された。日本人最後の砦、金原までもが陥落してしまった悲しい瞬間だった

ん、性格なのか？

試合後の金原は「いやぁ、もう一回やりたいなぁ。パンチも見えてたし、なんでタオルを投げたのかなぁ」とボヤきっ放しで、〝さすがは金原〟と記者たちをうならせたわけだが、原因はどうもこの辺のところにあるような気がしないでもない。あと一歩！　あと一歩なのだが、その一歩がどうにもこうにもなのがホント辛い。

所属した団体が三つとも潰れてしまった金原の暗夜行路を見つめ続けることは、生まれ持った宿命とかを考える上ではとてつもなく面白いもの。しかし、ボクらはその宿命とかっていうのをブチ壊す場面が見たいのだ。そのためにも金原弘光には栄光というものを手に入れてほしいと心の底から願うのである。

一方、シウバは桜庭を倒し、アレクを倒し、田村を倒し、今また金原まで倒してしまった。こいつを止められる日本人はかなり少なくなってしまったと言っていいだろう。シウバ自身は吉田秀彦に狙いを定めて、さかんにアピール（「お前にバーリ・トゥードの投げってヤツを教えてやる！」）を開始し始め、さらに大きく飛躍しようとしている。

「プライド」に出場し始めた時には桜庭の首を狙い続け、ついに倒してしまったのがシウバだ。これからはことあるごとに吉田の名前を出して、吉田戦を実現させてしまうかもしれない。だが、シウバだけはU系のレスラーが倒してほしい。パンクラス勢を含めて、シウバの首は絶対に日本人レスラーが落としてくれ！　（ブチ）

『W－1』とPRIDE、ランデルマンはどっちが光った？

ヤマケン（山本喧一）に圧勝したものの、本領を100％発揮したとは言えなかったランデルマン。試合後"ふふ～ん"ってな感じの表情を見せた

なんだこの技!?

超高角度Wニードロップ!! でも、らしかったのはここだけ

▶フィニッシュはこれ。上四方固めから逆立ちせんばかりに足を上げ、重力の勢いも借りてヒザを叩き込む! それも一回で左右両方蹴る! たまらず和田レフェリーがストップをかけた

「WRESTLE―1」(「W―1」)にはプロレスラーだけでなく多くの格闘家も参加したのだが、その中でも武藤敬司が絶賛したのがケビン・ランデルマンだった。全身これバネといった感じの躍動感と、キレたら何をしだすか分からないヤバげなキャラ。「W―1」では、そんなランデルマンの魅力が100%発揮されていた。

そして、その1週間後の「プライド23」にもランデルマンは登場。「W―1」で株を上げた直後だけに、期待したファンも多かったんじゃないだろうか。あのランデルマンが、どんな大暴れをしてくれるのかと。

でも、そんな期待は、やや肩すかし気味で終わってしまった。強いところは十分に見せてくれた。だけど物足りないのだ。

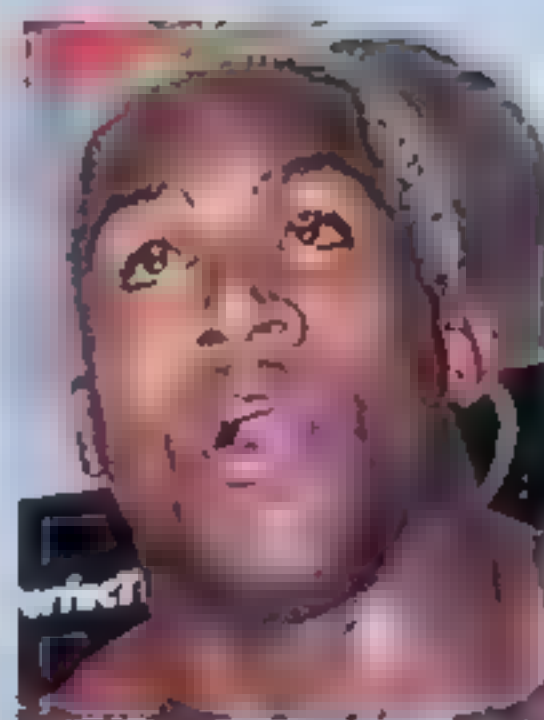
ランデルマンの相手は、ヤマケンこと山本喧一。リングス脱退後はUFC―Jや「クラブファイト」などを主戦場にしていたヤマケンだが、元はと言えばUインター出身。師匠・高田の引退に華を添えるべく名乗りを挙げた。

ヤマケンは昨年12月のリングス(須藤元気戦)以来のリングだった。それ以降ゴタゴタがあり、主宰していたジム「パワー・オブ・ドリーム」は解散。今は地元の大阪でケンカ三昧の日々を送っていた少年時代のような一匹狼だ。久々の大舞台に選んだ入場曲は、シャ乱Qの「上京物語」。恥ずかしい選曲だが、ヤマケンなら、そんな泥臭さもよく似合う。

ただ、ヤマケンの純情も、ランデルマンとの実力差の前にはいかんともしがたかった。ただひたす

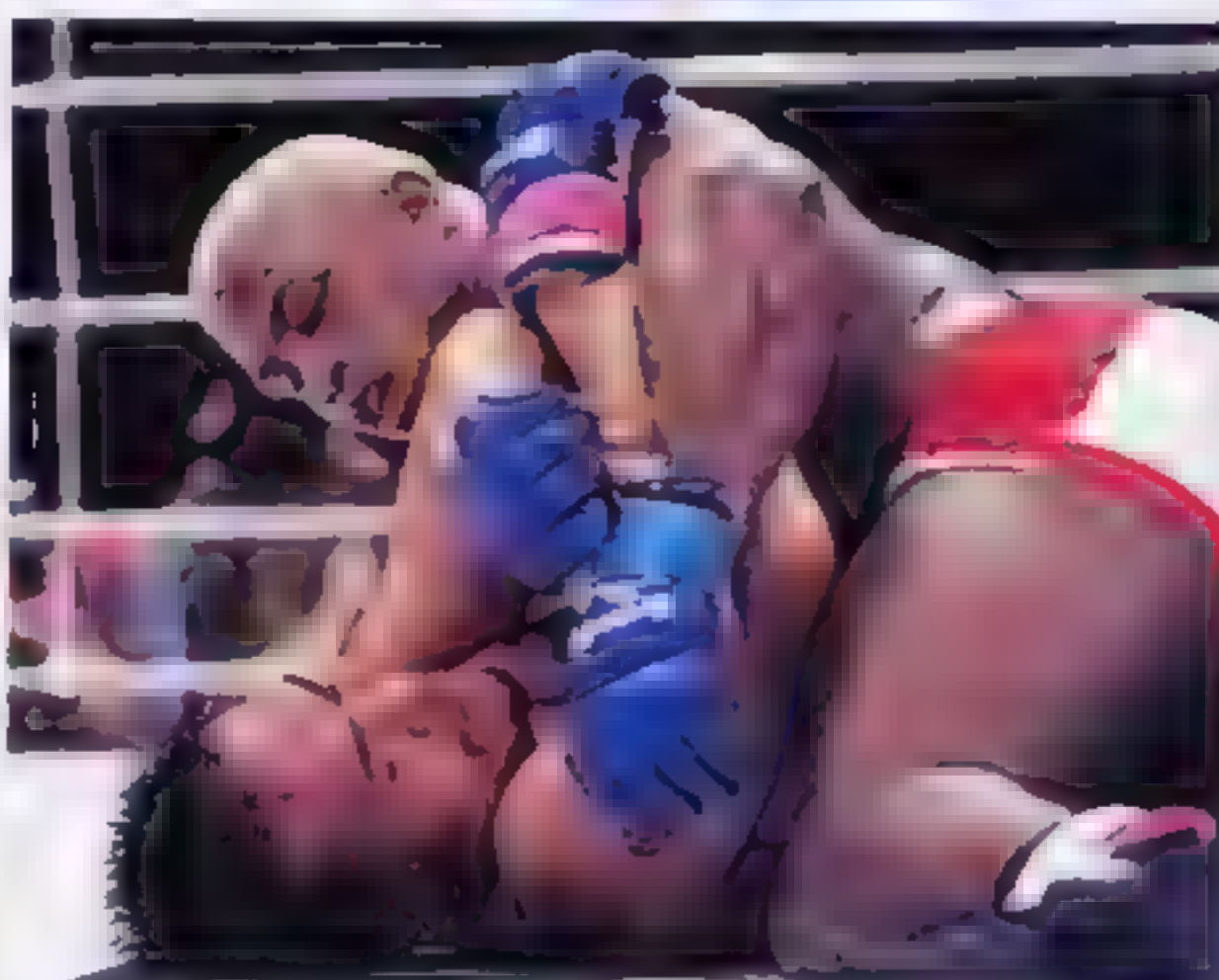
PRIDE.23
11.24★東京ドーム

▶1Rからいいポジションを取ったランデルマン。殴りたい放題に見えたが、なぜか腕絡みに固執していた。ヤマケンによれば「極まってなかった」ということで、これが原因で試合が長引いた

なぜ？！ 極めにこだわるランデルマン おまえの魅力はそれじゃないだろっ！

ランデルマンのコメント

「前回は腎臓結石で体重も16〜20ポンド落ちて、状態が悪すぎた。世界中の猛者が集まる『プライド』で勝てるのは嬉しい。ヤマモトは70キロくらいだろ？　それでオレと闘ったんだから尊敬するよ。ここで宣言するが、オレは必ずミドル級のタイトルを取る。決して『プライド』じゃ負けない。覚えてくれ」

ヤマケンのコメント

「まだやりたかったですけどね。3R入って、向こうの力が弱ってきてたのが分かったんで。腕絡みにきたところを下から狙ってたんですけど。僕が上京してきた一番の原因だった、目標だった高田さんの引退試合で、成長した部分を見せたかった。本当は勝ちたかったですけどね。ケンカするつもりで。10代に戻ったつもりでね」

▼ムエタイ風の構えを見せたヤマケン。ここからいい左ミドルが入った

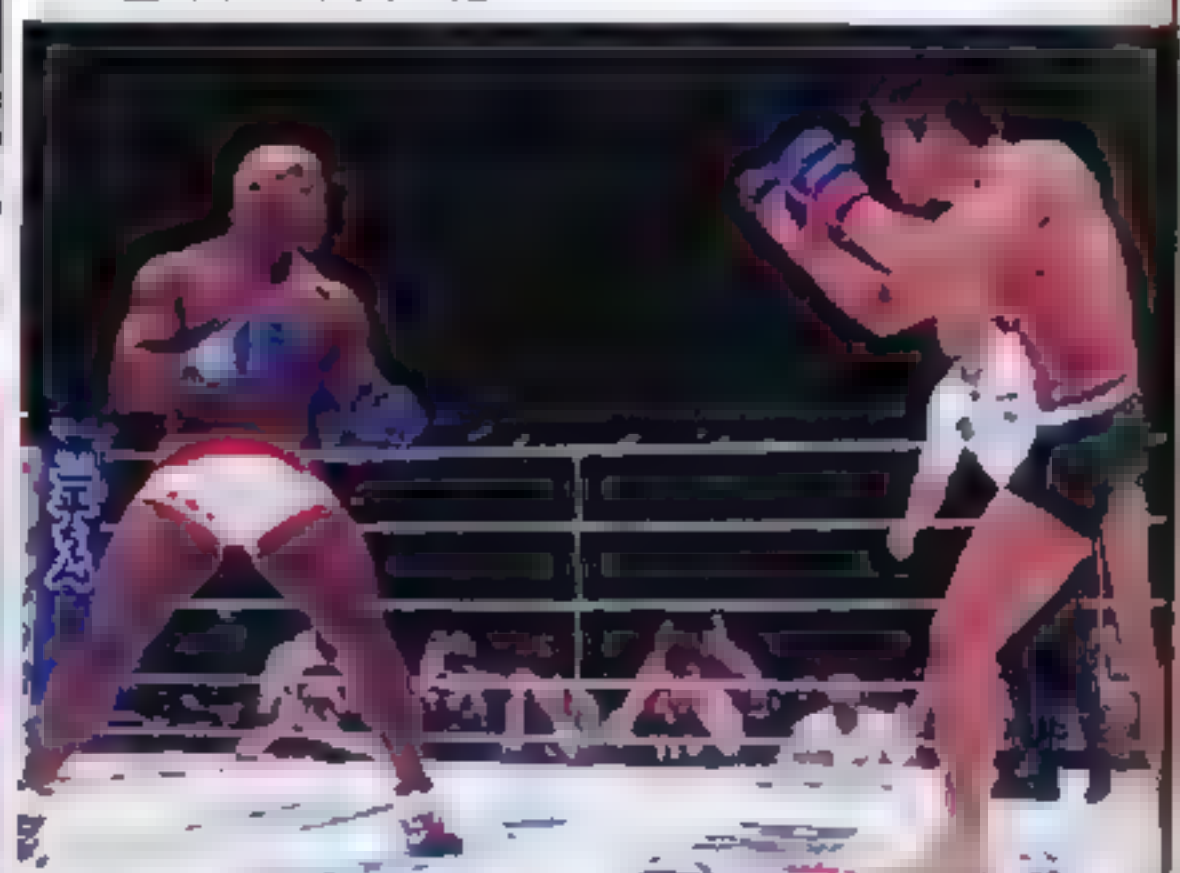
▲しかし、お返しに強烈な左右フックを食らう

▶派手なパンチはあまり見せず。しかし確実にダメージは奪った

▶ランデルマンのセコンドには、「W―1」でタッグを組んだ師匠マーク・コールマンが付いた。入場時には、「W―1」の時と同じく連続ビンタで気合いを入れる

〝はぐれUインター〟ヤマケンの明日はどっちだ？

◀一方、ヤマケンのセコンドには安生洋二が

◀「まだやりたかった」と言うヤマケンだが、顔はアザだらけ。かつての師匠・高田の引退に華を添えられず

★第2試合（1R10分、2・3R5分）
○ケビン・ランデルマン（3R1分16秒、レフェリーストップ）山本喧一●
〈アメリカ/ハンマーハウス〉　〈日本/フリー〉
※4ポイントの状態での顔面へのヒザ蹴り

ら耐えて、わずかなチャンスを待つしかない。

といって、ランデルマンもムキになって攻めたりはしない。オールラウンドな選手を目指して、今回の試合に向けては関節技の練習を重点的にしてきたのだ。

結果、本来の持ち味であるド派手な殴りっぷりはあまり見られず、腕絡みを仕掛けては外れ、の繰り返し。ヤマケンの腕が何度も逆方向に捻れ、そのたびに客席から悲鳴が上がっていたが、実はこれは極まっていなかったのだ。フィニッシュの豪快なヒザ蹴りこそ見事だったが、逆に言うと見せ場はそこぐらいだったということだ。

格闘技には、えてしてこういうことが起こりうるもの。まず〝勝たなきゃいけない〟という大前提の条件があるから、相手が守りに入ることも、自分の攻めが慎重になってしまうこともある。闘いながらも、同時にお互い持ち味を活かし合うプロレスとは、そこが違うわけである（だからこそ、格闘技でそんな試合があった時の感動も大きいんだが）。

「W―1」でのランデルマンと、「プライド23」でのランデルマン。光っていたのは、どう考えても前者だろう。よく〝こいつはガチンコのほうが向いてる〟という幻想で評価されるプロレスラーがいるが、これからは逆の考え方も必要になってくるだろう。〝こいつはプロレスのほうが面白い〟という幻想で光る格闘家が現れる時代になったのだ。

プロレスの新しい幕開けを告げた「W―1」は、格闘技にも意外な影響を与えたようだ。（橋本）

▶…ハイニッシュはこれ。上四方固めから逆立ちせんばかりに足を上げ、重力の勢いも借りてヒザを叩き込む！　それも一回で左右両方蹴る！　たまらず和田レフェリーがストップをかけた

怪物・横井、K-1戦士に豪快白星デビュー！

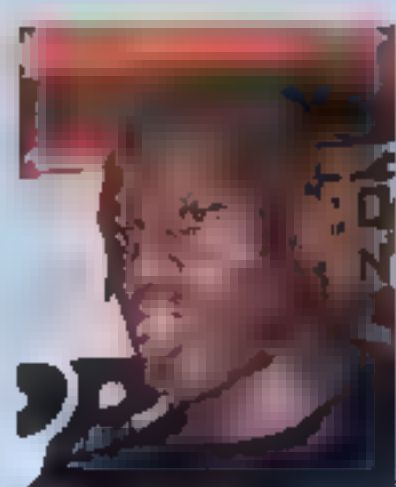
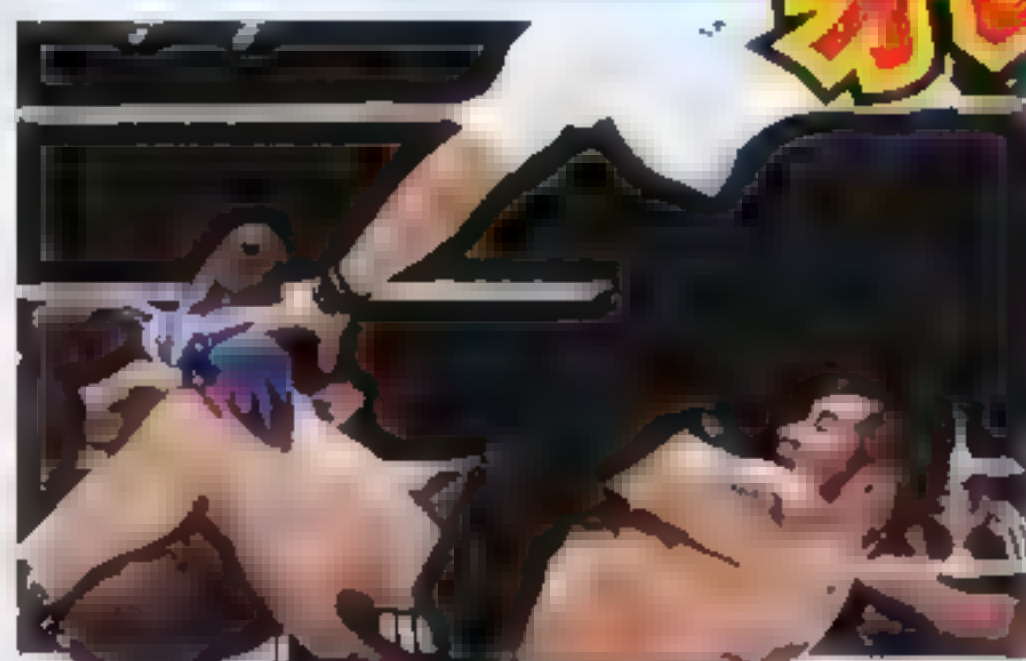
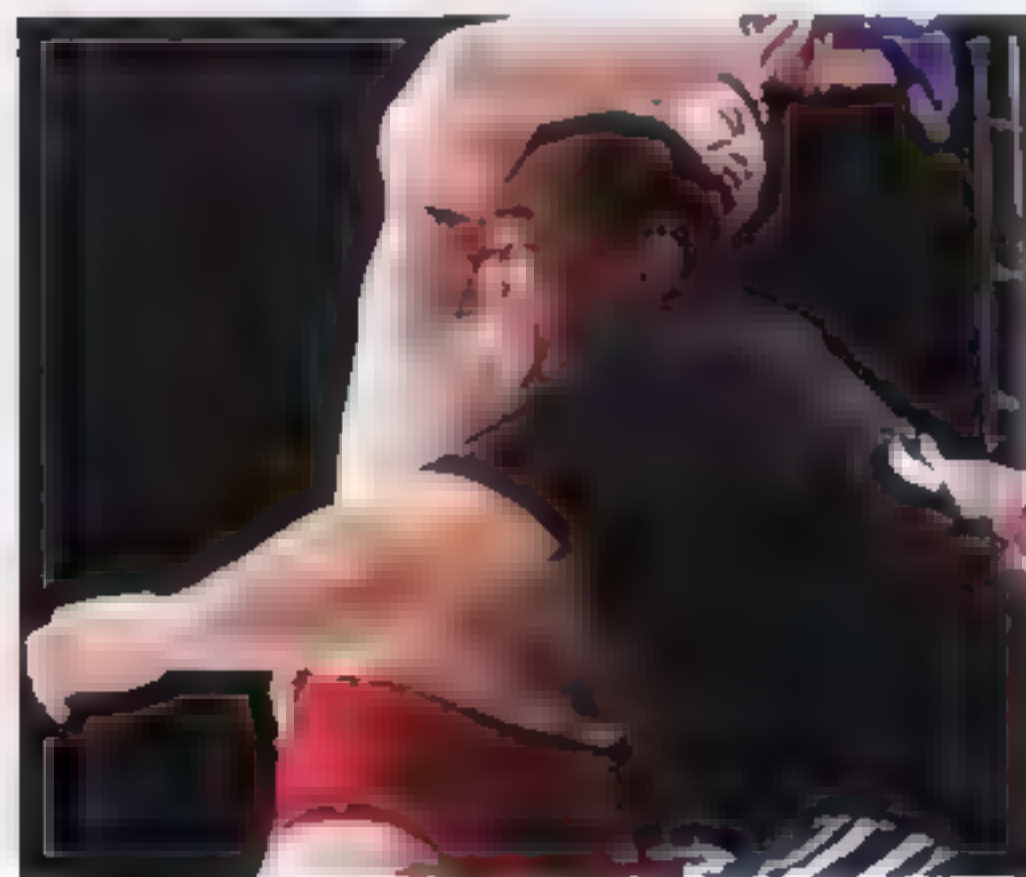
オレが目指すのはテッペンのみ！

ひを一気に爆発させる姿は、まさに怪物

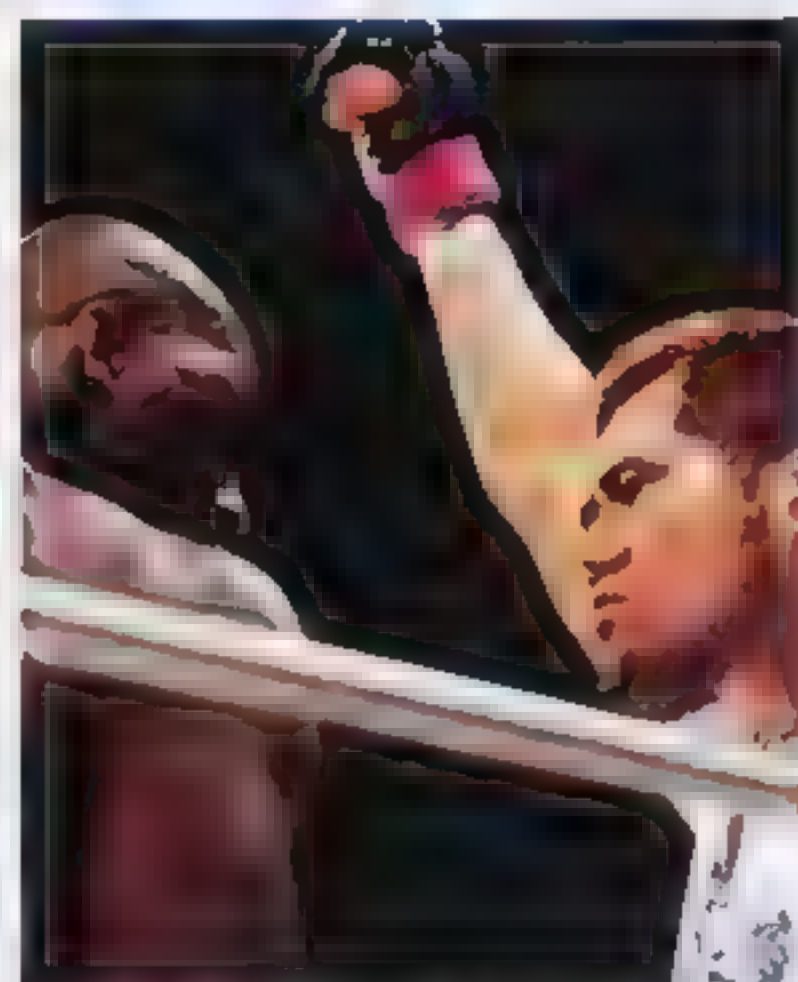
★第1試合（1R10分、2・3R5分）
○横井宏考（2R3分29秒、腕ひしぎ十字固め）ジュレル・ヴェネチアン●
〈日本/チーム・アライアンス G-スクエア〉　〈オランダ/ボスジム〉

横井のコメント

「こんなに試合が終わってからも嬉しいのは、初めてかもしれないですね。今回ほど練習内容とかコンディションづくりで、自分が負けないだろうなと、自分に自信がもてたのは初めてだったんですよ。これからもプロレスと総合の両方をやっていきたいです。あさって炎武連夢（大谷晋二郎＆田中将斗組）戦があるんで」

ヴェネチアンのコメント

「技を極めて勝ちたかったんですが、自分のほうが横井選手よりも力は上だと思っていましたから。でも少し間違いを犯しました。まあ、でも横井選手も非常に良い選手だと感じました。これからも『プライド』で闘いたいと思います。『プライド』はキックボクサーの自分にとって、非常に特別なものなので」

▲4度目のトライで完璧に腕十字を極めた横井。「プライド」の期待の星となるか？

▲勝った瞬間、真っ先に師匠・髙阪のところへ。次の試合が楽しみだ

▲下になりながらも冷静に防御するヴェネチアン。パンチのダメージはあまりない

▲協栄ジムでのボクシング練習の成果は、この目を見れば分かる

▲睨み合いに対しても、一歩も引かない横井。勝負度胸満点だ

意外かもしれないが、横井宏考の身長は178センチである。でも、なぜかリング上では、かなりデカく見える。

横井は、自分を大きく見せることを自然とモノにしたのか？

でもデカいのは、カラダだけではない。この男、相当なタマをもっているに違いない。

相手のジェレル・ヴェネチアンは、去年のK—1世界GP予選で、激戦区ともいえるオランダ地区予選を制した、無敗のK—1戦士だ。

でも、横井にしたら「それがどうした！」といったところなのか。打撃にビビって、腰がひけるそぶりすら見せず、ナントー！ヴェネチアンのローキックをいとも簡単に掴んで、そのままテイクダウンを奪ってしまったのだ。こんなこと、狙ってできるものなのか？

さらに圧巻だったのは、1R残り2分を切った時。横井がマウントポジションの体勢から、相手のアゴをめがけてヒザ蹴りを滑り込ませようとしたのだ。こんな攻撃、今まで見た記憶がない。というか、とんでもない技だ。

横井のことを安易に"怪物"と呼ぶのには、少し抵抗があった。でも今日の闘いでさえ、まだ謎のベールに包まれている部分が多い。未だ顔丸出しの正体不明ファイター。なかなか底が見えてこないどころか、深まるばかり。

でもひとつだけ分かったことがある。それは、入場時も、リングアナからのコール時も、そして極めるときも、つねに横井の視線は"テッペン"にあることだ。

たったひとつ、デカく見えた謎の一部が解けたのだ。（佐藤）

力は互角、もしくは紙一重。勝

理由は『主流の証明』、それだけ アローナ、なんとか親分の仇討ち

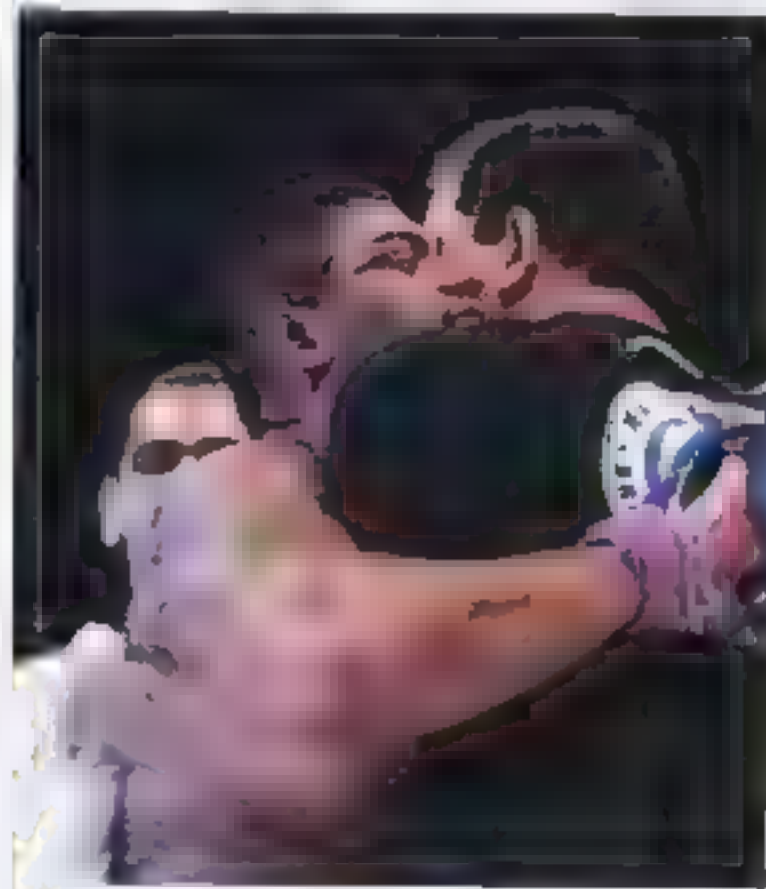
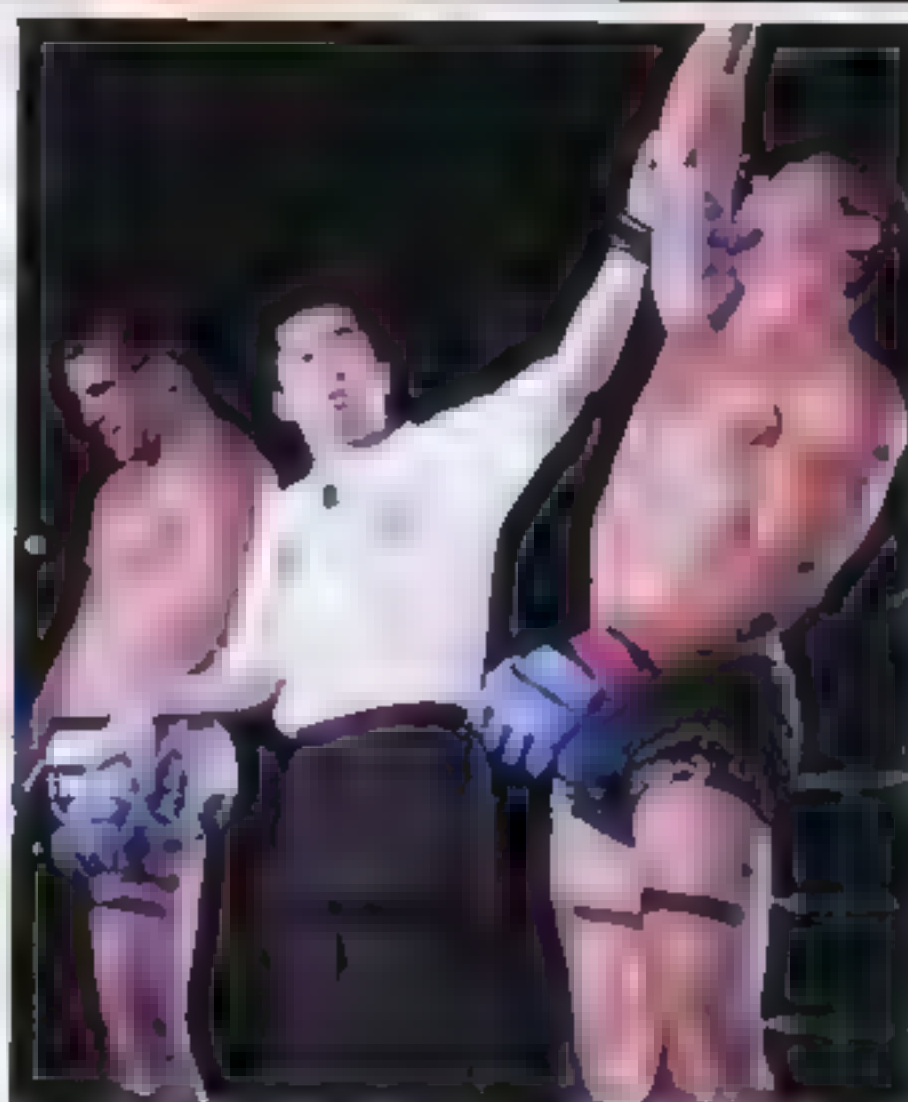
勝たなきゃなんない。何がなんでも しょっぱい闘いでも仕方ない……

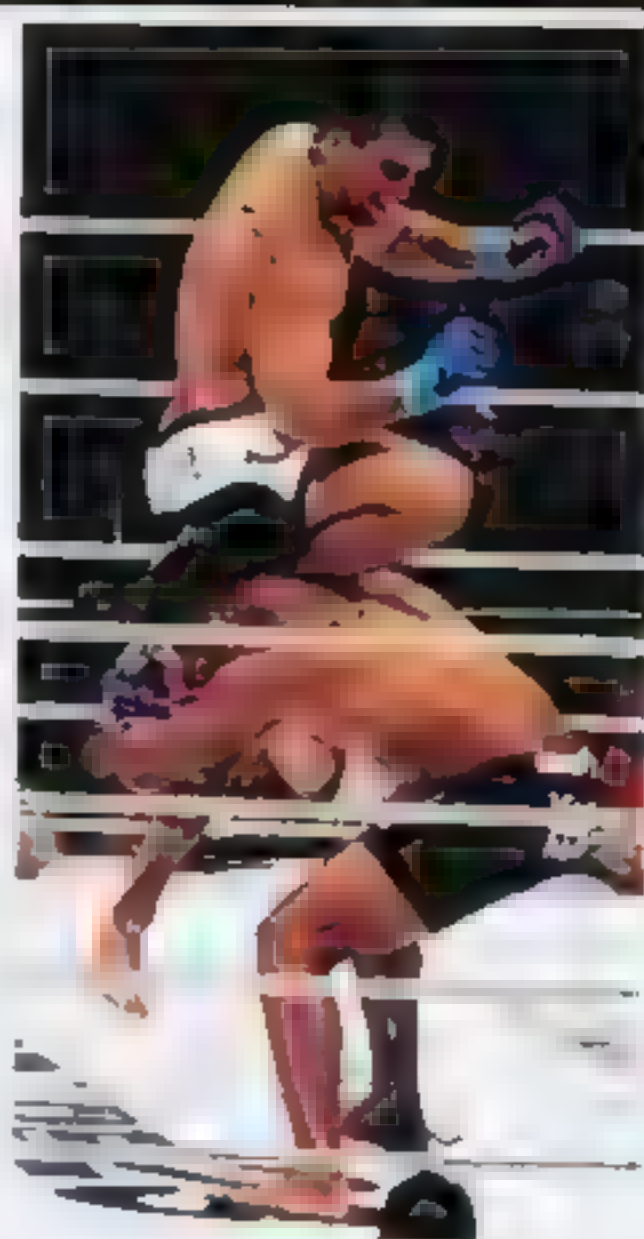
アローナのコメント

「思っていたとおり。いい試合ができた。今まで練習してきたことが全部出せた。真実の勝利を手に入れることができたと思っている。シウバと闘いたいね。本当は今日、彼と闘えるんじゃないかと思っていたんだけどね。やっぱりミドル級チャンピオンになりたい。ノゲイラと同じベルトが欲しいよ。今日はいいテストになったと思う」

★第3試合（1R10分、2·3R5分）
○ヒカルド・アローナ（3R判定3-0）ムリーロ・ニンジャ●
〈ブラジル/ブラジリアン・トップチーム〉　〈ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー〉

▲勝敗を分けたのは積極性の差。常に先手をかけていたのはアローナのほうだった

▲打撃こそシュート・ボクセの本領。この鋭いパンチでアローナの左目は1Rから腫れていった

▲師匠格のスペーヒーと抱き合うアローナ。その目には光るものが

▲トップチームの誇りを守る！　アローナはこの日、勝利を得ることだけに奔走した

▶忍者そのまま。のっけの飛びヒザ。だが、アローナはこれを空中キャッチして投げ捨てた

▲グラウンド戦からパンチを打ち込む。だが、ニンジャにダメージを与えることはできない

力は互角、もしくは紙一重。勝負を分けたのは気持ちの差だけ。アローナは負けるわけにはいかなかった。なにせ、所属するトップチームの師範格スペーヒーは、『プライド20』でこのニンジャにコテンパンにやられているのだ。そんな私怨ばかりではない。柔術をベースにした技巧で、バーリ・トゥードの本流という自負がトップチームにはある。一方、ニンジャが学ぶシュート・ボクセは、ムエタイを軸にスタンド、グラウンド戦と縦横に打撃を進化させてきた一派である。つまり、24歳のアローナ、22歳のニンジャ、両陣営の一番星対決は、ブラジル格闘技界の今後の主流を占う意味もある。だからこそ、総大将を討ち取られたトップチーム代表として、アローナは勝利だけを義務づけられた。

そんな意気が先手先手の攻めを生む。開始直後、ニンジャにいきなり飛びヒザを仕掛けられたが、あとは全ての局面、アローナの攻めで展開は始まる。力量差が接近していれば、試合の流れを先取りしたほうが有利に決まっている。

ニンジャとてむざむざやられっぱなしになっていたわけではない。折々に鋭いキックやパンチを打ち込んで、アローナの左目を腫れさせる。グラウンド戦でも、柔軟な身のこなしでやり返すなど潜在能力の高さを見せつけた。

アローナの勝利は順当だ。2Rにやや追い込まれたアローナは3R、最後の力を振り絞り、ニンジャを守勢に追いやった。けれど、シュート・ボクセの底力は恐るべし。もう一度闘えば、同じ結末かどうかは分からない。（宮崎）

大会後のアントニオ猪木のコメント

髙田のラストファイトに52,228人の大観衆が集結！

▲阪神の野村克也元監督、そして就任1年目で巨人軍を日本一に導いた巨人の原辰徳監督も観戦していた

和田良覚のコメント

「いやぁ～、緊張しましたよ。これも最後だと思うし。金的の時は、これで試合を終わらせちゃったら、これ大変なことになるなと思って。でも、大事なところが上がっちゃった状態だったんですよ。パコーンッと入ったんで。あれはかなり痛かったですよ。でも、上がったから落として。でも、こういう終わらせ方はしたくないとサブレフェリーの方やジャッジの方とずっと協議してたんで。（最後Uインターの選手が揃ってリングに上がりましたけど）僕もまさかリングに上がるとは思いませんでしたし。髙田さんとの一番の思い出ですか。有りすぎて、本当に深かったし、一言ではとてもじゃないけど言えないです」

宮戸優光のコメント

「同窓会って書かれたところもあったけど、僕なんか同窓会というよりね、Uインターのメンバーっていうのは親兄弟っていう感じなんでね。だから、今日はつらかったですね。髙田さんとタムちゃんの試合はね。いろいろあったUインターっていう時代のわだかまりというかしこりがね、これで溶けてくれないかなと思って。でも見てててつらくて。蹴っているタムちゃん自身も痛かったと思いますよ。でも、良かったんじゃないですか？　僕ら身内としては見ていられなかったけど、やって良かったと思いますね。これからUインターっていう家族がね、いい形で会えるようになるんじゃないかなと」

髙山善廣のコメント

「さっきスタッフだけでやったじゃないですか？　ああいうのを遠目で見ると寂しくて本当に引退するんだなって思いますね。ハッキリ決着が着いて終わって良かったです。髙田さんがああいうふうにKOされたのは初めて見ましたね。例えがいいか悪いかは分からないですけど、髙田さんがハイキックで倒した北尾さんのようでしたね。髙田さんがあの時の北尾さんに見えましたね。最後はKO負けでしたけど、厳しい闘いを求め続けた髙田さんらしい、一番いい終わり方なんじゃないですか。何も髙田さんに言葉では教育されなかったけど、結局俺がやってて、今求めていることも髙田さんと一緒なんだなと思いましたね」

この先にあるもの……2002年は『Dynamite!』&『WRESTLE-1』元年かも！

総評◎ターザン山本

これからボクたちはどこに行ったらいいのだろうか？　あ、そうだ、それは〝ボクたち〟ではなく〝ボク〟のことなのだ。あらためて言い換えよう。「ボクはどこに行ったらいいの？　誰か知っている人がいたら教えて？」。

高田選手が田村選手と引退試合をやり、元Uインターの選手が最後にリング上に上がる姿を見たら、もしかしてあれが「プライド」のゴールかもと、そんな気がしないでもないからだ。

谷川編集長などは「これからは〝Dynamite!〟と〝WRESTLE-1〟の時代になるかも……」とそんなことを言っていた。「プライド」がもうUWFの文字を使えなくなったのは、痛いというしかない。

今回、Uとしての切り札を使い果たした感がある「プライド」は、グレイシー柔術とUWFが、二つの武器でもあった。その二つがもう使えなくなった。これから「プライド」は、テーマなき時代へと突入していく。

そう考えると「Dynamite!」と「WRESTLE-1」はとんでもないことを、やらかしているのだ。2002年が「Dynamite!」と「WRESTLE-1」の元年だったという人もいるぐらいなのだ。

何、もう「プライド」だって古いというの？　そんなバカな。グレイシー柔術とプロレスには、時間軸としての歴史がある。それが「プライド」という勝負論の中に放り込まれると、どちらも一方は一族としての運命を、もう一方はジャンルとしての運命が、問われてくる仕組みになっていた。

5年前、「プライド」が初めて東京ドームでやった時、メインイベントの試合が高田延彦対ヒクソン・グレイシーだったのは、非常に象徴的である。

この時点ですでに「プライド」は自分が、果たしてどういう存在であるのか全て分かっていたのだ。

ヒクソンは別格としてそれ以外のグレイシーの選手たちが「プライド」で使えなくなっている時、もう一つのタマというべきか、それとも最後のタマだったかもしれないUWFも、高田VS田村戦をやることで、終わってしまった。

まずいよ、これ。ドン・フライをあっさり破ってしまった吉田秀彦が、じゃあ「プライド」のエースとして、高田選手の代わりになれるのか？

吉田選手こそきわめて「Dynamite!」向きの人材である。11月24日の東京ドーム大会「プライド23」の全出場選手の中で、今のところ吉田選手が「Dynamite!」に最もふさわしいファイトをした。

なぜならフライVS吉田戦をマスコミは必死にあれやこれやとあおりながら結果としては、それを大きく裏切る形になったからだ。フライの良さはこれっぽっちも出なかった。あんなことは「プライド」では普通、許されないのだ。

しかしあれが「Dynamite!」のリングだったら、あれはあれでよしとされた。それとも逆に「プライド」のほうが、吉田的なものに変わっていくべきなのだろうか？　「プライド」はここにきて大きなターニングポイントを迎えたことになる。

どちらにしても「プライド」は、グレイシーとUWFをもはやないものとして、すぐにリセットボタンを押すしかないだろう。緊急の方向転換が急務だ。

それができないのだったら「プライド」は「Dynamite!」に移行するべきだ。それが生き残る道でもある。

高田VS田村戦を見てそんなにプロレスと格闘技に思い入れの少ない人でも、思わず涙を流したという。感傷的部分では大衆に届いていても、それ意外の部分では、2人のメッセージは何も届いていなかった。そういうファンの人のほうが圧倒的な多数派になっている。

そうであるなら彼ら用に全てを変えていくしかないだろう。「Dynamite!」と「WRESTLE-1」のコンセプトはそれにぴったりと、狙いを定めてきたもの。

そのためにはハードを限りなく充実さす。しかるのちに試合を見せる。試合の持つ比重を少なくするのだ。あとはプロレス的センス、アングルをうまく興行に盛り込んでいくことだろう。

最後に問われるのは興行にとってはプロレス的センスなのだ。プロレス頭とビジネス論。この弁証法をやるしかない。■

ハートでキャッシング

お申し込みの際は受付番号をお申し込みください。

今なら年率5%で2003.3.31まで

毎日先着100名様まで即決融資中！

10万～100万迄

ひかりファイナンス

安心のコンピューター審査なし。借入多い方OK！

主婦・バイト・地方の方歓迎

年率5～7%120回払可	
10万	3,000円×36回
30万	5,700円×60回
50万	9,500円×60回
100万	10,700円×120回

受付番号 45

0120 無料 0120-222-640

年中無休 8:30～22:00

直通ダイヤル 03·5330·6471

中野区中央3-13 都②19323

新規オープンにつき積極融資中！

- 夕方18時迄のお申し込みで当日のご利用が可能になりました。
- 1～50万円であれば「お試し融資」が便利です。簡単審査でより早く対応いたします。

- お客様のご都合にあわせて毎月1回の返済です。
- 返済方法は、
  ①銀行・郵便局からのお振込み
  ②口座自動引き落とし
  ③コンビニからのお支払い。の3つよりお選び頂けます。
- 初回の返済月は、ご希望により最長1年先からでも可能です。

● らくらくご返済プラン ●

借入額	[illegible]	36回 3年払	60回 5年払	120回 10年払
10万円	8,560円	2,997円	1,887円	1,060円
30万円	25,680円	8,991円	5,661円	3,181円
50万円	42,803円	14,995円	9,435円	5,303円
100万円	85,60[illegible]円	29,97[illegible]円	18,9[illegible]1円	10,6[illegible]円
200万円	171,214円	59,941円	37,742円	21,213円

北海道～沖縄迄 全国ネットワークの

クオリティーライフ

•実質年率5% •遅延損害金／年率5% •ご融資額1～200万 •保証人・担保不要

目黒区大岡山1-26 都①24689 ジャパンキャピタル

受付番号 45

0120 0120-667-577

03-3227-1577 (年中無休)

ご利用は計画的に 使いすぎ借りすぎに注意しましょう

UFC40 "VENDETTA"

11.22★ラスベガス/MGMグランド

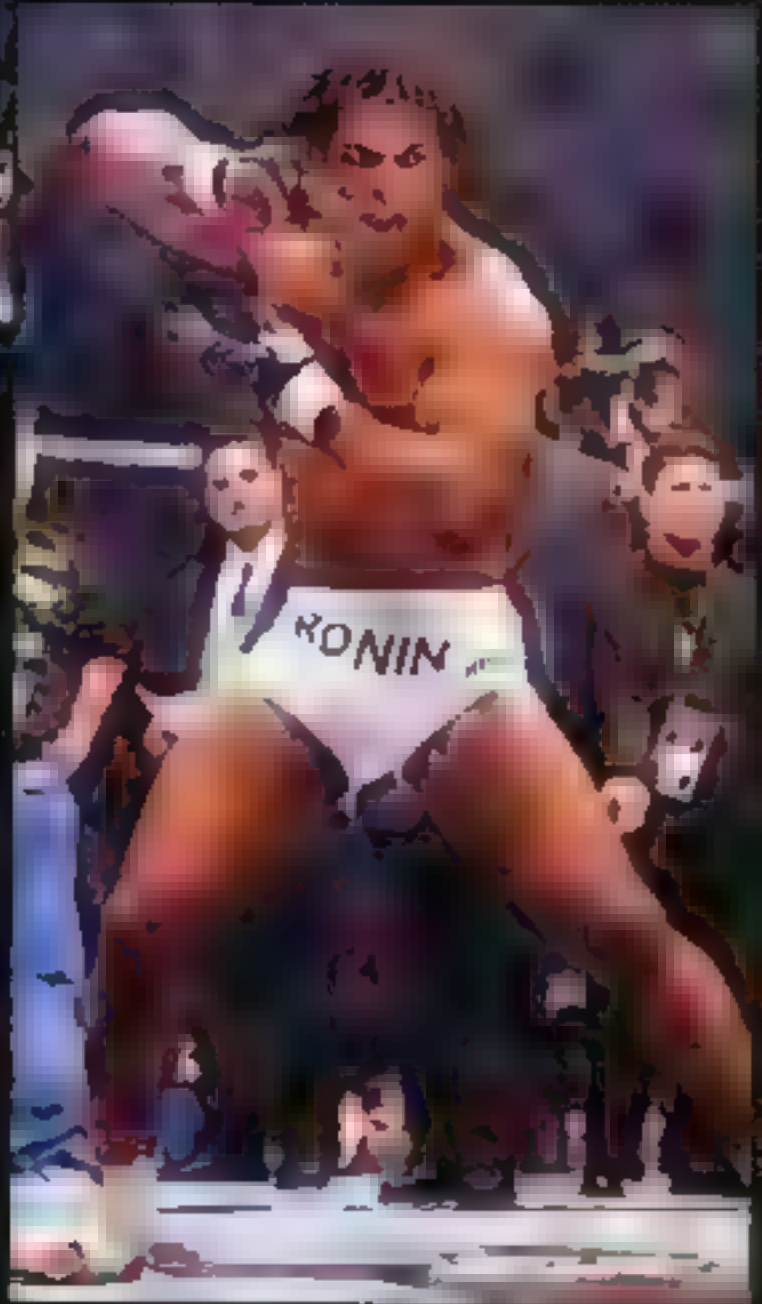
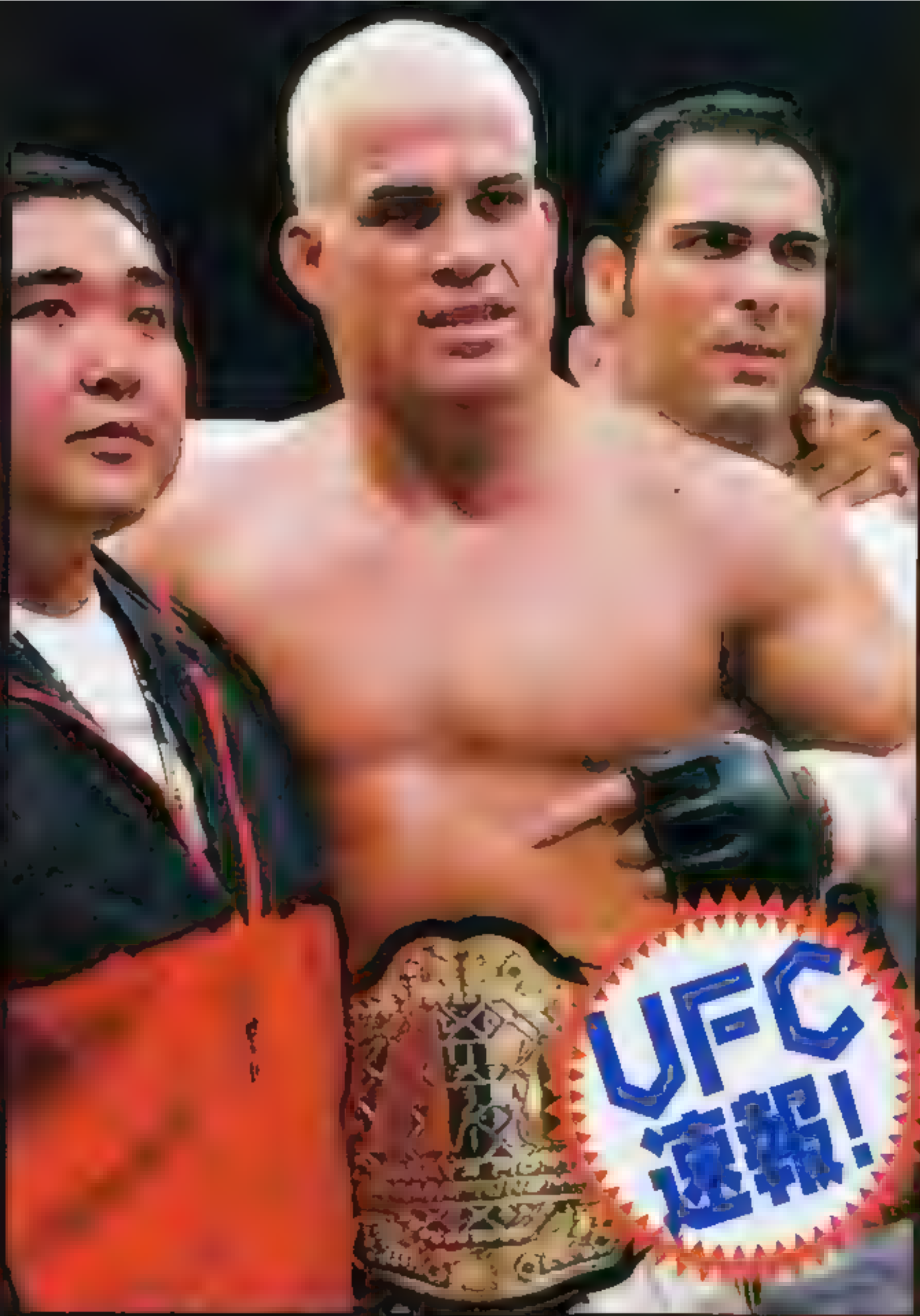
テイト、シャムロックに圧勝！

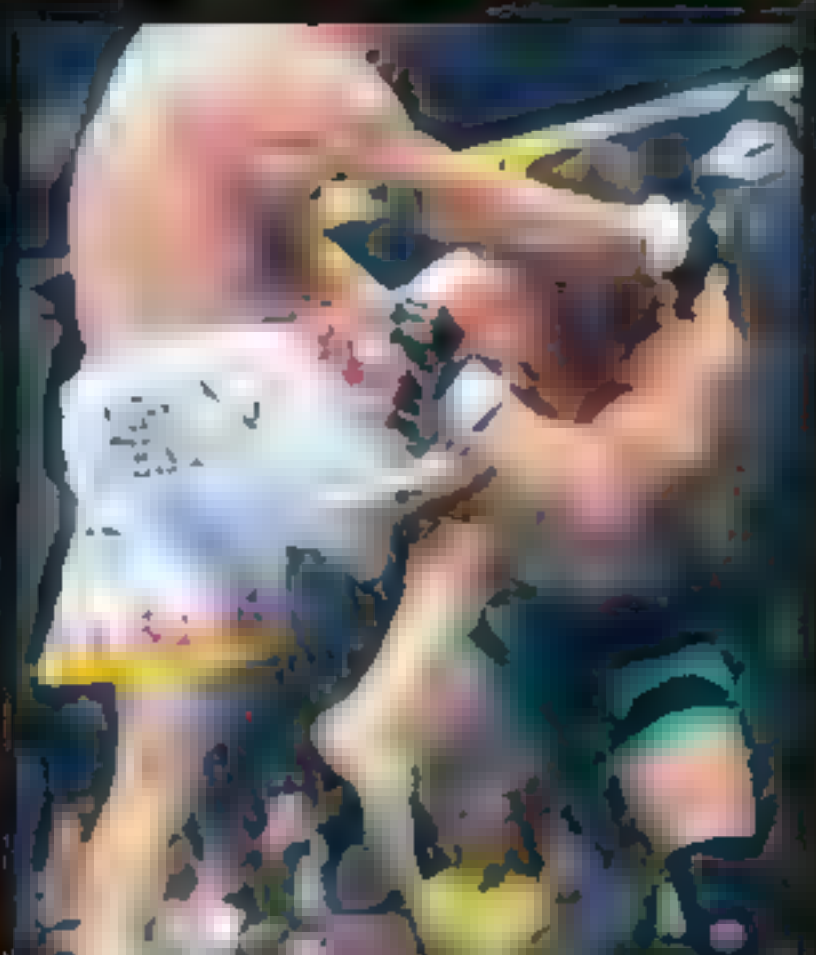
これはアメリカ版髙田VS田村か!?

UFC速報!

▲セミではチャック・リデルがレナート・ババルにKOで快勝。伸びのあるワンツーで追い詰め、最後はパンチをよけようとかがみ込んだババルの顔面に蹴りをブチ込んだ

▲マッハ、ニュートンを下して盤石の地位を築いたマット・ヒューズ。今回の防衛戦では、UFCキャリア1勝1敗のギル・カスティーリョをグラウンドでボコボコに。偶然のバッティングもあってカスティーリョが出血。1R終了後にストップがかかった

◀▼7月のロンドン大会でヒューズに敗れたカーロス・ニュートンは今回が復帰戦。ピート・スプラットに完璧な腕絡みを極め、試合後は久々のかめはめ波！

▲タンク・アボットも久しぶりにオクタゴンへ。マイクを握って戦線復帰をアピールした。会場を訪れた藤田和之との2ショットも実現

▲今大会のメインはライトヘビー級タイトルマッチ。王者ティト・オーティズがケン・シャムロックをTKOに下して防衛に成功

▼テイクダウンすると、ガツガツとパンチ、ヒジを打ち降ろしていく。この攻撃でシャムロックの顔が腫れ上がり、3Rが終わったところでセコンドがタオルを投入した

▲テイトの攻撃で特に目立ったのが首相撲からのヒザ蹴り。シャムロックも果敢にパンチで打ち合ったが、やはりティトが優勢だった

ラスベガス・MGMグランドで行われた「UFC40」が、今年の同会場の動員記録となる13770人（超満員）の大入りとなった。その決め手となったのは、もちろんメインイベント。ティト・オーティズVSケン・シャムロックというビッグカードだ。ホイス・グレイシーのライバルとして初期UFCを盛り上げたシャムロックと、現在のUFCのエースであるティト。いわばこの新旧対決は、アメリカの観客にとって〝髙田VS田村〟的に記憶を揺さぶるものなのだ。

結果は、真っ向勝負を挑んだシャムロックを、ティトが横綱相撲で圧倒。最後はセコンドのタオル投入によってティトのTKO勝ち。改めてティトが中量級世界最高峰の実力を誇示してみせた。かつてティトとライオンズ・デンのガイ・メッツァーが闘った際にセコンドのシャムロックと大揉めとなり、今回の記者会見でも乱闘寸前となった因縁の2人。だが試合後は「シャムロックは真正面から闘いを挑んでくれたよ」とティトが語るように、感動的なノーサイドとなった。ティトの次戦の相手は、この日レナート・ババルを一蹴したチャック・リデルが有力。これまたファン大注目の好カード実現となる。■

RESULTS〉

★UFCライトヘビー級タイトルマッチ（5分5R）
ティト・オーティズ（3R終了TKO）ケン・シャムロック●
〈王者/アメリカ〉 〈挑戦者/アメリカ〉
※レフェリーストップ。セコンドのタオル投入による

★ライトヘビー級5分3R
チャック・リデル（1R2分59秒、KO）レナート・ババル●
〈アメリカ〉 〈ブラジル〉
※左ハイキック

★UFCウェルター級タイトルマッチ
マット・ヒューズ（1R終了TKO）ギル・カスティーリョ●
〈アメリカ〉 〈挑戦者/アメリカ〉
※レフェリーストップ。カスティーリョが左目尻に裂傷を負い、試合続行不可能のため

★ウェルター級5分3R
カーロス・ニュートン（1R1分25秒、腕絡み）ピート・スプラット●
〈英領ヴァージン諸島〉 〈アメリカ〉

★ウェルター級5分3R
ロビー・ローラー（1R1分29秒、KO）ティキ・ゴーセン●
〈アメリカ〉 〈アメリカ〉
※右フック

★ヘビー級5分3R
アンドレイ・アルロフスキー（1R1分25秒、KO）イアン・フリーマン●
〈ベラルーシ〉 〈イギリス〉
※右フック

★ヘビー級5分3R
ウラジミール・マティシェンコ（1R4分10秒、TKO）トラビス・ウィウフ●
〈ベラルーシ〉 〈アメリカ〉

★ミドル級5分3R
フィリップ・ミラー（2R4分50秒、裸絞め）マーク・ウェア●
〈アメリカ〉 〈イギリス〉

Photo by Susumu Nagao

12・8 DEEPに修斗現役王者参戦！ その内幕をブチまけた！

越境者・須田匡昇の叫び

12・8 DEEPディファ大会に、修斗ライトヘビー級王者・須田匡昇が参戦する。9月の大会には三島☆ド根性ノ助、雷暗暴が出場したが、今回はチャンピオンの登場ということで、背負うものの重さは量り知れない。出場の経緯と内幕を喋ってくれた須田だが、聞いていて驚くほどの率直さは、そこになんの"含み"もないことを逆に証明していると思う。

聞き手◎橋本宗洋
撮影◎中島ミノル（インタビュー）

——修斗のチャンピオンである須田選手がDEEP参戦ということで、かなり衝撃的な事件だと思うんですけども、三島選手が前回の大会に出たのは大きなきっかけでしたか？

須田 それは少なからずありますね。「OKかな」っていう。それで自分から（DEEP側に）話をしたんですよ。あと昔からプロレスファンだったんで、DEEPのノリも凄く好きですし。

——今年は修斗のベルトも取ったし、地元のビッグマッチ（大阪大会）でも勝ったし、充実してたんじゃないですか？

須田 どうですかねぇ……。やっぱり、試合数が少ないじゃないですか。今年2試合ですからね。試合に出たいんですよ、とにかく。チャンピオンって言ったって今の状態じゃ説得力ないですもん。

——修斗のトップクラスの選手は、試合が年2、3回ですからね。

須田 半年に1回とかじゃ試合勘も鈍るし、それだってうまく出れるかどうか分かんないですからね。自分、仕事もしてるんで、その都合もあるんですよ。

——ただ今回で言うと、12月14日に修斗のNKホール大会がありますよね。そこに出る予定は……。

須田 それ僕が聞きたいですよ（笑）。

——だってチャンピオンなんだし、ビッグマッチは当然、出番でしょう。

須田 だから聞いたんですよ。そしたら「ない」と（苦笑）。2回くらい確認したんですけど。9月にアメリカで試合する予定だったんですけど、それが流れちゃったんですよ。だったら9月の横浜文体の大会はって思ったんですけど、それも無理だと。「じゃあNKは？」、「ない」。どうしたらいいんだろって（笑）。

——そうだったんですか。

須田 そこはホント、誤解されたくないんですよね。出れるもんならNKに出たかったです。

——仕事の都合もあるってことですけど、修斗には契約選手ってシステムもありますよね。そしたらプロに専念できるんじゃ？

須田 僕は契約選手じゃないんですよ。

——チャンピオンなのに？

須田 ええ（笑）。契約選手になれる、その基準も分かりませんし。噂ではチャンピオンじゃない選手も契約選手だって聞いてるから。僕は、修斗は完全実力主義だと思ってたんですよ。ランキングがあって、チャンピオンがいて、強い者、結果を出した者が評価されるっていう。どうもそうじゃないのかなぁ……。

——修斗の理念からすれば、チャンピオン

修斗にしっかり筋は通しました
僕はただ試合がしたいんです

▼パンクラスで活躍する郷野聡寛や佐々木有生とは、修斗ライトヘビー級でシノギを削り合うライバル関係だった。DEEPのリングで再び巡り会うことはあるのか?
◀今年1月12日の後楽園大会、ランス・ギブソンとの王座決定戦を制して修斗ライトヘビー級王者となった須田

が一番儲かる世界のはずですよね。
須田　……と思ってたんですけど、僕も。
──DEEPに出るって話を、修斗サイドにした時の反応っていうのはどうだったんですか?
須田　ダメでしたねぇ（笑）。
──ダメ（笑）。
須田　事前に、修斗コミッションに連絡して、出ちゃいけない団体を教えてくれって言ったんですよ。問題起こしちゃいけないし。そしたら、現時点ではパンクラスだけだと。それでDEEPさんと交渉を始めたんです。ちゃんと筋は通したと思うんですけどね。
──でも反対の声があったと。
須田　なんでですかねぇ。
──システム的なことは別として、気持ちの部分では修斗側の考えも分かりますけどね。やっぱりチャンピオンって立場の選手を、簡単に外の舞台には出せないというか。
須田　ただ、僕は契約選手でもないし、お金もファイトマネーしかもらってないんで、それは納得できないですよ。こんなこと言っちゃいけないのかもしれないけど、束縛されるわ恩恵はないわじゃ、「タイトルって何?」って。
──そうなると、タイトルを返上してから出ろとか、剥奪とか、そういう話にもなったりとか?
須田　どーなんでしょう?　まあ今のところ保留なんですかね。
──で、そのまま話は平行線というか。
須田　いや、その後になって「NKに出てくれ」って話をされたんですよ。
──DEEPが決まってからですか?
須田　それじゃあ今度はDEEPさんに筋が通らないじゃないですか。そんなんだったら僕、毎回カマかけますよ。
──試合に出たくなったら「ちょっと他の試合に」って言うと、修斗からオファーが来るという（笑）。
須田　ねぇ。そんなこと僕はしたくないし。
──そんなゴタゴタがあった上でのDEEP参戦ですけど、それでもやっぱり修斗のチャンピオンとして見られますよね。
須田　その自覚はありますよ。絶対そう見られるでしょうし。ただDEEPのお客さんにはプロレスファンも多いし、それも楽しみですね。
──対戦する長南（亮）選手には、どんな印象がありますか?
須田　気が強くて、爆発力がありますね。
──逆に須田選手はどんなテーマを持って試合に臨みます?
須田　はっきり言って、修斗では勝つことだけに徹してた部分があったんですよ。
──すいません、僕、「須田の試合は地味だが」って思いっ切り書いちゃったことあります（笑）。
須田　これからはそれだけじゃダメなんで。それプラスα。見せる試合ですよね。
──それはホンットに重要ですよ。
須田　オールラウンドを目指してるんで、相手が殴ってきたら殴り勝ちたいし、蹴ってきたら蹴り勝ちたいですね。寝技できたら、寝技で勝って。
長南選手は打撃が得意ですから……。
須田　打撃戦、いいですね。向こうがガンガンきたら、自分もやり返すだけですね。そしたらいい試合になると思います。
──あと一つ聞きたいことがあるんですよ。去年から、佐々木（有生）選手、郷野（聡寛）選手、それに最近では竹内（出）選手と、修斗のライトヘビー級でライバルだった人たちがどんどんパンクラスに出てるじゃないですか。それはどういう思いで見てました?
須田　それよりも「強い外人たちに勝たなきゃ」って、そっちを意識してましたね。でも、いい意味の影響は受けますよ。
佐々木選手なんか、修斗時代から見違えるような活躍ですよね。
須田　それは経験ですよね。どんどん試合が組まれて、それで結果を出せば自信が付きますよ。佐々木選手、いま年に4～5試合はしてますよね。僕は2試合で（笑）。
──また重量級は何かと比較対象が多いですからね。軽量級だったら、「修斗のレベルが世界最高」って胸を張って言えると思うんですけど、ミドル級以上だと、「プライド」もあればUFCもあるし。
須田　パンクラスとも比べられますしね。
──修斗のチャンピオンってことは、余計に、「じゃあUFCのチャンピオンと比べてどうなんだ?」、「パンクラスのチャンピオンとは?」ってなりますよね。
須田　そうなんですよ。だから、どんどん試合して、実力を試したいし、示したいんです。試合しなかったら認めてもらえないですからね。■

DEEP・佐伯繁代表の見解

「人を通じて「出たい」という打診があったんですよ。こちらとしては、まず修斗さん側に確認をしてくださいと。修斗さんと揉める気はまったくないんでね。修斗のNKホールの話があるんだったら、そっちを優先してもらわなきゃいけないし。今回、須田選手は相当な覚悟で出てくると思いますよ。それこそ修斗のタイトルマッチ以上かもしれない。それだけの責任もあるんでね。はっきり言って、今の長南選手はメチャクチャ強いですよ。みんなが思ってる以上に強い。「納得いかない試合したら辞める」ぐらいの勢いで言ってますから。ただ須田選手も、本当に重いモノを背負って出てくるんで。そこでどうなるか。主催者ですけど、自分でもドキドキしてます」

修斗協会・坂本一弘代表の見解

「（NKで須田の試合予定は）なかったです。もし考え直してくれるんだったら、12月は開けてるよと。先に相談してくれたら考えられるという話だから。やはりチャンピオンなんでね。本当は今日（11.15後楽園大会）、組む予定だったんです。来年2月くらいにタイトルマッチを考えてたんで、12月より11月がいいだろうと。ただ（須田の）都合が悪いっていうことで。行き違いもあったと思うんですよ。今回の件で、修斗からどうのこうのというのはないです。出る以上、死んでも負けんなよと。ワンパンチももらわずに勝ってほしい。不覚を取るようなことがあったら腹を割くような気持ちでいると思うから、傷付いてほしくないですね、親心としては」

待ったなし！地獄の同窓会

みのるVSライガー、ノンタイトルで異例の調印式

11月20日、都内・スカイAにて鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー戦の調印式が行われた。ノンタイトル戦で調印式とは異例だが、「それだけ重要な試合ということです」と尾崎社長。ライガーが連日の特訓に充実した表情を覗かせれば、対照的に鈴木は早くも戦闘モード。この試合、ただの“友情マッチ”では終わりそうもない。

▲まずはライガー、続いて鈴木が調印書にサイン

▲調印式には鈴木、ライガーのほかパンクラス尾崎社長、持田コミッショナーも出席

▲調印式後の囲み取材。鈴木は燃え盛る心中を隠さず

▲ライガーは冗談も交えつつ、充実した練習ぶりを語った

いよいよ、鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー戦が待ったなしのところまで近付いてきた。パンクラスでは異色のこのカードだが、観客の反応は上々、いやそれ以上。団体側の気合いの入れようも並ではない。

その表れの一つが、11月20日に行われた鈴木VSライガー戦の調印式。考えてみれば、この試合はいち公式戦。ノンタイトルなのはもちろん、ノーランカーとデビュー戦の選手の闘いなのだ。

「それだけ、ウチにとって重要な闘いだということですよ」とパンクラス・尾崎社長。ちなみにノンタイトル戦で調印式が行われるのは、鈴木VSモーリス・スミス戦以来だという。

調印式に出席した両選手は、対照的ながらもそれぞれに気合いをみなぎらせていた。まずはライガーのコメントから紹介しよう。

「不安や恐怖感、そういったものはありますけども、それを覆うほどの期待感っていうのかな、充実感があります。練習は新日本のみんなが何かと協力してくれて。飯塚、永田、中西、成瀬、田中稔。ほとんど全員ですね。手前味噌ですけど、これだけ（新日本に）いろんな技術を持った選手がいたんだなと、あらためて感心させられるくらい。最初は（佐々木健介との試合が流れた）鈴木の気持ちを受け止めてやろうという気持ちだったけど、練習を重ねるうちに、絶対勝ってやる、ぶっ潰してやるって気持ちに変わってきてます。ここ何年も自分自身なかったんじゃないかと思うくらいの気持ちの昂り、昂揚、そういったものがあります。妙に目覚めてしまいましたね、この年で」

単に健介の代役というわけではない。新日本プロレスの代表というだけでもない。ライガー個人に、このスタイルの闘いに対する新しいモチベーションが沸き上がってきているのだ。隠し持ってきた懐の刀。それをついに鞘から抜く時が来たのである。そんな充実感からか、ライガーはこんなことも言い出した。

「これはライガーのパンクラスデビュー戦と思っていただいて結構です。やっていけば、もちろんランキングとかタイトルも視野に入るでしょうし、狙っていきたいというのは重々」

パンクラスでの試合という新しい刺激に対する陽性の熱気を感じさせたライガーとは対照的に、みのるは早くも臨戦態勢。会見中はライガーに一べつもくれず、ギラギラとした殺気を漂わせていた。

「自分の15年間やってきた、鈴木みのるという人間の生き方全てをライガーさんにぶつけたい。自分の家で目立つ所に全て、ライガーのポスターが貼ってありますね。どんな時も気を抜かないように。こんな気分になったのは久しぶり。いつ以来？ そういうことを考えること自体で、気が削がれちゃう感じがする。試合まであと10日ですけど、今日から試合まで、道場で寝泊まりしながら調整しようと思ってます。そのぐらい、自分の気持ちが試合に向かってる」

ちなみにこの試合、ライガーのマスク着用はルール上問題なしとして、正式にパンクラス公式試合となった。

「パンクラスのルールだから、絶対に負けられない。腕が折れても、足が折れても、噛み付いてでも勝ちたい。10回やろうと、100回やろうとライガーさんが勝つことはないです。全部、僕が勝ちます。だからライガーさんに未来はないです。

ライガーさんの刀が錆びてるんだったら、僕の首は切れないですよ。それが（ライガーへの）メッセージ。僕ら、いつもピカピカに磨いたやつで命削り合いながらやってるんで、ボロい刀じゃ当たっても切れない。ガツンととどめを刺したいですね。『まいった』って、いや、『まいりました』と言わせたいです」

この殺気、明らかにこれまでのみのるとは違う。ここ数年、ベテランとして若い選手たちを引っ張る立場もこなしてきたみのるだが、今回はそうではない。むしろ藤原組時代やさらのその前、「僕のスタイルは相手の光を消すプロレス」と言ってはばからなかった、怖いみのるが戻ってきた感がある。

若手時代、新日本の道場で同じ釜の飯を食い、共に青春を過ごしてきたみのるとライガー。今も私生活で付き合いがあるという。でも、この試合は〝友情マッチ〟では決してない。これまでの人生で磨いてきた真剣を斬り付け合う〝地獄の同窓会〟なのだ。（橋本）

横浜大会の隠し玉！ 渋谷修身を甘く見るなよ!!

今大会でパンクラス初参戦を果たすヒカルド・アルメイダの相手が渋谷修身になったことに「なんで？」と言うファンもいる。アブダビ、UFC、「プライド」で活躍してきた世界トップの強豪なんだから、相手は菊田くらいがふさわしいというのだ。冗談じゃない！ あんた最近の渋谷の試合を見てないのか？ 昨年後半から絶不調だった渋谷だが、今はパンクラスでも一、二を争う絶好調ぶりなのだ。8月は郷野聡寛相手にミドルを蹴りまくってまったく互角のドロー。9月は同じクラバカの佐藤光芳を攻め倒して判定勝ち。結果はもちろん、とにかく内容がいい。打撃にしても関節技にしても、大胆に繰り出すようになった。負けがこんでいた頃は「このまま辞めなきゃいけないのか。でも辞めたくないし」と悩んだ。それが吹っ切れたのが、初夏に行ったタイでの練習だった。ジムの合宿所に住み込んでミットを蹴る毎日が渋谷の心を変えた。さらに「秘密の練習もやってるんですよ。パンクラスの仲間にも言ってないです、内容？ だから内緒です（笑）」心も技もリフレッシュした渋谷なら、アルメイダ相手でも何かやってくれそう。渋谷VSアルメイダは、大会の隠れメインなのだ。■

ご注文は▶TEL.0480-24-0711 (24時間受付) FAX.0120-110-666
●ご注文受付時間／平日9:00～21:00 ●お問合せ受付時間／平日9:00～17:00 ★総合カタログご希望の方は切手¥160分を送付ください。

パンチンググローブ カットフィンガー BX-2
¥2,500
送料 ¥600
牛革製
色：白・紫・黄・黒・青・赤

タイサマイ パンチンググローブ
BX-3(大人用) BX-3J(少年用)
¥2,500 送料 ¥600
牛革製
色 赤・黒
●タイ製

パワーベルト SS-20
送料 ¥600
マジックテープ式
●中国製
コンパクトなので、携帯用にも便利！
サイズ／S・M・L
素材／布地(裏ネオプレーン)
トレーニングの必需品！腰を保護するベルトです。

参考サイズ表(cm)

サイズ	ウエスト回り
S	63～85
M	73～95
L	92～114

パンチンググローブ
TW-10 (サミング防止式)
1組¥4,500
送料¥600
●タイ製 ●サイズ／M.L ●色／黒・赤
★手首マジックテープ式

※親指部分はカットフィンガー

KW-3 アルティメットグローブ
¥7,800 送料 ¥600
マジックテープ式
サイズ／フリー
素材／牛革
●中国製
組技系の練習に最適。つかむ・打つが自在にでき、にぎりが大変良い5本指。

レスリングシューズ PR-1
¥6,500 送料¥600
サイズ：24～29cm(0.5cm刻み)
素材：合成メッシュ地、靴底ゴム製

●韓国製

ナックルグローブ SS-2
¥4,500 送料¥600
サイズ／フリー 素材／牛革
マジックテープ式

●中国製
本革を使用した耐久性抜群のグローブ！

グラップリンググローブ SS-1
¥4,200 送料¥600
サイズ／S・M・L
素材／牛革 ●中国製

日本製

イサミショートスパッツ(1分丈) 送料 ¥600
IS-50 シングル ¥2,800
IS-51 ダブル ¥4,500
カラー：白・黒・白に黒ライン入り
黒に白ライン入り
赤・青 (シングルのみ)

参考サイズ表(cm)

サイズ	ウエスト回り
M	70～85
L	85～95
XL	95～115

カラーキックミット 日本製
各¥3,800 送料各¥600
SD-400B(ブルー) SD-400R(レッド)
SD-400G(グリーン) SD-400BK(ブラック)
SD-400Y(イエロー)
サイズ／長さ45×幅18×厚9.5cm
重量 1kg

キックミット SD-450
1組 ¥3,000 送料¥650
サイズ／長さ45×幅18×厚9.5cm
重量 1kg(1ケ)
日本製
直販のみ 限定販売

ストレッチマシン CN-150
¥13,800 送料¥1,500
サイズ／幅40x長さ100cm
重量 15kg
●中国製
ハンドルを抜いて前屈運動も出来ます。
180度以上開きます。

レッグストレッチャー IR-1
¥1,800 送料¥900
重量／2.5kg
●中国製
手持ち部分は長さ6段階調節可能

グレート・アントニオ
誌上通販

Mineral & Herb
Fasting Diet

一年中大ブレイク!

ダイエット&体質改善&肉体改造の最終兵器。
いつ何時、誰の挑戦でも受ける!

ただいま「ファスティング・ダイエット」購入の方全員に、アントニオ猪木"闘魂おまもり"or"元気おまもり"をもれなくプレゼント中!

ファスティング・ダイエット(360ml×3本入り)
Fasting Diet 18,000円(税別)
販売元/(株)ローデス　開発研究/杏林予防医学研究所

ファスティングに関する詳細は、グレート・アントニオサイト(http://www.great-antonio.jp)か、ヤマダ元気サイト(http://www.yamadagenki.com)をご覧ください。
※グレート・アントニオサイトでは、格闘家たちによる「ファスティング日記」公開中!

東急ハンズ各店舗でも販売中!
【「ファスティング・ダイエット」取扱店】東京近郊/グレート・アントニオ、東急ハンズ渋谷店、新宿店　池袋店　横浜店、ナチュラルハウス池袋店、仙川店、ランキンランキン渋谷店　名古屋/東急ハンズ名古屋店　兵庫/東急ハンズ三宮店(お守りプレゼントはグレート・アントニオのみです)

GREAT ANTONIO IN HIROSHIMA PARCO

グレート・アントニオがまたまた出張!
ただいま広島パルコにおジャマ中!!

全日・小島聡の参戦決定!

ファスティングやアントニオオリジナル商品を出張販売しています!

グレート・アントニオ2002冬の陣!
ブラディ・ファスティングシリーズIN広島パルコ
【場所】広島パルコ新館7F
【出張期間】2002年11月23日(土・祝)～12月10日(火)までの18日間

小島聡トーク&サイン会
【日時】12月7日(土)午後3時～
【場所】広島パルコ新館7F特設会場
【参加方法】グレート・アントニオブースにて、全日本×アントニオのKOJIMA Tシャツ(広島限定カラー)、もしくは1・11(土)全日本プロレス福山大会チケットをお買い上げの方にサイン会参加券を差し上げます。(トークイベントは参加自由です)
お問い合わせ…広島パルコ(代表)✆082-542-2111

CASIO×GREAT ANTONIO
今年は武藤敬司G-SHOCKをリリース!

12/1(日)AM11:00より店頭販売開始!!! ただいまサイト&通販専用TELで予約受付中!!

話題騒然!『WRESTLE-1』カードは、グレート・アントニオにまだある!!

●11・17『WRESTLE-1』プログラムカード
¥1,500(税別)
※武藤社長名刺、馳衆議院議員名刺、選手プロフィール、大会見所、BAPEカードなど100枚封入

バックライト:「I ♥ P.W」
パネル面:MUTO
ベルト部分:PRESIDENT OF A.J.P.W.
裏面:全日本プロレスリングロゴ刻印
©ALL JAPAN PRO-WRESTLING

●G-SHOCK DW-6900 武藤敬司モデル
¥14,000(税別)

FRONT BACK

●ボブ・サップTシャツ(ver.2)
(白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

●UWFインターロゴTシャツ
(黒×パープル、白×黒、白×赤、白×オレンジ/サイズXS・M・L・XL)
¥3,800(税別)

ご注文方法

ご注文は電話 or サイト受付のみです

『グレート・アントニオ』&『ヤマダ元気』通販専用NAVIダイヤル
☎ **0570-007800** ※携帯電話からは掛かりません。
☎ **03-3295-4450** ※携帯電話でも掛かります。
[受付曜日・時間] 月曜日~土曜日 AM10:00~PM6:00
グレート・アントニオ
http://www.great-antonio.jp
ヤマダ元気
http://www.yamadagenki.com
[24時間受付]

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、通販のご注文は受け付けておりません。

ACCESS MAP

○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分

OPEN 11:00~20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

たっつぁん万座ビーチ
ひえ～！　今年もあと1カ月しかない！

【高田道場提供】

ノブ兄さん、夢をありがと～っ！

高田ファイナルTシャツ/ガウンデザイン（黒、サイズ M・L）1名様

高田ファイナルTシャツ/忌野清志郎デザイン（白、サイズ M・L）1名様

高田ファイナルタオル（白、34センチ×107センチ）1名様

back

back

※好評発売中。Tシャツ/価格4,500円（税別）、タオル/価格3,000円。高田道場グッズに関するお問い合わせは、高田道場 ☎03-5749-5030まで

【グレート・アントニオ提供】

会場で買えなかった人のために！
プレミア化間違いなし！　WRESTLE-1グッズ

WRESTLE-1大会記念Tシャツ（黒、白サイズ M・L）各2名様

W-1 Tシャツ（黒、白サイズ M・L）各2名様

back

back

WRESTLE-1 プログラムカード 2名様

※Tシャツは4,000円（税別）、プログラムカードは1,500円（税別）。今ならまだグレート・アントニオでご購入できます。なお、数に限りがありますのでお早めにお買い求めください。グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせ&ご購入は、グレート・アントニオ ☎03-3219-9550、http://www.great-antonio.jpまで

【新紀元社提供】

ターザン山本さんがまたもやってくれた！
サダハルンパ編集長も執筆しているゾ！

Uはオレだ Uはお前だ！ 5名様

※いったいいつ寝てるんだ!?　ターザン山本さんがまた出した！　これまた必見だ！ 定価1,500円（税別）。全国の書店にて絶賛発売中！

【エンタープレイン提供】

UWFインターの裏話がタップリ
今だからこそ読めぇぇぇぇ！

UWFインターの真実 5名様

※全国の書店で絶賛発売中。定価1,600円（税別）

応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう！

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想
を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先は 〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ⑬」係まで

締め切り…2002年12月12日（木）当日消印有効

【龍道場提供】

先日、現役を退いた前田憲作さんより

龍道場Tシャツ（サイズ/フリー）1名様

※本誌記者ハッシーが道場開きの際にいただいてきたレアなTシャツ。なんとなくイイ感じだよね

【エポック社提供】

2002ボックスのみの限定販売！
売り切れる前にGETだっ！

K-1 GRAND PRIX 2002 CARDS SET 発売記念プレミアムカード3枚セット 10名様

※11月29日に発売されるK-1 GRAND PRIX 2002 CARDS SET。その発売を記念して作られたプレミアムカードを3枚1セットでプレゼントするぞ！ K-1 GRAND PRIX 2002 CARDS SETは1ボックス47枚入りのボックス販売のみだが、その1ボックスにはスーパーレアカードやジャージカード（開幕戦で実際に使われたグローブで制作）も入っている。価格は3,300円（税別）

応募券
たっつぁん万座ビーチ

SRS DX 12・12 No.83

特集『PRIDE23』速報号

平成14年12月12日発行 第4巻・24号・通巻83号
発行人/深谷主水 編集人/鈴川貞浩 発行・発売(株)扶桑社
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1 TEL03-5403-8859(販売)
(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
TEL03-3295-4415(編集) 協力/フジテレビジョン・フジテレビ出版

定価680円 本体648円

雑誌21582-12/12 T1121582120685

印刷/(株)廣済堂
printed in Japan